

取扱説明書

お取り扱いについてお困りのとき

http://pioneer.jp/support/

カスタマーサポートセンター

フリーコール **0120-944-222**

一般電話 **044-572-8102**

受付時間

月曜～金曜
9:30～18:00
土曜
9:30～12:00、13:00～17:00

(日曜·祝日·弊社休業日を除きます。)

※ フリーコールは、携帯電話·PHSからはご利用になれません。一般電話は、携帯電話·PHSからご利用可能ですが、通話料がかかります。

SC-LX85
SC-LX75

AVマルチチャンネルアンプ

安全上のご注意

●安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
●ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠警告

異常時の処置



● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



● 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



● 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。テーブルクロスなどをかける。



● 付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。



● 本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境



● この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



● 風呂場・シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



● 表示された電源電圧(交流100ボルト 50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



● この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



● ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



● 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



● 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。



● 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置



● 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



● ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



● 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



● テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



● 本機の電源が入っている状態、または電源を切ってからしばらくの間は本機の底面に触れないでください。電源が入っている、または切った直後の本機底面は熱くなり、火傷の原因となることがあります。



● 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。



● 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

異常時の処置



● 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



● 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



● 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。



● 本機の上にテレビやオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。



● 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法



- 音が歪んだ状態で長時間使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。



- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



- 電源投入後、スピーカーから音が出るまでに数秒かかりますので、その間に音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



- 旅行などで長期間ご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災·けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(−)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災·けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。



- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検



- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。



- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本機の使用環境について

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。

D3-4-2-1-7c_A1_Ja

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。

もくじ

01 準備する

パイオニアの設計思想：アドバンスド・マルチチャンネル・ステレオフォニック思想 6
本機の特長 6
付属品を確認する 7
設置について 7
リモコンに電池を入れる 7
リモコンの操作について 8
本機をRF双方向通信で操作するには 8
AVナビゲーター（付属のCD-ROM）の使い方について 8

02 各部の名称とはたらき

リモートコントロール（SC-LX85） 9
リモートコントロール（SC-LX75） 10
フロントパネルディスプレイ 11
フロントパネル 12

03 接続

リアパネル 13
RFアダプターを接続する 14
スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ 14
スピーカー配置について 16
高音質のためのスピーカーセッティング 17
スピーカーを接続する 17
スピーカーシステムの接続 18
他機器の接続を行う前に 23
テレビと再生機器の接続 25
各機器との接続 27
プリアウトを使ったパワーアンプの接続 29
マルチゾーン接続 29
LAN端子でネットワークに接続する 31
BLUETOOTHアダプターを接続する 31
前面端子に機器を接続する 31
無線LANコンバーターを接続する 32
IRレシーバーを使って集中コントロールする 32
他のパイオニア製品をつないで集中コントロールする 32
12 Vトリガー対応機器の接続 32
電源コードの接続 33

04 基本設定

本機のリモコン操作について 34
スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～ 34
入力端子の割り当てを変更する 35
本機の操作モードを切り換える 35

05 基本再生

本機のリモコン操作について 37
アンプから音を出す ～基本再生～ 37
ヘッドホンで聴く 37
iPodをつないで再生する 37
USBメモリーを再生する 38
BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ 40

06 サラウンド再生

本機のリモコン操作について 42
リスニングモードでいろいろな音を楽しむ 42
再生中にスピーカーの出力レベルを調整する 44
状況に応じてMCACCのメモリーを使い分ける 44
アナログ入力信号の歪みを低減する 44
位相乱れを補正する 44

07 ホームメディアギャラリーの再生

本機のリモコン操作について 46
ホームメディアギャラリーについて 46
はじめに 46
ホームメディアギャラリー入力で再生する 47
対応ファイルフォーマットについて 48
インターネットラジオの応用操作 49

08 いろいろな機能を使う

本機のリモコン操作について 50
オーディオ調整機能を使用する 50
ビデオ調整機能を使用する 52
HDMIによるコントロール機能でHDMI機器を連動動作させる 54
PQLS機能を使う 55
オートサウンドレトリバーリンク機能とストリームスムーサーリンク機能を使う 55
再生するスピーカー端子を切り換える 56
別の部屋で本機の音や映像を再生する ～マルチゾーン機能～ 56
マルチチャンネルアナログ再生する 57
接続した機器間で録音／録画をする 57
スリープタイマーを設定する 57
フロントパネル表示部の明るさを調整する 57
HDMI出力を切り換える 57
再生中の音声や設定内容を確認する（ステータス表示） 57
本機のすべての設定を工場出荷時に戻す 58

09 リモコンによる他機器の操作（SC-LX85）

リモコンの設定（SETUP MENU）について 59
リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する 59
リモコンで他機器を操作する 59
リモコンの設定をリセットする 60
プリセットコードを確認する 61
リモコンに表示される入力名称を手動で変更する 61
マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション） 61
リモコンの他機器連動機能を使いこなす 61
他機器の操作について 62
RF双方向通信機能について 64
本機をRF双方向通信で操作する 64
他機器をRF双方向通信で操作する 64
AVアンプで設定した各入力の名称を自動取得する 65
リモコン操作モードの連動機能を切り換える 65
全指向性RFリモコン使用時の注意 65

10 リモコンによる他機器の操作（SC-LX75）

リモコンの設定について 67
リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する 67
リモコンで他機器を操作する 67
他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定） 67
好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード） 67
登録（学習）された１つのボタン操作を解除する 68
ひとつのマルチコントロールボタンに登録されたすべての設定を消去する 68
マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション） 68
リモコンの照明モードを選択する 68
リモコンの他機器連動機能を使いこなす 68
リモコンの設定をリセットする 69
他機器の操作について 69

11 音の詳細設定（アドバンスドMCACC）

本機で設定できること 71
本機のリモコン操作について 72
リスニング環境の設定について ～サラウンド再生のための設定～ 72
オートMCACCで詳細に測定／設定する 72
リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～ 73
MCACCデータを確認する 76
MCACC MEMORYのデータを管理する ～データ管理～ 77

12 システム設定およびその他の設定を行う

本機のリモコン操作について 78
システム設定で本機のさまざまな設定を行う 78
スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～ 78
本機の入力の設定を変更する 81
ネットワークの設定を行う 82
ネットワークの情報を確認する 83
その他の設定をする ～その他の設定～ 84
GUI 画面の表示言語を変更する ～ OSD言語設定～ 86

13 その他の情報

故障かな？と 思ったら 87
無線LANコンバーターご使用時に故障かな？と思ったら 95
ホームメディアギャラリーのメッセージについて 96
デジタル音声フォーマットについて 96
iPod/iPhone/iPadについて 98
HDMIについて 98
FLACライセンスについて 98
リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧 99
保証とアフターサービス 100
サービスステーションリスト 101
ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内 102
用語の解説 102
機能別索引 104
仕様 105
プリセットコード一覧表 106

フローチャート

本機の設定の流れ

本機は上級アンプに匹敵する機能や端子を装備した、本格的AVアンプですが、以下の手順で設定をするだけで、簡単にホームシアターを楽しむことができます。

必ず行う手順：1、2、3、4、5、7、10
必要に応じて行う手順：6、8、9、11、12、13

 **重要**

本機に付属のCD-ROM（AVナビゲーター）の**接続ナビ**を使って、パソコン上で本機の初期設定を行うことができます。この場合、ステップ**2**、**3**、**4**、**5**、**6**、**7**、**8**の接続や設定とほとんど同じ内容を**接続ナビ**で行うことができます。AVナビゲーターの使い方については 8ページ の「AVナビゲーター（付属のCD-ROM）の使い方について」をご覧ください。

1　準備する
- 付属品を確認する（→7ページ）
- リモコンに電池を入れる（→7ページ）



2　スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ（→14ページ）
- 9.2chサラウンド（フロントハイト/フロントワイド）接続
- 7.2chサラウンド & スピーカー B接続
- 7.2chサラウンド（フロントバイアンプ）接続
- 7.2ch（サラウンドバック）サラウンド & ゾーン２接続
- 7.2ch（フロントハイト/フロントワイド）サラウンド & ゾーン２接続
- 5.2chサラウンド（フロントバイアンプ）& ゾーン２接続
- 5.2chサラウンド & ゾーン２/ゾーン3接続

SC-LX85のみ
- 5.2chサラウンド & スピーカー B（バイアンプ）接続
- 5.2chサラウンド（フロント&サラウンドバイアンプ）接続
- 5.2chサラウンド（フロント&センターバイアンプ）接続



3　スピーカーを接続する
- スピーカーを接続する（→17ページ）
- スピーカーシステムの接続（→18ページ）
- バイアンプ接続（→17ページ）



4　機器を接続する
- 端子の割り当てについて（→23ページ）
- 音声の接続について（→24ページ）
- 映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）（→24ページ）
- テレビと再生機器の接続（→25ページ）
- 電源コードの接続（→33ページ）



5　電源を入れる



6　スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）（→78ページ）



7　スピーカーの自動設定を行う
- スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～（→34ページ）



8　入力端子の設定（→35ページ）
（推奨以外の方法で機器の接続を行っている場合のみ）



9　HDMI出力端子の設定（→57ページ）



10 再生する（→37ページ）



11 お好みで音声や映像の設定をする
- リスニングモードでいろいろな音を楽しむ（→42ページ）
- いろいろな状況ごとに最適な音場補正の設定を選択する（→44ページ）
- 位相の乱れを補正する（フェイズコントロール/フルバンドフェイズコントロール）（→44ページ）
- EQタイプを選んで測定する（SYMMETRY、ALL CH ADJ、FRONT ALIGN）（→72ページ）
- スピーカー出力レベルを調整する（→80ページ）
- オーディオ調整機能を使う（→50ページ）
- ビデオ調整機能を使う（→52ページ）



12 そのほかの調整や設定
- HDMIによるコントロール機能の設定（→54ページ）
- PQLS設定（→55ページ）
- アドバンスドMCACC（→71ページ）
- スピーカーとシステムの設定（→78ページ）



13 リモコンを使いこなす
SC-LX85の場合：
- RF双方向通信機能を使用する（→64ページ）
- 複数のアンプを操作する（→59ページ）
- 他の機器を操作する（→59ページ）
- 他機器連動機能を使いこなす（→61ページ）

SC-LX75の場合：
- 複数のアンプを操作する（→67ページ）
- 他の機器を操作する（→67ページ）
- 他機器連動機能を使いこなす（→68ページ）

準備する

パイオニアの設計思想：アドバンスド・マルチチャンネル・ステレオフォニック思想

「原音再生とは、サウンドクリエーターの思い（soul）も伝えること」という私たちの思想を実現するため、以下の3ステップをお約束します。

1　妥協を排した高音質設計

2　視聴環境の精密調整機能（Advanced MCACC）の搭載

3　原音製作者（エアースタジオ技術者）による音質チューニング

この思想は、映画制作のスタンダードであるルーカスフィルム社（ハリウッド）や、音楽レコーディング業界の最高峰エアースタジオ社（ロンドン）といった、実際の制作現場の技術者への徹底的なヒアリングにより構築されました。



本機の特長

高音質・多機能な本機SC-LX85およびSC-LX75の主な特長をまとめました。本書の掲載ページを参照して、それぞれの機能や操作をお楽しみください。

● iTunesライブラリーやiPhone/iPad内の楽曲をネットワーク経由で再生（AirPlay）

iPod touch/iPhone/iPadまたはパソコン内のiTunesライブラリーの音楽コンテンツをネットワーク経由で演奏が可能。音楽データとともにメタデータも同時に送信され、アルバムアートの表示もできます。

- iPod touch、iPhone、iPad、iTunesでAirPlayを使うには（→46ページ）

● ネットワークで多彩な音楽演奏を実現。DLNA1.5準拠「ホームメディアギャラリー」機能を搭載

LAN端子でネットワークに接続されたパソコンに保存されている音楽ファイルを再生することができます。

また、LAN端子を使ってネットワークに接続することで、WAV/FLAC 192 kHz/24 bitをはじめとする高音質音楽ファイルや世界中のインターネットラジオを聴くことができます。よく聴く放送局を本機に登録できます。

- ホームメディアギャラリーについて（→46ページ）

● iPod touch/iPhone/iPadなどの携帯端末で本機をさらに快適に楽しむために

- iControlAV2
- iControlAV2 for iPad

App storeから無償Appをダウンロードすることで、本機の基本機能をシンプルかつ直感的に使いこなす快適な操作スタイルを実現できます。

- Air Jam

オプションの*Bluetooth* アダプター「AS-BT200」を取り付け、iPod touch/iPhone/iPadで専用App「Air Jam」を使用することで、複数台の同時接続が可能。お互いの好きな曲を選択し、共有のプレイリストを作成し、それらをプレイして楽しむことができます。また楽曲の情報を共有できるのでiTunes Storeから購入したり、YouTubeで関連動画を探すことが可能です。

専用のアプリケーションを携帯端末にインストールすることで、携帯端末から本機をコントロールすることができます。

詳しくは、弊社ホームページより商品情報をご確認ください。

この専用のアプリケーションケーションは予告なく変更または中止させていただく場合がございます。

● AVナビゲーターで簡単設定・快適操作

本機に付属のCD-ROM（AVナビゲーター）では、パソコンにて本機の接続や初期設定を対話式で行うことができるガイドや、マニュアルを読みながら本機を直接操作できたり、リモコン操作による説明ページの自動表示を行う取説連動といったさまざまな機能を搭載しています。

- AVナビゲーター（付属のCD-ROM）の使い方について（→8ページ）

● HDMI（3D, Audio Return Channel）

3Dフォーマット信号の伝送、オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応。HDMIによるコントロール機能も搭載し、HDMI機器との連動動作も実現 。

- HDMIで接続する（→25ページ）
- デジタル音声フォーマットについて（→96ページ）
- HDMIによるコントロール機能でHDMI機器を連動動作させる（→54ページ）

● HDMI®のジッターレス伝送を実現する独自技術「PQLSビットストリーム」*搭載

極めて高純度なHDMI®伝送を可能にする「PQLS」の最新機能。CDはもちろんDVDやブルーレイディスクのマルチチャンネル再生においても音像の定位感、立体感、クリア感などを余すところ無く理想的に再生をします。(*対応したパイオニア製ブルーレイディスクプレーヤーとの接続時のみ)

- PQLS機能を使う（→55ページ）

● オートサウンドレトリバーリンク機能

サウンドレトリバーリンク機能対応のパイオニア製プレーヤーと接続することで、プレーヤーで再生される圧縮音声ファイルを自動で補正し、より高密度な音声で再生することができます。

● ストリームスムーサーリンク機能

ストリームスムーサーリンク機能対応のパイオニア製プレーヤーと接続することで、プレーヤーで再生される圧縮画像ファイル（ビデオファイルまたは映画ファイル）を自動で補正し、より自然な見やすい画質で再生することができます。

● iPodやUSBに収録された曲を再生

iPodの音楽・動画ファイルを再生することができます。Cover Listによる曲選択やiPodの充電もできます。

また、USBメモリーに保存されている音楽を再生したり、写真をスライドショー再生したりすることもできます。

- iPodをつないで再生する（→37ページ）
- USBメモリーを再生する（→38ページ）

● ダイレクトエナジー HDアンプ搭載

最新の高性能クラスDアンプを元に、パイオニアが高音質設計の粋を結集して開発したアンプが「ダイレクトエナジー HD（High fidelity class D）アンプ」です。ハイパワー同時出力と高音質を実現。最新のマルチチャンネルデジタルコンテンツを理想的に再生します。

● *Bluetooth* 機能搭載機器の曲を高音質ワイヤレス再生

別売りのBLUETOOTHアダプターを本機に接続することで、*Bluetooth* に対応した携帯電話やデジタル音楽プレーヤーなどの音楽をワイヤレスで楽しむことができます。**SOUND RETRIEVER AIR**機能で高音質に再生できます。

- BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ（→40ページ）

● Advanced MCACC を搭載

MCACCでは実際の製作現場で行われる高精度な調整を家庭でも実現できるように自動化し、チャンネル間の空間情報の歪みを補正。正確なマルチチャンネルの音場を再現します。

- スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～（→34ページ）
- 部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正(EQプロフェッショナル)（→74ページ）

● RF双方向通信による無線リモコン操作

CU-RF100（SC-LX85：付属、SC-LX75：別売り）と合わせてご使用になることで、お手元のリモコンディスプレイに本体ディスプレイの情報を表示させながら、方向や障害物を意識することのない無線通信操作が可能となります。

- 「リモコンの操作について」（→8ページ）
- 「RF双方向通信機能について」（→64ページ）

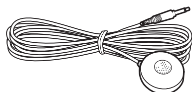
● その他の主な特長

- Air Studiosとの共同音質チューニング
- THX Ultra2 Plus（SC-LX85）／ THX Select2 Plus（SC-LX75）の認証を取得
- 接続するディスプレイタイプと視聴距離に応じて最適な画質で映像を出力する「アドバンスドビデオアジャスト」を新搭載。
- ストリーミング再生しているビデオコンテンツのノイズを低減し画質補正する「ビデオストリームスムーサー」を新搭載。
- ひと目でわかるGUI 画面
- 3Dコンテンツ再生時に、奥行き感のある音場を実現する「バーチャルデプス」を新搭載。「バーチャルハイト」、「バーチャルサラウンドバック」と合わせれば、5.1 chのスピーカー設置でも最大で仮想11.1 ch再生を実現できます。
- スピーカーネットワークフィルターの群遅延補正が可能なフルバンドフェイズコントロール機能を搭載。新たにフロント以外のスピーカー特性をフロントスピーカーに合わせるFRONT ALIGN機能を搭載。
- フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域（LFE）が遅れて記録されているものがあります。新搭載したフェイズコントロールプラス機能で、そういったディスクの位相ずれを補正します。
- 小音量再生時も大音量時の印象が得られるオプティマムサラウンドモードを搭載
- パイオニアビデオコンバーターを搭載
- 多機能リモコンを付属
- 省エネルギー設計（待機時消費電力：0.3 W (工場出荷時)）
- 新スピーカー配置：フロントハイト・フロントワイドに対応。

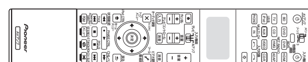
付属品を確認する

SC-LX85の場合：

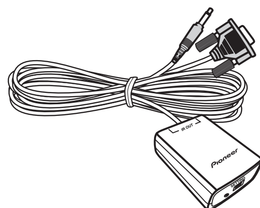
- セットアップ用マイク（5 m）



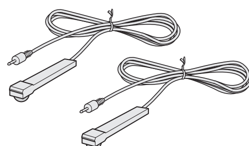
- リモコン



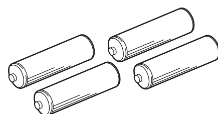
- RFアダプター



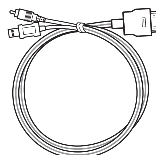
- IRブラスターケーブル（2本）



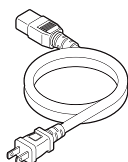
- 単3形アルカリ乾電池（4本）



- iPodケーブル



- 電源コード



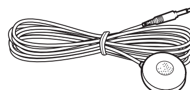
- CD-ROM（AVナビゲーター）



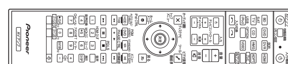
- 保証書
- 取扱説明書（本書）

SC-LX75の場合：

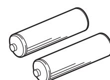
- セットアップ用マイク（5 m）



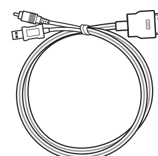
- リモコン



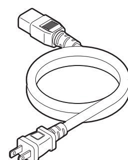
- 単4形乾電池（2本）



- iPodケーブル



- 電源コード



- CD-ROM（AVナビゲーター）

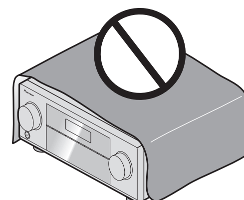


- 保証書
- 取扱説明書（本書）

設置について

警告

- 放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどをかぶせた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。

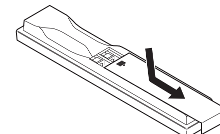


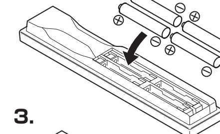
注意

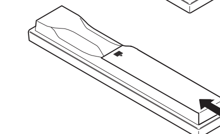
本機を設置する場合には、壁から10 cm以上の間隔をあけてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から20 cm以上、背面から10 cm以上、側面から20 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

リモコンに電池を入れる

SC-LX85の場合：

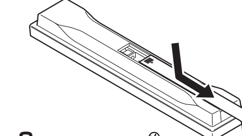
1.


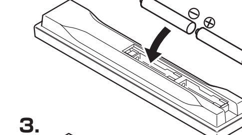
2.


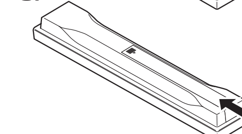
3.


SC-LX75の場合：

本機に付属の電池は動作確認用のため、短期間で寿命となることがあります。なお、市販のアルカリ電池を使用すると、長期間操作が可能になります。

1.


2.


3.


警告

- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

注意

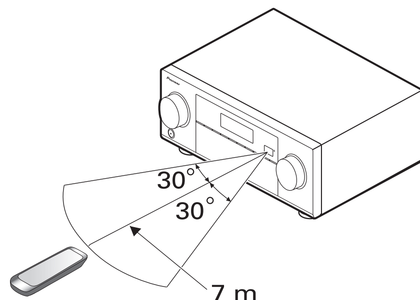
電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂したりする危険性があります。以下の点について特にご注意ください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1カ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

リモコンの操作について

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。
SC-LX85ではIRモードでの操作になります。RFモードでの操作は 64ページ の「RF双方向通信機能について」をご覧ください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。



RF双方向通信でのリモコンの操作について

RFアダプターを本機の**RS-232C**端子と**CU-RF100**端子（SC-LX85）または**EXTENSION**端子（SC-LX75）に接続して、全指向性リモコン「CU-RF100」と本機をRF双方向通信させて使用することができます。RF双方向通信させて使用することで、お手元のリモコンディスプレイに本体ディスプレイの情報を表示させながら、方向や障害物を意識することのない無線通信操作が可能となります。詳しくは 8ページ の「本機をRF双方向通信で操作するには」をご覧ください。

- RFアダプターおよび全指向性リモコンCU-RF100はSC-LX85には付属されておりますが、SC-LX75では別売りとなります。
- RF双方向通信の見通し距離は約10 m程度です。また、見通し通信距離は目安であり、周囲環境により通信距離が変わることがあります。

本機をRF双方向通信で操作するには

SC-LX85のみ

本機に付属のリモコンは、工場出荷時はIR信号での操作（赤外線送信）となっております。RF双方向通信による操作を実現するためには以下のステップを行います。

1　RFアダプターをAVアンプのRS-232C端子およびCU-RF100端子に接続する。

- 「RFアダプターを接続する」（→14ページ）

2　[その他の設定]の[RFリモコン設定]を選んで、設定を[ON]にする。

- 「CU-RF100リモコン使用時の設定を行う（RFリモコン設定）」（→85ページ）

3　RFアダプターとリモコンをペアリングする。

- 「RFアダプターとリモコンをペアリングする」（→64ページ）

4　リモコンの設定で[IR/RF SELECT]を選んで、[AV AMP MAIN]を[RF MODE]にする。

- 「本機をRF双方向通信で操作する」（→64ページ）

AVナビゲーター（付属のCD-ROM）の使い方について

付属のCD-ROM（AVナビゲーター）には、対話方式で本機の接続と初期設定を簡単にセットアップできる**接続ナビ**を搭載しています。画面に従って接続・設定するだけで高精度な初期設定を簡単に完了することができます。
また、さまざまな機能を簡単に使えるように、レシーバーと連動する**取説連動**や各種ソフトウェアのアップデート、MCACCの測定結果を3Dグラフで確認できるMCACCアプリケーションといった機能もご使用になれます。

AVナビゲーターをインストールする

1　付属のCD-ROM（AVナビゲーター）をお客様のパソコンのCDドライブへセットする。

- インストール画面が表示されます。手順2へお進みください。
- インストール画面が表示されないときは、CD-ROMアイコンをダブルクリックし、インストーラー（AVNV_XXX_xxx.exe）を実行します。

2　画面の表示に従ってインストールをしてください。

「完了」を選ぶとインストールの終了です。

3　パソコンのCDドライブから付属のCD-ROM（AVナビゲーター）を取り出す。

CD-ROMの取り扱いについて

動作環境

- このCD-ROMは、Microsoft® Windows® XP/Vista/7 環境にてご使用いただけます。
- AVナビゲーターの機能にはインターネットブラウザを使用する場合があります。対応ブラウザは、Microsoft Internet Explorer 6、7または8です。他のブラウザでは、一部機能が制限されたり、正しく表示されないことがあります。
また、対応のブラウザでもブラウザの設定によっては一部機能が制限されたり、正しく表示されないことがあります。

ご利用にあたっての注意

- このCD-ROMは、パソコンで使用できます。DVDプレーヤーや音楽CDプレーヤーでのご使用はできません。DVDプレーヤーや音楽CDプレーヤーで再生すると、大音量によりスピーカーの破損や耳の障害の原因となることがあります。

使用許諾について

- このCD-ROMを使用する際には、下記の「ご使用条件」に同意してください。万一、同意いただけない場合は、このCD-ROMを使用しないでください。
また、AVナビゲーターをインストールするときに表示される「ライセンス契約書」にも同意してください。

ご使用条件

- このCD-ROMで提供する情報の著作権は、パイオニア株式会社が保有します。著作権法上の「私的使用」や「引用」の範囲を超えて、無断で転載、複製、放送、公衆送信、翻訳、販売、貸与などを行うと著作権法に基づく処罰の対象になる場合があります。使用する場合は、パイオニア株式会社の使用許諾が必要となります。

免責事項

- パイオニア株式会社は、対応OSのすべてのパソコンについて、このCD-ROMの動作を保証するものではありません。また、パイオニア株式会社は、このCD-ROMの使用によって生じたいかなる障害に対しても、責任を負わないものとし、一切の賠償も負わないものといたします。

AVナビゲーターの機能を使う

1　デスクトップの「AVナビゲーター」をクリックしてAVナビゲーターを起動させる。

AVナビゲーターが起動し、**接続ナビ**が始まります。同時に言語選択の画面も表示されます。画面の表示に従って接続や自動設定を行います。
接続ナビが自動起動するのは、AVナビゲーターを最初に起動したときのみです。

2　お好みの機能を選んで使用する。

AVナビゲーターでは以下の機能を搭載しております。

- **接続ナビ**：接続と初期設定を対話方式でガイドします。簡単に高精度な初期設定が行えます。
- **取説連動**：本体の操作に連動して、操作した機能の説明ページを自動で表示します。また、連動取説から本体を操作することもできます。
- **用語集**：用語集ページを表示します。
- **MCACCアプリ**：アドバンスドMCACCの測定結果をパソコン上に3Dで鮮明に表示します。
MCACCアプリケーションには専用の取扱説明書があります。AVナビゲーターの**取説連動**のメニュー内に収録されていますので、MCACC アプリケーションをご使用になる際はご参照ください。
- **ソフト更新**：各種ソフトウェアのアップデートができます。
- **設定**：AVナビゲーターの各種設定を行います。
- **本体の検出**：本機を検出するときに使用します。

 **メモ**

他のモデルのAVナビゲーターをご使用になる場合は、本機のAVナビゲーターを一度アンインストール（削除）したうえで、他のモデルのAVナビゲーターをインストールしてください。

AVナビゲーターをアンインストール（削除）する

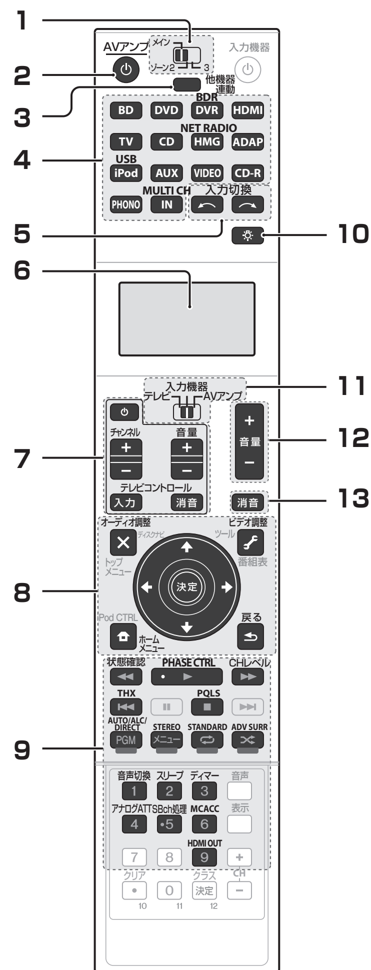
インストールしたAVナビゲーターをアンインストール（削除）するときはパソコン側で以下の操作を行います。

●　パソコンのコントロールパネルから削除する。

スタートメニューから、「プログラム」→「PIONEER CORPORATION」→「AVナビゲーター (SC-LX85またはSC-LX75)」→「アンインストール」を選びます。

各部の名称とはたらき

リモートコントロール（SC-LX85）



本機のリモコンは各操作ボタンごとに白はアンプおよびテレビコントロール、青は他機器コントロールと色分けされています。テレビや他機器の操作方法については、「他機器の操作について」（→62ページ）をご覧ください。

1　マルチゾーン用切り換えスイッチ

メインゾーン、ゾーン2、ゾーン3の操作を切り換えます。

2　⏻AVアンプボタン

本機の電源をオン／スタンバイにします。

3　他機器連動ボタン

本機の他機器連動機能の設定および操作を行います。（68ページ）

4　マルチコントロールボタン

本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。
本機には**AUX**および**CD-R**入力がないため、**AUX**および**CD-R**ボタンは使用しません。

5　入力切換 ←/→ボタン

本機の入力を切り換えます。（37ページ）

6　リモコン表示部

操作/設定時の表示画面です。IRでリモコンから信号を送信して本体を操作している場合と、RF双方向通信で本体を操作している場合で、表示の仕方が異なります。（9ページ）

7　テレビコントロールボタン

リモコン操作モード切り換えスイッチの**テレビ**に登録されているプリセットコードの機器を操作できます。

8　アンプ設定/調整ボタン

リモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**にしてから操作します。

- **オーディオ調整**：オーディオに関する調整を行います。（50ページ）
- **ビデオ調整**：映像に関する調整を行います。（52ページ）
- **ホームメニュー**：ホームメニューを表示します。（71ページ）
- **戻る**：各種設定項目で1つ前へ戻ります。
- **⬆/⬇/⬅/➡/決定**：各種設定項目の選択/決定を行います。

9　アンプ操作ボタン

リモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**にしてから操作します。

- **状態確認**：選択／設定されている機能や入力信号などの情報をディスプレイに表示します。（57ページ）
- PHASE CTRL：フェイズコントロールおよびフルバンドフェイズコントロールモードのON/OFFを切り換えます。（44ページ）
- CHレベル：チャンネルを選択し、⬅/➡でレベルを調整します。（80ページ）
- THX：THXの各モードを切り換えます。（42ページ）
- PQLS：PQLS機能のAUTO/OFFを切り換えます。（55ページ）
- AUTO/ALC/DIRECT：オートサラウンド再生（43ページ）、ALC（オートレベルコントロール）、オプティマムサラウンドおよびダイレクト再生（43ページ）を切り換えます。
- STEREO：ステレオ再生に切り換えます。（42ページ）
- STANDARD：ドルビープロロジックやNeo:Xなど、さまざまなサラウンドモードを切り換えます。（42ページ）
- ADV SURR：アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。（42ページ）
- **音声切換**：入力信号の種類（アナログ/デジタル/HDMIなど）を切り換えます。（37ページ）
- **スリープ**：スリープタイマーを設定します。（57ページ）
- **ディマー**：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。（57ページ）
- **アナログATT**：アナログ信号が入力されている場合、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。（44ページ）
- **SBch処理**：本機では使用しません。
- MCACC：MCACC MEMORYを選択します。（44ページ）
- HDMI OUT：HDMI信号の出力端子を切り換えます。（57ページ）

10 ☼（リモコン照明ボタン）

リモコン照明ボタンを押すと一部のボタンおよび表示部が点灯します。もう一度押すと消灯します。

- リモコン照明ボタンを5 秒間押し続けることで「LIGHT MODE 1」と「LIGHT MODE 2」を切り換えることができます。工場出荷時は「LIGHT MODE 2」に設定されており、リモコン照明ボタンを押すことで一部のボタンおよび表示部の照明が点灯しますが、「LIGHT MODE 1」ではボタン操作したときやリモコン操作モード切り換えスイッチを切り換えるたびに一部のボタンおよび表示部の照明が10秒間点灯します。「LIGHT MODE 1」で使用すると電池の寿命が短くなります。

11 リモコン操作モード切り換えスイッチ

- **テレビ**：テレビを操作するときに合わせます。（→62ページ）
- **入力機器**：他機器を操作するときに合わせます。（→62ページ）
- **AVアンプ**：本機の操作をするときに合わせます。

12 音量+/–

音量を調節します。

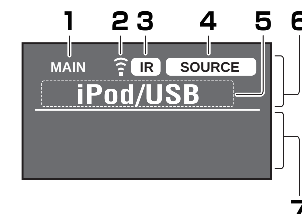
13 消音ボタン

消音します。

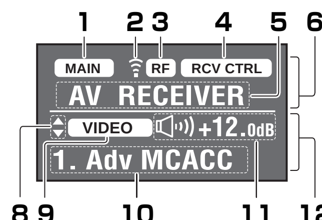
リモコン表示部

表示部はリモコン操作があったときに点灯し、そのまま何も操作がない場合は20秒後に消灯します。また、リモコンの設定を行っているときは、1分間操作がないと設定をキャンセルして消灯します。

IR信号送信時のリモコン表示部（工場出荷時）



RF双方向通信時のリモコン表示部



- この表示は、本機にRF アダプターを接続し、リモコンとRFアダプターのペアリングを行うことで表示されます。詳しくは 64ページ の「RFアダプターとリモコンをペアリングする」をご覧ください。
- 通信環境によっては双方向通信がうまく行われず、AVアンプ本体の状態と表示が合わないことがあります。

1　リモコン操作ゾーンインジケーター

リモコンが現在どのゾーンの操作モードかを表示します。マルチゾーン切り換えスイッチの切り換えに応じた表示がされます。
以下はRF双方向通信のときのみの説明です：
ここでの表示で、本リモコンとAVアンプの通信状態を表現します。
MAIN（白い枠内に黒字）：RF双方向通信中でAVアンプ側の電源がオンの状態。

MAIN（グレー枠内に黒字）：RF双方向通信中でAVアンプ側の電源がオフの状態。
MAIN（白字のみ）：RF双方向通信が上手くできていない状態。この場合12の「AVアンプ側の状態を表示するエリア」は表示されません。

2　リモコンコード送信インジケーター
リモコンから信号が送信されたときに表示されます。

3　リモコンコード送信方式インジケーター
リモコンコードをIRで送信しているか、RFで通信しているかを表示します。

4　リモコン操作モードインジケーター
リモコンが現在どの操作モードかを表示します。リモコン操作モード切り換えスイッチの切り換えに応じた表示がされます。

5　入力ファンクションおよび送信コード表示
リモコンが現在どの入力ファンクションを操作できるかを表示します。また、何かボタンを押して操作コードを送信したときはそのコード名称を表示します。

6　リモコン側の状態を表示するエリア

7　表示なし
リモコンコード送信方式がIRのときは、何も表示されません。

8　スクロールインジケーター
選択できる項目が上下に続いているときに表示されます。

9　AVアンプ本体の入力表示
AVアンプで、現在選ばれている入力ファンクションを表示します。

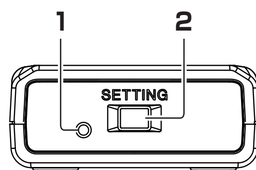
10 AVアンプ本体のディスプレイ表示
AVアンプのディスプレイと同等の表示をします。

11 音量表示
AVアンプ本体の音量をアイコンとdBで表示します。消音（ミュート）時は🔇が表示されます。

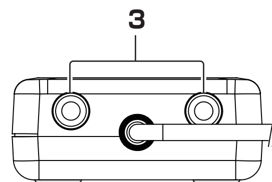
12 AVアンプ側の状態を表示するエリア

RFアダプター

前面



背面

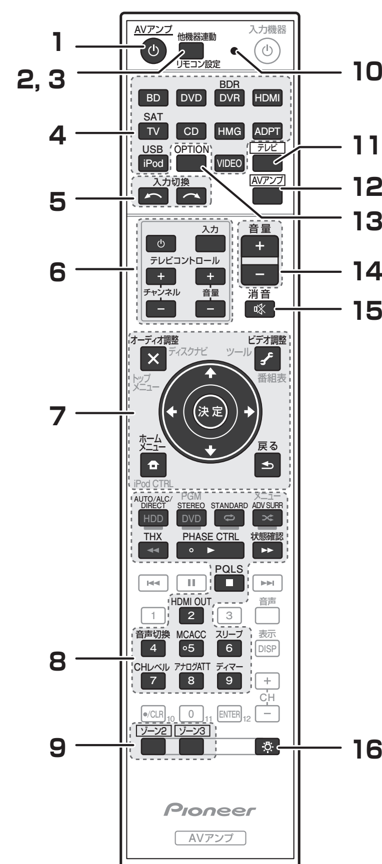


1　LEDランプ
赤く点灯しているときはペアリングされていない工場出荷時の状態です。赤く点滅しているときはペアリングの待機状態を表し、緑に点灯しているときはRF通信が可能な状態となります。

2　SETTINGボタン
RFアダプターとリモコンをペアリングするときに使用します（64ページ）。

3　IR OUT端子
他機器をRF双方向通信する際、IRブラスターケーブルを接続します（64ページ）。

リモートコントロール（SC-LX75）



本機のリモコンは各操作ボタンごとに、白はアンプおよびテレビコントロール、青は他機器コントロール、と色分けされています。テレビや他機器の操作方法については、69ページ の「他機器の操作について」をご覧ください。

1　⏻ AVアンプボタン
本機の電源をオン／スタンバイにします。

2　他機器連動ボタン
本機の他機器連動機能の設定および操作を行います。（68ページ）

3　リモコン設定ボタン
リモコンのプリセットコードを設定したり、リモコン操作モードを切り換えたりします。（67ページ）

4　マルチコントロールボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。

5　入力切換 ←/→ボタン
本機の入力を切り換えます。（37ページ）

6　テレビコントロールボタン
テレビ ボタンに登録したプリセットコードのテレビを操作できます。

7　アンプ設定/調整ボタン
AVアンプ ボタンを押してから操作します。
- **オーディオ調整**：オーディオに関する調整を行います。（50ページ）
- **ビデオ調整**：映像に関する調整を行います。（52ページ）
- **ホームメニュー**：ホームメニューを表示します。（71ページ）
- **戻る**：各種設定項目で1つ前へ戻ります。
- **⬆/⬇/⬅/➡/決定**：各種設定項目の選択/決定を行います。

8　アンプ操作ボタン
AVアンプ ボタンを押してから操作します。
- **AUTO/ALC/DIRECT**：オートサラウンド再生（43ページ）、ALC（オートレベルコントロール）、オプティマムサラウンドおよびダイレクト再生（43ページ）を切り換えます。
- **STEREO**:ステレオ再生に切り換えます。（42ページ）
- **STANDARD**：ドルビープロロジックやNeo:Xなど、さまざまなサラウンドモードを切り換えます。（42ページ）
- **ADV SURR**：アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。（42ページ）
- **THX**：THXの各モードを切り換えます。（42ページ）
- **PHASE CTRL**：フェイズコントロールおよびフルバンドフェイズコントロールモードのON/OFFを切り換えます。（44ページ）
- **状態確認**：選択／設定されている機能や入力信号などの情報をディスプレイに表示します。（57ページ）
- **PQLS**：PQLS機能のAUTO/OFFを切り換えます。（55ページ）
- **HDMI OUT**：HDMI信号の出力端子を切り換えます。（57ページ）
- **音声切換**：入力信号の種類（アナログ/デジタル/HDMIなど）を切り換えます。（37ページ）
- **MCACC**:MCACC MEMORYを選択します。（44ページ）
- **スリープ**：スリープタイマーを設定します。（57ページ）

- CHレベル：チャンネルを選択し、⬅/➡でレベルを調整します。（80ページ）
- アナログATT：アナログ信号が入力されている場合、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。（44ページ）
- ディマー：フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。（57ページ）

9 ゾーン2/ゾーン3 ボタン
リモコンをゾーン2またはゾーン3の操作に切り換えます。（57ページ）

10 リモコンLEDランプ
リモコン信号送信時またはリモコン設定時に点灯します。

11 テレビ ボタン
お手持ちのテレビのプリセットコードを登録することで、テレビコントロールボタンでテレビの操作ができるようになります。

12 AVアンプ ボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

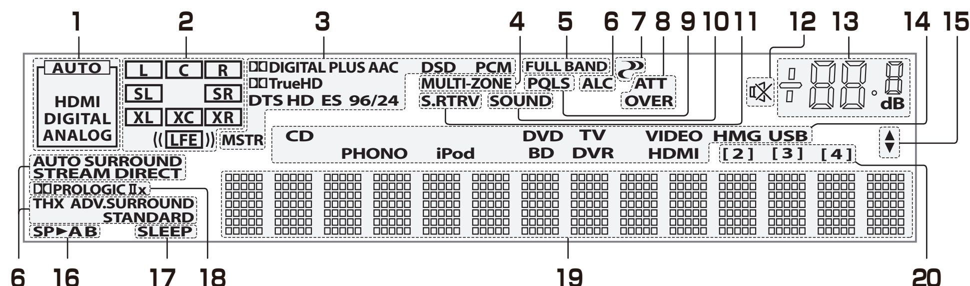
13 OPTIONボタン
お好みの機器のプリセットコードを登録したり、学習モードでボタン操作を登録できます。

14 音量 +/–
音量を調節します。

15 消音ボタン
消音します。

16 ☼（リモコン照明ボタン）
リモコン照明ボタンを押すと一部のボタンおよび表示部が点灯します。もう一度押すと消灯します。
照明パターンを4つのモードから選べます。（68ページ）

フロントパネルディスプレイ



1 音声入力信号インジケーター
現在選択されている機器の音声入力信号の種類が点灯します。

2 プログラムフォーマットインジケーター
ドルビーデジタルやDTSなどの入力信号が持っているチャンネルを表示します。（本機から出力される音声の表示ではありません。）
- L/R：フロント左/右
- C：センター
- SL/SR：サラウンド左/右
- LFE：超低音の効果音（Low Frequency Effect）。超低音が再生されているときに(( ))が点灯します。
- XL/XR：上記以外の2チャンネル（左/右）
- XC：上記以外の1つのチャンネル、モノラルサラウンドチャンネル、マトリックスエンコードフラグのいずれか。

3 デジタルフォーマットインジケーター
それぞれのデジタル信号入力時に点灯します。

4 MULTI-ZONE
MULTI-ZONE機能が選ばれているときに点灯します。（56ページ）

5 FULL BAND
フルバンドフェイズコントロール機能がONのときに点灯します。（45ページ）

6 リスニングモードインジケーター
選択されているリスニングモードに応じて点灯します。（42ページ）

7 （フェイズコントロール）
フェイズコントロール機能（44ページ）またはフルバンドフェイズコントロール機能（45ページ）がONのときに点灯します。

8 アナログ信号インジケーター
アナログ入力信号のレベルを補正しているときに点灯します。（44ページ）

9 PQLS
PQLS機能が働いているときに点灯します。（55ページ）

10 SOUND
DIALOG E（ダイアログエンハンスメント機能）またはTONE（トーンコントロール）が選ばれているときに点灯します。（50ページ）

11 S.RTRV
オートサウンドレトリバー機能が働いているときに点灯します。（50ページ）

12 🔇
消音（ミュート）しているときに点灯します。

13 音量表示(dB)
現在の主音量レベルを---（最小）から+12dB（最大）で表示します。

14 入力ファンクションインジケーター
現在選ばれている入力が点灯します。

15 スクロールインジケーター
選択できる項目が上下に続いているときに点灯します。

16 スピーカーインジケーター
SPEAKERSボタンで選択されているスピーカー端子が点灯します。（56ページ）

17 SLEEP
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。（57ページ）

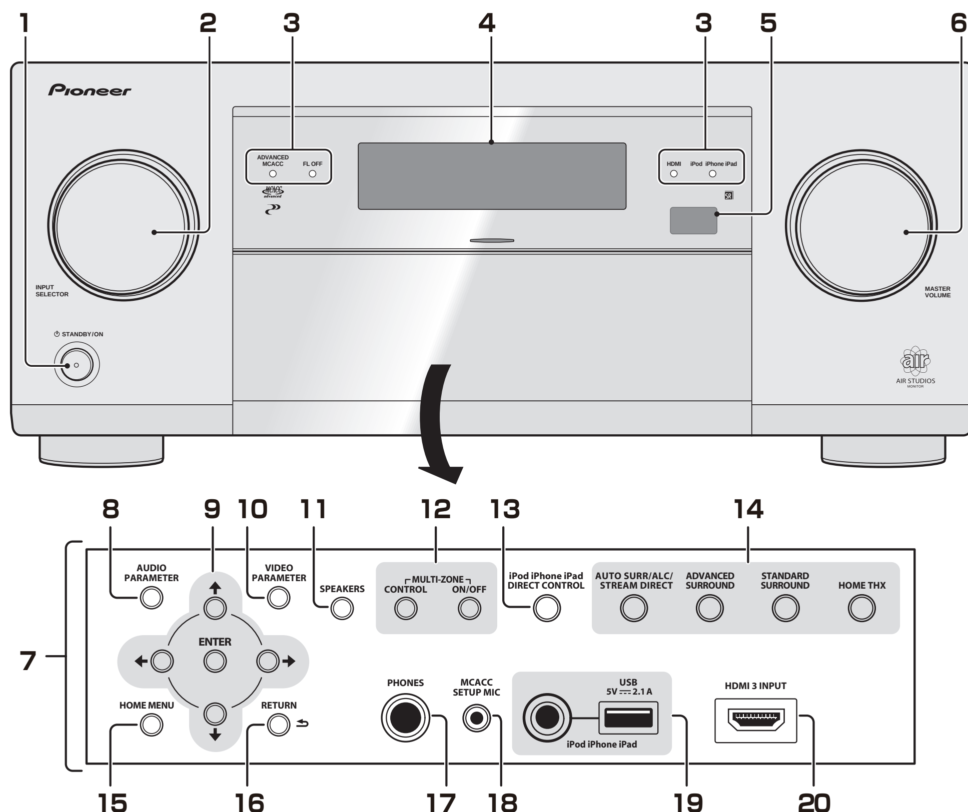
18 デコード処理インジケーター
マトリックス・デコード処理時に点灯します。
- ▯▯ PRO LOGIC IIx：ドルビープロロジックIIまたはドルビープロロジックIIxデコード処理時。

19 キャラクター表示部
操作中の情報やリスニングモード、デコード情報（信号処理の内容）などを表示します。

20 リモコン操作モードインジケーター
アンプのリモコン操作モードが設定されているときに点灯します。（1に設定されているときは点灯しません。）


メモ
- 何らかの操作のあと、キャラクター表示部が数秒間点滅する場合は、操作禁止を意味します。

フロントパネル



1　⏻ STANDBY/ON
本機の電源をオン／スタンバイにします。

2　INPUT SELECTORダイヤル
本機の入力を切り換えます。

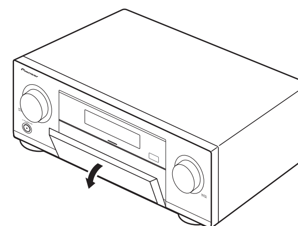
3　インジケーター
- ADVANCED MCACC：オーディオ調整機能で、EQ（周波数特性の補正）をONにしているときに点灯します。（50ページ）
- FL OFF：表示部の明るさ調節をオフ（消灯）に設定したときに点灯します。（57ページ）
- HDMI：HDMI対応機器と接続処理中に点滅し、接続が完了すると点灯します。（25ページ）
- iPod iPhone iPad：iPodやiPhone、iPadを付属のiPodケーブルで接続しているときに点灯します。（31ページ）

4　表示部（フロントパネルディスプレイ）
11ページ の「フロントパネルディスプレイ」をご覧ください。

5　リモコン受光部
8ページ の「リモコンの操作について」をご覧ください。

6　MASTER VOLUMEダイヤル
音量を調節します。

7　フロントパネルドア内部
ドアの横に指を掛け、手前に引っ張ってフロントパネルのドアを開けます。



8　AUDIO PARAMETERボタン
オーディオ調整機能の設定になります。（50ページ）

9　⬆/⬇/⬅/➡/ENTERボタン
ホームメニューやオーディオ調整、ビデオ調整での選択、調整、決定などを行います。

10 VIDEO PARAMETERボタン
ビデオ調整機能の設定になります。（52ページ）

11 SPEAKERSボタン
再生するスピーカー端子を切り換えます。（56ページ）

12 MULTI-ZONEボタン
別の部屋で本機につないだ機器を再生する機能（マルチゾーン機能）に使用します。（56ページ）
- MULTI-ZONE CONTROL：本体の操作をメインゾーンとサブゾーン（ZONE 2またはZONE 3）とに切り換えます。サブゾーンで再生する入力ファンクションを選んだり、MASTER VOLUMEダイヤルでサブゾーンの音量を調節するときに使用します。
- MULTI-ZONE ON/OFF：マルチゾーン機能を入／切します。

13 iPod iPhone iPad DIRECT CONTROLボタン
本機の入力がiPod/USBに切り換わり、iPodの各種操作がiPod本体でできるようになります。（38ページ）

14 リスニングモードボタン
- AUTO SURR/ALC/STREAM DIRECT：オートサラウンド再生、ALC（オートレベルコントロール）、オプティマムサラウンドおよびダイレクト再生を切り換えます。
- ADVANCED SURROUND：アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。
- STANDARD SURROUND：ドルビープロロジックやNeo:X、ステレオなど、さまざまなリスニングモードを切り換えます。
- HOME THX：THXの各モードを切り換えます。

15 HOME MENUボタン
本機のホームメニューを表示します。（71ページ）

16 RETURNボタン
各種設定項目で1つ前へ戻ります。

17 PHONES端子
ヘッドホンを接続します。（37ページ）

18 MCACC SETUP MIC端子
音場設定の自動測定などを行うときに、付属のセットアップマイクを差し込みます。（34、72、73ページ）

19 iPod iPhone iPad USB端子
iPodを接続したり（31ページ）、マスストレージクラスに対応したUSBメモリーを接続して（31ページ）再生することができます。また、iPodは接続することで充電されます。

20 HDMI入力端子
HDMI対応機器（ビデオカメラなど）を接続します。（31ページ）

接続

リアパネル

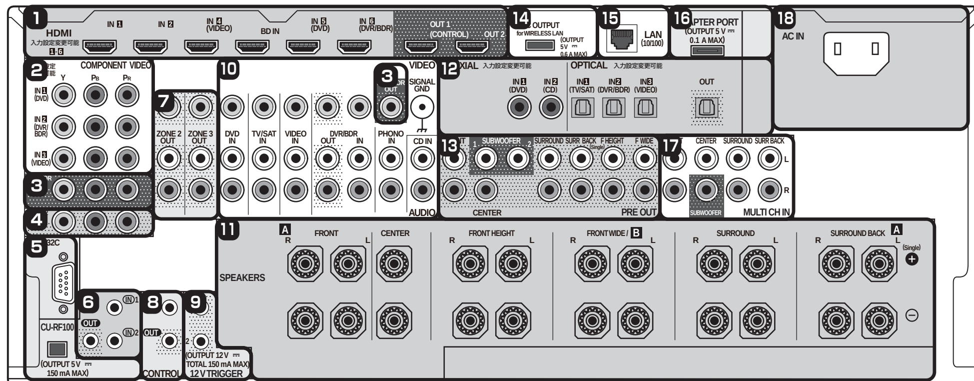
注意

- 機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
  また、接続する機器の電源コードもコンセントから抜いた状態で接続してください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバーなど）によっては接続方法や端子名が本書の説明と異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

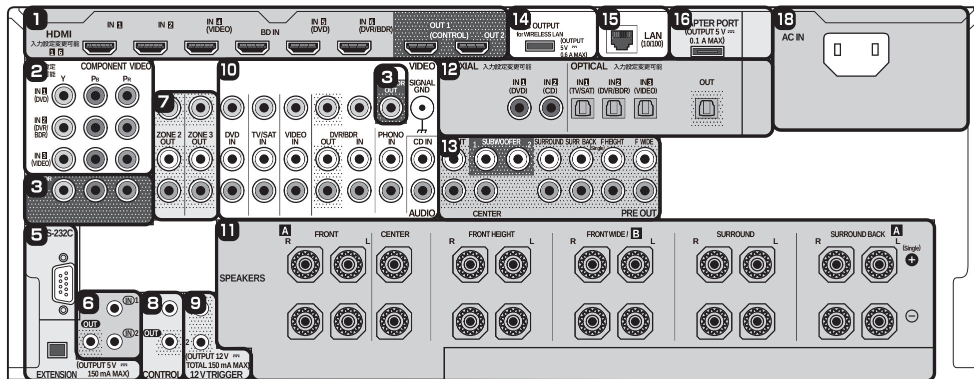
重要

接続図にはSC-LX85のイラストを使用していますが、SC-LX75も同様に接続してください。

SC-LX85



SC-LX75



1　HDMI入出力端子（23ページ）

2　コンポーネントビデオ入力端子（24ページ）
端子に表示された機器と違う機器を接続するときはコンポーネント入力端子の設定が必要です。（35ページ）

3　モニター出力端子（24ページ）

4　SC-LX85のみ：マルチゾーンコンポーネントビデオ出力端子（29ページ）

5　RS-232C端子およびCU-RF100端子(SC-LX85)/EXTENSION端子(SC-LX75)
RS-232C端子とCU-RF100端子/EXTENSION端子には、全指向性リモコンCU-RF100(SC-LX85: 付属、SC-LX75: 別売り)のRFアダプターを接続することができます。CU-RF100を使用することにより、お手元のリモコンディスプレイに本体ディスプレイの情報を表示させながら、方向や障害物を意識することのない操作が可能となります。

6　マルチゾーン用IR入出力端子（32ページ）

7　マルチゾーン出力端子（29ページ）

8　コントロール入出力端子（32ページ）

9　12 Vトリガー端子（32ページ）

10 アナログ音声入出力/ビデオ入出力端子

11 スピーカー端子（17ページ）
スピーカーインピーダンス6 Ω～ 16 Ωのスピーカーを使用できます。

12 デジタル音声入出力端子（23ページ）
端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル音声入力の設定が必要です。（35ページ）

13 プリアウト端子（29ページ）

14 DC OUTPUT端子（32ページ）

15 LAN(10/100)端子（31ページ）

16 ADAPTER PORT端子（31ページ）

17 マルチチャンネル入力端子（28ページ）

18 AC IN端子（33ページ）
必ず一番最後に接続してください。



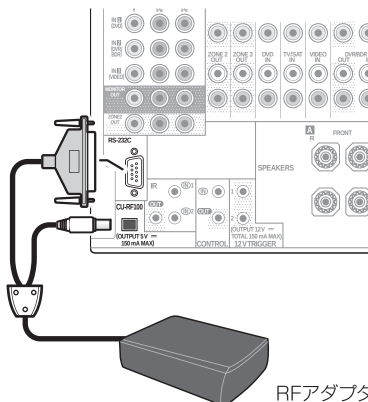
製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

D3-7-12-5-2a_A1_Ja

RFアダプターを接続する

SC-LX85のみ

RS-232C端子およびCU-RF100端子を付属のRFアダプターと接続することで、RF双方向通信による操作ができるようになります。RF双方向通信による操作について、詳しくは 64ページ の「RF双方向通信機能について」をご覧ください。



スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ

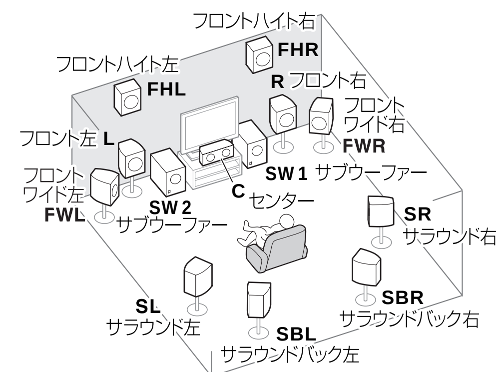
本機は11 chのスピーカー端子を装備しており､お客様のお好みに合わせてさまざまなスピーカー配置/使用パターンを選択できます。スピーカー配置/使用パターンによってスピーカーの接続端子が異なりますので、事前に1つのスピーカー配置/使用パターンを選んでから接続を行ってください。接続については 18ページ の「スピーカーシステムの接続」をご覧ください。

- フロントスピーカー左/右は必ず接続してください。
- サブウーファーを2台お持ちの場合は、SUBWOOFER 2端子に2台目のサブウーファーを接続することができます。サブウーファーを2台接続することで低音が増し、より迫力のある再生を実現します。このとき、2つのサブウーファーからは同じ音が出力されます。


重要

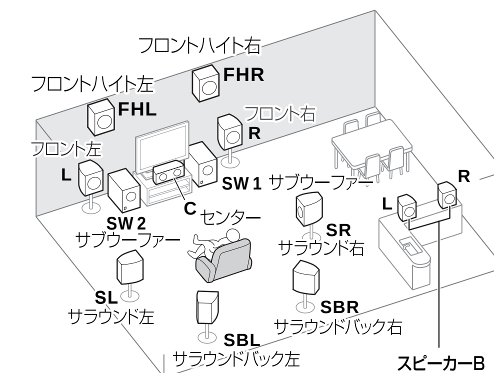
- 「パターン1」以外のスピーカー配置を行う場合、必ず**スピーカーシステム**をそれぞれの設定に変更する必要があります。詳しくは 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」をご覧ください。
- スピーカー配置/使用パターンによっては音の出るスピーカーを切り換えることができます（接続しているすべてのスピーカーから音が出るとは限りません）。再生するスピーカーの切り換えは本体のSPEAKERSボタンで行います。詳しくは 56ページ の「再生するスピーカー端子を切り換える」をご覧ください。

●パターン1●
9.2chサラウンド（フロントハイト/フロントワイド）接続
※工場出荷時の設定



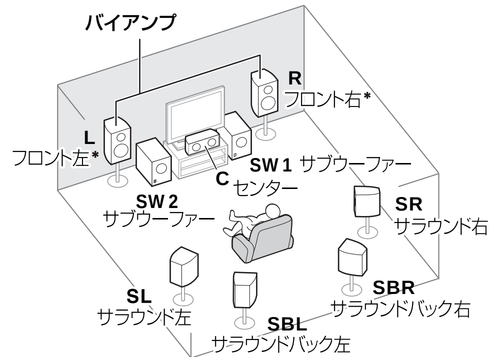
■特長
最大11本のスピーカーと2台のサブウーファーを接続できるサラウンドを重視した接続方法で、映画館のようなスピーカー配置を実現します。この場合、同時に再生できるスピーカーの数は9.2ch分までとなります（フロントハイトとフロントワイドは同時に再生できません）。
また、SACDやDVDオーディオなどの高音質マルチチャンネル音楽ソースと映画の両方にこだわった使い方も可能です。
再生するスピーカーを本体のSPEAKERSボタンで切り換えることができます。詳しくは 56ページ の「再生するスピーカー端子を切り換える」をご覧ください。
■接続
すべてシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）。
またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[9.1ch FH/FW]（78ページ）

●パターン2●
7.2chサラウンド＆スピーカー B接続



■特長
スピーカー Aシステムで最大7.2ch再生をしながら、同じ機器の音をスピーカー Bでステレオ再生することが可能です。スピーカー Aのみの場合は、最大9.2ch再生が可能です。Aのみ/Bのみ/AB両方の選択ができます。（56ページ）
（使い方の例）
例1：別の場所（キッチンなど）でも同じ機器の音声を聞く。
例2：１つの部屋で、映画用（マルチチャンネル再生：スピーカー A）と音楽用（ステレオ再生：スピーカー B）の2つのシステムをつくる。
※スピーカー BではMCACC設定は適用されません。また、スピーカー Bではサブウーファーを使用できません。
■接続
すべてシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）。
またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[7.1ch + Speaker B]（78ページ）

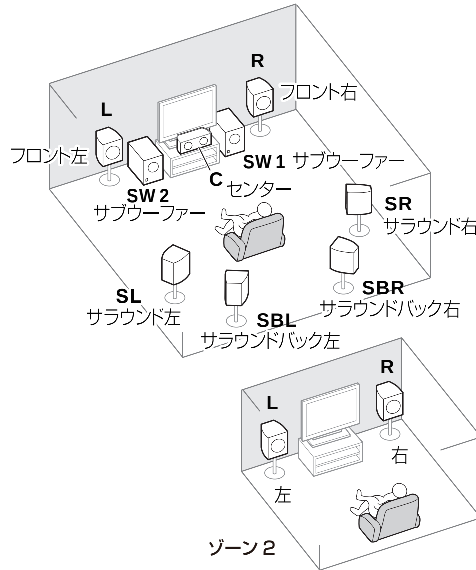
●パターン3●
7.2chサラウンド（フロントバイアンプ）接続



* バイアンプ対応スピーカー

■特長
フロントスピーカーを高音質（バイアンプ）で再生し、最大7.2chまでのサラウンド再生が可能です。
■接続
フロントスピーカーのみバイアンプ接続（17ページ）。（通常のシングル接続も可能です。）
他のスピーカーはシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[7.1ch Front Bi-Amp]（78ページ）

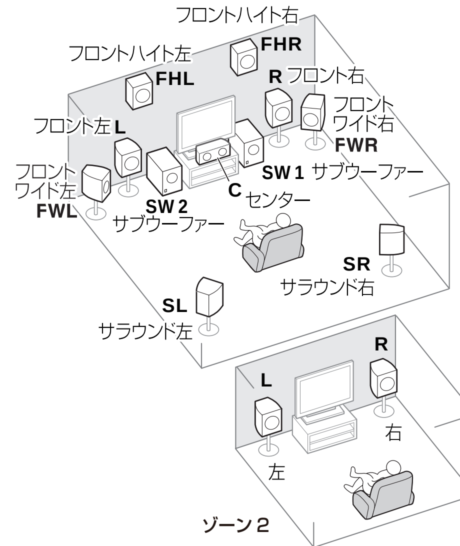
●パターン4●
7.2ch（サラウンドバック）サラウンド＆ゾーン2接続



■特長
ゾーン2でメインゾーンとは別の機器のステレオ再生が可能です。（入力機器の選択に一部制限があります。）（29ページ）
このスピーカー配置/使用パターンの場合、メインゾーンはサラウンドバックチャンネルを使った7.2 ch再生となります。フロントハイト/フロントワイドを使った7.2 ch再生でゾーン2接続をしたいときは「パターン5」をご覧ください。
- ゾーン2ではMCACC設定は適用されません。また、ゾーン2ではサブウーファーを使用できません。
- この接続パターン以外でも、他のアンプを接続してゾーン2機能を使うことができます。（29ページ）

■接続
すべてシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）。
またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[7.1ch + ZONE 2]（78ページ）

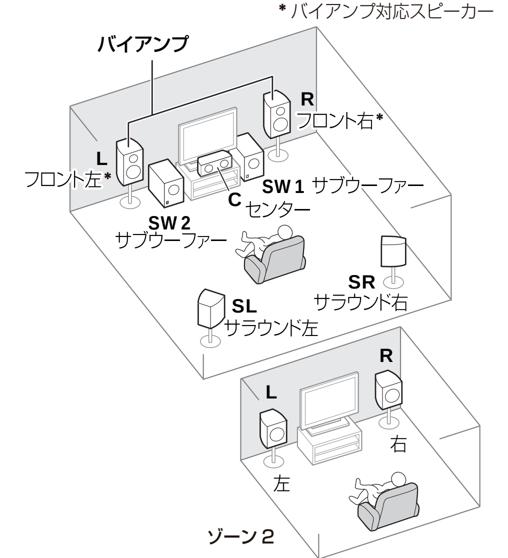
●パターン5●
7.2ch（フロントハイト/フロントワイド）サラウンド＆ゾーン2接続



■特長
ゾーン2でメインゾーンとは別の機器のステレオ再生が可能です。（入力機器の選択に一部制限があります。）（29ページ）
このスピーカー配置/使用パターンの場合、メインゾーンはフロントハイト/フロントワイドを使った7.2 ch再生となります。サラウンドバックを使った7.2 ch再生でゾーン2接続をしたいときは「パターン4」をご覧ください。
再生するスピーカーを本体の**SPEAKERS**ボタンで切り換えることができます。詳しくは 56ページ の「再生するスピーカー端子を切り換える」をご覧ください。
- ゾーン2ではMCACC設定は適用されません。また、ゾーン2ではサブウーファーを使用できません。
- この接続パターン以外でも、他のアンプを接続してゾーン2機能を使うことができます。（29ページ）

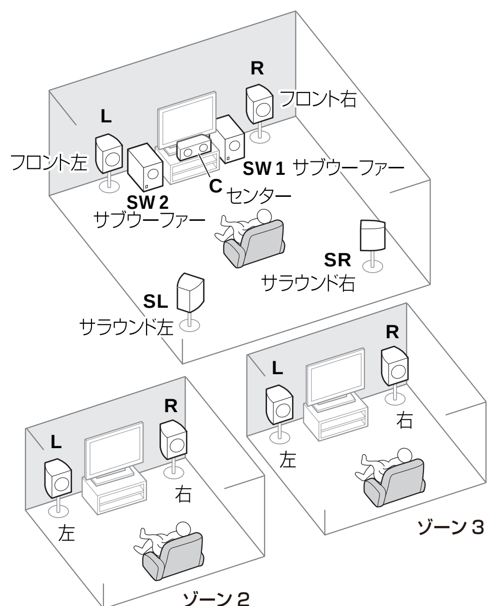
■接続
すべてシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）。
またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[7.1ch FH/FW + ZONE 2]（78ページ）

●パターン6●
5.2chサラウンド（フロントバイアンプ）＆ゾーン2接続



■特長
フロントスピーカーを高音質（バイアンプ）で再生し、最大5.2chまでのサラウンド再生を実現しながら、ゾーン2でメインゾーンとは別の機器のステレオ再生が可能です。（入力機器の選択に一部制限があります。）（29ページ）
■接続
フロントスピーカーのみバイアンプ接続（17ページ）。（通常のシングル接続も可能です。）
他のスピーカーはシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[5.1ch Bi-Amp + ZONE 2]（78ページ）

●パターン7●
5.2chサラウンド＆ゾーン2/ゾーン3接続

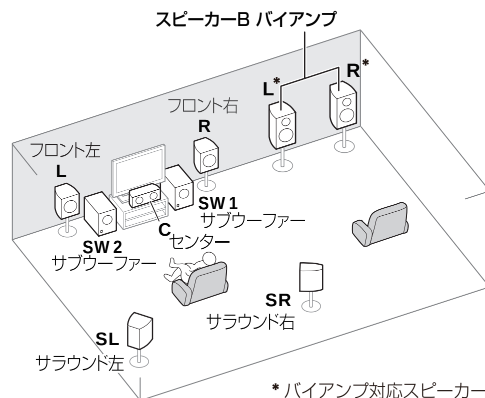


■特長
ゾーン2とゾーン3でメインゾーンとは別の機器のステレオ再生が可能です。（入力機器の選択に一部制限があります。）（29ページ）

- ゾーン2およびゾーン3ではMCACC設定は適用されません。また、ゾーン2およびゾーン3ではサブウーファーを使用できません。
- この接続パターン以外でも、他のアンプを接続してゾーン2およびゾーン3機能を使うことができます。（29ページ）

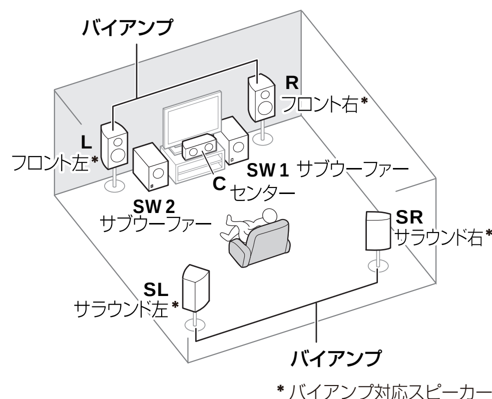
■接続
すべてシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）。
またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[5.1ch + ZONE 2+3]（78ページ）

●パターン8●
5.2chサラウンド＆スピーカー B（バイアンプ）接続
SC-LX85のみ



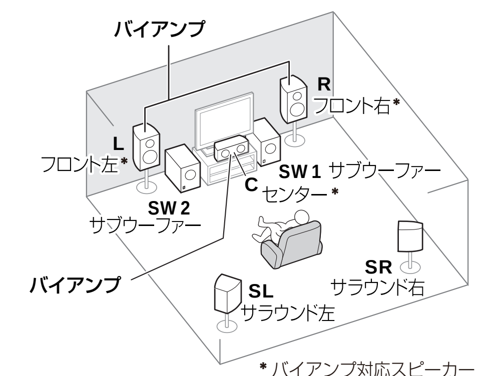
■特長
スピーカー Aシステムで最大5.2ch再生をしながら、同じ機器の音をスピーカー Bでステレオ再生することが可能です。スピーカー Bはバイアンプ接続での高音質再生が可能です。
再生するスピーカーを本体のSPEAKERSボタンで切り換えることができます。詳しくは 56ページ の「再生するスピーカー端子を切り換える」をご覧ください。
■接続
スピーカー Bのみバイアンプ接続（17ページ）。
（通常のシングル接続も可能です。）
他のスピーカーはシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[5.1ch + SP-B Bi-Amp]（78ページ）

●パターン9●
5.2chサラウンド（フロント＆サラウンドバイアンプ）接続
SC-LX85のみ



■特長
フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーを高音質（バイアンプ）で再生し、最大5.2chまでのサラウンド再生が可能です。
■接続
フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーはバイアンプ接続（17ページ）。
（通常のシングル接続も可能です。）
他のスピーカーはシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[5.1ch F+Surr Bi-Amp]（78ページ）

●パターン10●
5.2chサラウンド（フロント＆センターバイアンプ）接続
SC-LX85のみ



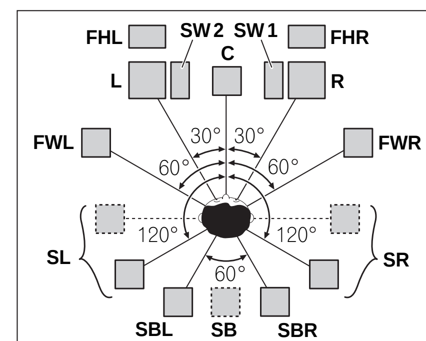
■特長
フロントスピーカーおよびセンタースピーカーを高音質（バイアンプ）で再生し、最大5.2chまでのサラウンド再生が可能です。
■接続
フロントスピーカーおよびセンタースピーカーはバイアンプ接続（17ページ）。
（通常のシングル接続も可能です。）
他のスピーカーはシングルワイヤ（通常）接続（17ページ）またはBi-wire(バイワイヤ）接続（17ページ）。
■スピーカーシステムの設定
[5.1ch F+C Bi-Amp]（78ページ）

スピーカー接続についてのお知らせ

- お手持ちのスピーカーが9本（およびサブウーファー2本）なくても、お好きな接続方法が選べます。（フロント2本だけでも楽しめます。）(18ページ の「スピーカーシステムの接続」)
- サブウーファーを接続しない場合、フロントスピーカーは低域再生能力のあるタイプを使用してください。サブウーファー用の低域成分がフロントスピーカーから出力されるため、低域再生能力のないタイプではスピーカーを破損する恐れがあります。
- 接続が終わったら、必ずフルオートMCACC（スピーカーの自動設定）を行ってください。（34ページ）

スピーカー配置について

最適なサラウンド再生を行うには、それぞれのスピーカーを図のように配置します。



- サラウンドスピーカーはセンタースピーカーから120°の角度の位置に配置します。ただし、サラウンドバックスピーカーを使用してフロントハイト/フロントワイドスピーカーを使用しない場合は、サラウンドスピーカーは視聴位置の真横に配置してください。
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ使用する場合は、視聴位置の真後ろに配置してください。

- フロントハイト左右スピーカーは、フロント左右スピーカーの真上1 m以上の位置に配置してください。

高音質のためのスピーカーセッティング

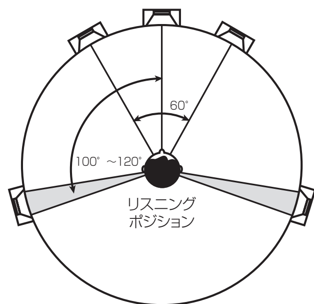
より本格的なサラウンドを目指すためには、正確にスピーカーを配置し、音量や音質の素性を均一にしてマルチchの音のピントを合わせることが重要です。

注意
- センタースピーカーをテレビの上に設置するときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

設置場所と設置方法
建物に直接振動が伝わり音質が変わらないように、周りの壁から最低10 cm以上離してください。柔らかい床や棚板も音質に影響があるので、専用スタンドやコンクリートブロックなどの使用をお勧めします。

リスニングポジションからの角度
センタースピーカー（C）を使用する場合はフロントスピーカーを広め(60°程度）に、センタースピーカーを使用しない場合は狭め（45°程度）に配置することをお勧めします。ペアになる左右のスピーカーは、左右対称の角度に設置すると音の定位が良くなります。（図1・ITU-R推奨5.1chスピーカー配置を参照）

図1　ITU-R推奨5.1chスピーカー配置(ITU-R BS.775-1)

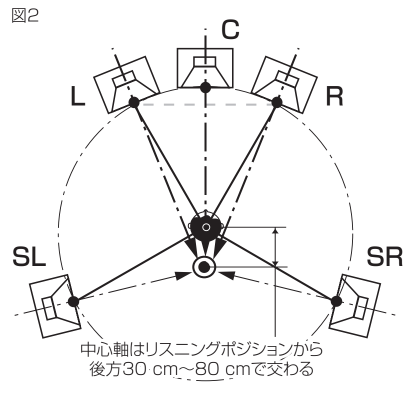


電気通信分野における国際連合の専門機関である国際電気通信連合の無線通信部門ITU-R(International Telecommunication Union–Radiocommunication sector)の勧告に基づく配置法です。

スピーカーの高さ調整
フロントスピーカー：中高域を再生するユニットが、ほぼ耳の高さになるように調整します。
センタースピーカー：フロントスピーカーの高さにそろえられない場合は、仰角を調整してリスニングポジションに向けてください。
サラウンドスピーカー：耳の高さより下にならないように設置します。

リスニングポジションからの距離（奥行き）
センタースピーカー（C）はフロントスピーカー左右（L/R）と同一面、またはやや奥まった位置の方が、きれいな音場になります。

スピーカーの向き（振り角）
図2のように、リスニングポジションの後方30 cm～80 cm(サラウンドスピーカーとリスニングポジションの間）にすべてのスピーカーを向けると良好な定位感が得られます。



サブウーファーの設置、調整
サブウーファーはセンタースピーカーとフロントスピーカーの間に配置すると、音楽ソースでも自然に再生できます（サブウーファーが1台の場合は、左右どちらの間に設置しても問題ありません）。
ただし、他のスピーカーの低音出力との打ち消し合いが起こらないような場所に配置してください。また、壁の近くに設置すると建物との共振により低音が極端に増強される場合がありますのでご注意ください。

モニター TVとスピーカーとの位置関係
フロントスピーカーはなるべくモニターから等距離になるようにします。
センタースピーカーは、なるべく画面に近い方がセリフや歌が自然に聞こえます。ただし、ブラウン管テレビの場合は、色ズレ防止のための防磁型スピーカーを使用してください。
また、センタースピーカーを床に置いて設置する際は、仰角を調整してリスニングポジションに向けてください。

スピーカーを接続する

選んだスピーカー配置/使用パターンによってスピーカーの接続方法が異なります。（ただし、メインゾーンは最大5.2chまでとなります。）
18ページ の「スピーカーシステムの接続」をご覧になり、選んだパターンの接続図を確認しながらスピーカーの接続を行ってください。
バイアンプ接続については 17ページ の「バイアンプ接続」をご覧ください。

注意
- **本機は公称インピーダンスが6 Ω ～ 16 Ωのスピーカーに対応しています。**
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、⊕および⊖が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーと本機の⊕および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されます。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

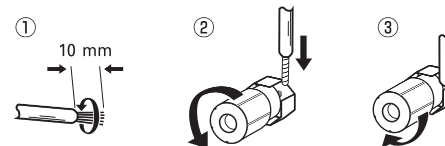
スピーカーの接続について（シングルワイヤ接続）

スピーカーの接続には市販のスピーカーコードを使用します。以下のように本機のSPEAKERS（スピーカー端子）に接続します。

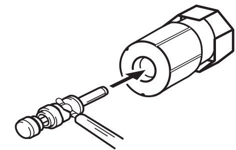
1　線をねじる。

2　スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。

3　スピーカー端子を締めつける。

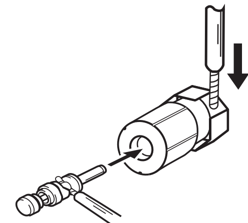


メモ
- バナナプラグを接続することもできます（詳しくは、プラグの説明書をお読みください）。



Bi-wire(バイワイヤ）接続の場合

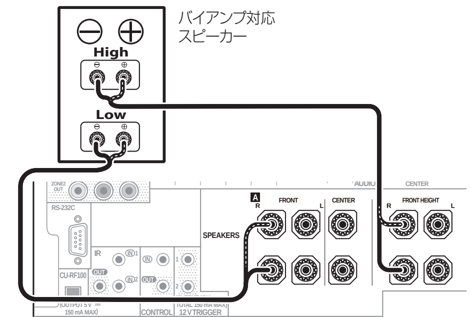
9.1ch FH/FW、ノーマル(SB/FW)または
7.1ch + Speaker Bでシステムを組む場合は、Bi-AmpではなくBi-wire接続が可能です。スピーカー端子Aに、バイワイヤリング対応スピーカーのHighとLowの2本を並列に接続してください。



注意
- この方法で異なる2つのスピーカーを接続しないでください。

バイアンプ接続

スピーカーがバイアンプ対応であれば、高品位なBi-Amp再生が可能です。

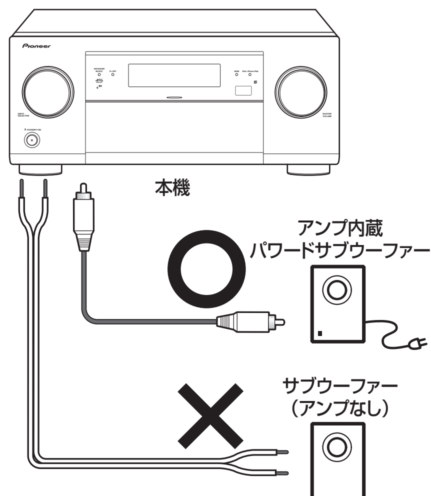


⚠ 注意

- スピーカーのBi-Amp接続をするときは、アンプへの悪影響を防ぐため、スピーカーに付属されているHigh-Lowのショート金具は必ず外してください。詳しくはスピーカーの取扱説明書もご覧ください。
- ネットワークが着脱できるスピーカーの場合、ネットワークが外れた状態では効果が得られませんのでご注意ください。

サブウーファーの接続について

サブウーファーの接続にスピーカーコードを使用することはできません。アンプ内蔵サブウーファーとアナログピンケーブルによる接続を行ってください。



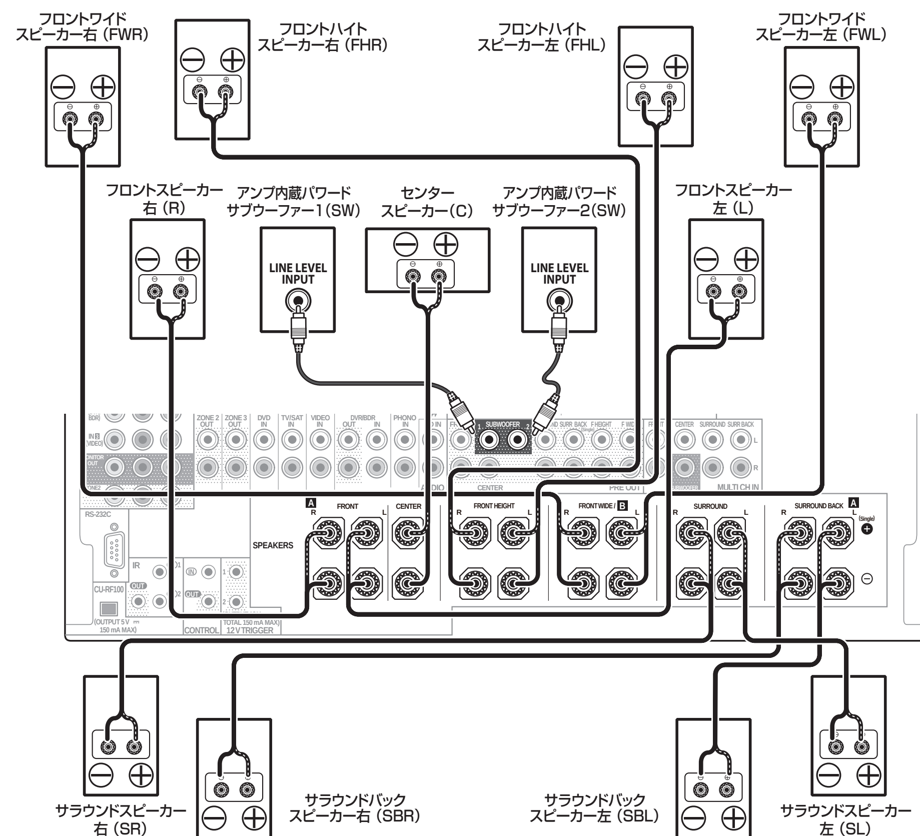
- サブウーファーを2台お持ちの場合は、SUBWOOFER 2端子に2台目のサブウーファーを接続することができます。サブウーファーを2台接続することで低音が増し、より迫力のある再生を実現します。このとき、2つのサブウーファーからは同じ音が出力されます。
- THXサブウーファーをご使用の場合、THX入力端子またはTHXフィルタポジションをご使用ください。

スピーカーシステムの接続

5.2chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFER 1/2に接続してください。SURROUND L/Rを接続せずにSURROUND BACKに接続すると正しく動作しません。

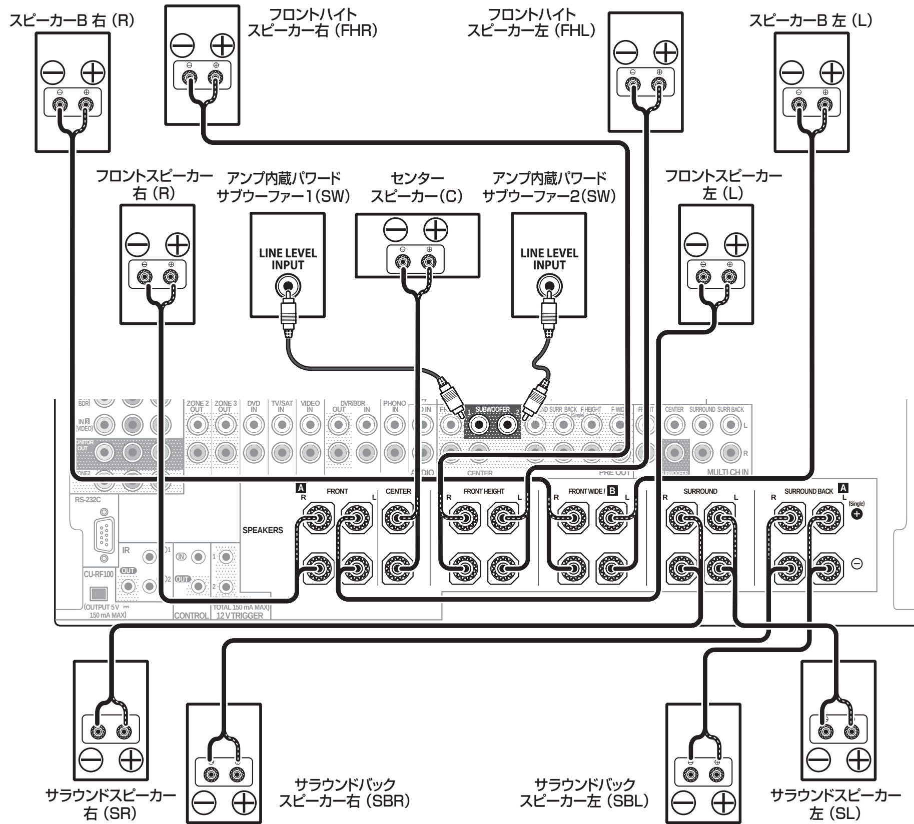
9.2chサラウンド（フロントハイト/フロントワイド）接続

- [スピーカーシステム]の設定は[9.1ch FH/FW]（工場出荷時の設定）を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときはSURROUND BACK L (Single)端子に接続します。



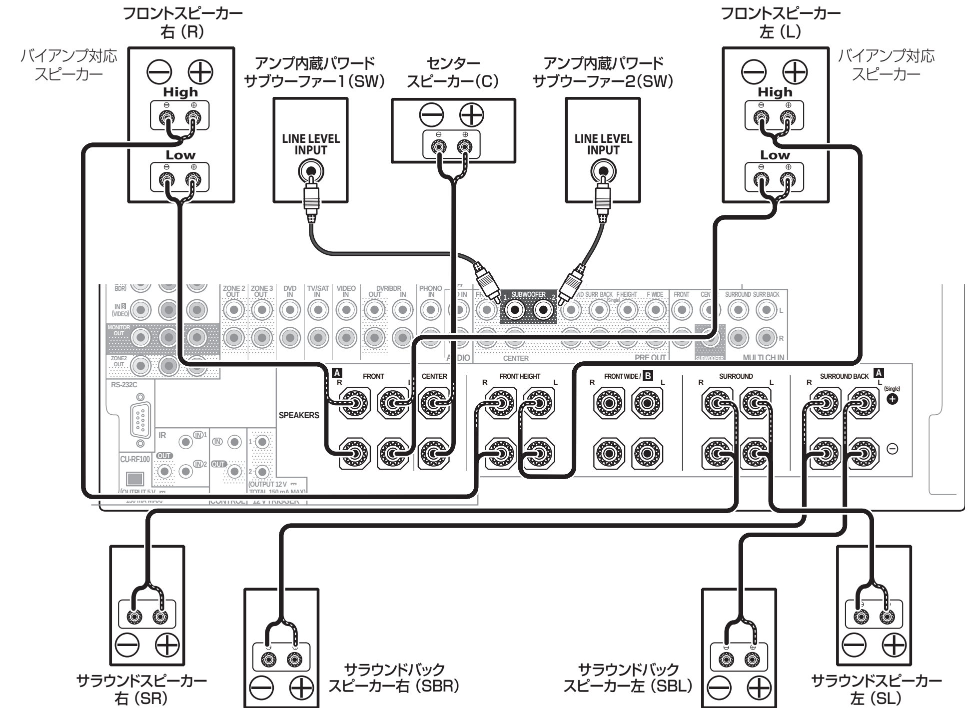
7.2chサラウンド & スピーカー B接続

- [スピーカーシステム]の設定は[7.1ch + Speaker B]を選択します。(78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム)」参照)
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときはSURROUND BACK L (Single)端子に接続します。



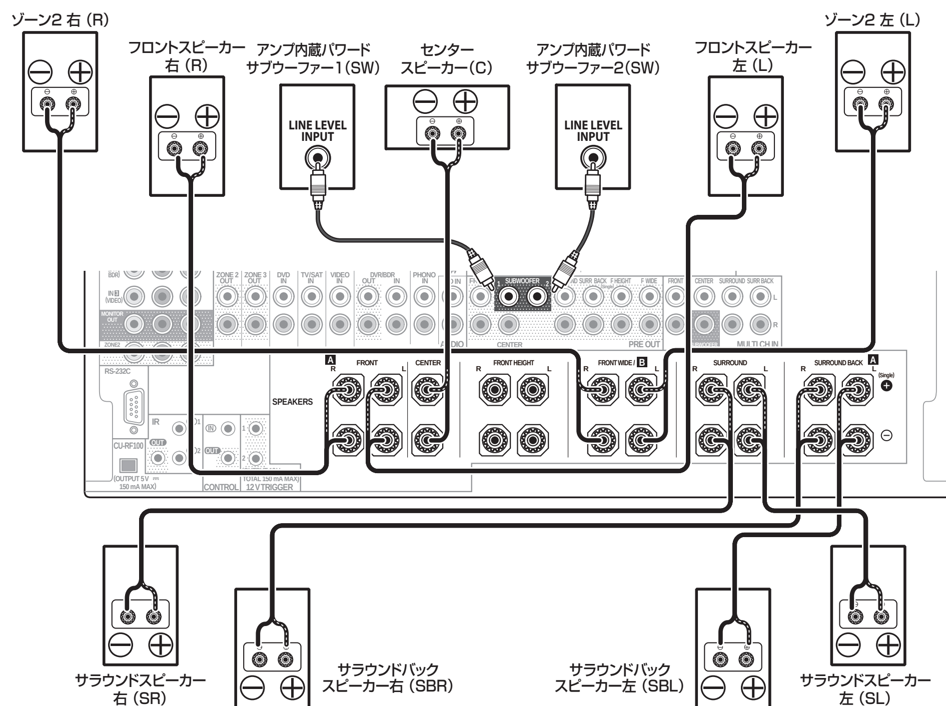
7.2chサラウンド（フロントバイアンプ）接続

- [スピーカーシステム]の設定は[7.1ch Front Bi-Amp]を選択します。(78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム)」参照)
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときはSURROUND BACK L (Single)端子に接続します。



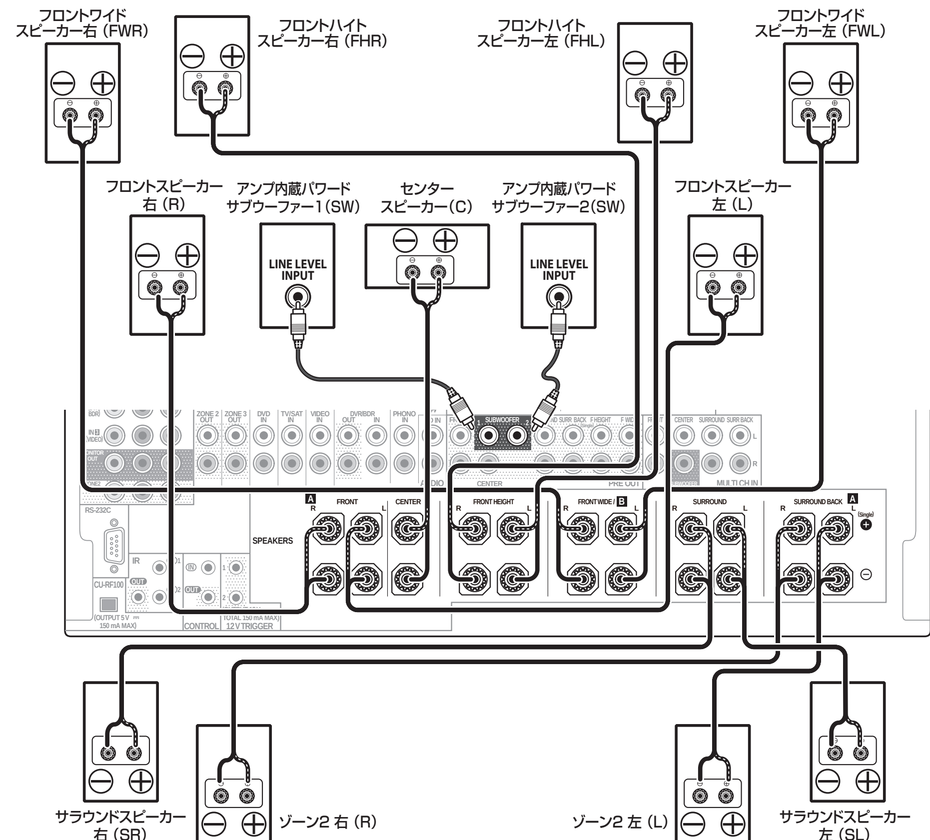
7.2ch（サラウンドバック）サラウンド & ゾーン2接続

- [スピーカーシステム]の設定は[7.1ch + ZONE 2]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときはSURROUND BACK L (Single)端子に接続します。



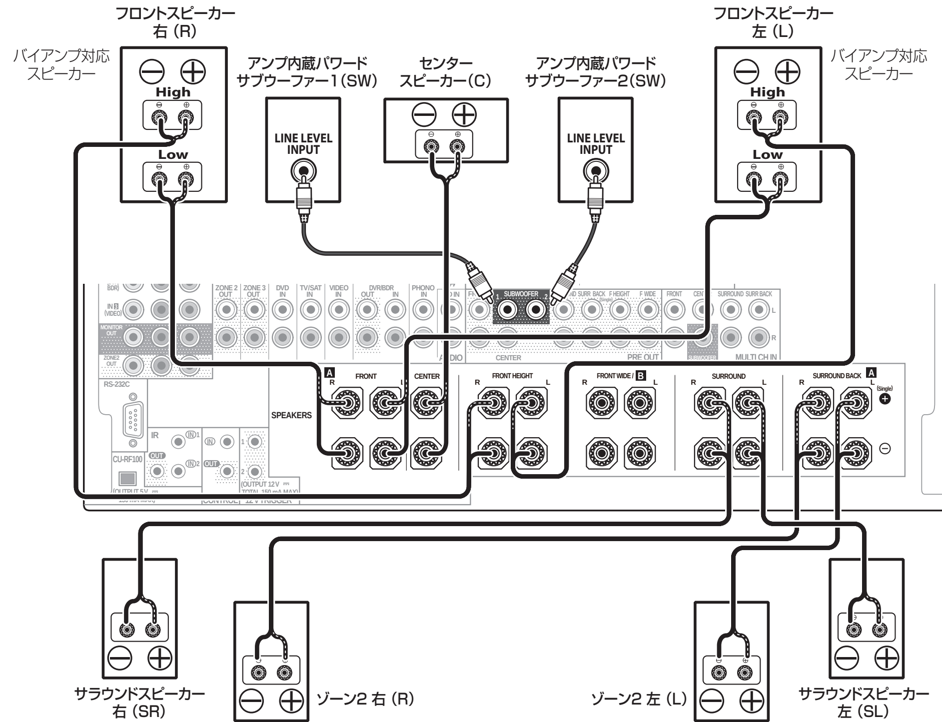
7.2ch（フロントハイト/フロントワイド）サラウンド & ゾーン2接続

- [スピーカーシステム]の設定は[7.1ch FH/FW + ZONE 2]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）



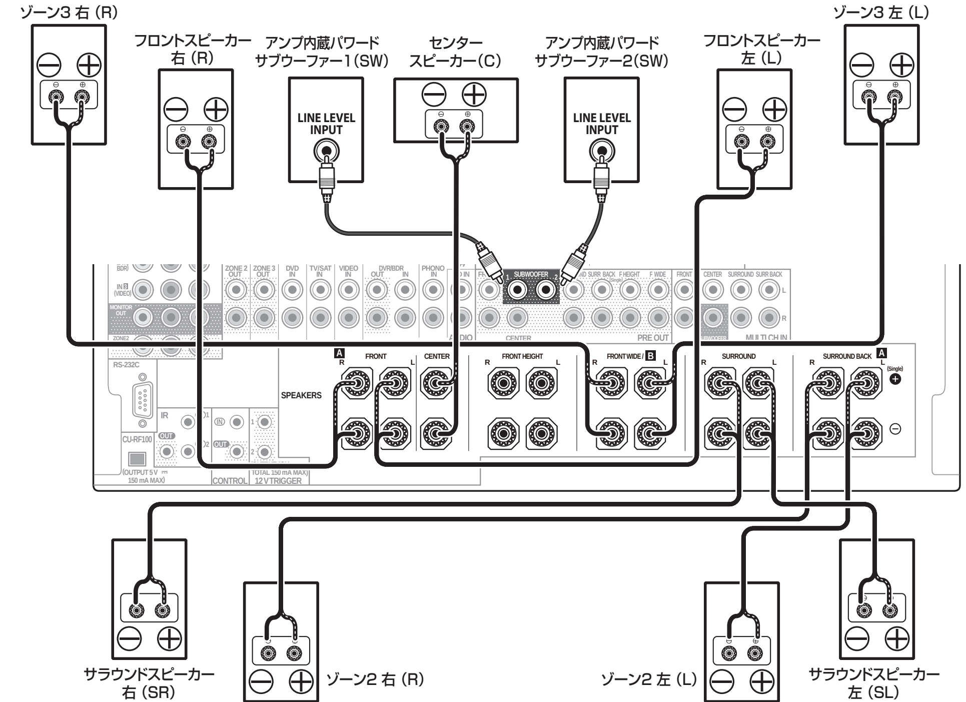
5.2chサラウンド（フロントバイアンプ）& ゾーン2接続

- [スピーカーシステム]の設定は[5.1ch Bi-Amp + ZONE 2]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）



5.2chサラウンド & ゾーン2/ゾーン3接続

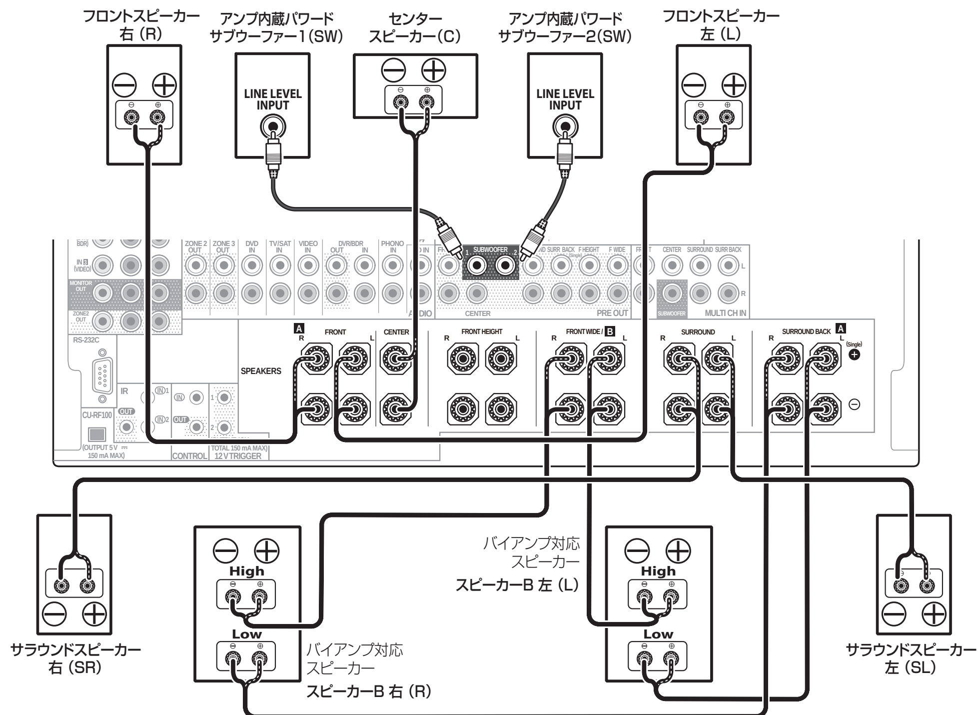
- [スピーカーシステム]の設定は[5.1ch + ZONE 2+3]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）



5.2chサラウンド & スピーカー B（バイアンプ）接続

SC-LX85のみ

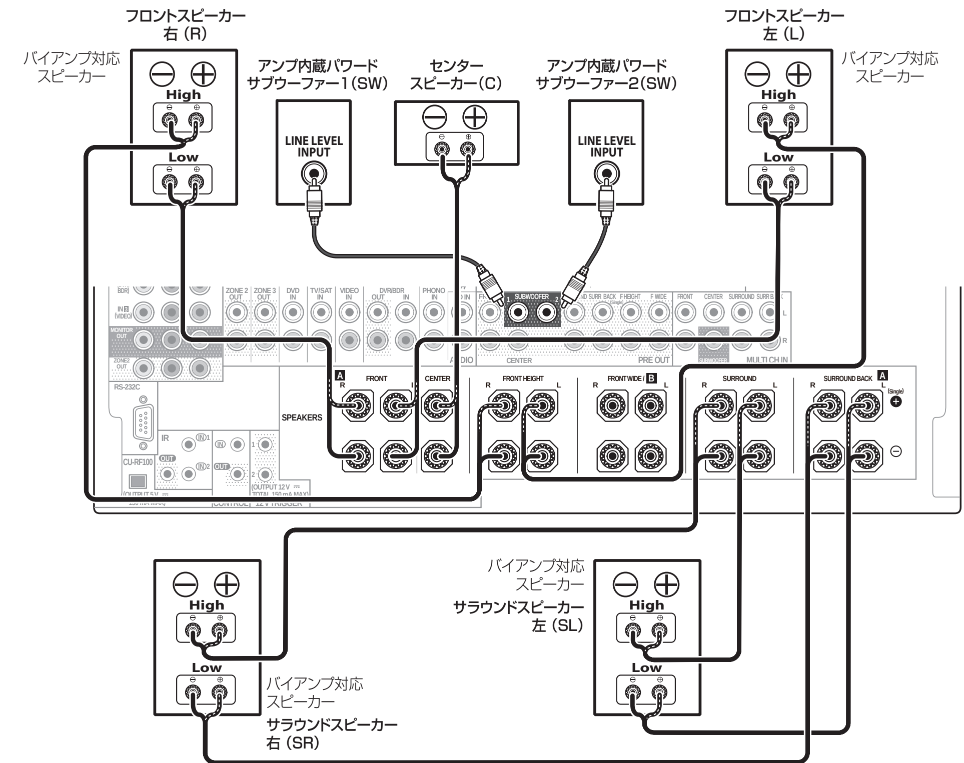
- [スピーカーシステム]の設定は[5.1ch + SP-B Bi-Amp]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム)」参照）



5.2chサラウンド（フロント&サラウンドバイアンプ）接続

SC-LX85のみ

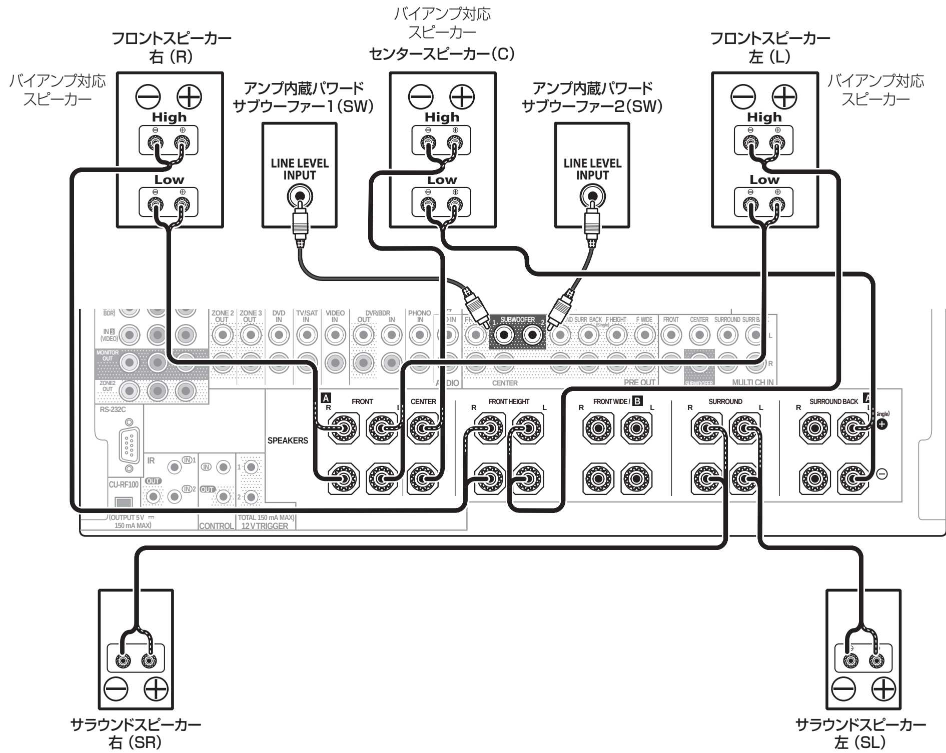
- [スピーカーシステム]の設定は[5.1ch F+Surr Bi-Amp]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム)」参照）



5.2chサラウンド（フロント&センターバイアンプ）接続

SC-LX85のみ

- [スピーカーシステム]の設定は[5.1ch F+C Bi-Amp]を選択します。（ 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」参照）



他機器の接続を行う前に

本機の入力ファンクションには、工場出荷時は以下の入力端子が割り当てられています（リアパネルの端子表記）。通常はこの割り当てのとおりに接続することをお勧めしますが、これ以外の接続を行うことも可能です。その際は、入力設定の変更が必要です。○は割り当てを変更でき、×は割り当てが固定されていて変更できません。

- BD入力ファンクションはHDMI端子のBDに割り当てが固定されているため、他の入力ファンクションに割り当てを変更できません。

入力ファンクション	入力端子					
	HDMI		デジタル音声		コンポーネント	
	割り当て	工場出荷時	割り当て	工場出荷時	割り当て	工場出荷時
BD	×	BD	×		×	
DVD	○	IN 5	○	COAX-1	○	IN 1
TV/SAT	○ <a>		○	OPT-1	○	
DVR/BDR	○	IN 6	○	OPT-2	○	IN 2
VIDEO	○	IN 4	○	OPT-3	○	IN 3
HDMI 1	×	IN 1	×		×	
HDMI 2	×	IN 2	×		×	
HDMI 3（フロントパネル）	×	IN 3	×		×	
HDMI 4 <b>	×		×		×	
HDMI 5 <b>	×		×		×	
HDMI 6 <b>	×		×		×	
HOME MEDIA GALLERY	×		×		×	
iPod/USB	×		×		×	
CD	×		○	COAX-2	×	
ADAPTER PORT	×		×		×	
PHONO	×		×		×	
MULTI CH IN <c>	○		×		×	

a HDMIによるコントロール機能（54ページ）をONにすると、TV/SATに割り当てられているHDMI入力端子は、割り当てが強制的に外れます。
b 工場出荷のときは、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEOの入力ファンクションにそれぞれのHDMI端子が割り当てられているので、入力ファンクションとして表示されません。
c SC-LX85のみ

音声の接続について

本機に音声信号を入力するには、光デジタル／同軸デジタルまたはアナログ音声コードによる接続を行います。HDMI対応機器であれば、HDMIケーブルで接続してHDオーディオを入力することも可能です。音声入力信号の切り換えをAUTOに設定している場合、以下の優先順位で自動的に入力信号が選択されます。

優先順位	端子とケーブルの種類	伝送可能な音声信号
高い	HDMI	HD音声
	同軸デジタル／光デジタル（光ファイバーケーブル）	従来のデジタル音声
低い	アナログ（オーディオケーブル（赤/白））	従来のアナログ音声

光ファイバーケーブルの取り扱いについて

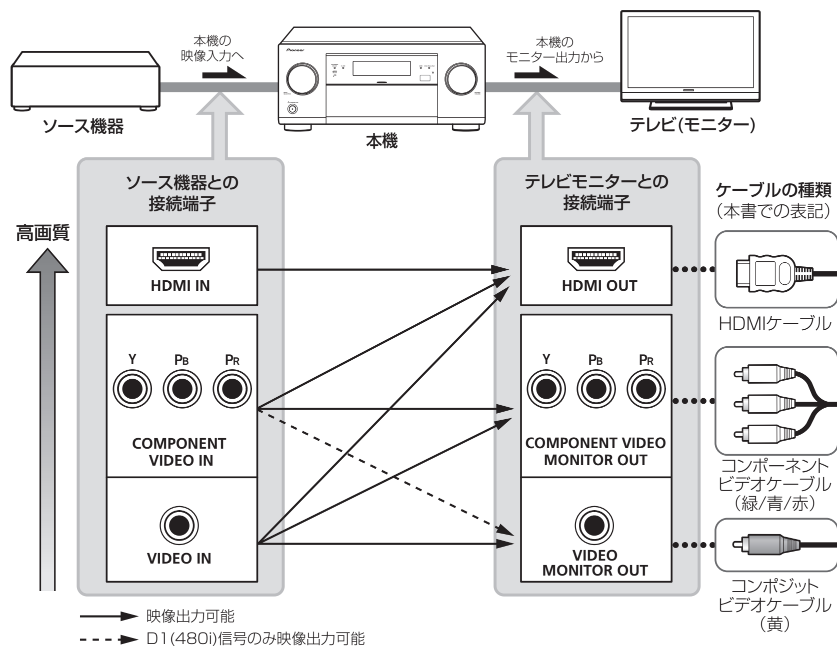
- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15 cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。

映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）

本機は、入力された映像信号を異なる種類の信号に変換できるビデオコンバーターを搭載していますので、以下のように映像ケーブルの組み合わせを選ぶことができます。

映像をテレビに表示する

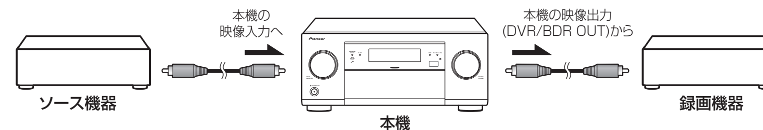
ソース機器からの映像信号について、本機から出力可能な出力端子は以下のとおりです。



- 入力された信号によっては、ビデオコンバーターが働かずに映像が出力されないことがあります。その場合はビデオコンバーターの設定をOFFにして、入力機器とテレビの両方を同じタイプのケーブルで接続してください。(52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」)
- コンポーネント端子から入力された1080p信号は、HDMIからは出力されません。

映像を録画する

ソース機器からの映像信号を録画するには、それぞれの機器と必ずコンポジットビデオケーブルで接続します。他のケーブル同士、または他のケーブルと混在した接続では、正しく録画できません。(27ページ)

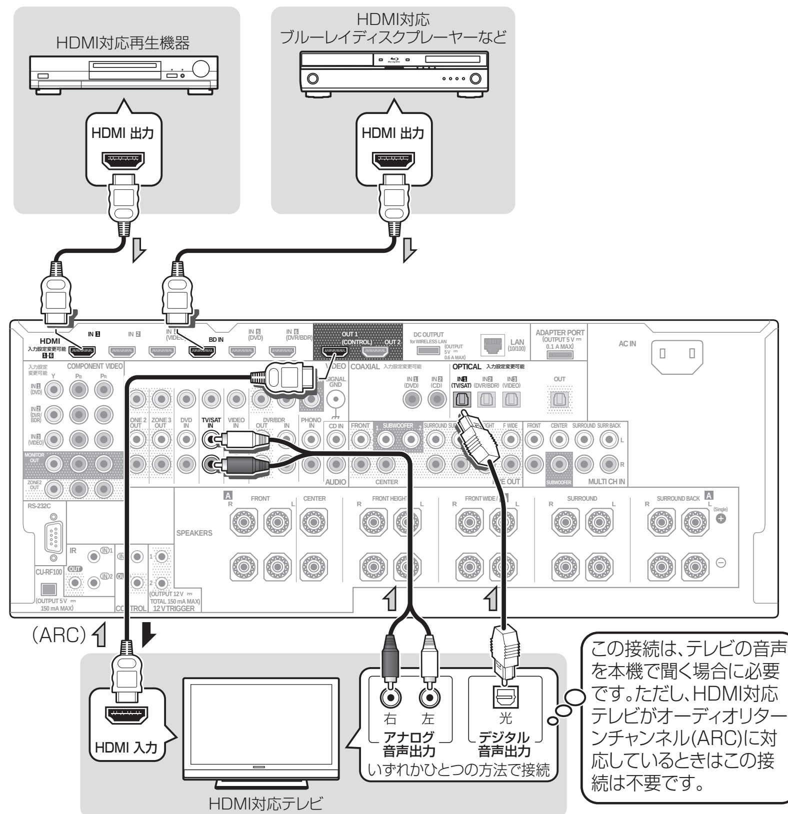


テレビと再生機器の接続

テレビと再生機器（ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーなど）を本機に接続します。
- Dolby TrueHDやDTS-HDのソフトを再生するには、再生機器とHDMIによる接続が必要です。

HDMIで接続する

テレビと再生機器の両方にHDMI端子がある場合は、HDMIによる接続をお勧めします。
HDMIによるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはパイオニアのHDMIによるコントロール機能との互換性がある他社製品などを、HDMIケーブルで本機の**HDMI OUT 1**と接続することで、これらの機器との連動動作が可能になります。詳しくは、54ページ の「HDMIによるコントロール機能でHDMI機器を連動動作させる」をご覧ください。



- **HDMI IN**に入力された映像信号をコンポーネントやコンポジットに変換できませんので、必ず**HDMI OUT**からHDMI対応のテレビに接続してください。
- HDMIによるコントロール機能対応テレビおよびHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社テレビを接続する場合は、**HDMI OUT 1**端子に接続してください。HDMIによるコントロール機能は**HDMI OUT 1**端子のみ使用できます。
- **HDMI OUT 2**端子にテレビを接続した場合は、HDMI出力の設定を**HDMI OUT 2**または**HDMI OUT ALL**に切り換えてください。（57ページ）
- HDCP（デジタル内容保護）技術に対応していない機器には接続できません。接続した場合は**HDCP ERROR**と表示されます。HDCPに対応した機器を接続したときにもこの表示が出ることがありますが、映像がとぎれなく出力されれば不具合ではありません。
- HDCP対応機器でもDVIで接続した場合は、正常に動作しない場合があります。
- イコライザーを内蔵しているHDMIケーブルで接続したときは、正しく動作しないことがあります。
- 本機の**HDMI OUT 1**とテレビをHDMIで接続していて、テレビがHDMIのオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合、テレビの音声はHDMI経由で本機に入力されるため、光デジタル/同軸デジタルまたはアナログコードによる音声の接続は必要ありません。この場合、**HDMI設定**の**TV音声**の設定を**HDMI経由**に設定してください（54ページ）。

AVアンプを経由するとHDMI機器が正しく動作しないときは

再生機器（ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤー、ビデオデッキ、セットトップボックスなど）の仕様によっては、AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できない場合があります。再生機器とテレビを直接接続すれば問題がなく、AVアンプを経由すると不具合が生じる場合は、再生機器の仕様をメーカーにお問い合わせください。
このような再生機器をそのままお使いになるときは、以下の2つの接続方法が選択できます。いずれの方法も、HDMIでしか伝送できない音声のフォーマットは再生できません。

接続例１
■ 26ページ の「再生機器にHDMI出力がない場合の接続」をご覧ください。
- **メリット**：再生時の操作方法が簡単です。本機のビデオコンバーターによって、アナログ映像をアップコンバートしてHDMIから出力できます。
- **デメリット**：映像をアナログで本機に入力するため、HDMIでの入力と違い、デジタル伝送による最高画質で楽しむことはできません。
- **使用方法**：他機器の再生と同様に操作します。

接続例２
■再生機器とテレビをHDMIケーブルで直接接続してください。（映像のみ直接HDMI伝送します。）
本機と再生機器を音声ケーブルで接続してください。
- **メリット**：映像はHDMIでのデジタル伝送のため、最高画質を楽しめます。
- **デメリット**：下記のように操作方法がやや複雑で、機器によっては2ch音声しか出力されないことがあります。（HDMI接続されたテレビの音声チャンネル数を検知して、再生機器側で出力を自動設定するため。）
- **使用方法**：この再生機器を使用する場合は、本機とテレビの入力を両方切り換えてください。テレビの音量を最小にして、本機に接続されたスピーカーとテレビから同時に音が出ないようにします。

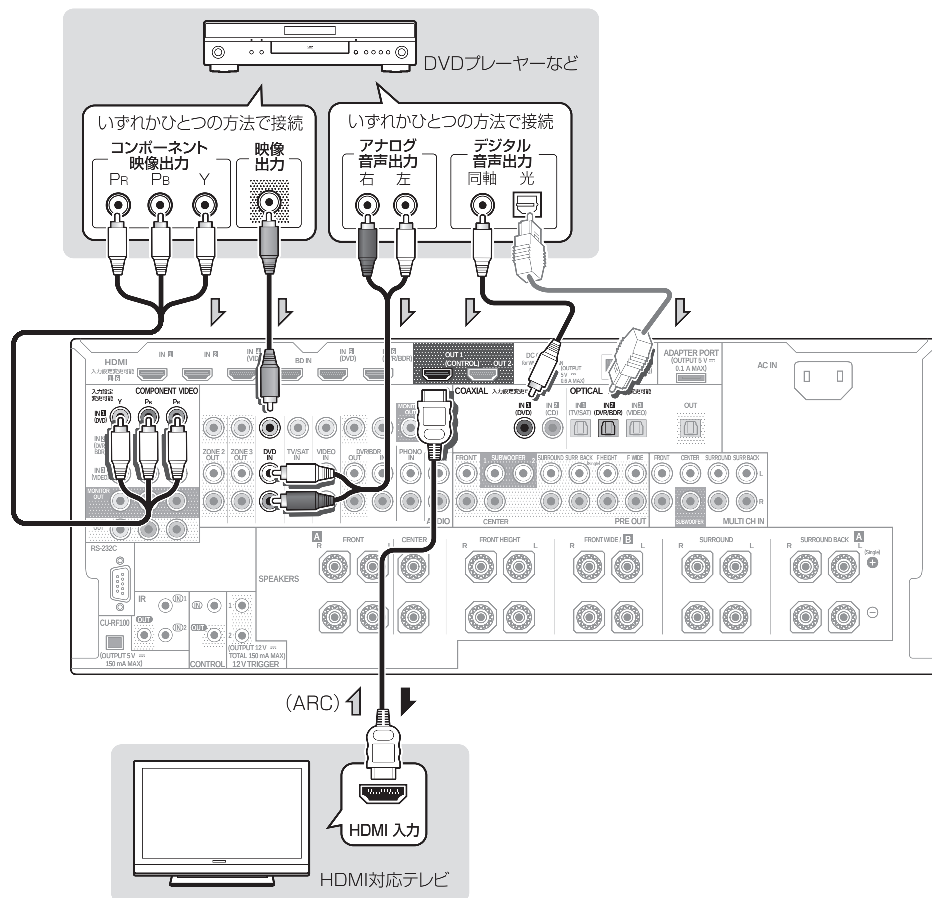
HDMI接続について

本機ではHDMI接続において以下のことに対応しています。
- HDCPで保護されたコンテンツの伝送
- ３D信号の伝送（対応機器接続時）
- Deep Color信号の伝送（対応機器接続時）
- x.v.Color信号の伝送（対応機器接続時）
- オーディオリターンチャンネル(ARC)（対応テレビ接続用）
- さまざまなデジタル音声信号の再生
- HDMIによるコントロール機能を利用した連動動作（対応機器接続時）

再生機器にHDMI出力がない場合の接続

テレビにHDMI入力端子があり、再生機器にHDMI出力端子がない場合は、テレビのみHDMIで接続します。本機のビデオコンバーター機能により、アナログで入力された映像信号をHDMIでテレビに出力できます。

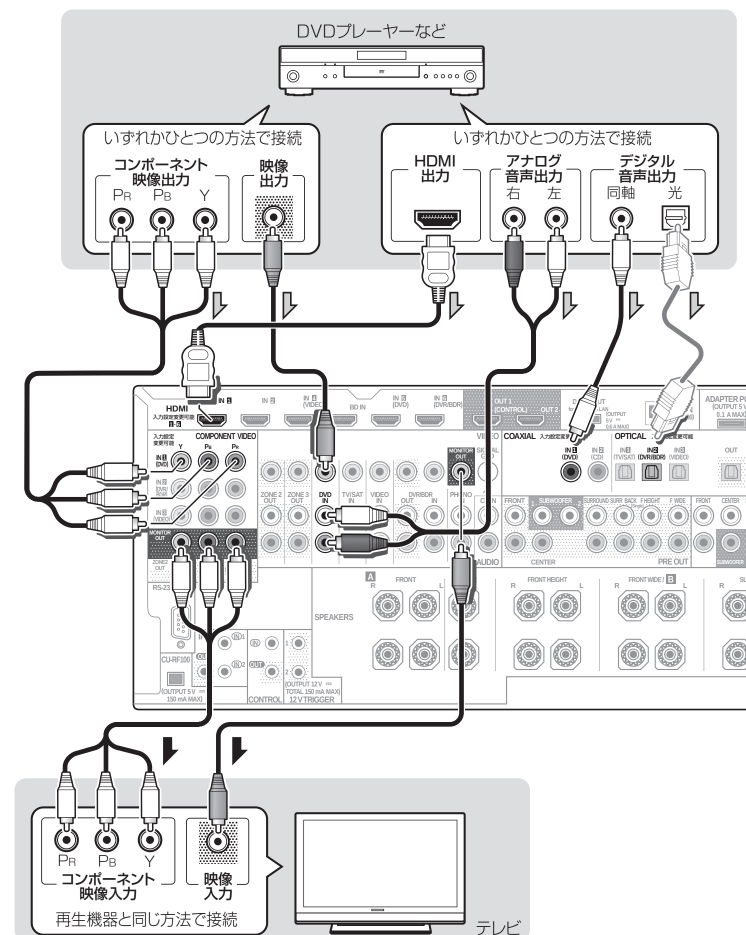
- テレビの音声を本機で聞く場合は、25ページをご覧になり、音声ケーブルの接続も行ってください。
- 本機の**HDMI OUT 1**とテレビをHDMIで接続していて、テレビがHDMIのオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合、テレビの音声はHDMI経由で本機に入力されるため、光デジタル/同軸デジタルまたはアナログコードによる音声の接続は必要ありません。この場合、**HDMI設定**の**TV音声**の設定を**HDMI経由**に設定してください（54ページ）。
- 光デジタルケーブルを使用して再生機器と接続した場合、入力端子の設定が必要です。（35ページ）



テレビにHDMI入力がない場合の接続

テレビにHDMI入力端子がない場合は、それぞれの機器の映像信号はアナログで接続します。

- テレビの音声を本機で聞く場合は、25ページをご覧になり、音声ケーブルの接続も行ってください。
- HDMI INに入力された映像信号はダウンコンバートすることができませんので、プレーヤーと本機を接続している映像ケーブルと同じ種類のケーブルでテレビと本機を接続する必要があります。



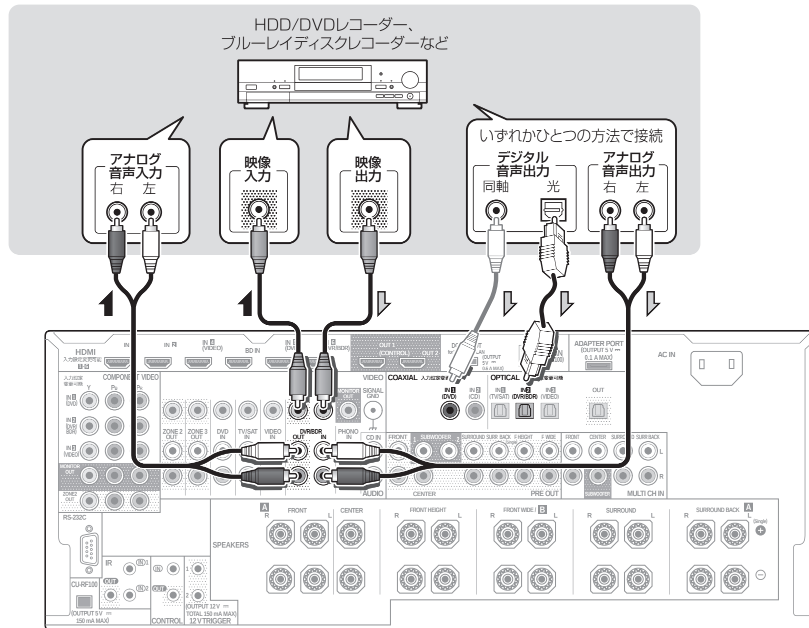
- ここでのHDMIケーブルによる再生機器の接続は、再生機器のHD音声を本機で聞く場合に使用するものです。映像をテレビで見るには、別途アナログで映像の接続を行ってください。再生機器によっては、HDMIと他の接続方法で映像を同時に出力することができなかったり、出力の設定が必要な場合があります。詳しくは再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 光デジタルケーブルを使用して再生機器と接続した場合、入力端子の設定が必要です。（35ページ）

各機器との接続

HDD/DVDレコーダーやブルーレイディスクレコーダーの接続

HDD/DVDレコーダーやブルーレイディスクレコーダーなどの録画機器を接続します。

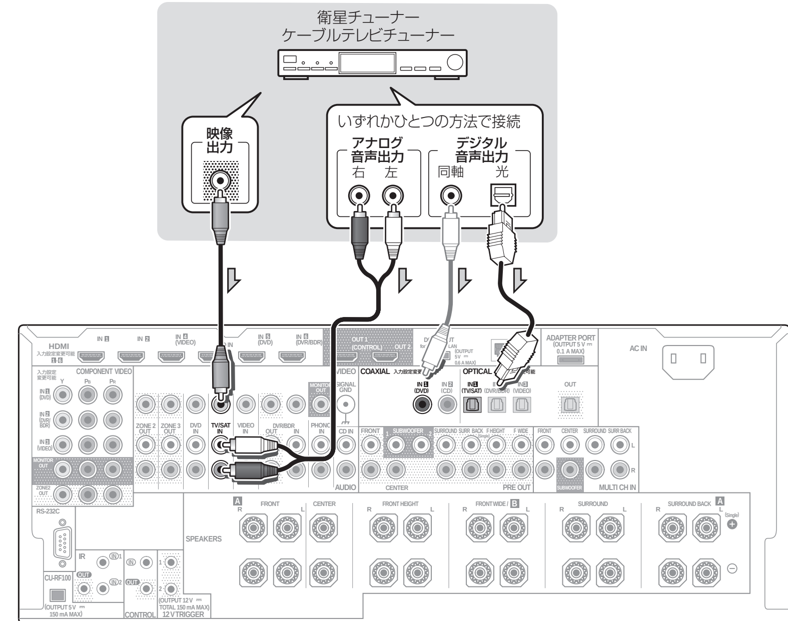
- 録画することを前提とする場合は、ソース機器と録画機器の映像信号をコンポジット接続で統一する必要があります。また音声信号についてもアナログ接続する必要があります。録画方法については、57ページをご覧ください。
- お手持ちのHDD/DVDレコーダーやブルーレイディスクレコーダーにHDMI出力端子があるときは、本機のHDMI DVR/BDR IN端子に接続することをお勧めします。その際は、本機とテレビの接続もHDMIで行ってください。（25ページ）
- 同軸デジタルケーブルを使用して再生機器と接続した場合、入力端子の設定が必要です。（35ページ）



衛星/ケーブルテレビチューナーの接続

衛星放送やケーブルテレビチューナーなどの映像機器を接続します。

- チューナーにHDMI出力がない場合はアナログ接続を行ってください。
- マルチサラウンド放送を再生するにはデジタル音声接続が必要です。
- 同軸デジタルケーブルを使用して再生機器と接続した場合、入力端子の設定が必要です。（35ページ）
- お手持ちの衛星/ケーブルテレビチューナーにHDMI出力端子があるときは、本機のHDMI IN 1またはIN 2端子に接続することをお勧めします。その際は、本機とテレビの接続もHDMIで行ってください。

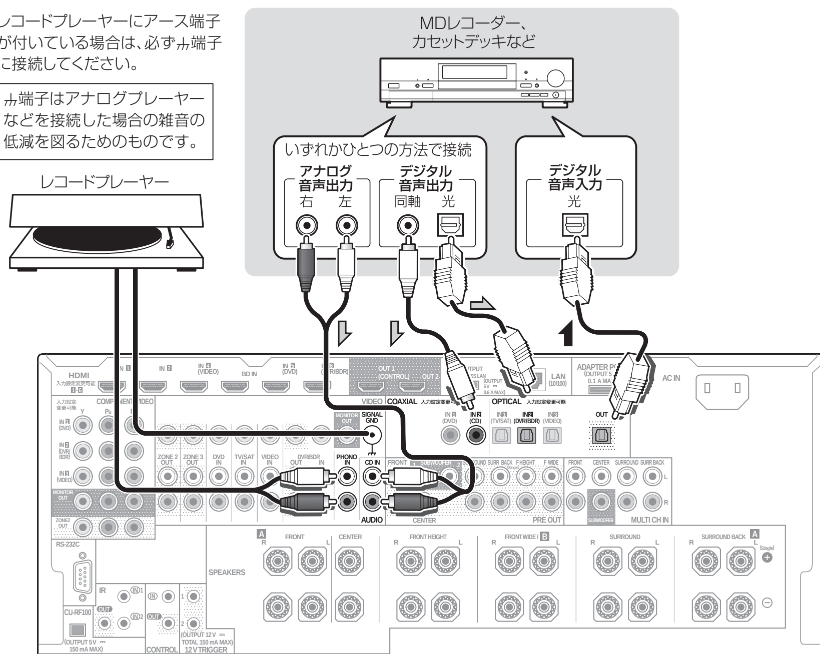


その他の音声機器の接続

音声再生機器の接続には、アナログおよびデジタル接続ができます。ドルビーデジタルやDTSソフトを再生するには、デジタル接続が必要です。

 **注意**

- PHONO端子にレコードプレーヤー以外の機器またはイコライザー内蔵レコードプレーヤーを接続しないでください。大音量を出力し、スピーカーなどを破損する恐れがあります。

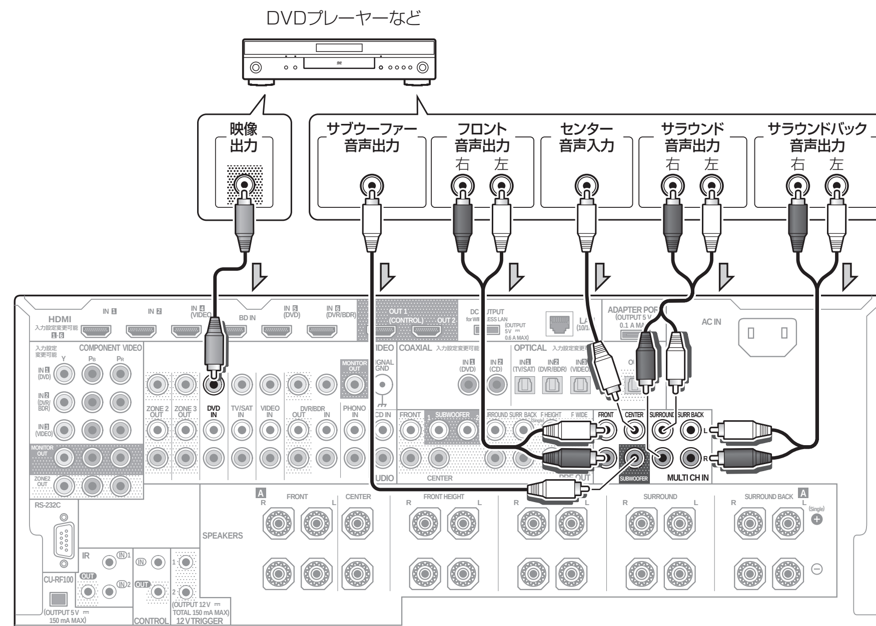


- 同軸または光デジタルケーブルを使用して再生機器と接続した場合、入力端子の設定が必要です。（35ページ）
- アナログ接続された音声のみ録音できます。録音方法については、57ページ の「接続した機器間で録音／録画をする」をご覧ください。
- カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

マルチチャンネルアナログ機器の接続

SC-LX85のみ

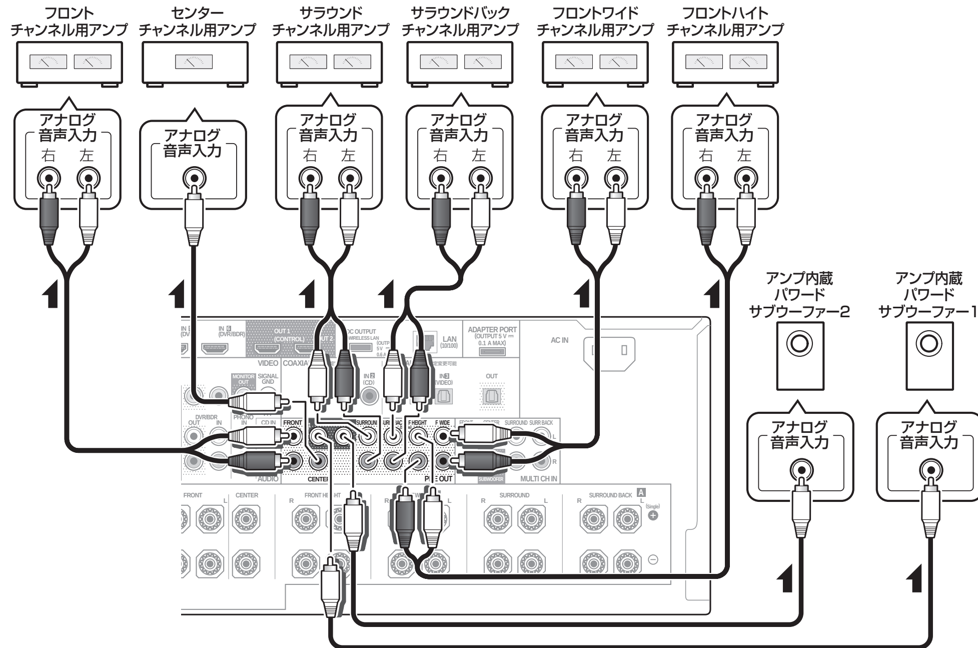
ソース機器の5.1ch、6.1chまたは7.1chアナログ出力端子と本機のMULTI CH IN端子を接続して、マルチチャンネルアナログ信号を再生できます。HDMIを使用しないでDVDオーディオやSACDを再生する場合や、本機の対応フォーマット以外のマルチチャンネル信号を再生したいときに効果的です。



- ソース機器によっては、5.1ch/6.1ch/7.1chアナログ出力の各種設定があるものもあります。出力のON/OFF設定はONにしてください。また、出力チャンネルの設定がある場合は、本機に接続しているスピーカーの数に合わせてください。詳しくは、ソース機器の取扱説明書をご覧ください。
- サラウンドバックが1本のときはSURROUND BACK L端子につないでください。
- 5.1chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFERに接続してください。SURROUND L/Rを接続せずにSURROUND BACKに接続すると正しく動作しないことがあります。
- MULTI CH IN端子に入力された信号は本機でダウンミックス処理を行うことができません。

プリアウトを使ったパワーアンプの接続

本機のPRE OUT端子にパワーアンプを接続して、それぞれのチャンネルの音声を追加出力できます。
78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」と連動して、PRE OUT端子のSURR BACKから出力される音声は変わります。他のパワーアンプなどを接続する場合はご注意ください。



 **メモ**

- この接続を行った場合、個々のアンプの能力やボリューム位置などにより音場補正を正確に行うことができない場合があります。
- サブウーファーを2台お持ちの場合は、SUBWOOFER 2端子に2台目のサブウーファーを接続することができます。サブウーファーを2台接続することで低音が増し、より迫力のある再生を実現します。このとき、2つのサブウーファーからは同じ音が出力されます。
- PRE OUT端子から出力される音声のみを聴きたいときは、再生するスピーカー端子の設定をOFFにします。

マルチゾーン接続

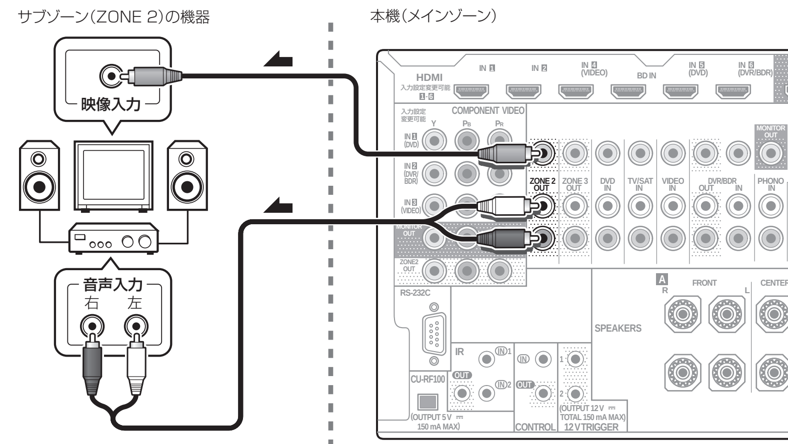
本機を操作して、本機のある部屋（メインゾーン）とは別の部屋（サブゾーン）で本機につないだ機器の再生を楽しめます（マルチゾーン機能）。本機ではメインゾーンとは別にZONE 2とZONE 3の2つのシステムを構築することができます。メインゾーンとサブゾーンで同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

- サブゾーン（ZONE 2）では、DVD、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEO、HOME MEDIA GALLERY、iPod/USB、CD、ADAPTER PORTのアナログ音声（ステレオ）入力およびビデオ（コンポジット）映像入力が再生可能です（SC-LX85ではコンポーネントビデオにも対応しています）。
- サブゾーン（ZONE 3）では、DVD、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEO、HOME MEDIA GALLERY、iPod/USB、CD、ADAPTER PORTのアナログ音声（ステレオ）入力およびビデオ（コンポジット）映像入力が再生可能です。
- デジタルやHDMIで入力された信号は再生できません（SC-LX75ではコンポーネントビデオで入力された信号も再生できません）。
- リスニングモードや低音／高音調整などの各種音声機能は使えません。

2つめの部屋のマルチゾーン接続（ZONE 2）

ZONE 2端子を使用したマルチゾーン接続

サブゾーン（ZONE 2）に別のアンプを用意して、図のようにもう一台のアンプとテレビモニターを本機に接続します。
SC-LX85では、COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT端子を使ってコンポーネントビデオ接続を行うこともできます。



 **メモ**

SC-LX85のみ

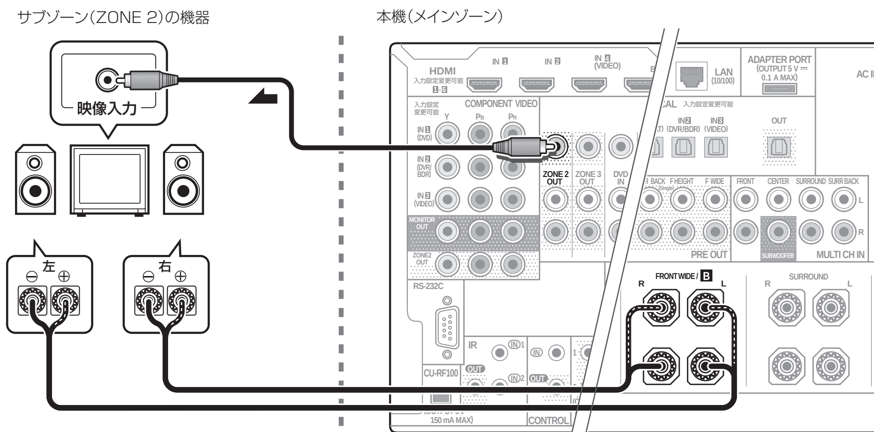
- COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUTのみの接続ではGUI画面は表示されません。GUI画面を表示するときはVIDEO ZONE 2 OUTも接続します。
- ビデオコンバート機能は働きませんので、COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUTでサブゾーンのモニターと接続するときは、入力機器ともCOMPONENT VIDEO IN端子で接続する必要があります。

スピーカー端子を使用したマルチゾーン接続

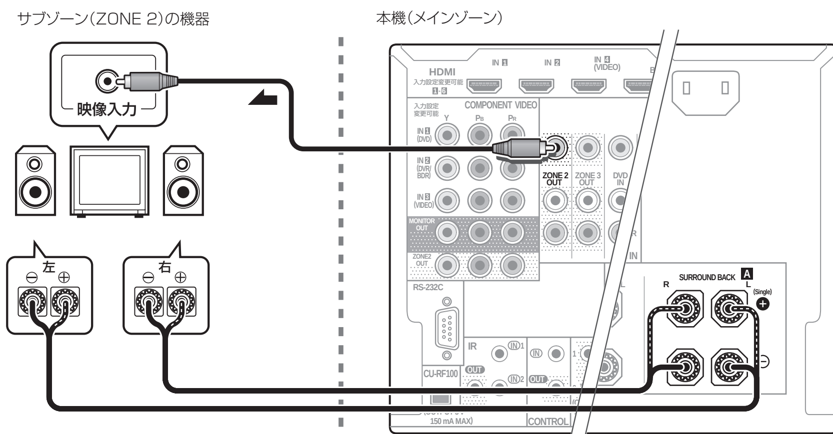
SC-LX85では、COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT端子を使ってコンポーネントビデオ接続を行うこともできます。

図のようにスピーカーとテレビモニターを本機に接続します。この接続の場合、メインゾーンは7.2chサラウンド出力までとなります。スピーカー端子は、サラウンドバックスピーカー端子かフロントワイドスピーカー端子のいずれかをZONE 2用のスピーカー端子として使用することができます。詳しくは 14ページ の「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」をご覧ください。

フロントワイドスピーカー端子を使用する場合：



サラウンドバックスピーカー端子を使用する場合：



 **メモ**

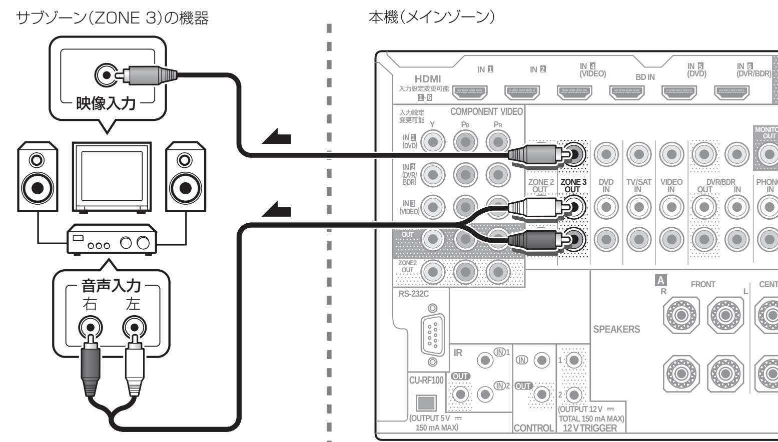
SC-LX85のみ

- COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUTのみの接続ではGUI画面は表示されません。GUI画面を表示するときはVIDEO ZONE 2 OUTも接続します。
- ビデオコンバート機能は働きませんので、COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUTでサブゾーンのモニターと接続するときは、入力機器ともCOMPONENT VIDEO IN端子で接続する必要があります。

3つめの部屋のマルチゾーン接続（ZONE 3）

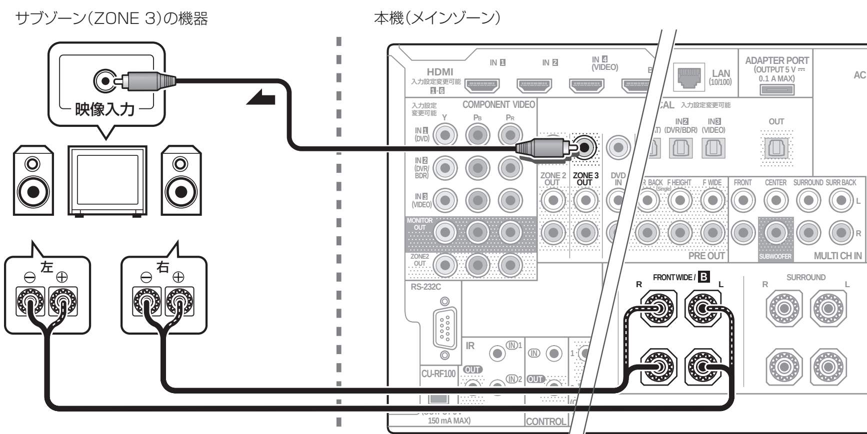
ZONE 3端子を使用したマルチゾーン接続

サブゾーン（ZONE 3）に別のアンプを用意して、図のようにもう一台のアンプを本機に接続します。



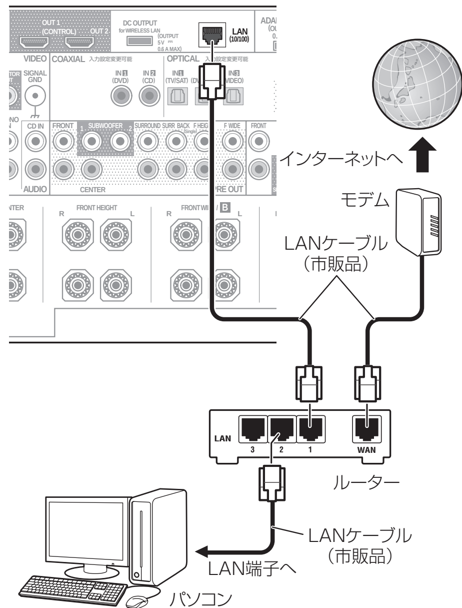
スピーカー端子を使用したマルチゾーン接続

[スピーカーシステム]の設定は[5.1ch + ZONE 2+3]に設定する必要があります。詳しくは 78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）」をご覧ください。



LAN端子でネットワークに接続する

LAN端子を使ってネットワークに接続することで、インターネットラジオを聴くことができます。インターネットラジオを聴くには、インターネットサービスを提供しているプロバイダーとの契約･料金が別途必要です。
また、この接続を行うことで同一ネットワーク上にあるパソコンなどに保存されている音楽ファイルをHOME MEDIA GALLERY入力で再生することができます。
本機のLAN端子とルーター（DHCPサーバー機能付きなど）のLAN 端子をストレートLANケーブル（CAT-5以上）で接続します。
ルーターのDHCPサーバー機能をオンにします。ルーターにDHCPサーバー機能がない場合はネットワークを手動で設定する必要があります。詳しくは 82ページ の「ネットワークの設定を行う」をご覧ください。



LAN端子の仕様

- LAN（10/100）端子：1系統、10BASE-T/100BASE-TX

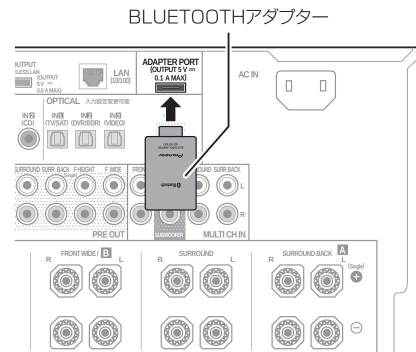
 **メモ**

- 弊社ではお客様のネットワーク接続環境、接続機器に関連する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。プロバイダーまたは各接続機器のメーカーにお問い合わせください。
- 外部コンテンツのアクセスには高速インターネットへの接続が必要であり、プロバイダーへの登録や契約が必要となります。第三者が提供するコンテンツのサービスは、予告なく、変更、中断、中止される可能性があり、パイオニアは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。パイオニアは、外部コンテンツの提供サービスの継続や利用可能期間について、いかなる保証もしません。

BLUETOOTHアダプターを接続する

別売りのBLUETOOTHアダプター（AS-BT100またはAS-BT200）を本機に接続することで、*Bluetooth* 機能搭載機器（携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど）の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。*Bluetooth* 機能搭載機器の音楽の再生については、40ページ の「BLUETOOTHアダプターをペアリングする(初期登録)」をご覧ください。

- 本機で*Bluetooth* 機能搭載機器の音楽を再生するには、*Bluetooth* 機能搭載機器がプロファイル：A2DPに対応している必要があります。
- すべての*Bluetooth* 機能搭載機器との接続動作を保証するものではありません。



 **重要**

- BLUETOOTHアダプターを本機に接続した状態で、本機を移動させないでください。破損や接触不良の原因となります。

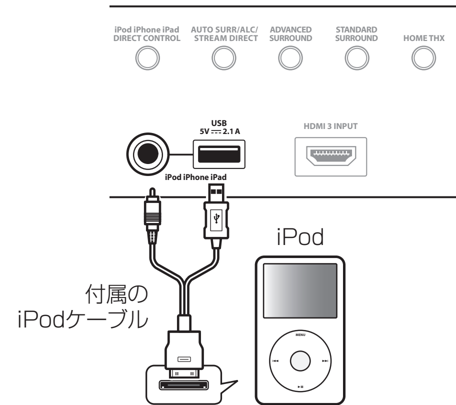
前面端子に機器を接続する

前面端子にHDMI対応機器やiPod、USBメモリーを接続して、本機で音声や映像を楽しめます。
前面端子を使用するときは、フロントパネルのドアの横に指を掛け、手前に引っ張ってドアを開けます。接続の前に本機の電源をオフにしてください。

iPodを接続する

iPodを接続して、iPodの音楽や映像を本機で楽しめます。接続には本機に付属のiPodケーブルを使用します。

- iPodの接続には、iPodに付属のケーブルも使用できますが、その場合はiPodの映像を本機を通して見ることはできません。
- iPodの接続については、iPodに付属の取扱説明書もご覧ください。
- iPodの再生については、37ページ の「iPodをつないで再生する」をご覧ください。

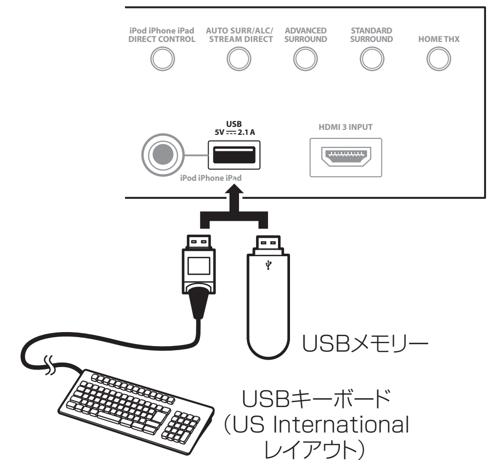


USBメモリーやキーボードを接続する

お手持ちのUSBメモリーを接続して、USBメモリーに記録されている音楽/画像ファイルを本機で再生できます。

- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽/画像ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、マルチカードリーダー、デジタルカメラ、デジタルオーディオ再生機またはプレーヤー（FAT12、FAT16、FAT32のフォーマットに対応）などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- US Internationalレイアウト以外のUSBキーボードも接続できますが、一部の文字が正しく入力できないことがあります。
- USBメモリーの再生については、38ページ の「USBメモリーを再生する」をご覧ください。

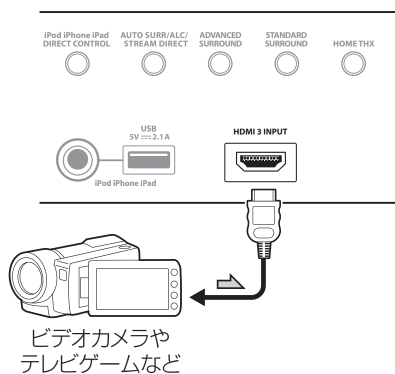
また、USBキーボード（US Internationalレイアウト）を接続して、入力端子の設定で、入力名を変更する際の文字入力に使用できます。（81ページ）



HDMI対応機器を接続する

HDMI出力端子があるビデオカメラやテレビゲーム機などを前面端子に接続して、簡単にこれらの機器の映像や音声を楽しめます。接続にはHDMIケーブルを使用します。

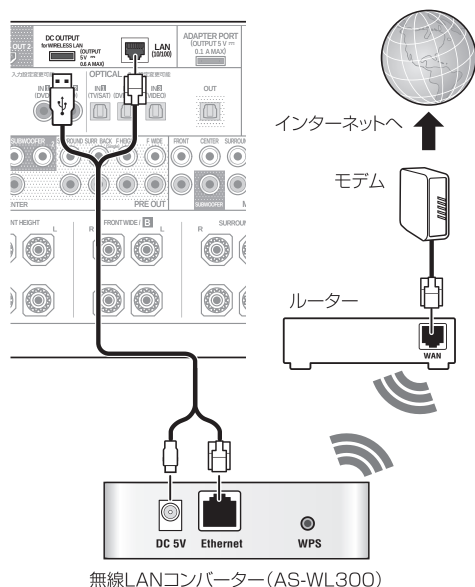
- 接続する機器によっては、専用の接続コードが付属している場合があります。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。



無線LANコンバーターを接続する

無線LANコンバーターを接続してワイヤレスでネットワークに接続できます。接続には別売りのAS-WL300をお使いください。

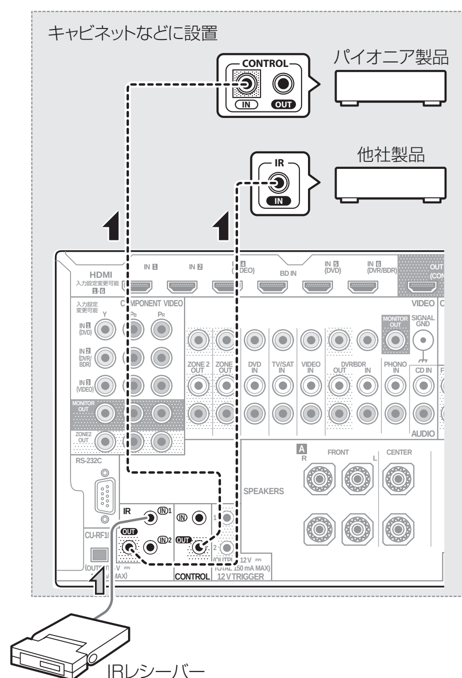
- 無線LANコンバーターの設定については、82ページ の「ネットワークの設定を行う」をご覧ください。



無線LANコンバーター（AS-WL300）

IRレシーバーを使って集中コントロールする

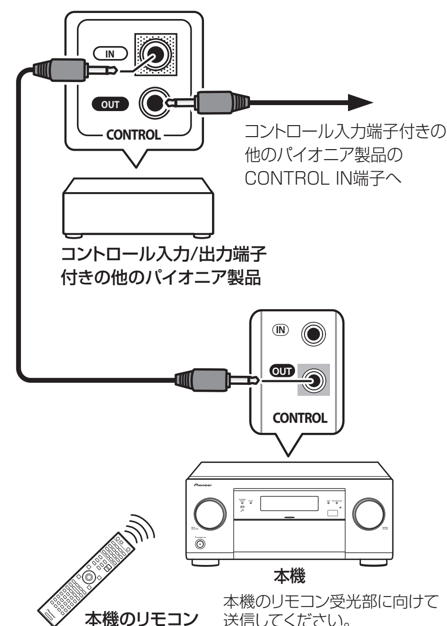
ステレオ機器などを、キャビネット内などのリモコン信号が届かない場所に設置している場合でも、市販のIRレシーバーを使用して、リモコンでシステムの操作ができます。本機や接続した機器（パイオニア製品だけでなく、他社製品も含む）を操作できます。マルチルームのリモコン操作などにも使用できます。



- IR接続は、IR端子を装備している機器を使用してください。
- IRレシーバーのリモコン受光部に蛍光灯から強い光が直接照射されている場合は、リモコン操作ができないことがあります。
- 他社製品ではIRという名称が使用されていない場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書で確認してください。
- フロントパネルのリモコン受光部とIRレシーバーのリモコン受光部が同時に受信した場合は、IRレシーバーが優先されます。
- 接続に必要なケーブルの種類については、IRレシーバーに付属の取扱説明書を参照してください。

他のパイオニア製品をつないで集中コントロールする

コントロール入力/出力端子の付いた複数のパイオニア機器を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能になります。



重要

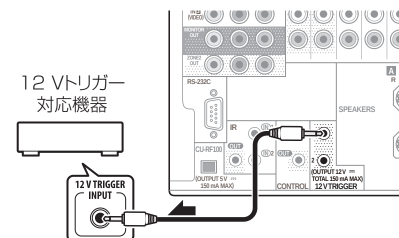
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずオーディオコード、映像ケーブルまたはHDMIケーブルも接続してください。デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

メモ

- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード（抵抗なし）をお使いください。
- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンを本機に向けて直接操作することはできません（リモコン信号受光部が機能しなくなります）。

12 Vトリガー対応機器の接続

12 Vトリガー対応機器を本機に接続することで、システム動作を行います。本機の入力ファンクションを選ぶだけで、12 V TRIGGER端子に接続された機器へ制御信号が送られます。連動設定については 81ページ の「12 Vトリガー端子の連動設定」をご覧ください。
入力ファンクションの選択に連動させずに、HDMI OUTの切り換えに連動させることもできます。詳しくは 54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」をご覧ください。



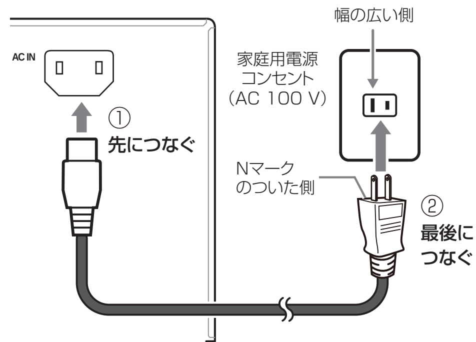
メモ

- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード（抵抗なし）をお使いください。
- 12 V TRIGGER端子からは最大でDC 12 V/150 mA (2端子トータル)が出力されます。

電源コードの接続

すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続します。
本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせせることをお勧めします。下図のように電源プラグのNマークのある側をコンセントの幅の広い方（アース側）に合わせて差し込んでください。

- 電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源がスタンバイになります。この際、2秒から10秒間、HDMIに関する初期化動作を行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。HDMI設定のコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。（54ページ）
- 機器の接続を行う場合には、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
  また、接続する機器の電源コードもコンセントから抜いた状態で接続してください。

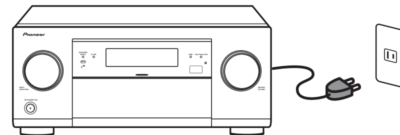


注意

- 本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード（電流容量10 A、機器側2Pプラグインソケット方式）以外の電源コードはご使用にならないでください。
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。長期間、電源コードを抜いた状態でも、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。
- 電源コードを抜くときは必ず本体をスタンバイ状態にしてください。

電源について

本機の電源は、リモコンの⏻**AVアンプ**ボタン（またはフロントパネルの⏻**STANDBY/ON**ボタン）を押すたびに、**オン**と**スタンバイ**が切り換わります。
電源を入れることを「オンにする」、電源を切ることを「スタンバイにする」といいます。
接続を行うときは予期せぬ故障を防ぐため、電源をスタンバイにしたあと、電源コードをコンセントから抜いてください。



基本設定

本機のリモコン操作について



重要

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は AVアンプ ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～

本機のフルオートMCACCでは、従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。フルオートMCACCでの測定項目と全体の流れは以下のとおりです。

以下の測定/解析にかかる時間



合計3分～12分程度

- スピーカーシステムの設定
- 測定、設定値の保存先選択

⬇

初期測定（測定環境のチェック）
- 暗騒音（部屋の騒音）の測定
- マイク感度の診断
- 各chのスピーカー有り無し、および極性の判定

⬇

- お客様によるスピーカーの有り無し判定結果の確認（または修正）

⬇

システム全体の解析/測定
- スピーカーシステム（各chの低域再生能力を判定）
- スピーカーの出力レベル（各chの出力バランスを補正）
- スピーカーまでの距離（最適なディレイ値を解析）
- 定在波制御（定在波の影響を軽減）
- 残響特性の測定
- 視聴環境の周波数特性（出力音声の音色を統一）

⬇

スピーカー位相乱れの解析/測定
- スピーカーの群遅延特性（高域に対する低域の遅れを補正）



注意

- 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

THX®
- THXはTHX社の商標です。許可のもとに使用されています。不許複製。その他すべての商標は、それぞれの所有者の所有物です。



重要

- 測定は静かな環境で行ってください。
- セットアップ用マイクは、三脚などを使用してリスニングポジションの耳の高さに設置してください（三脚がない場合は、なるべく三脚に代わるものを用意してください）。
  以下の場所にマイクを設置すると、正しく測定できない場合があります。
  —ソファーや柔らかいものの上。
  —テーブルやソファーの上などの高い場所。
- スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できない場合があります。
- 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 自動設定中に静止画面を5分間放置すると画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことでふたたび同じ画面を表示します。
- 測定を途中で中断したときは、それまでの測定内容は確定されません。

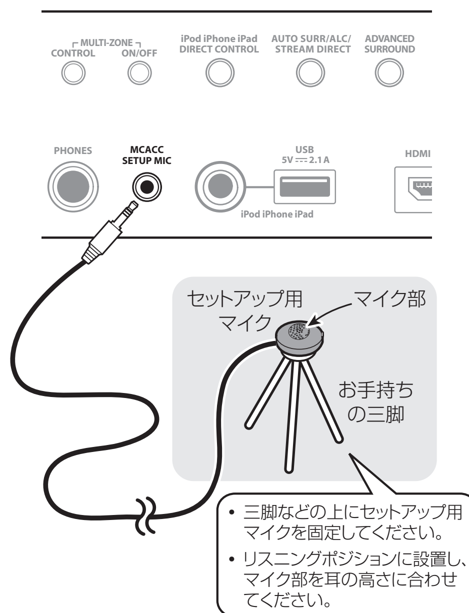
1 ⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。

テレビに本機のGUIメニュー画面が表示されるようテレビ側の入力切換を合わせてください。

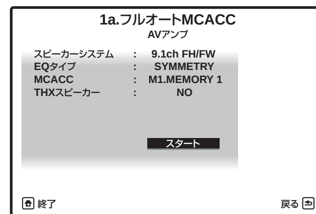
2 付属のセットアップ用マイクを接続する。

フロントパネルのドアの横に指を掛け、手前に引っ張ってドアを開け、**MCACC SETUP MIC**端子にセットアップ用マイクを差し込みます。
リスニングポジションにマイクを配置します。

- 付属のセットアップ用マイクを、TVモニターの近くに置いてオートセットアップを行わないでください。また、テーブルやソファーなどの上にマイクを置くと、正確に測定できない場合があります。



マイクを差し込むとフルオートMCACC画面が表示されます。



3 リモコンをAVアンプ操作モードにしてから、⬆ボタンで[スピーカーシステム]を選択して、決定ボタンを押す。次に、⬅/➡ボタンでスピーカーシステムを選ぶ。

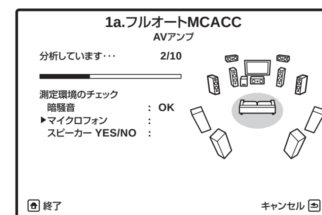
スピーカーシステムの項目は、スピーカー配置/使用パターンによってそれぞれの設定を選択します。
詳しくは、14ページ の「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」をご覧ください。
EQタイプ、MCACC、THXスピーカーの各項目も設定できます。詳しくは、72ページ の「オートMCACCで詳細に測定／設定する」をご覧ください。

4 ⬇ボタンで[スタート]を選択して決定する。

オートセットアップの自動測定に進みます。
- セットアップ用マイクの接続を確認のうえ、サブウーファーを接続しているときは、測定のためサブウーファーの電源を入れてボリュームレベルを適度に上げておいてください。
- オートセットアップのテストトーンは大音量です。小さなお子様が近くにいる場合などはご注意ください。ボリュームを下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。

5 自動測定が開始されます。

最初に初期測定（測定環境チェック）が行われます。



- **暗騒音**：暗騒音（部屋の騒音）の測定
- **マイクロフォン**：マイクの感度を診断
- **スピーカー YES/NO**：各スピーカーの有り無し、および極性の判定

「暗騒音」および「マイクロフォン」のチェックでエラーが表示されたときは、測定環境およびマイクの接続をもう一度確認し、[**リトライ**]を選んでもう一度測定することをお勧めします。➡で[**次へ進む**]を選択し、次の測定へ進むこともできます。

6 スピーカー有り無しの確認画面になります。

スピーカーの判定結果にエラーや逆相がなく、確認画面で何も操作がないときは10秒後に自動で手順7へ進み、オートセットアップが再開されます。
スピーカー有り無し判定については、以下の表をご覧ください。

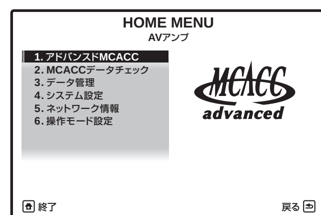
スピーカー ＼ 有無	接続している	接続していない	逆相になっている	規定外の接続
L/R フロント左右	YES	エラー	逆相	– – –
C センター	YES	NO	逆相	– – –
FHL/FHR フロントハイト左右	YES	NO	逆相	– – –
FWL/FWR フロントワイド左右	YES	NO	逆相	– – –
SL/SR サラウンド左右	YES	NO	逆相	エラー
SBL/SBR サラウンドバック	YES	NO または – – –	逆相	エラー
SW サブウーファー	YES	NO	– – –	– – –

スピーカー有り無し判定結果が正しいとき
[**OK**]を選んで**決定**ボタンを押します。
もう一度自動測定をやり直すとき
[**リトライ**]を選んで**決定**ボタンを押します。
スピーカー有り無し判定結果が間違っているとき
[**リトライ**]を選んでもう一度自動測定をやり直してみてください。それでも間違ってしまうときは、⬆/⬇/⬅/➡ボタンで正しい設定に直したあと**決定**ボタンを押します。
接続が間違っているとき
電源を切って電源コードをコンセントから抜き、スピーカーを正しく接続し直してください。接続が終わったら、もう一度フルオートMCACCを行ってください。
接続が正しいとき
さまざまな要因により**逆相**と表示される可能性があります（94ページ）。その場合は、[**次へ進む**]を選んで**決定**ボタンを押してください。
エラーが表示されたとき
判定結果でエラーが表示された場合は、スピーカーの接続を間違えている可能性があります。(**逆相**が表示された場合は、スピーカー接続の極性（+/－）が間違っている可能性があります。)[**リトライ**]しても結果が同じような場合は一度電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。また、途中で測定エラーによる警告が表示されている場合がありますので、そのときは画面の指示に従ってください。指示の詳しい内容については 94ページ の「MCACC（音場補正）時に表示されるメッセージについて」をご覧ください。

7　補正用測定が開始されます。

スピーカーシステム：各スピーカーの低域再生能力判定
スピーカー出力レベル：各chの出力バランスを補正
スピーカーまでの距離：スピーカーまでの距離を測定
定在波制御：定在波の影響を軽減
残響特性の測定：残響特性の測定
Aco Cal EQ Pro：出力音声の音色を統一
群遅延特性：スピーカーの群遅延特性の測定
これらの自動設定には接続しているスピーカーの数によって3分～ 12分程度かかりますので、しばらくお待ちください。

8　HOME MENU画面が表示されたら自動測定は終了です。



必ずセットアップ用マイクを本機から抜いてください。

入力端子の割り当てを変更する

機器の接続をする場合は、23ページ の「他機器の接続を行う前に」の表をご覧になり、入力ファンクションが割り当てられた端子に接続することをお勧めします。そのほか、以下の接続を行ったときも必ず設定を行ってください。

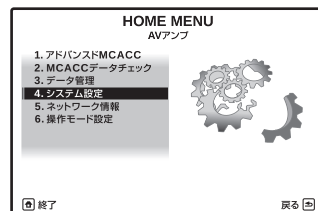
- **リアパネルのデジタル音声入力端子に記載された工場出荷時の設定と異なる接続をしたとき。**
  →デジタル音声入力の設定（**Digital In**）
- **リアパネルのHDMI入力端子に記載された工場出荷時の設定と異なる接続をしたとき。**
  →HDMI入力の設定（**HDMI Input**）
  HDMI入力の設定をする場合は、**HDMI設定**の**コントロール設定**（54ページ）を**OFF**にしてください。
- **コンポーネントビデオ映像入力端子に映像機器を接続したとき。**
  →コンポーネントの設定（**Component In**）

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

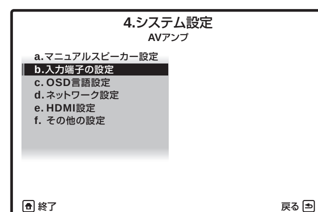
2　ホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

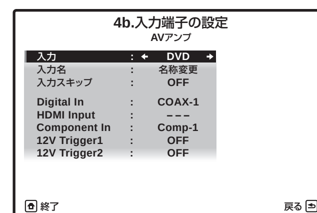
3　[システム設定]を選んで決定する。



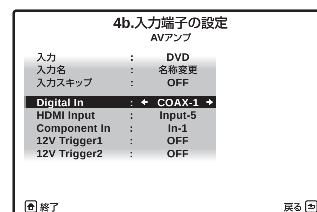
4　[入力端子の設定]を選んで決定する。



5　変更したい入力ファンクションを選ぶ。



6　変更したい設定を選んで、割り当てたい入力端子を設定する。



たとえば、光デジタル入力端子（OPTICAL IN 2）を使ってDVDプレーヤーを接続したいときは、入力で**DVD**を選び、**Digital In**の設定を**OPT-2**に変更します。また、COMPONENT IN 1に入力した映像信号を再生したいときは、**Component In**の設定を**In-1**に設定します。

7　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

入力端子の設定を終了します。
ホームメニューを終了するときは、**ホームメニュー**ボタンを押します。

 **メモ**

- コンポーネント端子の使用については、24ページ の「映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）」をご覧ください。
- 同じ入力ファンクションで複数の機器を選択することはできません。
- 「－－－」と表示されているときは割り当てられる入力端子がないことを表しています。

本機の操作モードを切り換える

本機にはさまざまな機能や設定が豊富に備わっていますが、すべての機能や設定を使いこなすのは難しいというお客様のために、操作モードの切り換え設定を用意しています。
操作モードは**エキスパート**と**基本**の2つの設定から選択できます。

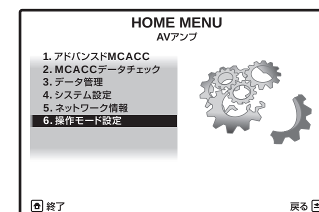
- 工場出荷時の設定：**エキスパート**

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　ホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

3　[操作モード設定]を選んで決定する。



4　設定したい操作モードを選ぶ。

- **エキスパート**：すべての機能をお客様ご自身で設定できます。
- **基本**：操作できる機能を制限し、操作制限した機能についてはパイオニアが推奨する音質・画質になるよう自動で設定されます。操作できる機能は以下のとおりです。取扱説明書をご覧になり、必要に応じて設定できます。

操作できる機能	内容	参照
ホームメニュー		
フルオートMCACC	高精度な音場設定を簡単に行います。	34
入力名	お好みの入力名に変更して使いやすくできます。	81
入力スキップ	使用しない入力をスキップします（表示しません）。	81
ソフトウエアの更新	最新のソフトウエアへ更新します。	85
ネットワーク情報	本機のIPアドレスやMACアドレスといったネットワークの情報が確認できます。	83

操作できる機能	内容	参照
Bluetooth機器のペアリング	AS-BT100またはAS-BT200を使って*Bluetooth* 機器とペアリングします。	40
オーディオ調整		
MCACC (MCACCメモリー)	お好みのMCACCメモリーを選択できます。	50
DELAY (サウンドディレイの調整)	音声全体の遅延時間を調整します。	50
S.RTRV (オートサウンドレトリバー機能)	圧縮音声を高音質化して再生します。	50
DUAL (デュアルモノラル音声の設定)	デュアルモノラル音声入力時の再生設定を行います。	50
V.SB (バーチャルサラウンドバックの設定)	仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出して再生します。	50
V.HEIGHT (バーチャルハイトの設定)	仮想のハイトチャンネル音声を創り出して再生します。	50
V.DEPTH (バーチャルデプスの設定)	3D映像に適した音場で再生します。	50
その他の入力		
入力切換 (**INPUT SELECTOR**)	入力を切り換えます。	37
音量 +/–、**消音**	音量を調節します。	37
リスニングモード	パイオニアお勧めのモードのみ選択可能となります。	42
PQLS	PQLS機能を使って再生します。	55
PHASE CTRL (フェイズコントロール)	アンプ内部で発生する低域の位相ずれを補正して再生します。	44
PHASE CTRL (フルバンドフェイズコントロール)	スピーカーの周波数位相特性を測定し、補正する機能です。	45
iPod iPhone iPad DIRECT CONTROL	入力を**iPod/USB**に切り換え、iPod側で操作できるモードになります。	38

5　設定が終了したら、戻るボタンを押す。
HOME MENU画面に戻ります。

基本再生

本機のリモコン操作について



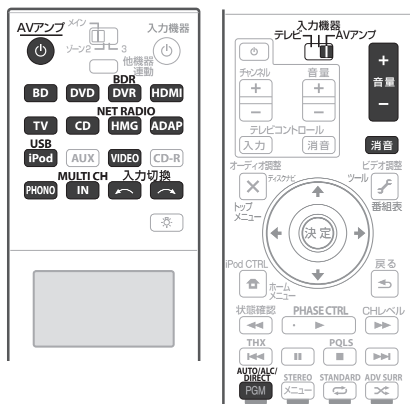
重要

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は**AVアンプ**ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

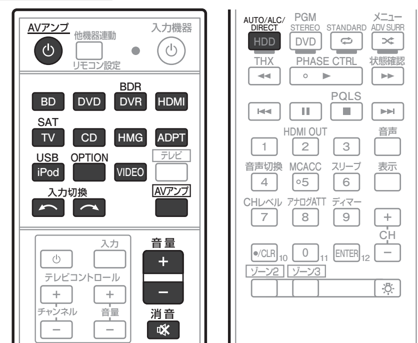
アンプから音を出す ～基本再生～

接続した機器を再生するときの手順です。本機では、37ページ の「音声入力信号の切り換え」で入力信号を選んで、42ページ の「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」でリスニングモードを選ぶことが主な操作です。

SC-LX85



SC-LX75



1　**再生する機器の電源を入れる。**

2　**⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れる。**

（本体の場合は、⏻ STANDBY/ONを押します。）

3　**リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

4　**入力切換 ←/→ボタンで再生する機器を選ぶ。**

ボタンを押すたびに入力機器が切り換わります（本体の場合は**INPUT SELECTOR**で選択します）。

マルチコントロールボタンで直接選択することもできます。

- また、必要に応じて**音声切換**ボタンで音声入力信号の種類を選びます。（37ページ参照）

5　**AUTO/ALC/DIRECTボタンを押してAUTO SURROUNDモードを選択する。**

他にもいろいろなリスニングモードをお好みで選べます。詳細は 42ページ の「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」をご覧ください。

6　**再生機器の再生を開始する。**

7　**音量+/–ボタンで音量を調節する。**

「**---**」（無音）から**+12dB**（最大値）の範囲で調節できます（本体の場合は**MASTER VOLUME**ダイヤルで調節します）。

一時的に音を消したいときは、**消音**ボタンを押します。もう一度押すか、音量を調節することで解除します。

- MCACCなどにより正確にチャンネルレベルを補正した場合、0 dBが映画館での再生音量とほぼ同等になります。（0 dBは大音量です。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。）
- 大音量が出力されないように、最大音量を制限することができます。84ページ の「音量の設定を行う」をご覧ください。

音声入力信号の切り換え

本機では各入力についてアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。

1　**リモコンをAVアンプ操作モードにする。**

2　**音声切換ボタンを押して再生したい入力信号を選択する。**

ボタンを押すたびに、以下の項目が切り換わります。

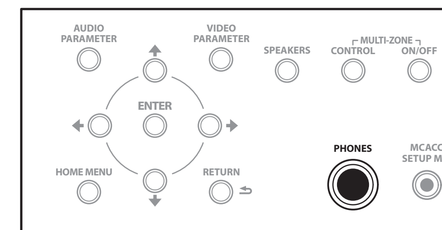
- **AUTO**：HDMI→DIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。
- **ANALOG**：アナログ入力信号を選択します。
- **DIGITAL**：デジタル入力信号を選択します。
- **HDMI**：HDMI入力信号を選択します。
「HDMI音声出力の設定」（50ページ）で**THROUGH**を設定していると、音声は本機からではなくテレビから出力されます。



メモ

- **音声切換**ボタンで**ANALOG**を選択した状態でDTS対応のCD、DVD、BDやLDを再生すると、DTSの原信号がそのまま再生されるため、ノイズが発生します。この場合、入力信号は必ず**DIGITAL**を選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります（DTS信号を出力しないなど）。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- デジタル入力端子、およびHDMIが割り当てられていない機器の音声入力は、**ANALOG**に固定されています。
- 非対応のデジタル信号は再生できません。その場合はアナログ接続を行い、**ANALOG**を選択してください。プレーヤーなどの再生機器の出力設定もご確認ください。
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力されません。これらを再生するには必ず**ANALOG**を選択してください。

ヘッドホンで聴く



●　**ヘッドホンをPHONES端子に差し込む。**

差し込むとスピーカーからは音が出なくなります。

- リスニングモードは**STEREO**, **ALC**, **OPTIMUM SURR**, **PURE DIRECT**または**PHONES SURR**が選択できます。入力が**ADAPTER PORT**のときは**SOUND RETRIEVER AIR**を選択できます。
- 入力信号がマルチチャンネルの場合は、2chにダウンミックスされます。
- ヘッドホンを差し込んでいるときは、ホームメニュー画面で各種設定を行うことはできません。

iPodをつないで再生する

iPodを本機に接続して、iPodの音楽や映像を本機で楽しむことができます。

iPodの接続については、31ページ の「iPodを接続する」をご覧ください。

1　**⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。**

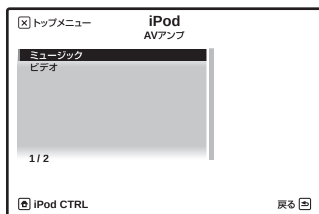
2　**（SC-LX85のみ）リモコンを入力機器操作モードにする。**



3　**iPod USBボタンを押して、iPod/USB入力にする。**

GUI画面に「**Loading**」と表示され、iPodが正しく接続されているかどうかの確認が行われます。

接続が完了すると、テレビ画面にiPodのトップメニューが表示されます。



- iPod USBボタンを押したあとに「No Device」と表示された場合は、電源を切ってから本機とiPodの接続をやり直してみてください。
- 音楽の再生については 38ページ の「iPodの音楽を再生する」を、映像の再生については 38ページ の「iPodの映像を再生する」をご覧ください。

メモ

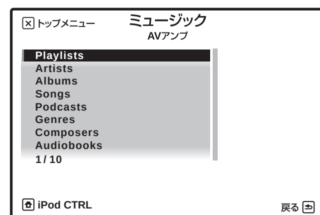
- 本機は、iPod touch、iPod classic、iPod nano、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone、iPad の音声および映像の再生に対応しています。第5世代のiPodおよび第1、第2、第6世代のiPod nanoは音声の再生のみ対応しています。ただし、モデルによっては一部機能が制限されます。
- iPod shuffleには対応しておりません。
- 本製品は、パイオニアホームページに記載されているiPod/iPhone/iPadのソフトウェアバージョンに基づいて開発、テストされたものです。
- パイオニアホームページに記載されているバージョン以外のソフトウェアをお客様のiPod/iPhone/iPadにインストールした場合、本製品との互換が無くなる場合があります。
- iPodやiPhone、iPadは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- 本機とiPodやiPhone、iPadを組み合わせてご使用の際、iPodやiPhone、iPadのデータに不具合が生じても、当社は一切の責任を負うことができませんのであらかじめご了承ください。
- 本機のGUI画面で表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は「#」で表示されます。また、サブゾーンの画面で表示できる文字は英数字のみです。
- パイオニア製品からiPodのイコライザーを操作することはできません。本機にiPodを接続する前に、iPodのイコライザーを「オフ」に設定することをお勧めします。
- iPodの操作については、iPodに付属の取扱説明書をご覧ください。

iPodの音楽を再生する

本機のGUI画面を見ながら、iPodの曲を選んで再生できます。本機のフロントパネルを見ながらでも再生操作できます。

1　⬆/⬇ボタンで、iPodのトップメニューから[ミュージック]を選んで決定ボタンを押す。

2　⬆/⬇ボタンで再生したいカテゴリーを選んで決定ボタンを押す。



3　⬆/⬇/⬅/➡ボタンで再生したいリスト（ジャンル、アルバムなど）を選んで決定ボタンを押す。

4　手順3を繰り返して、聞きたい曲を再生する。

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは 38ページ の「基本操作について」をご覧ください。

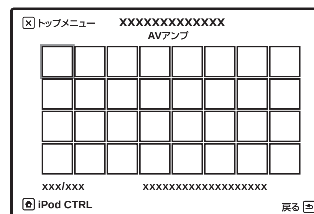
基本操作について

マルチコントロールボタンのiPod USBボタンを押すとリモコンがiPod USB操作モードになり、リモコンで以下の操作ができます。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
⏸	一時停止/一時停止解除します。
◀◀/▶▶	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
⏮	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
⏭	次のトラックの先頭に進みます。
(リピート)	リピート再生を設定します。押すたびに1曲リピート、リピートオール、リピートオフに切り換わります。
(シャッフル)	シャッフル再生を設定します。押すたびにシャッフル曲、シャッフルアルバム、シャッフルオフに切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬅/➡	フォルダー /ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
⬆/⬇	Audiobookを再生中に再生の速さを変更します。 やや速く↔ノーマル↔やや遅く
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

Cover Listで曲を選択する

カテゴリー選択画面でCover Listを選ぶと、Albumのリストが表示され、その中から曲を選ぶことができます。



- Cover Listの画面はサブゾーンでは再生表示されません。

iPodの映像を再生する

本機のGUI画面を見ながら、iPodの映像を選んで再生できます。本機のフロントパネルを見ながらでも再生操作できます。

1　⬆/⬇ボタンで、iPodのトップメニューから[ビデオ]を選んで決定ボタンを押す。

2　⬆/⬇/⬅/➡ボタンで再生したいリストを選んで決定ボタンを押す。

3　手順2を繰り返して、見たい映像を再生する。

テレビ画面に映像が表示されます。映像の再生が終了するか、戻るボタンを押すと、元の画面に戻ります。
再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは 38ページ の「基本操作について」をご覧ください。

- 本機能は第5世代のiPodおよび第1、第2、第6世代のiPod nanoには対応しておりません。

iPodの操作を切り換える

iPodの操作を、本機とiPod本体とで切り換えることができます。

- 本機能は第5世代のiPodおよび第1世代のiPod nanoには対応しておりません。
- iPodの操作をiPod側に切り換えて、iPodで映像を再生すると、本機を通して映像を見ることができます。

1　iPod CTRLボタンを押して、操作をiPod側に切り換える。

iPod本体で操作できるようになり、本体画面が表示されます。本機での操作はできなくなり、GUI画面は表示されません。

2　もう一度iPod CTRLボタンを押して、操作を本機側に切り換える。

メモ

- フロントパネルの iPod iPhone iPad DIRECT CONTROLボタンを押すと、本機の入力がiPod/USBに切り換わり、iPodの操作がiPod本体で行えるようになります。

USBメモリーを再生する

お手持ちのUSBメモリーを本機に接続することで、USBメモリーに記録されている音楽ファイルや写真ファイルを本機で再生することができます。音楽ファイルはステレオまたはモノラル音声で再生します。
USBメモリーの再生可能なファイルフォーマットは 40ページ の「対応ファイルフォーマットについて」をご覧ください。
USBメモリーの接続については、31ページ の「USBメモリーやキーボードを接続する」をご覧ください。

重要

USBメモリーの消費電力が大きすぎると「Over Current」と表示されます。この場合、下記の操作を行ってみてください。

- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源を切ってからUSBメモリーを抜き、再度USBメモリーを接続して電源を入れてみてください。
- ACアダプターが付属しているUSBメモリーをお使いの場合は、ACアダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行っても「Over Current」が表示されるときは、USB メモリーが本機に対応していません。

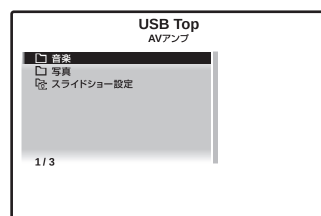
1　⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。

2 （SC-LX85のみ）リモコンを入力機器操作モードにする。



3 iPod USBボタンを押して、iPod/USB入力にする。

GUI画面に「Loading」と表示され、USBメモリーが正しく接続されているかどうかの確認が行われます。接続が完了すると、テレビ画面にUSBトップメニューが表示されます。



音楽の再生については、39ページ の「音楽ファイルを再生する」を、写真の再生については 39ページ の「写真ファイルを再生する」をご覧ください。



メモ

- 本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機またはプレーヤー（FAT12、FAT16、FAT32のフォーマットに対応）などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべてのUSBメモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。
- 容量の大きいUSBメモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- 本機はUSBハブには対応していません。
- 本機で再生できないファイルが選択された場合は、自動的に次の再生可能なファイルが再生されます。
- 曲のタイトルがファイルに記録されていない場合は、ファイル名がGUI画面に表示されます。アルバム名やアーティスト名が記録されていない場合は、それらは表示されません。
- 本機のGUI画面で表示できない文字がUSBメモリーに記録されている場合、その文字は「#」で表示されます。また、サブゾーンの画面で表示できる文字は英数字のみです。
- GUI画面を表示するには、本機の映像出力端子とテレビの入力端子をHDMIケーブルまたはビデオコードで接続してください。
- USBメモリーに収録された最後の曲まで再生すると、再生が終了します。
- 著作権保護のかかった音楽ファイルは再生できません。

音楽ファイルを再生する

USBメモリーに収録されている音楽ファイルを再生します。8階層のフォルダーまで、30 000フォルダー / ファイルまで表示・再生できます。

1 ⬆/⬇ボタンでUSBトップメニューから[音楽]を選んで決定ボタンを押す。

2 ⬆/⬇ボタンで再生したいフォルダーを選んで決定ボタンを押す。



3 手順２を繰り返して、聞きたい曲を再生する。

基本操作について

マルチコントロールボタンのiPod USBボタンを押すとリモコンがiPod USB操作モードになり、リモコンで以下の操作ができます。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
II	一時停止/一時停止解除します。
◀◀/▶▶	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
I◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
▶▶I	次のトラックの先頭に進みます。
	リピート再生を設定します。押すたびに1曲リピート、リピートフォルダー、リピートオール、リピートオフに切り換わります。
	ランダム再生を設定します。押すたびにランダムオン、ランダムオフに切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。

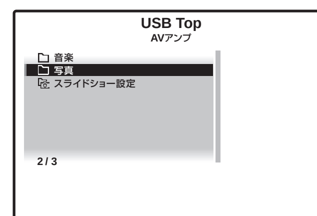
ボタン	機能
⬅/➡	フォルダー /ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

写真ファイルを再生する

USBメモリーに収録されている写真ファイルを再生します。8階層のフォルダーまで、30 000フォルダー / ファイルまで表示・再生できます。

- 写真ファイルはサブゾーンでは再生できません。
- スライドショーを一時停止したまま5分経過すると、リスト画面に戻ります。

1 ⬆/⬇ボタンでUSBトップメニューから[写真]を選んで決定ボタンを押す。



2 ⬆/⬇ボタンで再生したいフォルダーを選んで決定ボタンを押す。

3 手順２を繰り返して、見たい写真を再生する。

選んだ写真が再生され、全画面表示でスライドショー再生が始まります。

基本操作について

写真ファイル再生中はリモコンで以下の操作ができます。

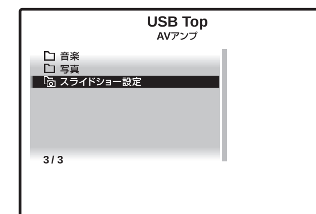
ボタン	機能
決定、▶	写真の表示とスライドショー再生を始めます。
戻る、⬅	再生を停止し、リスト画面に戻ります。
I◀◀ <a>	前の写真に戻ります。
▶▶I <a>	次の写真に進みます。
II <a>	スライドショーを一時停止/一時停止解除します。
表示 <a>	写真情報を表示します。

a **スライドショー設定**の**テーマ**がNormal (OFF)に設定されているときのみ使用できます。

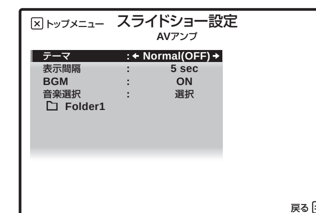
スライドショーの設定を行う

写真ファイルのスライドショー再生について各種設定を行います。

1 ⬆/⬇ボタンでUSBトップメニューから[スライドショー設定]を選んで決定ボタンを押す。



2 ⬆/⬇ボタンで設定したい項目を選んで、⬅/➡で設定を変更する。



- **テーマ**：スライドショーに効果を加えます。
- **表示間隔**：スライドショーの表示間隔を設定します。テーマの設定によっては、この項目は設定できないことがあります。
- **BGM**：USBメモリーに収録された曲を再生しながら、写真を表示します。
- **音楽選択**：BGMをONにしたときに、再生する曲を選択します。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

USBトップメニューに戻ります。

対応ファイルフォーマットについて

USB入力で対応しているファイルフォーマットは以下のとおりです（一部のファイルフォーマットで再生できないことがあります）。

音声ファイル

種別	拡張子	ストリーム		
MP3 <a>	.mp3	MPEG-1/2/2.5 オーディオ レイヤー 3	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	8 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
WAV	.wav	LPCM	サンプリング周波数	32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
			量子化ビット数	8 bit、16 bit
			チャンネル数	2 ch、モノラル
WMA	.wma	WMA8/9 <b>	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	8 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応

a MPEG Layer-3音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimediaからライセンスされています。
b 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。

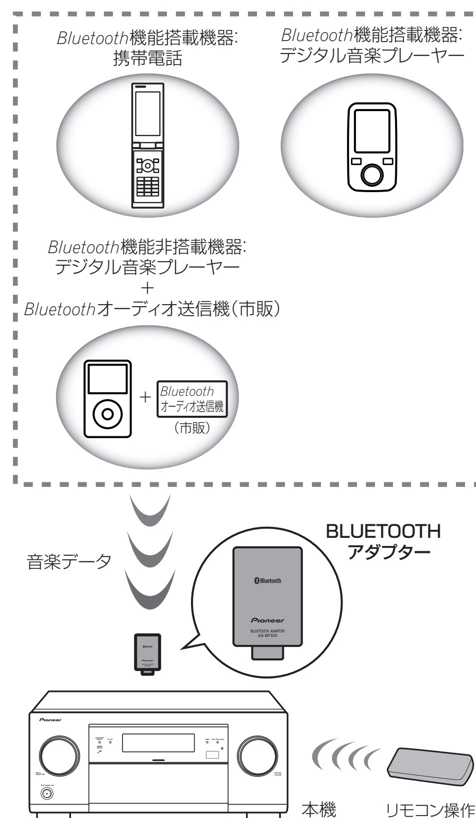
写真ファイル

種別	拡張子		
JPEG	.jpg .jpeg .jpe .jif .jfif	形式	以下の条件に適合していること： • ベースラインJPEGフォーマット（Exif/DCFフォーマットで記録されたファイルを含む） • Y:Cb:Cr が 4:4:4、4:2:2 または 4:2:0 であること
		解像度	縦：30 ～ 8184ピクセル、横：40 ～ 8184ピクセル

BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ

別売りのBLUETOOTHアダプター（AS-BT100またはAS-BT200）を本機に接続することで、*Bluetooth* 機能搭載機器（携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど）の音楽をワイヤレスで楽しむことができます（AS-BT100をご使用の場合は、一部の機能を使用できないことがあります）。市販の*Bluetooth* オーディオ送信機を使って、*Bluetooth* 機能非搭載機器の音楽を楽しむこともできます。詳しくは、BLUETOOTHアダプターや*Bluetooth* 機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。BLUETOOTHアダプターの接続については、31ページ の「BLUETOOTHアダプターを接続する」をご覧ください。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。



BLUETOOTHアダプターをペアリングする(初期登録)

BLUETOOTHアダプターを使用して*Bluetooth* 機能搭載機器の音楽を楽しむために、ペアリングを行う必要があります。最初にBLUETOOTHアダプターを使用するとき、または*Bluetooth* 機能搭載機器側のペアリングデータを消去したときは、ペアリングを行ってください。

ペアリングは*Bluetooth* 無線技術を利用した通信が可能になるようにするために必要なステップです。

- ペアリングは、BLUETOOTHアダプターおよび*Bluetooth*機能搭載機器を使用する際に、はじめに1回だけ行います。
- ペアリングは本機と*Bluetooth* 機能搭載機器の両方で行う必要があります。
- *Bluetooth* 機能搭載機器の暗証番号が「0000」であれば、本機で暗証番号の設定を行う必要はありません。**ADAP**（SC-LX85）/**ADPT**（SC-LX75）ボタンを押して**ADAPTER PORT**入力にしてから、*Bluetooth* 機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。ペアリングが成功した場合は以下のペアリング操作を行う必要はありません。
- AS-BT200使用時のみ：*Bluetooth* 機能搭載機器がSSP（Secure Simple Pairing）に対応しているときは暗証番号の設定は必要ありません。**ADAP**（SC-LX85）/**ADPT**（SC-LX75）を押して**ADAPTER PORT**入力にしてから、*Bluetooth* 機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。ペアリングが成功した場合は以下のペアリング操作を行う必要はありません。
  この際、6桁の数字とYES/NOが本機のディスプレイに表示されることがあります。その場合は、接続する*Bluetooth* 機器にも同じ数字が表示されていることを確認してから⬅/➡で**YES**を選択し**ENTER**を押し、接続する*Bluetooth* 機器でも接続の操作を行ってください。接続する*Bluetooth* 機器に表示されている数字と合っていない場合は、**NO**を選択してペアリングを一度キャンセルしてからもう一度やり直してみてください。
- 本機と*Bluetooth* 機能搭載機器を*Bluetooth* 接続して音楽を楽しむ際は、*Bluetooth* 機能搭載機器に本機以外の機器を*Bluetooth* 接続しないでください。また、すでに本機以外の機器と*Bluetooth* 接続されている場合は、本機と接続する前に本機以外の機器との接続を解除してください。
- ペアリングは1台ずつ行ってください。

詳しくは、*Bluetooth* 機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

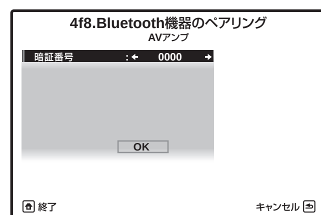
2　[システム設定]を選んで決定する。

3　[その他の設定]を選んで決定する。

4　[Bluetooth機器のペアリング]を選んで決定する。

Bluetooth 機器のペアリング設定になります。

5　設定したい暗証番号を選択する。



本機の**暗証番号**を*Bluetooth* 機能搭載機器と同じ暗証番号コードに設定します。

- **0000/1234/8888**：ここで選んだ暗証番号に設定されます。多くの場合、これらの暗証番号が使われます。
- **その他**：上記以外の暗証番号を選びます。

6　手順5で[その他]を選んだ場合、設定したい暗証番号を入力する。

⬅/➡ボタンでカーソルを動かして、⬆/⬇ボタンで入力する数字を選びます。

7　GUI画面の指示に従って、ペアリングの設定を行う。

Bluetooth 機能搭載機器の電源をオンにして、本機の近くに置いてください。

8　*Bluetooth* 機能搭載機器がペアリングされたことを確認する。

Bluetooth 機能搭載機器が正しくペアリングされた場合、本機のフロントパネル表示部にCONNECTEDと表示されます。

Bluetooth 機能搭載機器がペアリングされなかった場合、手順5から設定をやり直してください。このときは、*Bluetooth* 機能搭載機器側で接続操作を行ってください。

9　*Bluetooth*機能搭載機器のリストからBLUETOOTHアダプターを選んで、手順5で選択した暗証番号を入力する。

- 暗証番号はＰＩＮコードやパスコード、パスキーと呼ばれることがあります。
- *Bluetooth* 機能搭載機器のペアリング可能な状態や接続操作などについては、*Bluetooth* 機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

Bluetooth 機能搭載機器の音楽を本機で聴く

1　（SC-LX85のみ）リモコンを入力機器操作モードにする。



2　ADAP（SC-LX85）/ADPT（SC-LX75）ボタンを押してADAPTER PORT入力にする。

- BLUETOOTHアダプターがADAPTER PORTに接続されていない状態でADAPTER PORT入力を選択すると、NO ADAPTERと表示されます。

3　*Bluetooth* 機能搭載機器とBLUETOOTHアダプターを*Bluetooth* 接続する。

Bluetooth 機能搭載機器側からBLUETOOTHアダプターに対して接続操作を行います。

- 接続操作については、お使いの*Bluetooth* 機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

4　*Bluetooth* 機能搭載機器の音楽を再生する。

リスニングモードをSOUND RETRIEVER AIRにすることで高音質に再生できます（43ページ）。

基本操作について

本機のリモコンで、以下の*Bluetooth* 機能搭載機器の操作ができます。

- 本機のリモコンで操作するには、*Bluetooth* 機能搭載機器がプロファイル：AVRCPに対応している必要があります。
- *Bluetooth* 機能搭載機器によっては異なる動作をする場合があります。
- すべての*Bluetooth* 機能搭載機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。

ボタン	機能
►	再生を開始します。
❚❚	一時停止/一時停止解除します。
◄◄/►►	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
❙◄◄	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
►►❙	次のトラックの先頭に進みます。
■	再生を停止します。

サラウンド再生

本機のリモコン操作について



重要
- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は AVアンプ ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

リスニングモードでいろいろな音を楽しむ

再生機器からの信号にいろいろな音場効果を加えることができます。

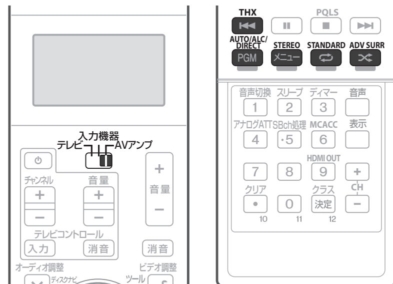


重要
- 入力信号の種類や本機の設定によって、選択できるモードは変わります。

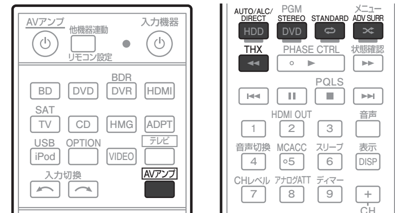
1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　リスニングモードボタンを押して、お好みのリスニングモードを選ぶ。

SC-LX85



SC-LX75



リスニングモードは以下のタイプが選べます。ボタンを押すたびに、それぞれのリスニングモードでさまざまな種類を切り換えることができます。
- **STANDARD SURROUND**：42ページ の「スタンダードサラウンドで再生する」をご覧ください。
- **ADVANCED SURROUND**：42ページ の「アドバンスドサラウンドで再生する」をご覧ください。
- **HOME THX**：42ページ の「HOME THXサラウンドで再生する」をご覧ください。
- **AUTO SURR/ALC/STREAM DIRECT**：43ページ の「オートサラウンドで再生する」をご覧ください。
- **STEREO**：ステレオで再生します。音声はフロントスピーカーとサブウーファーからのみ出力されます。

スタンダードサラウンドで再生する

いつでもサラウンド再生で楽しみたい方に適したモードです。
サラウンド再生のためのデコードを行います。2chソースはマトリックス・サラウンド・デコードをします。
- サラウンドバックスピーカーが1本の接続（設定）の場合、5.1ch信号入力時でも ⅅPro Logic IIx は選択できず、ⅅPro Logic II となります。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　再生中に、STANDARDボタンを押す。

本体の場合は**STANDARD SURROUND**ボタンを押します。
ボタンを押すたびに以下のモードが切り換わります。

■2ch信号入力時
- ⅅ Pro Logic IIx MOVIE （映画）
- ⅅ Pro Logic IIx MUSIC （音楽）
- ⅅ Pro Logic IIx GAME （ゲーム）
- ⅅ PRO LOGIC （古い映画）
- ⅅ Pro Logic IIz HEIGHT （映画/音楽）
- WIDE SURROUND MOVIE （映画）
- WIDE SURROUND MUSIC (音楽)
- Neo:X CINEMA （映画）
- Neo:X MUSIC （音楽）
- Neo:X GAME （ゲーム）
- Neural Surround （音楽）
- STEREO （音楽）

■マルチチャンネル信号入力時
- ⅅ Pro Logic IIx MOVIE （映画）
- ⅅ Pro Logic IIx MUSIC （音楽）
- Dolby Digital EX （映画/音楽）
- ⅅ Pro Logic IIz HEIGHT （映画/音楽）
- WIDE SURROUND MOVIE （映画）
- WIDE SURROUND MUSIC （音楽）
- Neo:X CINEMA （映画）
- Neo:X MUSIC （音楽）
- Neo:X GAME （ゲーム）
- DTS-ES MatrixまたはDTS-ES Discrete （映画/音楽）
- STEREO （音楽）
- ストレートデコード再生 （映画/音楽）

アドバンスドサラウンドで再生する

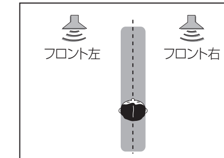
ソースに応じた多彩なサラウンドが楽しめるモードです。理想の視聴空間形状や、各ソフトに収録された音声の研究などにより開発された、パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。映画/音楽/TV放送/ゲームなど多岐にわたるいかなるソフトでも、快適なサラウンド再生が提供できるよう、多種のモードをご用意いたしました。各ソースはデコード処理（2chソースはマトリックス・デコード処理）後、それぞれに合わせたオリジナルの処理を加えています。
- デコード処理の方法は、各モードに最適な技術を組み合わせてありますので、お客様が変更することはできません。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

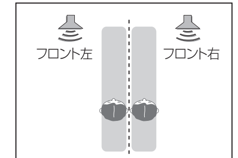
2　ADV SURRボタンを繰り返し押して聞きたいモードを選ぶ。

本体の場合は**ADVANCED SURROUND**ボタンを繰り返し押します。
- ACTION （アクション映画）
- DRAMA （ドラマ）
- SCI-FI （SF映画）
- MONO FILM （モノラル音声の映画）
- ENT.SHOW （ミュージカル/映画）
- EXPANDED （映画/音楽）
- TV SURROUND （TV放送）
- ADVANCED GAME （ゲーム）
- SPORTS （スポーツ）
- CLASSICAL （クラシック）
- ROCK/POP （ロック、ポップス）
- UNPLUGGED （アコースティック）
- EXT.STEREO （音楽）
- F.S.SURR FOCUS （映画/音楽）
- F.S.SURR WIDE （映画/音楽）

F.S.SURR FOCUS（おすすめ）



F.S.SURR WIDE



- SOUND RETRIEVER AIR （音楽）
- PHONES SURR （ヘッドホン使用時）



メモ
- 50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」の**EFFECT**設定で効果の強弱を調節できます。ただし、**F.S.SURR FOCUS**, **F.S.SURR WIDE**および**SOUND RETRIEVER AIR**モードの効果は調節できません。
- フロントサラウンド・アドバンス（**F.S.SURR FOCUS**および**F.S.SURR WIDE**）では、左右のフロントスピーカーとサブウーファーのみで臨場感のある自然なサラウンド再生を行います。フロントスピーカーから等距離の直線上（前後は移動可能）で視聴してください（**F.S.SURR WIDE**は**F.S.SURR FOCUS**よりも横に広い範囲でサラウンド効果が得られます）。
- **SOUND RETRIEVER AIR**は*Bluetooth* 機能対応機器の音楽を再生する際、*Bluetooth* 伝送による音質の悪化を補正します。**ADAPTER PORT**入力のときに選択できます。

HOME THXサラウンドで再生する

映画の再生に適したモードです。デコード処理後THX独自技術を付加することで、映画館や収録スタジオの音場が再現されます。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　再生中に、THXボタンを押す。

本体の場合は**HOME THX**ボタンを押します。
ボタンを押すたびに以下のモードに切り換わります。

■2ch信号入力時
- THX CINEMA （映画）
- THX MUSIC （音楽）
- THX GAMES （ゲーム）

- ⅮⅮ Pro Logic IIx MOVIE+THX CINEMA （映画）
- ⅮⅮ PRO LOGIC+THX CINEMA （古い映画）
- Neo:X CINEMA+THX CINEMA （映画）
- ⅮⅮ Pro Logic IIx MUSIC+THX MUSIC （音楽）
- Neo:X MUSIC+THX MUSIC （音楽）
- ⅮⅮ Pro Logic IIx GAME+THX GAMES （ゲーム）
- Neo:X GAME+THX GAMES （ゲーム）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX CINEMA （映画）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX MUSIC （音楽）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX GAMES （ゲーム）

■マルチチャンネル信号入力時

- THX CINEMA （映画）
- THX MUSIC （音楽）
- THX GAMES （ゲーム）
- THX Surround EX （映画/音楽）
- Neo:X CINEMA+THX CINEMA （映画）
- Neo:X MUSIC+THX MUSIC （音楽）
- Neo:X GAME+THX GAMES （ゲーム）
- ⅮⅮ Pro Logic IIx MOVIE+THX CINEMA （映画）
- ⅮⅮ Pro Logic IIx MUSIC+THX MUSIC （音楽）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX CINEMA （映画）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX MUSIC （音楽）
- ⅮⅮ Pro Logic IIz HEIGHT+THX GAMES （ゲーム）

オートサラウンドで再生する

入力信号に収録されたチャンネル数に応じて、再生チャンネル数を自動的に選択します。ALCは、iPodやUSBメモリー、レコーダーなど、複数の音量差のあるソースを収録した機器の音声を入力しているときに適しています。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 再生中に、AUTO/ALC/DIRECTボタンを押す。

本体の場合は

AUTO SURR/ALC/STREAM DIRECTボタンを押します。

AUTO SURROUNDと表示されたあと、入力信号に応じたデコード内容を表示します。

- たとえば、ドルビーデジタルやDTSといった5.1chデジタル信号入力時はDolby Digital、DTSなどのデコード状態を表示します。
- ADAPTER PORT入力時は、SOUND RETRIEVER AIRモードが自動で選択されます。

ALC：音量差を本機で自動的に均一にして再生します。 50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」のEFFECT設定で、効果の強弱を調節できます。

また、小音量時に聞き取りにくくなる低音、高音、セリフやサラウンド効果などをボリュームレベルに応じて最適に調節します。特に夜間の視聴に最適です。

OPTIMUM SURR：ホームシアター環境のように、サウンドクリエーターが制作時に想定した音量よりも小さい音量で再生する場合でも、想定した音量で再生したときと同じ印象が得られるように、シーン毎に音声を最適化します。

STREAM DIRECTモードで再生する

原音に忠実な再生を行います。入力信号によって付加される設定や効果が異なります。詳しくは 43ページ の「AUTO SURROUND/ALC/STREAM DIRECT 選択時の音の設定や機能対応表」をご覧ください。

サラウンドバックスピーカーの有り無しや、入力信号によって出力チャンネルが変わります。詳しくは 99ページ の「リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧」をご覧ください。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 再生中に、AUTO/ALC/DIRECTボタンを繰り返し押して聞きたいモードを選ぶ。

本体の場合は

AUTO SURR/ALC/STREAM DIRECTボタンを繰り返し押します。

- AUTO SURROUND：43ページ の「オートサラウンドで再生する」参照。
- ALC：43ページ の「オートサラウンドで再生する」参照。
- DIRECT：すべての入力信号で原音に忠実な再生をします。
- PURE DIRECT：アナログ信号、PCM信号、SACD信号までも含めたすべての入力信号に対して原音に忠実な再生をします。
- OPTIMUM SURR：43ページ の「オートサラウンドで再生する」参照。



メモ

- PURE DIRECTモードでは、スピーカー Bからは音が出ません。また、PURE DIRECTモードでPCM以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合はDIRECTかAUTO SURROUNDにすることをお勧めします。

AUTO SURROUND/ALC/STREAM DIRECT 選択時の音の設定や機能対応表

以下の表で○のついている設定や機能は、設定されているとおりの内容で対応されることを表しています。○のついていない設定や機能は対応されないことを表し、（ ）で記載されている内容は強制的にその設定になることを表します。

- 入力信号や本機の設定などによって、調整することができない項目があります。その場合は設定項目として表示されません。

	AUTO SURROUND	ALC	OPTIMUM SURROUND	STREAM DIRECT			
				DIRECT	PURE DIRECT		
					アナログ信号入力時 <a>	PCM 2ch 入力時 <b>	デジタル信号入力時
スピーカー設定	○	○	○	○			○
スピーカー出力レベル	○	○	○	○	○	○	○
スピーカーまでの距離	○	○	○	○			○
Acoustic Cal EQ	○	○	○	○			(OFF)
定在波制御	○	○	○	○			(OFF)
フェイズコントロール	○	○	○	○			(OFF)
フェイズコントロールプラス	○	○	○	○			
フルバンドフェイズコントロール	○	○	○	○			(OFF)
Xカーブ	○	○	(OFF)	○			(OFF)
サウンドディレイ、オートディレイ	○	○	○	○			○
Hi-bit32	○	○	○	○			○
デジタルフィルター機能	○	○	○	○		○	○
アナログATT	○	○	○	○			–
DIGITAL SAFETY	○		○	○			(OFF)
バーチャルサラウンドバック	○			(OFF)			(OFF)
バーチャルハイト	○			(OFF)			(OFF)
バーチャルデプス	○			(OFF)			(OFF)
デジタルノイズリダクション機能	○	○	(OFF)	(OFF)			(OFF)
低音の調整／高音の調整	○	○	(0 dB)	(0 dB)			(0 dB)
ダイアログエンハンスメント機能	○		(OFF)	(OFF)			(OFF)
ダイナミックレンジコントロールの設定	○	○	○	(OFF)			(OFF)
LFEアッテネーターの設定	○	○	○	○			○
SACDゲインの設定 <c>	○	○	○	○			○
オートサウンドレトリバー機能	○	○	(OFF)	(OFF)			(OFF)
センターゲインの調整	○	○	○	○			○

a アナログ信号が、DSP（Digital Signal Processor）を経由しないで直接アンプに入力されるモードです。（ANALOG DIRECT）

b PCM信号が、DSP（Digital Signal Processor）を経由しないで直接D/A変換され、アンプに入力されるモードです。（PCM DIRECT）

c SACD再生時のみ。

再生中にスピーカーの出力レベルを調整する

再生している音を聴きながら、チャンネルごとに出力レベルを調整できます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 CHレベルボタンを押して、調整したいスピーカーのチャンネルを選択する。

ディスプレイに「L ◄+0.5dB►」などと表示されます。押すたびにチャンネルが切り換わります。

3 ⬅/➡ボタンで出力レベルを調整する。

－12.0 dBから＋12.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整できます。

状況に応じてMCACCのメモリーを使い分ける

「フルオートMCACC」や「オートMCACC」、「マニュアルMCACC」であらかじめ設定した音場補正（MCACC MEMORY）を選択します。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 再生中に、MCACCボタンを押してMCACC MEMORYを選ぶ。

押すたびにMCACC MEMORYが切り換わります。

- 工場出荷時はMEMORY 1に設定されています。
- MCACCボタンを押してから⬅/➡ボタンで選ぶこともできます。
- ヘッドホン使用時には効果がありません。
- スピーカーシステムの設定は、すべてのMCACC MEMORYで共通の設定です。

いろいろな状況に合わせた音場補正で最適なサウンドを楽しむ

「映画鑑賞のときとゲームを楽しむときで座る位置が違う」という場合などは、それぞれのリスニングポジションでMCACC（音場補正）を行うと、常に最適な状態でサラウンドを楽しむことができます。

MCACCでは6個までメモリーを持つことができるため、音場ごとにあらかじめ測定を行い、再生時にそれらのMCACC MEMORYを選択してください。

活用例

- 映画はモニターから離れた位置で観たい
- ゲームはモニターの近くで楽しみたい
- 普段のリスニングポジションとは違う位置のソファーで音楽を聴きたい

手順例



- 各音場補正の設定（MCACC MEMORY）の名前を変更することができます。
  たとえば、「SYMMETRY」、「ALL CH ADJ」、「FRONT ALIGN」のEQ補正を聞き比べたいときは、同じリスニングポジションでそれぞれの補正を行い、77ページ の「設定データの名前を変更する（MCACCメモリーの名称変更）」で名前を変更します。
  それぞれ「SYMMETRY」、[ALL ADJ]、[F.ALIGN]と名前をつければ、MCACC MEMORYを選択する際に内容がわかりやすく便利です。

アナログ入力信号の歪みを低減する

アナログ音声信号が過度に入力され（フロント表示部のOVERインジケーターが点灯して）音が歪んでしまうとき、入力信号レベルを下げて歪みを低減することができます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 アナログATTボタンを押す。

押すたびにインプットアッテネーター機能のONとOFFが切り換わり、ONのときにATTインジケーターが点灯します。

位相乱れを補正する

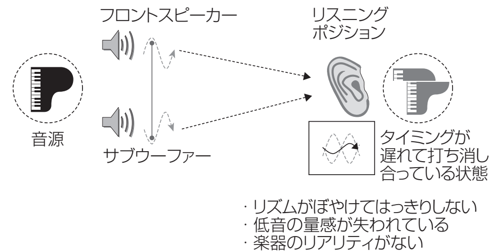
音の入り口から出口までの時間と位相を精密に管理することで、従来にない高音質なサウンドが実現できます。この「時間と位相を管理する」トータルコンセプトがパイオニアオリジナルの「フェイズコントロール」です。本機はAVアンプで発生している低域の位相乱れ（群遅延）を補正する「フェイズコントロール」機能およびスピーカーで発生している全帯域にわたる位相乱れ（群遅延）を補正する「フルバンドフェイズコントロール」機能を搭載しています。

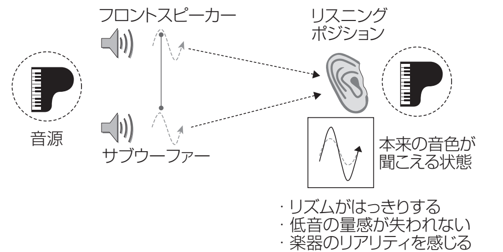
- 位相とは2つの音波の時間的関係を表しています。2つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。

低域の位相乱れを補正する（フェイズコントロール）

マルチチャンネル再生する際、LFE（超低域）信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分けられるよう処理されます。しかし、この処理には原理上、位相がズレてしまう周波数（群遅延）が発生するという問題があり、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音が打ち消されるなどの現象が発生します。

本機では、フェイズコントロールをONにすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。工場出荷時はONに設定されています。通常はONでのご使用をお勧めします。





1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 PHASE CTRLボタンを押して、PHASE CONTROLを選ぶ。

インジケーターが点灯します。

ボタンを押すたびにONとOFFが切り換わります。

メモ

- フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域（LFE）が遅れて記録されているものがあります。本機ではそういったディスクの位相ずれを補正するために「フェイズコントロールプラス」機能を備えております。設定の仕方は 50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」をご覧ください。
- サブウーファー本体にPHASE切換スイッチがついているときはプラス側（0°側）に設定してください。ただし、本機のフェイズコントロールをONにしても効果がわかりにくいときは、サブウーファーの固体差が考えられますので、効果の大きい方を選んでください。また効果がわかりにくいときは、サブウーファーの向きや場所を少しずつ変えてみることもお勧めします。
- サブウーファー内蔵のローパスフィルタスイッチをOFFにしてください。OFFにできないサブウーファーの場合は、カットオフ周波数を高く設定してください。

- スピーカーの距離を正しく設定しないと、フェイズコントロールの効果が正しく出ない場合があります。
- 以下のときはフェイズコントロールモードをONにできません。
—ヘッドホンを挿入しているとき
—PURE DIRECTモードのとき
—オーディオ調整機能のHDMI音声出力をTHROUGHに設定しているとき。(50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」)

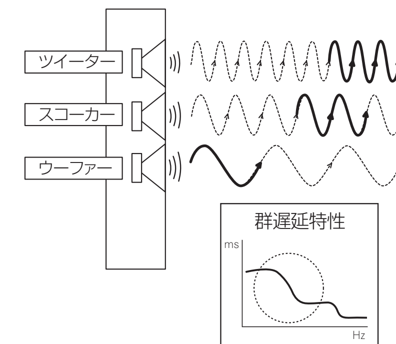
全帯域にわたる位相乱れを補正する（フルバンドフェイズコントロール）

フルバンドフェイズコントロールは、スピーカーの周波数位相特性を測定し、補正する機能です。
一般的なオーディオ用のスピーカーでは、複数のスピーカーユニットで周波数帯域を分割して再生します。たとえば代表的な3wayスピーカーの場合、ツイーターで高域、スコーカー（ミッドレンジ）で中域、ウーファーで低域音声を出力します。この際、スピーカーは広帯域にわたって周波数振幅特性（いわゆるF特）がフラットになるよう設計されていますが、周波数位相特性はフラットにならないことが多く、音声信号再生時、高域に対して低域が遅れるという群遅延（帯域間での位相特性のズレ）が発生します。
本機ではスピーカーから出力されたテスト信号を付属のマイクで測定することによってスピーカーの周波数位相特性を解析し、音声信号再生時の周波数位相特性がフラットになるように補正します（L/Rでペアになっているスピーカー 1組に対して同じ補正を行います）。

- 工場出荷時は、フェイズコントロール機能がONの状態です。**フルオートMCACC**（ 34ページ の「スピーカーの自動設定を行う 〜フルオートMCACC〜」）を行うか、**オートMCACC**の**Full Band Phase Ctrl**（72ページ）を行うと、測定後フルバンドフェイズコントロール機能が自動的にONになります。フルバンドフェイズコントロールをONにすることで、フェイズコントロール機能もONになるので、通常はフルバンドフェイズコントロールがONの状態でのご使用をお勧めします。

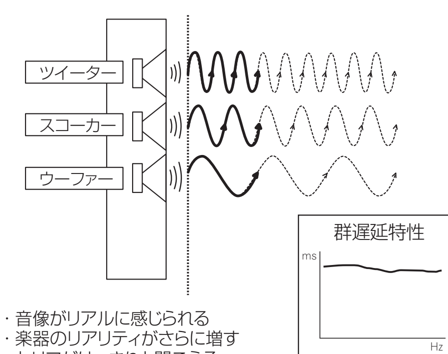
フルバンドフェイズコントロール OFF

位相乱れ（群遅延）の影響で、高音域に対して低音域が遅れている（スピーカー構成によってはこの遅れ度合いもバラバラなので、音のつながりにも影響する）。



フルバンドフェイズコントロール ON

位相乱れ（群遅延）を補正することで帯域間の遅延時間差が縮まり、全帯域のタイミングがそろう（各チャンネル間のタイミングもそろうので音のつながりも向上する）。



・音像がリアルに感じられる
・楽器のリアリティがさらに増す
・セリフがはっきりと聞こえる
・各チャンネル間の音のつながりが良くなる
・ボーカルの口元の動きまで感じることができる

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　PHASE CTRLを押して、FULLBAND PHASEを選ぶ。

フェイズコントロールとフルバンドフェイズコントロールの機能がONになります。FULL BANDとインジケーターが点灯します。

メモ

- スピーカーの周波数位相特性を解析するための測定は、**フルオートMCACC**（ 34ページ の「スピーカーの自動設定を行う 〜フルオートMCACC〜」）を行うか、**オートMCACC**で**Full Band Phase Ctrl**を行ってください。測定を行っていない状態ではFULLBAND PHASEを選択することはできません。
- フルバンドフェイズコントロールは周波数位相特性のみを補正しており、周波数振幅特性（F特）には影響を与えません。
- サブウーファーはフルバンドフェイズコントロールの補正対象外です。また、原理的に群遅延が発生しないスピーカー（フルレンジスピーカー）や可聴帯域外の超高音域（スーパーツイーターなど）も補正対象外です。
- 入力信号やリスニングモードによってはフルバンドフェイズコントロールをONにできないことがあります。
- 以下のときはフルバンドフェイズコントロールをONにすることができません。
—ヘッドホンを挿入しているとき
—PURE DIRECTモードのとき
—オーディオ調整機能のHDMI音声出力をTHROUGHに設定しているとき。(50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」)

フルバンドフェイズコントロールのFRONT ALIGN機能を使う

フルバンドフェイズコントロールではスピーカー全域（フルバンド）における周波数位相特性の乱れ（群遅延）を補正しますが、本機ではフロントスピーカーの周波数位相特性に他のスピーカーの周波数位相特性を合わせるように補正することができます（FRONT ALIGN）。以下の設定、操作を行うことで、フルバンドフェイズコントロールの補正をFRONT ALIGNモードで動作できます。

1　フルオートMCACC（またはオートMCACC）で、Full Band Phase Ctrlの測定が済んでいる状態にする。

2　フルオートMCACC（またはオートMCACC）で、EQタイプがFRONT ALIGNで測定されている状態にする。

3　MCACCボタンを押してEQタイプがFRONT ALIGNで測定されているMCACC MEMORYを選ぶ。

4　フルバンドフェイズコントロールをONの状態にする。

ホームメディアギャラリーの再生

本機のリモコン操作について

 **重要**

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。
  SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は**AVアンプ**ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

ホームメディアギャラリーについて



ホームメディアギャラリーでは、LAN端子を使うことで以下の機能をお楽しみいただくことができます。

1　パソコンにためた音楽ファイルを本機で再生

パソコンなどに保存されているたくさんの音楽ファイルを本機で再生することができます。お手持ちのネットワーク機器の取扱説明書とあわせてご確認ください。

- パソコン以外にも、DLNA1.0またはDLNA1.5に準拠したメディアサーバー機能を持つ機器（たとえば、ネットワーク型ハードディスクやネットワーク対応のオーディオシステムなど）であれば保存されているファイルを本機で再生することができます。

2　インターネットラジオを聴く

パイオニア専用に編集、管理されているvTunerが提供する放送局リストから、お好きな放送局を選んで再生することができます。

 **メモ**

- 本機は下記の技術を使ってネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルを再生します。各技術の詳細については「用語解説」もあわせてご覧ください。
  —Windows Media Player 11
  —Windows Media Player 12
  —Windows Media DRM
  —DLNA
- 画像/動画ファイルは再生できません。
- Windows Media Player 11またはWindows Media Player 12をお使いの場合、本機では著作権保護のかかっている音楽ファイルも再生することができます。
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことや、再生の状態が不安定になることがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器のメーカーにお問い合わせください。
- 接続している機器の性能や状態によって再生が停止したり、正しく再生できないことがあります。
- 再生できないファイルやインターネットラジオ放送局があった場合は、自動で次の再生できるファイルや受信可能なインターネットラジオ放送局を再生します。
- ネットワークの通信が混雑していると、ファイルが表示されない、または再生できないことがあります。ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXのご利用をお勧めします。
- ネットワーク上の複数の機器が同じファイルを同時に再生すると再生が停止することがあります。
- 接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされているとネットワークに接続できないことがあります。
- 当社は、本機とネットワーク上で接続している機器の不具合やファイルまたはデータの破損などに関して、一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。接続している機器のメーカー、またはプロバイダーにお問い合わせください。

ホームメディアギャラリーをお楽しみいただくためのステップ

1　「LAN端子でネットワークに接続する」
（→31ページ）



2　「接続しているサーバーに本機を認証させる」
（→46ページ）



3　「ネットワークの設定を行う」
（→82ページ）



4　「ホームメディアギャラリー入力で再生する」
（→47ページ）

はじめに

DLNAに準拠した機器の再生について

本機は下記の機器に保存されているネットワーク上の音楽ファイルを再生できます。

- OS がMicrosoft Windows Vista またはXP Service Pack 3で、Windows Media Player 11がインストールされているパソコン
- OS がMicrosoft Windows 7で、Windows Media Player 12がインストールされているパソコン
- DLNA1.0またはDLNA1.5に準拠したメディアサーバー（パソコンやネットワーク型ハードディスクなど）

上記のパソコンまたは、DLNA認証を受けたサーバー（Digital Media Server)に保存されているファイルは、DLNA認証を受けたDMC（Digital Media Controller）と呼ばれる外部コントローラーからの指示で再生することができます。このDMCからコントロールされ、ファイルを再生する機器をDMR（Digital Media Renderer)と呼びます。本機はこのDMRに対応しています。DMR動作中は、外部コントローラーからの操作によりファイルの再生、停止などが可能となります。また、音量調節や消音（ミュート）操作を行うことができます。DMR動作中にリモコン操作をした場合にはDMR動作は解除します（ただし、**音量 +/–**、**消音**および**表示**など一部のボタンは除きます)。

- 使用する外部コントローラーによっては、音量調節を行うと再生が中断することがあります。この場合は本体またはリモコンで音量調節を行ってください。

iPod touch、iPhone、iPad、iTunesでAirPlayを使うには

本機は、iPod touch (第2、第3、第4世代)/iPhone 4/iPhone 3GS/iPadのiOS 4.2以降、iTunes 10.1以降(MacまたはPC)からのAirPlayの音声ストリーミングに対応しています。
AirPlayを楽しむには、iPod touch, iPhone, iPad, iTunesで本機を選びます。 ＊1
AirPlayが開始されると、本機の入力がホームメディアギャラリーに自動で切り換わります。 ＊2
AirPlay動作中は、以下の操作や表示ができます。

- iPod touch、iPhone、iPadやiTunesからの本機の音量調節
- 本機のリモコン操作での一時停止/再開、スキップ、ランダム/リピート
- アーティスト名、曲名、アルバム名を含む再生中の情報を表示

＊1：iPod touch、iPhone、iPadやiTunesの操作は、Apple社のホームページを参照してください。
http://www.apple.com
＊2：**ネットワーク設定**の**ネットワークスタンバイ**が**ON**のときは、本機の電源が自動でONになります。

 **メモ**

- AirPlayを使うにはネットワーク環境が必要です。
- 本機の名前がiPod touch、iPhone、iPad、iTunes上に再生機器として表示されます。
  また、**ネットワーク設定**の**フレンドリーネーム**で本機の名前を変更できます。
- 本機に搭載されているAirPlay機能は、パイオニアホームページに記載されているiPod、iPhone、iPadのソフトウェアバージョンおよび、iTunesのソフトウェアバージョンに基づいて開発、テストされたものです。パイオニアホームページに記載されているバージョン以外のiPod、iPhone、iPadのソフトウェアまたはiTunesを使用した場合、AirPlay機能の互換性が無くなる場合があります。

DHCPサーバー機能について

ネットワーク上の機器に保存されている音楽ファイルやインターネットラジオを再生するには、ルーターのDHCPサーバー機能がONになっている必要があります。DHCPサーバー機能がないルーターの場合はネットワークの設定を行わなければネットワーク上の音楽ファイルやインターネットラジオの再生ができません。詳しくは 82ページ の「ネットワークの設定を行う」をご確認ください。

接続しているサーバーに本機を認証させる

ホームメディアギャラリーを使ってサーバーに保存されているファイルを再生するには、あらかじめサーバーが本機を認証（許可）している必要があります。認証（許可）方法は接続しているサーバーによって異なります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご覧ください。

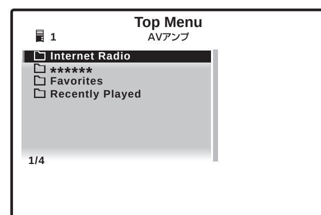
ホームメディアギャラリー入力で再生する

1 （SC-LX85のみ）リモコンを入力機器操作モードにする。



2 HMGボタンを押して、入力をホームメディアギャラリーにする。

ネットワークに接続するため、多少時間がかかることがあります。起動後は以下の画面が表示されます。の横の数字は接続されているサーバーの数を表しています。



- マークのついていないサーバーにはアクセスできません。

3 ⬆/⬇ボタンで再生したいカテゴリーを選んで、決定ボタンを押す。

カテゴリーは以下の中から選びます。

- Internet Radio：インターネットラジオ
- **サーバー名**：ネットワーク上のサーバー
- Favorites：登録されたお気に入りのファイル
- Recently played：インターネットラジオの受信履歴（最新20件）

選んだカテゴリーによってファイルや放送局などのリストが表示されます。

4 ⬆/⬇ボタンで再生したいフォルダーやファイル、放送局などを選んで、決定ボタンを押す。

⬆/⬇で画面をスクロールできます。選んだ項目が音楽ファイルの場合、再生画面が表示され、再生が始まります。前の画面に戻るには**戻る**を押します。

再生画面からフォルダー /ファイルリスト画面を表示させたとき、フォルダー /ファイルリスト画面で10秒間操作がないと自動的に再生画面に戻ります。

再生できるのは ♫ マークのついている音楽ファイルです。⬆/⬇、**決定**ボタンでファイルを選びます。

5 手順3を繰り返して、聞きたい曲を再生する。

それぞれの詳しい操作は以下をご確認ください。

- インターネットラジオ：47ページ の「インターネットラジオを聴く」
- サーバー：47ページ の「ネットワーク上の機器の再生について」



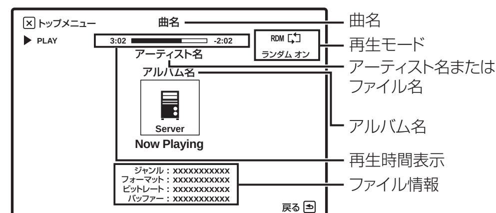
メモ

- 本機のGUI画面で表示できない文字は「#」で表示されます。また、サブゾーンの画面で表示できる文字は英数字のみです。
- Windowsのネットワーク環境で、ドメインが構成されている場合、ドメインにログオンしているとパソコンに接続できません。ドメインではなくローカルマシンにログオンしてください。
- 可変ビットレート（VBR）で圧縮されたファイルも再生できますが、経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 5分間何も操作がないときはスクリーンセーバー機能が働きます。スクリーンセーバー機能を解除するときは何かボタンを押します。

ネットワーク上の機器の再生について

再生画面について

ファイルの再生を行うと以下の画面が表示されます (ファイルによってはすべての項目が表示されないことがあります)。



本機のリモコンで以下の操作ができます。再生しているカテゴリーによっては使用できないボタンがあります。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止/一時停止解除します。
■	再生を停止し、リスト画面に戻ります。
決定	再生と一時停止の切り換えをします。
❙◀◀	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
▶▶❙	次のトラックの先頭に進みます。
リピート	リピート再生を設定します。押すたびに1曲リピート、リピートオール、リピートオフに切り換わります。
ランダム	ランダム再生を設定します。押すたびにランダムオン、ランダムオフに切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
⬅/➡	フォルダー /ファイルリストの階層を前後へ切り換えます。
トップメニュー	トップメニューを表示します。
戻る	前の画面に戻ります。

インターネットラジオを聴く

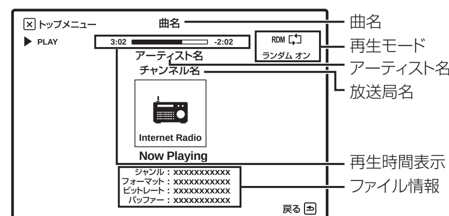
インターネットラジオとは、インターネットを通じて配信しているラジオのことです。インターネットラジオの放送局には個人が運営するものから地上波の放送局が運営するものまで、さまざまな放送局が世界中に多数存在しています。地上波のラジオは電波の届く範囲でのみ放送を聴くことができますが、インターネットラジオではインターネットを通じて世界中の放送を聴くことができます。

インターネット回線の状況によっては、放送局の音声が中断したり、とぎれて聞こえることがあります。

- インターネットラジオを聴くときはインターネットをブロードバンドで接続してください。56 Kモデムや ISDNでは十分にお楽しみいただけないことがあります。
- インターネットラジオは放送局によってポート番号が異なりますので、ファイアウォールの設定をご確認ください。
- vTunerから提供されている放送局リストは予告なく停止される場合があります。
- ラジオ局によっては放送が中止、中断されていることがあります。この場合は放送局リストで選択できる放送局でも再生することができません。
- 放送局によっては曲名などが正しく表示されない場合があります。

再生画面について

放送局を受信すると以下の画面が表示されます。（以下の画面は一例で、実際の表示はラジオ局によって異なります。）



ラジオ局のリストについて

本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集･作成されたリストです。vTunerについて、詳しくは 103ページ の「vTuner」をご確認ください。

放送局の記憶と呼び出し

インターネットラジオの放送局を記憶したり、記憶した放送局を簡単に呼び出すことができます。詳しくは 49ページ の「インターネットラジオの応用操作」をご覧ください。

パイオニア専用サイトからvTunerのリストにない放送局を登録する

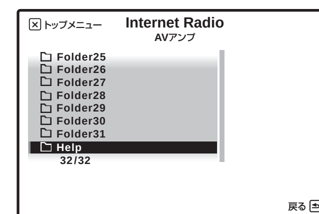
本機ではvTunerから配信される放送局リストにない放送局を登録し、再生することができます。本機で登録に必要なアクセスコードを確認し、そのアクセスコードを使ってパイオニア専用のインターネットラジオサイトにアクセスし、お気に入りの放送局の登録などを行います。パイオニア専用のインターネットラジオサイトは以下のアドレスです。

http://www.radio-pioneer.com

1 インターネットラジオのリスト画面を表示する。

47ページ の「ホームメディアギャラリー入力で再生する」を参照して手順1 ～ 3を行います。

2 ⬆/⬇ボタンで[Help]を選んで決定ボタンを押す。



3 ⬆/⬇ボタンで[Get access code]を選んで決定ボタンを押す。

パイオニア専用のインターネットラジオサイトでの登録に必要なアクセスコードが表示されるので、メモを取っておきます。

Help画面では以下の点を確認できます。

- Get access code：パイオニア専用インターネットラジオサイトの登録に必要なアクセスコードが表示されます。

- Show Your WebID/PW：パイオニア専用インターネットラジオサイトで登録したあと、登録されたIDとパスワードが表示されます。
- Reset Your WebID/PW：パイオニア専用インターネットラジオサイトで登録した内容をすべてリセットします。リセットすると登録した放送局もすべて消えてしまいますので、同じ放送局を聞きたいときはリセット後、再度登録をしてください。

4　お手持ちのパソコンでパイオニア専用のインターネットラジオサイトへアクセスし、登録操作を行う。

http://www.radio-pioneer.com
上記サイトへアクセスし、手順3のアクセスコードを使い、画面に従ってユーザー登録を行います。

5　パソコンの画面に従ってお気に入りの放送局を登録する。

vTunerのリストにない放送局はもちろん、vTunerの放送局リストにある放送局も登録できます。この場合はお気に入りの放送局として本機に登録され、再生することができます。

Favoritesの再生について

お気に入りの曲やインターネットラジオ局を、Favoritesフォルダーに最大20まで登録することができます。

Favoritesフォルダーへの登録と削除

登録したい曲の再生画面または登録したい曲がリストで選ばれているときに**PGM**ボタンを押します。選んだ曲がFavoritesフォルダーに登録されます。
登録された曲を削除するときは、Favoritesフォルダーを選択し、削除したい曲を選んで**クリア**（SC-LX85）/**･/CLR**（SC-LX75）ボタンを押します。選んだ曲がFavoritesフォルダーから削除されます。

Windows Media DRMについて

Windows Media デジタル著作権管理(DRM)(以下、WMDRM)は、コンピューター、デジタルオーディオプレーヤー、ネットワーク機器などの再生を防いだり、デジタルコンテンツを安全に配信するためのプラットフォームです。ホームメディアギャラリーのネットワークオーディオでは、WMDRM 10 for networked devices に基づいて機能します。WMDRM で保護されたコンテンツはWMDRM の機能を有するメディアサーバーと接続したときのみ再生できます。
コンテンツ所有者は、著作権を含む知的所有権を保護するためにWindows Media デジタル著作権管理テクノロジー (WMDRM)を使用します。本製品は、WMDRM で保護されたコンテンツにアクセスするためにWMDRM ソフトウェアを使用します。WMDRM ソフトウェアがコンテンツの保護に失敗した場合、コンテンツ所有者は保護されたコンテンツの再生やコピーのためにWMDRM を使用しているソフトウェアの能力を無効にするよう、マイクロソフトに要請することがあります。無効化は、保護されていないコンテンツには影響を与えません。保護されたコンテンツに対するライセンスをダウンロードするときは、マイクロソフトがそのライセンスと一緒に失効リストを含ませることがあることに同意する必要があります。コンテンツ所有者は、それらのコンテンツのアクセスに対してWMDRMをアップグレードすることを要求することがあります。もしもアップグレードを断ると、アップグレードを要求するコンテンツへアクセスすることができなくなります。
本製品は、米国Microsoft Corporation の知的所有権により保護されています。米国Microsoft Corporation の許可を得ずにこの技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

ネットワークを使った外部コンテンツのご利用について

外部コンテンツのアクセスには高速インターネットへの接続が必要であり、プロバイダーへの登録や契約が必要となります。第三者が提供するコンテンツのサービスは、予告なく、変更、中断、中止される可能性があり、パイオニアは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。パイオニアは、外部コンテンツの提供サービスの継続や利用可能期間について、いかなる保証もしません。

対応ファイルフォーマットについて

本機のホームメディアギャラリー入力は以下のファイルフォーマットに対応しています。
- 本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
- 接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
- 対応しているファイルの形式は接続している機器(サーバー)によって異なります。接続している機器が対応していない形式のファイルは表示されません。詳しくはお使いの機器(サーバー)のメーカーにお問い合わせください。
- サーバーによっては本機が対応していないフォーマットを変換（トランスコード）して出力できるものもあります。詳しくはサーバーの取扱説明書をご確認ください。
- インターネットラジオの再生では、インターネット経由の通信環境に影響を受けることがあり、その場合はここに記載されているファイルフォーマットでも再生できないことがあります。

音声ファイル

種別	拡張子	ストリーム		
MP3 <a>	.mp3	MPEG-1 オーディオレイヤー 3	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	8 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
LPCM	— <b>	LPCM	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit、20 bit
			チャンネル数	2 ch
WAV	.wav	LPCM	サンプリング周波数	8 kHz ～ 192 kHz
			量子化ビット数	16 bit、20 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
WMA	.wma	WMA2/7/8	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	5 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
		WMA9	サンプリング周波数	8 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	5 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応
AAC	.m4a .aac .3gp .3g2	MPEG-4 AAC LC MPEG-4 HE AAC (aacPlus v1/2)	サンプリング周波数	32 kHz ～ 48 kHz
			量子化ビット数	16 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	16 kbps ～ 320 kbps
			VBR/CBR	対応/対応

種別	拡張子	ストリーム		
FLAC	.flac	FLAC	サンプリング周波数	32 kHz ～ 192 kHz
			量子化ビット数	8 bit、16 bit、24 bit
			チャンネル数	2 ch
			ビットレート	—
			VBR/CBR	—

a MPEG Layer-3音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimediaからライセンスされています。
b ヘッダーのないLPCMファイルはサーバーからのストリーミングデータのみ対応のため、拡張子はありません。

インターネットラジオの応用操作

インターネットラジオの放送局を記憶する

本機では、よく聴く放送局をA ～ Gのクラスに各9局、合計63局まで記憶することができます。

1 記憶させたい放送局を再生する。

47ページ の「ホームメディアギャラリー入力で再生する」の手順1 ～ 4を行い、記憶させたい放送局を再生します。

2 ツールボタンを押して、放送局の記憶モードにする。

3 クラス（SC-LX85）/ENTER (12)（SC-LX75）ボタンを押して、記憶させるクラスを選択する。

A ～ Gのいずれかを選びます。

4 ⬆/⬇ボタンで記憶させるステーション番号を選んで決定ボタンを押す。

数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。
1 ～ 9のいずれかを選びます。

記憶したインターネットラジオの放送局を呼び出す

放送局を呼び出すには、その前に放送局を記憶する必要があります。放送局を記憶していない場合は、49ページ の「インターネットラジオの放送局を記憶する」をご覧ください。

1 クラス（SC-LX85）/ENTER (12)（SC-LX75）ボタンを押して、呼び出したいクラスを選択する。

ボタンを押すたびにA ～ Gのクラスが切り換わります。

2 ⬆/⬇ボタンで呼び出したいステーション番号を選んで決定ボタンを押す。

数字ボタンでステーション番号を選ぶこともできます。
記憶されていないステーションを選ぶと
Preset Not Storedと表示されれます。

いろいろな機能を使う

本機のリモコン操作について

 重要

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75はAVアンプボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

オーディオ調整機能を使用する

ここでは、以下の表にある音声に関する「設定項目」をお好みで設定します。それぞれの機能の内容をご確認のうえ、お好みで設定する項目を選んで設定を行ってください。

 重要

- 入力信号や本機の設定などによって、調整することができない項目があります。その場合は設定項目として表示されません。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　オーディオ調整ボタンを押して、オーディオ調整機能にする。

3　⬆/⬇ボタンで設定項目を選ぶ。

以下の表の設定項目から、お好みで調整したい項目を選びます。

4　手順3で選んだ項目の調整を、⬅/➡ボタンで行う。

以下の表の設定内容のとおりにお好みで調整します。

5　戻るボタンを押して、オーディオ調整を終了する。

オーディオ調整機能

●：工場出荷時の設定

（※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。表の最後に記載されている注記をご確認ください。）

設定項目	機能	表示と設定
MCACC (MCACCメモリー）	MCACC MEMORYの選択（MCACCメモリーの名前を変更(77ページ)しているときは変更した名前で表示されます。）	●**M1. MEMORY 1** ◀ M1.MEMORY 1 ～ M6.MEMORY 6 ▶
EQ (周波数特性の補正)	選択されているMCACC MEMORYの周波数特性の補正のON/OFF設定。 それぞれのMEMORYごとに設定できます。	●EQ：**ON** ○EQ：OFF
S-WAVE (定在波制御)	選択されているMCACC MEMORYの定在波制御の効果のON/OFF設定。	●S-WAVE：**ON** ○S-WAVE：OFF
Phase C+ (フェイズコントロールプラス機能)	フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域（LFE）が遅れて記録されているものがあります。そういったディスクの位相ずれを補正します。	●Phase C+：**6ms** ◀ 0ms ～ 16ms ▶
DELAY (サウンドディレイの調整)	音声全体の遅延時間の調整（映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます。）	●DELAY：**0.0** ◀ 0.0 frame ～ 10.0 frame（0.1間隔）▶ ・1 frame＝1/30秒 （NTSC）
TONE (トーンコントロール)	「低音の調整」「高音の調整」をする/しないの設定。	●TONE：**BYPASS**（OFF） ○TONE：ON
BASS (低音の調整) ※1	低音のレベル調整	●BASS：**0** (dB) ◀ －6dB ～＋6dB（1 dB間隔）▶
TREBLE (高音の調整) ※1	高音のレベル調整	●TREBLE：**0** (dB) ◀ －6dB ～＋6dB（1 dB間隔）▶
S.RTRV (オートサウンドレトリバー機能) ※2	圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。オートサウンドレトリバー機能をONにすると、その削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。 **ON**を選ぶと、**HOME MEDIA GALLERY**入力（デジタル音声入力のみ）やUSBメモリーから入力されたコンテンツのビットレート情報を元に、サウンドレトリバーの効果を最適化し、高音質化します。 また、オートサウンドレトリバーリンク機能に対応したプレーヤーと本機をHDMIで接続している場合、この設定を**ON**にすることで、プレーヤーで再生している圧縮音声ファイルのビットレート情報をHDMIによるコントロール機能を使って取得し、その情報をもとに最適化します (オートサウンドレトリバーリンク機能)。	●S.RTRV：**OFF** ○S.RTRV：ON
DNR (デジタルノイズリダクション機能)	雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減する機能(52ページ の「デジタルノイズリダクション」参照)。 2ch信号入力時にのみ効果があります。	●DNR：**OFF** ○DNR：ON
DIALOG E (ダイアログエンハンスメント機能) ※3	センター成分の定位感の調整機能 (映画やドラマのセリフ、または音楽のボーカルを際立たせ、より聴き取りやすい音にします。)	●DIALOG E：**OFF** ◀ OFF/ FLAT/ UP1/ UP2/ UP3/ UP4 ▶
Hi-bit32	CDやDVD、BDといったデジタル音声信号への、ダイナミックレンジの拡大をする機能（PCM 16 bitまたは圧縮音声20 bitおよび24 bitを32 bitに再量子化することで、より滑らかで繊細な音楽表現を可能にします。）	●Hi-bit32：**ON** ○Hi-bit32：OFF
DFILTER (デジタルフィルター機能)	AUDIO DAC (デジタルアナログコンバーター)のデジタルフィルターの種類を切り換えます。設定は**SLOW** (柔らかく緩やかな音の印象)、**SHARP**（骨格感のある硬めな音の印象)、**SHORT**（立ち上がりが早く、前に出てくるような音の印象）の3つから選びます。	●DFILTER：**SLOW** (Hi-Sampling) ○DFILTER：SHARP ○DFILTER：SHORT
DUAL (デュアルモノラル音声の設定)	1+1デュアルモノラル信号入力時、どちらの音声を再生させるかの設定（ 52ページ の「1+1デュアルモノラル信号とは」参照）	●DUAL：**CH1**（ch1のみ再生） ○DUAL：CH2（ch2のみ再生） ○DUAL：CH1 CH2（左右同時再生）
Fixed PCM (PCM音声の再生設定)	**OFF**の場合、CDなどのPCM音声を再生したときに曲の頭が切れることがあります。その場合は**ON**を選択してください。 **ON**はPCM音声専用です。PCM音声以外の信号では、音が出ずにノイズが出ることがあります。	●Fixed PCM：**OFF** ○Fixed PCM：ON

設定項目	機能	表示と設定
DRC (ダイナミックレンジコントロール設定) ※４	音量の最も小さい部分と最も大きい部分の圧縮比率の調整。 （ダイナミックレンジを圧縮すると、音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、微小な音が聴き取りやすくなりますが、大きい音量で楽しむときは、OFFにすることをお勧めします。） DolbyまたはDTSの音声方式で作成された信号に有効です。	●DRC：**AUTO** ○DRC：MAX（最大圧縮） ○DRC：MID ○DRC：OFF（圧縮無し：高音質再生）
LFE (LFEアッテネーターの設定)	マルチチャンネルコンテンツにはLFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFE レベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFE レベルをアッテネート（減衰）します。	●LFE：**0dB** ◄ OFF/ -20dB/ -15dB/ -10dB/ -5dB/ 0dB ►
SACD GAIN (SACDゲインの設定)	SACDをより高音質で再生するための調整 （工場出荷時の「0」は、高レベルで記録されているディスクを再生しても音が歪まない設定になっています。「+6」に設定すると、SACDのデジタル処理に+6 dBのゲインを持たせ、SACDディスクの情報をより忠実に引き出すことができ、高音質再生が可能になります。）	●SACD GAIN：**0dB** ○SACD GAIN：＋6dB
HDMI (HDMI音声出力の設定) ※５	HDMI INに入力された音声を、どのように再生するかの設定。 「THROUGH」に設定したときは、本機からは音が出なくなります。	●HDMI：**AMP** （本機と接続したスピーカーで再生） ○HDMI：THROUGH （HDMI OUTと接続したテレビで再生）
A.DELAY (オートディレイ(オートリップシンク)の設定) ※６	HDMIどうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。	●A.DELAY：**OFF** ○A.DELAY：ON
C.WIDTH (センター幅の調整) (ꝏPLIIx MUSIC時のみ)	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかの調整 （音色の不一致を緩和して、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。）	●C.WIDTH：**3** ◄ 0 ～ 7 ► 0：センタースピーカーからのみ再生 7：すべて左右のフロントスピーカーに振り分け
DIMENSION (ディメンションの調整) (ꝏPLIIx MUSIC時のみ)	音場の強さのバランス調整（お好みの音場を創り出すことができます。）	●DIMENSION：**0** ◄ −3 ～ +3 ► −3：後方の音場が強くなる +3：前方の音場が強くなる
PANORAMA (パノラマ調整) (ꝏPLIIx MUSIC時のみ)	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドchにつなげるような効果を加える機能（正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。）	●PANORAMA：**OFF** ○PANORAMA：ON
C.GAIN (センターゲインの調整) (Neo:X モード選択時のみ)	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかの調整 （音色の不一致が緩和された音楽再生に適した音場を創り出すことができます。）	●C.GAIN： Neo:X CINEMA　**1.0** Neo:X MUSIC　**0.3** Neo:X GAME　**1.0** ◄ 0 ～ 1.0 ► 0：ほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け 1.0：主にセンタースピーカーから再生

設定項目	機能	表示と設定
EFFECT (ADVANCED SURROUNDモードやALCモードの効果の調整)	現在選択しているADVANCED SURROUNDの各モード（F.S.SURR FOCUS, F.S.SURR WIDE, SOUND RETRIEVER AIR以外）、またはALCモードの効果の調整	●EFFECT： EXT.STEREO　**90** その他　**50** ◄ 10 ～ 90 ►
H.GAIN (ハイトゲインの調整)	DOLBY PLIIz HEIGHTモード時のフロントハイトスピーカーからの出力の調整（HIGHにすると、最も上方向の臨場感が増します。）	○H.GAIN：LOW ●H.GAIN：**MID** ○H.GAIN：HIGH
V.SB (バーチャルサラウンドバックの設定) ※７	サラウンドバックスピーカーを接続していないときでも、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すための設定	●V.SB：**OFF** ○V.SB：ON
V.HEIGHT (バーチャルハイトの設定) ※８	フロントハイトスピーカーを接続していないときでも、仮想のハイトチャンネル音声を創り出すための設定	●V.HEIGHT：**OFF** ○V.HEIGHT：ON
V.DEPTH (バーチャルデプスの設定) ※９	ディスプレイの後ろに仮想の音場を広げ、3D映像に適した奥行き感でサラウンド再生します	●V.DEPTH：**OFF** ○V.DEPTH：MIN ○V.DEPTH：MID ○V.DEPTH：MAX

1 **TONE**を**ON**にしたときのみ調整できます。
2 **iPod/USB**、**HOME MEDIA GALLERY**、**ADAPTER PORT**入力のときの工場出荷時の設定は**ON**です。
3 UP1からUP4へと設定を変えると、音像が上方向に移動します。選択しているリスニングモードによっては、効果が無いことがあります。（UP1 ～ UP4は、フロントハイトスピーカーを接続しているときのみ選択できます。）
4 工場出荷時の設定では**AUTO**に設定されていますが、この状態で効果があるのはドルビー TrueHD信号のみです。その他の信号を入力しているときは**MAX**か**MID**を選んでください。
5 シアターモードを使用しているときは切り換えることができません（54ページ）。本機の電源がスタンバイの状態でHDMIの音声と映像をテレビから出力したいときは、シアターモードをONにする必要があります（54ページ）。
6 HDMIで接続されたリップシンク対応のディスプレイにのみ有効です。ONに設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、**OFF**に設定して「サウンドディレイの調整」を手動で調整してください。
7 • ヘッドホンを接続しているときや、リスニングモードがSTEREO、FRONT STAGE SURROUND、SOUND RETRIEVER AIRおよびSTREAM DIRECTのときは、バーチャルサラウンドバックの設定はできません。
• スピーカー設定（79ページ）で、サラウンドスピーカーが**LARGE**または**SMALL**で、サラウンドバックスピーカーが**NO**（無し）のときに、バーチャルサラウンドバックの設定ができます。
• スピーカーシステムでサラウンドバックスピーカーを接続しないスピーカー配置/使用パターンを選んでいるときのみ使用できます。
8 • ヘッドホンを接続しているときや、リスニングモードがSTEREO、FRONT STAGE SURROUND、SOUND RETRIEVER AIRおよびSTREAM DIRECTのときは、バーチャルハイトの設定はできません。また、実際にフロントハイトチャンネルが収録されたソースでもバーチャルハイトの設定はできません。
• スピーカー設定（79ページ）で、サラウンドスピーカーが**LARGE**または**SMALL**で、フロントハイトスピーカーが**NO**（無し）のときは、バーチャルハイトの設定ができます。
• スピーカーシステムでフロントハイトスピーカーを接続しないスピーカー配置/使用パターンを選んでいるときのみ使用できます。
9 • ヘッドホンを接続しているときや、リスニングモードがSTEREO、FRONT STAGE SURROUND、SOUND RETRIEVER AIRおよびSTREAM DIRECTのときは、バーチャルデプスの設定はできません。
• スピーカー設定（79ページ）で、サラウンドスピーカーが**LARGE**または**SMALL**のときに、バーチャルデプスの設定ができます。
• **スピーカーシステム**が**9.1ch FH/FW**で、リスニングモードを**Neo:X CINEMA**、**Neo:X MUSIC**または**Neo:X GAME**にしているときはバーチャルデプスの設定はできません。

1+1デュアルモノラル信号とは

- モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号の名称です。
  —BSデジタル放送（MPEG-2 AAC）などのモノラルの二カ国語放送や音声多重放送など
  —二カ国語放送などをHDD/DVDレコーダーやブルーレイディスクレコーダーのドルビーデジタル・デュアルモノラルモードで録画したもの
  —ステレオの二カ国語放送などは、デュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
  —1+1デュアルモノラル信号の名称は機器によって異なります。詳しくは、テレビやHDD/DVDレコーダー、ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

デジタルノイズリダクション

- 以下の場合は、ON にしてもノイズが十分に低減されないことがあります。
  —突然のノイズ
  —極端に大きいノイズ
  —高い周波数成分を非常に多く含む信号
  —もともとノイズの少ない録音状態の良い信号
- 各音源に対し、デジタルノイズリダクションは以下のような改善効果があります（ステレオ再生時）。
  —アナログ入力.........10 dB ～ 18 dB
  —デジタル入力.........10 dB ～ 15 dB
  —ADVANCED、STANDARD、96 kHz 再生時....6 dB ～ 10 dB
- STREAM DIRECTモードがONになっているときは使用できません。

ビデオ調整機能を使用する

ここでは、以下の表にある映像に関する「設定項目」をお好みで設定します。それぞれの機能の内容をご確認のうえ、お好みで設定する項目を選んで設定を行ってください。

 **重要**

- 入力信号や本機の設定などによって、調整することができない項目があります。その場合は設定項目として表示されません。
- ビデオ調整機能は、CD、ADAPTER PORT入力のときは使用できません。
- ビデオコンバーターの設定以外の調整は、ビデオコンバーターの設定がONになっているときのみ有効です。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　ビデオ調整ボタンを押して、ビデオ調整機能にする。

3　↑/↓ボタンで設定項目を選ぶ。

以下の表の設定項目から、お好みで調整したい項目を選びます。

4　手順3で選んだ項目の調整を、←/→ボタンで行う。

以下の表の設定内容のとおりにお好みで調整します。

5　戻るボタンを押して、ビデオ調整を終了する。

ビデオ調整機能

●：工場出荷時の設定
（※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。表の最後に記載されている注記をご確認ください。）

設定項目	機能	表示と設定
V.CONV (ビデオコンバーターの設定) ※ 1	映像入力信号をMONITOR OUTおよびHDMI OUT に対してビデオコンバートする機能 （ソース機器とテレビモニターを違う種類のコードで接続していても、映像を出力することができる便利な機能です。）(24 ページ)	●V.CONV：ON ○V.CONV：OFF
RES (解像度の設定) ※ 2	入力信号をHDMI OUT端子から出力する際の解像度の設定 （RES：480pは、480p/576pの解像度指定を指します。）	●RES：AUTO ○RES：PURE ○RES：480p ○RES：720p ○RES：1080i ○RES：1080p ○RES：1080/24p
PCINEMA (PURE CINEMAモードの設定) ※ 3, 5	映画素材の映像をプログレッシブ映像に変換出力する設定 （通常はAUTOに設定しますが、映像が乱れる場合はONまたはOFFにしてください。）	●PCINEMA：AUTO ○PCINEMA：ON ○PCINEMA：OFF
P.MOTION (プログレッシブモーションの調整) ※ 3, 5	プログレッシブ映像に効果を与える設定 （プログレッシブ映像の動画や静止画が鮮明になるように調整します。）	●P.MOTION：0 ◄ −4（動画向き）～+4（静止画向き）►

設定項目	機能	表示と設定
STREAM (ストリームスムーサー機能) ※５	主にネットワークコンテンツの再生時に目立つモスキートノイズやブロックノイズといった画質劣化を改善します。 AUTOを選択すると、本機とHDMIで接続しているストリームスムーサーリンク機能に対応したパイオニア製プレーヤーでネットワークコンテンツを再生すると、本機のストリームスムーサー機能が自動でONになります（HDMI によるコントロール機能でプレーヤーと連動動作していることが前提です）。	●STREAM：AUTO ○STREAM：ON ○STREAM：OFF
V.ADJ (アドバンスドビデオアジャスト機能)	接続しているテレビ（モニター）のタイプによって、それぞれに適した画質設定にします。プラズマテレビの場合はPDPを、液晶テレビの場合はLCDを、フロントプロジェクターの場合はFPJを、プロ用モニターの場合はPROを選びます。画質設定をお好みで調整したいときはMEMORYを選んで以下の設定項目を調整できます。	●V.ADJ：PDP ○V.ADJ：LCD ○V.ADJ：FPJ ○V.ADJ：PRO ○V.ADJ：MEMORY
YNR (輝度ノイズの調整) ※４, ５	入力信号の輝度(Y)信号のノイズを軽減する調整	●YNR：0 ◀ 0～+8 ▶
CNR (カラーノイズの調整) ※４, ５	入力信号の色(C)信号のノイズを軽減する調整	●CNR：0 ◀ 0～+8 ▶
BNR (ブロックノイズの調整) ※４, ５	画像のブロックノイズ(MPEG圧縮時に発生するブロック状の歪)を軽減する調整	●BNR：0 ◀ 0～+8 ▶
MNR (モスキートノイズの調整) ※４, ５	画像のモスキートノイズ(MPEG圧縮時に発生する輪郭部分の歪)を軽減する調整	●MNR：0 ◀ 0～+8 ▶
DETAIL (ディテールの調整) ※４, ５	画像の輪郭強調の調整	●DETAIL：0 ◀ 0～+8 ▶
BRIGHT (映像の明るさの調整) ※４, ５	画面全体の明るさの調整	●BRIGHT：0 ◀ −6（暗い）～+6（明るい）▶
CONTRAST (映像のコントラスト調整) ※４, ５	画面の最も明るい部分と最も暗い部分との明るさの比率調整	●CONTRAST：0 ◀ −6（比率最小）～+6（比率最大）▶
HUE (映像の色あい調整) ※４, ５	緑色と赤色のバランス調整	●HUE：0 ◀ −6（緑強調）～+6（赤強調）▶
CHROMA (彩度の調整) ※４, ５	色の濃さの調整	●CHROMA：0 ◀ −6（薄い）～+6（濃い）▶
BLK SETUP (黒浮きの調整) ※６	映像入力信号に合わせて黒色のレベルを設定します。 通常は[0]を選びます。黒色が浮いているときは[7.5]を選びます。	●BLK SETUP：0 ○BLK SETUP：7.5
ASP (アスペクト比の設定) ※７	HDMI出力映像のアスペクト比（縦横比）の設定 （THROUGHは入力した映像信号をそのまま出力します。NORMALは左右に黒帯を付加します。）	●ASP：THROUGH ○ASP：NORMAL

1 ビデオコンバーターの設定がONであることで、映像が悪化してしまうことがあります。その際は設定をOFFにしてください。
2 • テレビ（モニター）が対応していない解像度に設定した場合は映像が出なくなります。そのときは設定を変更し直してください。また、DVI対応機器から映像を入力した場合や、テレビ(モニター)の能力によっては、設定した解像度で出力されない場合があります。576i（PAL）/576p/720p50/1080i50/1080p50の映像信号を入力して出力するには、対応したテレビが必要です。
• AUTOを選択するとHDMIで接続されたテレビ（モニター）の能力に合わせて自動的に解像度が選ばれます。また、PUREを選択すると、入力された解像度そのままで出力されます（ 24ページ の「映像の接続について（パイオニアビデオコンバーター）」参照）。
• テレビ（モニター）をHDMIで接続していて、解像度の設定をPUREまたはAUTO以外に設定すると、480i/576iアナログ映像信号入力時、コンポーネント出力端子からは480p/576pの映像信号が出力されます。
3 • HDMIおよびコンポーネント出力に有効です。
• PCINEMAモードの設定がONのときは、P.MOTIONの調整は無効となります。
• この設定は、インターレース方式の映像信号(480i、576iまたは1080i)にのみ有効です。
4 V.ADJ（アドバンスドビデオアジャスト）の設定をMEMORYに設定しないと調整できません。
5 • この設定は以下の場合に表示されます。
— 480i、576i、480p、576p、720p、1080iのアナログ映像信号入力時
— 480i、576i、480p、576p、720p、1080i、1080p、1080p24のHDMI映像信号入力時
6 コンポジットビデオ端子から480i信号を入力しているときのみ調整できます。
7 • テレビ（モニター）に映像が正しく表示されないときは、映像を出力しているソース機器およびテレビ（モニター）のアスペクト設定を行ってください。
• この設定は、480i/576iまたは480p/576pの映像信号を入力しているときのみ表示されます。

HDMIによるコントロール機能でHDMI機器を連動動作させる

HDMIによるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することで、以下のような連動動作が可能になります。

- テレビから本機の音量調節や消音(ミュート)操作
- テレビの入力切り換えやプレーヤーなどの再生開始による本機の自動入力切り換え
- テレビとの電源連動

重要

- パイオニア製の機器によっては、HDMIによるコントロール機能が「KURO LINK」と表記されていることがあります。
- パイオニア製HDMIによるコントロール機能対応機器、およびHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品（55ページ）以外との連動動作は保証外です。HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品であっても、すべての連動操作を保証するものではありません。
- HDMIによるコントロール機能を使うときはハイスピードHDMIケーブルをお使いください。それ以外のHDMIケーブルではHDMIによるコントロール機能が正しく動作しないことがあります。
- 具体的な操作や設定方法などについては、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

HDMIによるコントロール機能対応機器を接続する

本機にはHDMIによるコントロール機能対応テレビのほかに、最大7台のHDMI機器を接続して連動動作させることができます。

接続にはハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。接続方法については、25ページ の「HDMIで接続する」をご覧ください。接続が終わったら「HDMIによるコントロール機能を設定する」（下記）を行ってください。

重要

- 電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源がスタンバイになります。この際、2秒から10秒間、HDMIに関する初期化動作を行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。HDMI設定のコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。（54ページ）
- 本機のHDMIによるコントロール機能を十分に発揮するために、HDMI機器は本機に直接接続してください。
- HDMIによるコントロール機能対応テレビの音声出力と本機の音声入力を接続し、HDMIによるコントロール機能対応テレビのリモコンでシアターモードにすることで、テレビのチャンネルを切り換えたときなど、本機の入力が自動で切り換わり本機から音が出るようになります。このときテレビの音声は消音されます。接続は光デジタルまたはアナログのいずれかで接続してください。
- 本機の**HDMI OUT 1**とテレビをHDMIで接続していて、テレビがHDMIのオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合、テレビの音声はHDMI経由で本機に入力されるため、光デジタル/同軸デジタルまたはアナログコードによる音声の接続は必要ありません。この場合、**HDMI設定**の**TV音声**を**HDMI経由**に設定してください（ 54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」参照）。
- HDMIによるコントロール機能は**HDMI OUT 1**端子に接続したテレビに動作します。**HDMI OUT 2**端子に接続したテレビではHDMIによるコントロール機能は動作しません。

HDMIによるコントロール機能を設定する

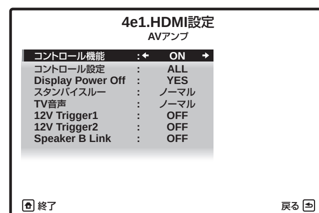
本機のHDMIによるコントロール機能を有効にするかどうかを設定します。HDMIによるコントロール機能を有効にした場合、Display Power Off機能により、テレビの電源をオフにしたときに本機の電源も連動して電源オフ（一斉電源オフ）にするかどうかの設定ができます。本機の設定以外にも、本機と接続するHDMIによるコントロール機能対応機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

2 [システム設定]を選んで決定する。

3 [HDMI設定]を選んで決定する。

4 コントロール機能のON/OFFを選択する。



- **ON**：HDMIによるコントロール機能が有効になります。
- **OFF**：HDMIによるコントロール機能は無効になり、連動動作することはできません。

5 コントロール設定を選択する。

すべてのHDMIによるコントロール機能（ 54ページ の「連動中の動作について」参照）をお使いになる場合は、**ALL**を選びます。

- **ALL**：HDMIによるコントロール機能がすべて有効になります。通常はこの設定を選びます。
- **PQLS**：PQLS機能のみが有効になり、そのほかのHDMIによるコントロール機能による連動動作は行われません。

6 （手順4でONを選択したときのみ）Display Power Off機能のYES/NOを選択する。

- **YES**：テレビの電源オフに連動して、本機の電源もオフになります。この機能は、HDMIで接続している機器の入力を選んでいる場合や、テレビを見ている場合のみ有効です。
- **NO**：テレビを電源オフにしても、本機の電源は連動しません。

7 スタンバイスルー機能を選択する。

コントロール機能が**ON**のとき、本機に接続している入力機器とテレビは、本機の電源がスタンバイの状態でも信号を伝送することができます（スタンバイスルー状態）。このスタンバイスルー状態での消費電力を抑える設定ができます。

- **ノーマル**：通常のモード。スタンバイスルーと電源ONの切り換えがすみやかに行われます。
- **エコ**：スタンバイスルー状態の消費電力を抑えます。スタンバイスルーと電源ONの切り換えに時間がかかります。

8 TV音声の入力方法を選択する。

HDMIのオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを本機の**HDMI OUT 1**端子とHDMIで接続すると、テレビの音声をHDMI経由で入力することができます。また、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能はテレビでの設定も必要なことがあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- **ノーマル**：入力端子の設定で選択している入力端子からテレビの音声を入力します。
- **HDMI経由**：HDMI経由でテレビの音声を入力します。**コントロール機能**が**ON**のときのみ選択できます。

9 12 Vトリガー端子の連動設定を選択する。

12 V TRIGGER端子に接続した機器を**HDMI OUT**の切り換えに連動してオン/オフさせることができます。**HDMI OUT 1**、**HDMI OUT 2**または**OFF**を選択できます。入力切り換えと連動させたい場合は、**OFF**を選び、「12 Vトリガー端子の連動設定」（81ページ）で連動させたい入力を選択します。

10 Speaker B Link設定を選択する。

ここでの設定を**ON**にすることで再生するスピーカー端子（SPEAKERSボタンでの設定内容）を**HDMI OUT**の切り換えに連動して変更させることができます。

スピーカーシステムの設定で**7.1ch + Speaker B**または**5.1ch + SP-B Bi-Amp**を選んでいるときのみ有効です。

- **OFF**：再生するスピーカー端子（**SPEAKERS**ボタンでの設定内容）は**HDMI OUT**の切り換えに連動しません。
- **ON**：再生するスピーカー端子（**SPEAKERS**ボタンでの設定内容）が**HDMI OUT**の切り換えに連動して変更されます。詳細は 57ページ の「HDMI出力を切り換える」をご覧ください。

11 ホームメニューボタンを押して設定を終了する。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認作業を必ず行ってください。

1 すべての機器をスタンバイ状態にする。

2 テレビ以外のすべての機器の電源をオンにする。

3 テレビの電源をオンにする。

4 テレビの入力を本機が接続されたHDMI入力に切り換える。

5 本機の入力をHDMI機器が接続されたHDMI入力に切り換える。

6 手順5で選んだHDMI入力に接続した機器を再生する。

テレビに映像が表示されることを確認します。

7 手順5 〜 6を繰り返し、すべてのHDMI入力を確認する。

連動中の動作について

本機と接続したHDMIによるコントロール機能対応機器は、以下のような連動動作をします。

- HDMIによるコントロール機能対応テレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、シアターモードにすることができます。
  シアターモード中は、テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- シアターモードのときに、本機の電源を切ることでシアターモードは解除されます。このときテレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、本機の電源がオンになり、再度シアターモードになります。

- シアターモードを解除すると、テレビでHDMI入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- シアターモードのときに、テレビのメニュー画面等でテレビから音を出すように操作すると、シアターモードが解除されます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- HDMIによるコントロール機能対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
- テレビの入力を切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
- 本機の入力をHDMI以外に切り換えても連動モードは継続されます。

パイオニア製HDMIによるコントロール機能対応テレビでは以下の動作も可能です。

- 本機の音量、消音などを操作したときに、その状態をテレビの画面に表示します。
- テレビでメニュー言語を切り換えると、本機の言語設定も連動して切り換わります。

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品と接続する

本機のHDMIによるコントロール機能との互換性がある他社製テレビと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。（お使いのテレビによっては、すべてのHDMIによるコントロール機能が働くわけではありません。）

- テレビのメニュー画面で、本機に接続したスピーカーから音を出すか、テレビのスピーカーから音を出すか、どちらかに設定できます。
- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- テレビ放送やテレビに接続した外部入力の音声も、本機に接続したスピーカーから出力できます。（テレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合は、HDMIケーブルのほかに光デジタルケーブルなどの接続が必要です。）

本機のHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製プレーヤーやレコーダーと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

- プレーヤーやレコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器を接続しているHDMI入力に切り換わります。

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品

- 以下の他社製テレビと互換性があります。（順不同）
  - —シャープ株式会社製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」
  - —パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のテレビ
  - —株式会社東芝製レグザリンク対応のテレビ
  - —株式会社日立製作所製Woooリンク対応のテレビ
  - —ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」
- 以下の他社製プレーヤーやレコーダーと互換性があります。（順不同）
  - —シャープ株式会社製AQUOSファミリンク対応のデジタルハイビジョンレコーダー「AQUOSハイビジョンレコーダー」、ブルーレイディスクレコーダー「AQUOSブルーレイ」（シャープ株式会社製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」とあわせてお使いのときのみ）
  - —パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（パナソニック株式会社製ビエラリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - —株式会社東芝製レグザリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（株式会社東芝製レグザリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - —株式会社日立製作所製Woooリンク対応のレコーダー（株式会社日立製作所製Woooリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - —ソニー株式会社製ブラビアリンク対応のブルーレイディスクプレーヤーおよびレコーダー（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）
- 以下の他社製商品と互換性があります。（順不同）
  - —株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント製ブラビアリンク対応の「プレイステーション 3」（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）
- **上記以外の他社製品との連動動作は保証外です。**
- **互換性のある他社製品の型名など最新の情報については、パイオニアホームページ（http://pioneer.jp/）をご覧ください。**

※ AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。
※ ブラビアリンクは、ソニー株式会社の登録商標です。
※「プレイステーション」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

HDMIによるコントロール機能についてのご注意

- 本機とテレビは直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ）などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。
- 本機のHDMI入力にはソース機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）を直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ）などを接続すると誤動作の原因となります。
- HDMIによるコントロール機能を**ON**に設定すると、**TV/SAT**入力の **HDMI Input**（35ページ の「入力端子の割り当てを変更する」）は自動的に**OFF**になります。
- 本機のHDMIによるコントロール機能がONのときは、本機の電源がスタンバイ状態であっても、HDMIによるコントロール機能対応機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）と対応テレビで接続しているときのみ、本機から音を出さずにプレーヤーからの音声と映像をHDMIを通してテレビに出力できます。このときHDMIインジケーターが点灯します。

PQLS機能を使う

本機はPQLS機能に対応しています。PQLS（Precision Quartz Lock System）とは、HDMIによるコントロール機能を使ったデジタル音声の伝送制御技術です。より高音質な再生を行うため、本機からPQLS対応プレーヤーなどに対して、音声信号を制御します。これにより、音質に悪影響をおよぼす、伝送時に発生するジッターの影響を除去できます。ここでは、その機能を自動で有効にするか、OFFにするかを切り換えます。

- PQLSビットストリーム機能に対応したプレーヤーと接続しているときは常にPQLS機能が働きます。
- PQLSマルチサラウンド機能に対応したプレーヤーと接続した場合、プレーヤーから出力されるすべてのソースでPQLS機能が働きます。プレーヤーの音声出力をリニアPCMに設定してください。
- PQLS 2ch オーディオ機能に対応したプレーヤーと接続した場合、プレーヤーで音楽CDを再生しているときにPQLS機能が働きます。

この機能は**コントロール機能**を**ON**にしたときのみ有効です。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2　PQLSボタンを押してPQLSの設定を選ぶ。

ボタンを押すたびに以下のように設定が切り換わります。設定はフロントパネルに表示されます。

- **PQLS AUTO**：HDMIの機能としてPQLSに対応したプレーヤーで上記の対応ソースを再生した場合、PQLS機能が有効になります。
- **PQLS OFF**：PQLS機能は働きません。

 **メモ**

- プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- PQLS機能に対応するプレーヤーについては、パイオニアホームページをご覧ください。
- PQLS効果が有効のときに、**AUTO SURROUND**, **ALC**, **DIRECT**, **PURE DIRECT**, **OPTIMUM SURR**, **STEREO** 以外のリスニングモードを選ぶと、PQLS効果は解除されます。
- HDMI接続でのPQLSに対応したパイオニア製プレーヤーと本機をHDMIケーブルで接続し、対応ソースを再生したときやHDMI再認証（**HDMI**インジケーターが点滅）を行ったときにPQLS効果は有効となり、リスニングモードが**AUTO SURROUND**, **ALC**, **DIRECT**, **PURE DIRECT**, **OPTIMUM SURR**, **STEREO**以外のときは**AUTO SURROUND**になります。

オートサウンドレトリバーリンク機能とストリームスムーサーリンク機能を使う

HDMIによるコントロール機能を使って、最適な音声/映像を本機から出力できるようになる連動機能です。それぞれの機能に対応したプレーヤーと本機をHDMIで接続し、プレーヤーで再生している圧縮音声ファイル/映像ファイルに対して最適化します。

- 圧縮音声ファイル/映像ファイルのフォーマットによっては動作しないことがあります。

オートサウンドレトリバーリンク機能

プレーヤーで圧縮音声ファイルを再生している場合、ファイルのビットレート情報をHDMIによるコントロール機能を使って取得し、その情報をもとに本機で最適化します。
オートサウンドレトリバーリンク機能を動作させるためには、以下の設定を行います。

1　HDMI設定のコントロール機能の設定をONにしてから、コントロール設定の設定をALLにする。

54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」をご覧ください。

2　S.RTRV (オートサウンドレトリバー機能) の設定をONにする。
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」をご覧ください。

ストリームスムーサーリンク機能

HDMIによるコントロール機能を使って、プレーヤーで圧縮映像ファイルが再生されているかを本機が自動で判別し、圧縮映像ファイルが再生されているときはストリームスムーサー機能を自動で有効にします。
ストリームスムーサーリンク機能を動作させるためには、以下の設定を行います。

1　HDMI設定のコントロール機能の設定をONにしてから、コントロール設定の設定をALLにする。
54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」をご覧ください。

2　STREAM (ストリームスムーサー機能) の設定をAUTOにする。
52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」をご覧ください。

再生するスピーカー端子を切り換える

78ページ の「スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム)」で**9.1ch FH/FW**, **7.1ch + Speaker B**, **7.1ch FH/FW + ZONE 2**または**5.1ch + SP-B Bi-Amp**を選択しているときは、**SPEAKERS**ボタンで再生するスピーカーを切り換えることができます。
7.1ch Front Bi-Amp, **7.1ch + ZONE 2**, **5.1ch Bi-Amp + ZONE 2**, **5.1ch + ZONE 2+3**, **5.1ch F+Surr Bi-Amp**または**5.1ch F+C Bi-Amp**を選択しているときは、**SPEAKERS**ボタンでスピーカー再生のONとOFFが切り換わります。

●　フロントパネルのSPEAKERSボタンを押して、再生するスピーカー端子を切り換える。
ボタンを繰り返し押して、再生するスピーカーを選びます。

9.1ch FH/FW*を設定している場合の選択項目：*
- **SP: FH/FW ON**：フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの最大7チャンネルにフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを付加して、最大9チャンネルで再生します。フロントハイトとフロントワイドは音声入力信号によって自動で切り換わります。
- **SP: FH ON**：フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの最大7チャンネルにフロントハイトチャンネルを付加して、最大9チャンネルで再生します。
- **SP: FW ON**：フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの最大7チャンネルにフロントワイドチャンネルを付加して、最大9チャンネルで再生します。
- **SP: OFF**：スピーカーから音が出ません。

7.1ch + Speaker B*を設定している場合の選択項目：*
- **SP: A ON**：スピーカー端子Aに接続されたスピーカーから出力されます。（フロントハイトチャンネルを含む最大9チャンネルのサラウンド再生が可能です。）
- **SP: B ON**：スピーカー端子Bに接続されたスピーカーからのみ出力されます。（2chステレオ再生のみ可能です。）
- **SP: A+B ON**：スピーカー端子Aに接続したスピーカー（最大7チャンネル）とスピーカー端子Bに接続したスピーカー（最大2チャンネル）から同時に音が出ます。スピーカー端子Bに接続したスピーカーからはスピーカー端子Aに接続したスピーカーと同じ音が出ます（マルチチャンネル再生の場合は2チャンネルにダウンミックスされます）。
- **SP: OFF**：スピーカーから音が出ません。

7.1ch FH/FW + ZONE 2*を設定している場合の選択項目：*
- **SP: FH/FW ON**：フロント、センター、サラウンドの最大5チャンネルにフロントハイトまたはフロントワイドチャンネルを付加して、最大7チャンネルで再生します。フロントハイトとフロントワイドは音声入力信号によって自動で切り換わります。
- **SP: FH ON**：フロント、センター、サラウンドの最大5チャンネルにフロントハイトチャンネルを付加して、最大7チャンネルで再生します。
- **SP: FW ON**：フロント、センター、サラウンドの最大5チャンネルにフロントワイドチャンネルを付加して、最大7チャンネル再生します。
- **SP: OFF**：スピーカーから音が出ません。

5.1ch + SP-B Bi-Amp*を設定している場合の選択項目：*
- **SP: A ON**：スピーカー端子Aに接続されたスピーカーから出力されます。（最大5チャンネルのサラウンド再生が可能です。）
- **SP: B ON**：スピーカー端子Bに接続されたスピーカーからのみ出力されます。（2chステレオ再生のみ可能です。）
- **SP: A+B ON**：スピーカー端子Aに接続したスピーカー（最大5チャンネル）とスピーカー端子Bに接続したスピーカー（最大2チャンネル）から同時に音が出ます。スピーカー端子Bに接続したスピーカーからはスピーカー端子Aに接続したスピーカーと同じ音が出ます（マルチチャンネル再生の場合は2チャンネルにダウンミックスされます）。
- **SP: OFF**：スピーカーから音が出ません。

 **メモ**
- **スピーカーシステム**の設定（78ページ）で**7.1ch + Speaker B**または**5.1ch + SP-B Bi-Amp**を選んでいて、**Speaker B Link**の設定（ 54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」）がONのときは、**HDMI OUT**の切り換えに連動して再生するスピーカー端子の設定が変わります。詳しくは 57ページ の「HDMI出力を切り換える」をご覧ください。
- サブウーファーからの音の出力については 78ページ の「スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～」での内容によりますが, **SP: B ON**を選んでいるときは、サブウーファーから音は出ません。
- ヘッドホンをPHONES端子に差し込んでいる間はスピーカー端子から音が出なくなります。（ただし、スピーカー Bやゾーン2/ゾーン3を含むスピーカーシステムを選択しているときは、スピーカー Bまたはゾーン2/ゾーン3からは音が出ます。）

別の部屋で本機の音や映像を再生する～マルチゾーン機能～

本機を操作して、本機のある部屋（メインゾーン）とは別の部屋（サブゾーン）で本機につないだ機器の再生を楽しめます（マルチゾーン機能）。本機ではメインゾーンとは別にZONE 2システムを構築することができます。メインゾーンとサブゾーンで同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。
サブゾーンで再生可能な入力および信号は下記のとおりです。
- サブゾーン（ZONE 2）では、DVD、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEO、HOME MEDIA GALLERY、iPod/USB、CD、ADAPTER PORTのアナログ音声（ステレオ）入力およびビデオ（コンポジット）映像入力が再生可能です（SC-LX85ではコンポーネントビデオにも対応しています）。
- サブゾーン（ZONE 3）では、DVD、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEO、HOME MEDIA GALLERY、iPod/USB、CD、ADAPTER PORTのアナログ音声（ステレオ）入力およびビデオ（コンポジット）映像入力が再生可能です。
- デジタルやHDMIで入力された信号は再生できません（SC-LX75ではコンポーネントビデオで入力された信号も再生できません）。
- リスニングモードや低音／高音調整などの各種音声機能は使えません。

フロントパネルでマルチゾーンの操作をする

フロントパネルのボタンやダイヤルを使用して、サブゾーンの入力や音量を操作します。

1　フロントパネルのMULTI-ZONE ON/OFFボタンを押す。
押すたびに以下のように切り換わります。
- **ZONE 2 ON**：ZONE 2のマルチゾーン機能をオンにします。
- **ZONE 2&3 ON**：ZONE 2とZONE 3のマルチゾーン機能をオンにします。
- **ZONE 3 ON**：ZONE 3のマルチゾーン機能をオンにします。
- **MULTI ZONE OFF**：マルチゾーン機能をオフにします。

マルチゾーン機能がオンのときは、表示部の**MULTI-ZONE**インジケーターが点灯します。

2　フロントパネルのMULTI-ZONE CONTROLボタンを押す。
押すたびに、メインゾーン操作とサブゾーン操作が切り換わります。
- 10秒間操作がないと自動的にマルチゾーンコントロールモードが終了します。

3　INPUT SELECTORで入力ファンクションを切り換える。
たとえば、手順2で**ZONE 2**を選び、手順3で**DVD**を選ぶと、**DVD**入力の音声をZONE 2で楽しむことができます。

4　MASTER VOLUMEダイヤルで音量を調節する。
「**---**」（無音）から**0dB**（最大値）の範囲で調節できます。
- 音量を調節できるのは、ゾーン2またはゾーン3を含んでいる**スピーカーシステム**を選んでいるときのみです（78ページ）。

5　フロントパネルのMULTI-ZONE CONTROLボタンを押す。
マルチゾーンの操作を終了します。

6　選んだ機器の再生をする。

 **メモ**
- IRレシーバーがあるときは、IR ZONE 2 IN端子にIRレシーバーを接続して、さらにIR OUT端子に機器をつなぐと、その機器もIRレシーバーで操作することができます。
- マルチゾーン機能では、電源の入／切もメインゾーンとサブゾーンで別になります。

- スリープ機能が働くとメインゾーンとサブゾーンの両方の電源がスタンバイになります。

リモコンでマルチゾーンの操作をする

リモコンを使用して、サブゾーンの入力や音量を操作します。
SC-LX85の場合：
マルチゾーン用切り換えスイッチを**ゾーン2**または**3**に切り換えてから操作します。メインゾーン操作モードに戻すときは**メイン**にセットします。
SC-LX75の場合：
リモコンの ゾーン2 または ゾーン3 ボタンを押してから操作します。メインゾーン操作モードに戻すときは AVアンプボタンを押します。
リモコンで操作できるマルチゾーンの操作は以下のとおりです。

ボタン	機能
⏻	サブゾーンの電源オン/オフ切り換え
入力切換	サブゾーンの入力ファンクション切り換え
音量 +/– <a>	サブゾーンの音量調整
消音 <a>	サブゾーンの音を消します。

a 音量を調節できるのは、ゾーン2またはゾーン3を含んでいる**スピーカーシステム**を選んでいるときのみです（78ページ）。

メモ
- パイオニア製アンプをサブゾーンで使用する場合は、本機のリモコン操作で同時にアンプが動作してしまいます。IRレシーバーでのマルチルーム操作をするときは、メインゾーン（本機）のリモコンモードを2～4のいずれかに設定することで、同時に動作することを防ぐことができます。詳しくは 67ページ の「リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する」および 84ページ の「リモコンモードを設定する」をご覧ください。

マルチチャンネルアナログ再生する

マルチチャンネルアナログ入力で接続した機器の音声を本機で聞きます。
マルチチャンネルアナログ接続については、28ページ の「マルチチャンネルアナログ機器の接続」をご覧ください。

● 入力切換 ←/→でMULTI CH IN入力にする。
入力切換 ←/→ボタンを繰り返し押すか、本体の**INPUT SELECTOR**ダイヤルを回して入力を切り換えます。
MULTI CH INを押すことでもMULTI CH IN入力にすることができます。

メモ
- センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーをバイアンプに設定しているときは**MULTI CH IN**を選択しても音声が出ません。 14ページ の「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」および 17ページ の「バイアンプ接続」をご確認ください。
- **MULTI CH IN**入力で映像を同時に再生することができます。詳しくは 85ページ の「マルチチャンネル入力を設定する」をご覧ください。
- DVDプレーヤーによってはサブウーファーチャンネルのアナログ出力レベルが小さいものがあります。この場合は**その他の設定**の**マルチチャンネル入力設定**で、サブウーファーの入力レベルを10 dB上げることができます。詳しくは 85ページ の「マルチチャンネル入力を設定する」をご覧ください。

接続した機器間で録音／録画をする

本機を通して録音／録画を行う場合、入出力それぞれの機器はアナログの同じタイプのケーブルで接続してください。詳細は 13ページ の「接続」をご覧ください。
- 本機の音量、チャンネルレベル、オーディオ調整機能、ビデオ調整機能、サラウンドの設定などは、録音信号には効果がありません。
- デジタル録音についてはコピー制限があります。詳しくは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。
- 市販ソフトの録音／録画は、個人で楽しむ場合を除いて、著作権法上認められていません。また、コピーガード信号により録音／録画のできないものもあります。

1 録音/録画するソースを選ぶ。

2 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

3 音声切換ボタンを押して、ANALOGを選択する。
ソース機器からの音声入力信号がアナログに切り換わります。詳しくは 37ページ の「音声入力信号の切り換え」をご覧ください。

4 録音/録画機器の録音/録画を開始する。

5 録音/録画するソースを再生する。

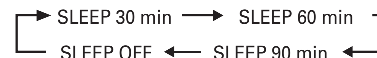
メモ
- MCACC測定中は、録音／録画を行わないでください。

スリープタイマーを設定する

指定した時間が経過すると、本機の電源が切れるように設定できます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 スリープボタンを押してタイマーを設定する。
押すたびにスリープタイマーの時間が以下のように切り換わります。



スリープタイマーが設定されると**SLEEP**インジケーターが点灯します。
- スリープタイマーを設定したあとに**スリープ**ボタンを1回押すと、残り時間が表示されます。
- マルチゾーン機能がONのときにスリープタイマーを設定すると、すべてのゾーンの電源が同時に切れます。

フロントパネル表示部の明るさを調整する

フロントパネル表示部の明るさを4段階に調整することができます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 ディマーボタンを押してお好みの明るさに調整する。
押すたびに表示部の明るさが4段階で切り換わります。

メモ
- 表示をすべて消灯することができます。この場合、**FL OFF**インジケーターのみ点灯します。
- 設定した明るさにかかわらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、数秒後に元の明るさに戻ります。
- 本体やリモコンで操作時や、エラー表示および禁止メッセージ発生時は、この設定にかかわらず明るく表示されます。

HDMI出力を切り換える

HDMI出力端子から映像/音声を出力するとき、**HDMI OUT 1**と**HDMI OUT 2**のどちらの端子から出力するかを設定します。工場出荷時は**HDMI OUT ALL**に設定されていて、どちらの端子からも映像/音声を出力します。
HDMI OUT 1端子はHDMIによる**コントロール機能**に対応しています。**HDMI OUT 2**端子に接続したテレビで視聴するときは、HDMIによる**コントロール機能**を**OFF**にすることをお勧めします。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 HDMI OUTボタンを押してHDMI出力を切り換える。
Please wait ...と表示されている間、しばらくお待ちください。
押すたびに**HDMI OUT ALL**、**HDMI OUT 1**と**HDMI OUT 2**が切り換わります。
- HDMI出力を切り換えるとシアターモード（→54ページ）は解除されます。シアターモードを使いたいときは**HDMI OUT 1**に切り換え、テレビのリモコンでシアターモードを選択します。
- **HDMI OUT 1**と**HDMI OUT 2**の両方の端子に機器を接続しているとき、**HDMI OUT ALL**に設定すると機器の状態により映像の解像度などが制限されることがあります。また、**HDMI OUT ALL**設定時に、いずれかのテレビの電源をオン/オフすると、もう一方のテレビの画像、音声が一瞬とぎれます。

Speaker B Link機能について

スピーカーシステムの設定（78ページ）で**7.1ch + Speaker B**または**5.1ch + SP-B Bi-Amp**を選んでいて、**Speaker B Link**の設定（ 54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」）がONのときは、**HDMI OUT**の切り換えに連動して再生するスピーカー端子の設定が変わります。切り換わる内容は以下のとおりです。
- **HDMI OUT ALL**：**SP: A+B ON**に切り換わります。AスピーカーもBスピーカーも同時に音が出ます。
- **HDMI OUT 1**：**SP: A ON**に切り換わります。Aスピーカーの音のみが出るようになります。
- **HDMI OUT 2**：**SP: B ON**に切り換わります。Bスピーカーの音のみが出るようになります。

再生中の音声や設定内容を確認する（ステータス表示）

リモコンの**状態確認**ボタンを押すことで、本機の設定や再生状態などの情報を確認することができます。確認項目は本体のディスプレイに表示されます。情報は各入力ごとに確認することができます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにする。

2 状態確認ボタンを押して設定内容を確認する。
ディスプレイに下記の情報が表示されます。表示は3秒ごとに切り換わります。

音声入力信号 → サンプリング周波数 → MCACC MEMORY → ZONE 2入力 → ZONE 3入力 → HDMI OUT

3　もう一度、状態確認ボタンを押して元の表示に戻す。

本機のすべての設定を工場出荷時に戻す

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。設定オールリセットを行うと、上記のすべての設定が工場出荷時の状態になりますので十分ご注意ください。

マルチゾーン機能がMULTI ZONE OFFでないと、オールリセットを行うことができません（→56ページ）。

また、HDMIによるコントロール機能がONのときもオールリセットできませんので、OFFにしてから以下の操作を行ってください。（54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」参照。）

- オールリセットの前に、iPodやUSBメモリーを本機から取り外してください。
- 電源コンセントからコンセントを長時間抜いた状態にしていても、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。

1　電源をスタンバイ状態にする。

2　フロントパネルのENTERを押しながら ⏻ STANDBY/ONボタンを押す。

表示部にRESET ◄ NO ►と表示されます。

3　⬅/➡ボタンを繰り返し押して、「RESET」を選び、ENTERボタンを押す。

RESET? OKと表示されます。

4　もう一度ENTERボタンを押す。

OKと表示され、本機のすべての設定が工場出荷時の状態に戻り、電源が入ります。

工場出荷時の設定一覧

設定項目		初期値
ビデオコンバーターの設定		ON
SPEAKERS		FH/FW
スピーカーシステムの設定		9.1ch FH/FW
スピーカーの有り無し/低域再生能力	Front	SMALL
	Center	SMALL
	FH/FW	SMALL
	Surr	SMALL
	SB	SMALLx2
	SW	YES
サラウンドスピーカーの設置位置		後方
クロスオーバー周波数		80 Hz
広い部屋での高音域を抑制する（Xカーブ）		OFF
フロントパネル表示部の明るさ		一番明るい
ネットワークスタンバイ機能		OFF
入力の設定		
23ページ の「他機器の接続を行う前に」参照		
HDMI		
HDMI音声出力の設定		AMP
HDMI出力設定		HDMI OUT ALL
HDMIによるコントロール機能		ON
コントロール設定		ALL
Display Power Off		YES
音声の再生		
電源オン時音量		前回音量
音量制限		OFF
ミュートレベル		フル
フェイズコントロール		ON
オートサウンドレトリバー機能	iPod/USB, HOME MEDIA GALLERY, ADAPTER PORT 入力	ON
	その他の入力	OFF
サウンドディレイの調整		0.0 frame
デュアルモノラル音声の設定		CH1
ダイナミックレンジコントロールの設定		AUTO
SACDゲインの設定		0 dB
LFEアッテネーターの設定		0 dB

設定項目		初期値
オートディレイの設定		OFF
DIGITAL SAFETY		OFF
EFFECT効果の調整	EXT.STEREO	90
	その他のモード	50
PL II MUSICオプション	センター幅の調整	3
	ディメンションの調整	0
	パノラマ調整	OFF
Neo:X オプション	センターゲインの調整	Neo:X CINEMA: 1.0 Neo:X MUSIC: 0.3 Neo:X GAME: 1.0
PL IIz HEIGHT オプション	ハイトゲインの調整	MID
すべての入力	リスニングモード	AUTO SURROUND
	リスニングモード（ヘッドホン時）	STEREO
上記以外にも、50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」をご参照ください。		
MCACC		
MCACC		M1: MEMORY 1
スピーカー出力レベル（M1 ～ M6）		0.0 dB（補正無し）
スピーカーまでの距離（M1 ～ M6）		すべて3.00 m
定在波制御		ON（ただし全フィルター 0.0 dB、補正無し）
視聴環境の周波数特性の補正（M1 ～ M6）		全帯域0.0 dB（補正無し）

リモコンによる他機器の操作（SC-LX85）

リモコンの設定（SETUP MENU）について

重要

- ここではSC-LX85の「リモコンによる他機器の操作」をまとめて説明します。SC-LX75の「リモコンによる他機器の操作」は67ページをご覧ください。

他機器連動を押しながら**ホームメニュー**ボタンを押すことでリモコン設定モードとなり、リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。SETUP MENUの各項目は以下のとおりです。それぞれの設定方法は各項目の説明をご覧ください。

設定項目	機能
PRESET RECALL	各入力ファンクションにプリセットコードを設定することができます。AVアンプ以外の機器を操作できるように、あらかじめいくつかの他機器（他社製品も含む）のリモコンコードが用意されています。59ページ の「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」参照。
CODE LEARNING	プリセットコードを設定してもご希望の操作ができないときは、他機器のリモコンから直接リモコン信号を学習させることができます。60ページ の「好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）」参照。
MULTI OPERATE	視聴を開始する際のリモコン操作の流れを、プログラムして覚えさせることができます。各入力ファンクションに、複数のリモコンコードが設定できます。61ページ の「リモコンの他機器連動機能を使いこなす」参照。
SYSTEM OFF	AVアンプに接続されている機器を自動的に電源オフさせる機能です。任意に複数のリモコンコードが設定できます。61ページ の「リモコンの他機器連動機能を使いこなす」参照。
DIRECT FUNC	リモコンのマルチコントロールボタンを押す際に、リモコンの操作面だけを変更してAVアンプの入力は切り換わらないようにする設定です。AVアンプには接続していない機器のリモコンとして使用するのに便利です。61ページ の「マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション）」参照。

設定項目	機能
RENAME	リモコンに表示される各入力ファンクションの名称を自由につけることができます。61ページ の「リモコンに表示される入力名称を手動で変更する」参照。
SYNC RENAMING	AVアンプで変更した入力名をリモコンで取得して、名称を同じにすることができます。65ページ の「AVアンプで設定した各入力の名称を自動取得する」参照。
ERASE LEARNING	学習させたリモコンコードを消去します。各入力ファンクションで学習された1コードごとに消去可能です。60ページ の「登録（学習）された１つのボタン操作を解除する」参照。
IR/RF SELECT	各機器のリモコンでの操作の方式を、無線（RF）か赤外線（IR）に選択する機能です。64ページ の「本機をRF双方向通信で操作する」および「他機器をRF双方向通信で操作する」参照。
OPERATION MODE	AVアンプの入力切り換えに連動して、リモコンの操作面も自動で切り換わります（リモコン操作モード切り換えスイッチが**入力機器**に設定されているときのみ有効）。65ページ の「リモコン操作モードの連動機能を切り換える」参照。
KEY RESET	設定されたプリセットコードを初期化する機能です。KEY RESETは入力ファンクションごとに行うことができます。60ページ の「登録されたプリセットコードを解除する」参照。
ALL RESET	お客様によるすべてのリモコン設定を初期化し、工場出荷時の状態に戻す機能です。60ページ の「リモコンの設定をリセットする」参照。
READ PRESET ID	各入力ファンクションに設定したプリセットコードを確認できます。61ページ の「プリセットコードを確認する」参照。
CHANGE RC MODE	パイオニア製のAVアンプ、AVレシーバーなどを複数お持ちの場合、リモコン操作で同時に動作させたくない時に設定します。59ページ の「リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する」参照。
EXIT SETUP	SETUP MENUを終了します。

メモ

- リモコンの設定（「SETUP MENU」）は**他機器連動**ボタンを約2秒間押し続けることで終了します。設定中、1つ前の画面に戻したいときは**戻る**ボタンを押します。
- リモコンの設定中、1分間何も操作がないと、それまでの設定が保存され、リモコンの設定(SETUP MENU)は終了します。

リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する

複数のパイオニア製アンプをお持ちの場合、ひとつのリモコンで複数のアンプが同時に動作してしまわないように、操作するアンプを3台まで別々に指定することができます（指定できるアンプは、本機と同型機のみです）。

- 本リモコンのIR/RF SELECTの設定でAV AMPがIR MODEになっているときのみ有効の機能です（64ページ）。
- この機能を使用する前に、操作したいアンプにリモコンモードを設定してください。詳しくは 84ページ の「リモコンモードを設定する」をご覧ください。
- 本機よりも前に発売されたパイオニア製アンプをお使いの場合でも、一部機能は本機のリモコンで操作できることがあります（電源オン／オフ、入力切り換え、音量操作など）。この場合、お使いのアンプをアンプ1として使用し、本機をアンプ2 ～ 4に設定することで、別々に操作することができます。

1　マルチゾーン切り換えスイッチがメインになっていることを確認する。

2　リモコンをAVアンプ操作モードにする。

3　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

4　⬆/⬇でCHANGE RC MODEを選んで決定を押す。

5　⬆/⬇でリモコンモードを選ぶ。

RC MODEは1 ～ 4まで選択できます。

6　決定を押してリモコンモードを決定する。

選んだモードが3秒間点滅して設定完了になります。

他のアンプを操作する場合は、上記手順1からもう一度操作して番号を入力し直してください。

リモコンで他機器を操作する

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器（テレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど)を操作できます。

お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

また、プリセットコード非対応の機器でも、その機器に付属のリモコンから直接登録（学習）することが可能です。詳しくは 60ページ の「好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）」をご覧ください。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のプリセットコードが登録されています。登録する機器のブランド名から検索することができます。

- 各ボタンの役割は 62ページ の「他機器の操作について」をご覧ください。

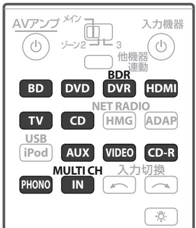
1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でPRESET RECALLを選んで決定を押す。

EXIT SETUPを選んで決定すると設定を終了します。

3　操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定を押す。



テレビコントロールボタンで操作したいテレビのプリセットコードを登録するときは、リモコン操作モード切り換えスイッチを**テレビ**にしてから**決定**ボタンを押します。

- HMG NET RADIO、ADAPおよびiPod USB入力ファンクションに登録することはできません。

4　⬆/⬇で登録する機器のブランド名の頭文字を選んで決定を押す。

たとえば、パイオニアを登録するときは、「P」を選びます。

5　⬆/⬇で登録する機器のブランド名を選んで決定を押す。

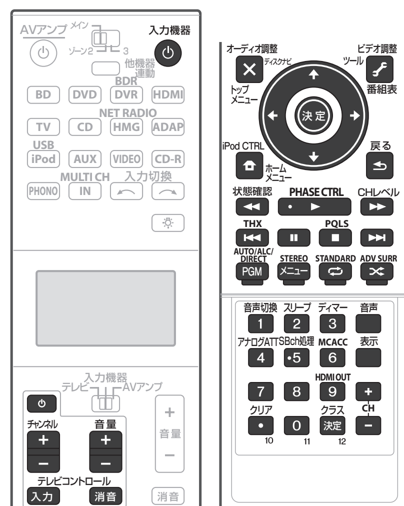
6　⬆/⬇で登録する機器とコード番号を選ぶ。
たとえば、DVDプレーヤーの場合は「DVD」、コード番号が複数あるときはそれぞれのコード番号で試してみてください。
⏻ **入力機器**ボタンを押して、その機器の電源を入／切できれば正しいコード番号が選ばれたことになります。
- すべてのモデルには対応していませんので、機器のブランド名が見つからないときや、プリセットコードを登録しても使用できない機能などがあるときは学習させてください。詳しくは 60ページ の「好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）」をご覧ください。
- パイオニアのHDD内蔵DVDレコーダーまたはBDレコーダーをお持ちの方は、PIONEER、DVR/BDRと選び、487、488、489、493のいずれかのコード番号を選んでください。また、リモコンの設定を変更する場合は、HDD内蔵DVDレコーダー、BDレコーダーのリモコンモード設定もあわせてご確認ください。
- 05年夏以前に発売されたパイオニアのプラズマテレビをお持ちの方は、TVの6601(BSデジタルのチャンネルに対応)も、必要に応じてお試しください。一部海外向けのコードも内蔵されているため、TVの10ch/11ch/12chが誤作動するものもあります。

7　決定を押してプリセットコードを登録する。
OKと表示されて、登録が終了します。

8　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）

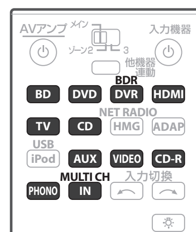
他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに直接学習させることができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作などは、以下の手順で追加登録（学習）してください。
登録（学習）できる操作の数はパイオニアフォーマットで、およそ200コードです。
以下のイラストで強調表示されているボタンに登録（学習）が可能です。



1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。
リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

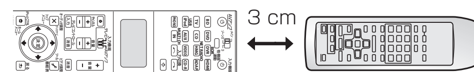
2　⬆/⬇でCODE LEARNINGを選んで決定を押す。
EXIT SETUPを選んで決定すると設定を終了します。

3　操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定を押す。



PRESS KEYが点滅します。
- HMG NET RADIO、ADAPおよびiPod USB入力ファンクションに登録することはできません。
- **テレビコントロール**ボタン（⏻、**音量** +/−、**チャンネル** +/−、**消音**および**入力**）は、リモコン操作モード切り換えスイッチを**テレビ**に合わせたときのみ登録（学習）できます。

4　本機と他機器のリモコンを向かい合わせて、記憶させたい本機のボタンを押す。



PRESS KEYが点灯に変わり、登録（学習）待機状態になります。

5　記憶させたい他機器のリモコンのボタンを、数秒押して放す。
たとえば、再生操作を学習（登録）したいときは▶を押します。
登録（学習）が正しく行われるとOKと表示されて、終了します。
ERRORが表示された場合は、登録している場所やリモコンどうしの距離を変えるなどして、手順4からやり直してみてください。

6　同じ他機器リモコンについて登録（学習）を続けるには、手順4～5を繰り返す。
別の他機器リモコンを登録するには、手順7へ進み、いったん終了し、もう一度手順1から行ってください。

7　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

メモ
- 手順4～5は、強い蛍光灯の下やTVの前で行わないでください。異なるコードが登録されてしまうことがあります。
- MEMORY FULLと表示されたときは、登録できるコードの数を超えてしまっています。この場合は、他の登録したコードを解除することで、新しいコードを登録できるようになります。詳しくは 60ページ の「登録（学習）された１つのボタン操作を解除する」をご覧ください。
- 登録（学習）したコマンドによってはRF双方向通信で操作できないことがあります。その場合はIR信号送信で操作してください。IRモードとRFモードの切り換えは 64ページ の「他機器をRF双方向通信で操作する」をご覧ください。

登録（学習）された１つのボタン操作を解除する

学習モードで登録したボタン操作を解除し、工場出荷時の設定に戻します。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。
リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でERASE LEARNINGを選んで決定を押す。

3　解除したい機器のマルチコントロールボタンを押してから決定を押す。
PRESS KEYが点滅します。

4　解除したい操作ボタンを2秒間押し続ける。
OKと表示されて、解除が終了します。
登録（学習）されていないボタンのときはNO CODEと表示されます。

5　解除を続けるには、手順4を繰り返す。

6　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

登録されたプリセットコードを解除する

リモコンの入力ファンクションボタンに登録されているプリセットコードをリセットして、工場出荷時の状態に戻します。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。
リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でKEY RESETを選んで決定を押す。

3　プリセットコードを解除したい機器のマルチコントロールボタンを押す。
選んだ入力ファンクションが点滅表示します。

4　決定を2秒間押し続ける。
OKと表示されて、プリセットコードの解除が終了します。

5　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

リモコンの設定をリセットする

リモコンの設定をすべてリセットし、工場出荷時の状態に戻します。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。
リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でALL RESETを選んで決定を押す。
ALL RESETが点滅します。

3　決定を2秒間以上押し続ける。
NOW RESETと表示されます。リセットが完了するとOKと表示され、すべての設定がリセットされます。

ERRORと表示されたときはもう一度手順1からやり直してください。

4　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

プリセットコードを確認する

マルチコントロールボタンに登録されているプリセットコードを確認できます。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でREAD PRESET IDを選んで決定を押す。

3　確認したいマルチコントロールボタンを押してから決定を押す。

登録されているブランド名とコード番号が約3秒間表示されます。

リモコンに表示される入力名称を手動で変更する

リモコンディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。たとえば、BD入力を機器の名称（例：DVR BDRをBDP-LX71など）に変更することができます。各入力ファンクション（他機器操作ボタン）ごとに接続された機器やメーカー名などを入力すれば、どの入力ファンクション（他機器操作ボタン）にどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でRENAMEを選んで決定を押す。

3　名前を変更したい入力ファンクション（マルチコントロールボタン）を押してから決定を押す。

リモコン操作モード切り換えスイッチをテレビに切り換えると、テレビコントロールの名前を変えることができます。各入力ファンクションの名前を変更したいときは、リモコン操作モード切り換えスイッチは 入力機器にします。

4　⬆/⬇でNAME EDITを選んで決定を押す。

名前をもとに戻したいときはNAME RESETを選びます。

5　入力する文字を選んで入力ファンクション名を変更する。

⬆/⬇で入力する文字を選んで、⬅/➡でカーソルを左右に動かします。
最大14文字まで入力することができます。

6　決定を押して入力を終了する。

7　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション）

- 工場出荷時：ON

ダイレクトファンクションはマルチコントロールボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを連動して切り換えるかを設定する機能です。
オフにすると入力ファンクションは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続していない機器を操作するときに便利です。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でDIRECT FUNCを選んで決定を押す。

3　操作したい機器のマルチコントロールボタンを選んで決定を押す。

- HMG NET RADIO、ADAPおよびiPod USB入力ファンクションではダイレクトファンクションの切り換えはできません。

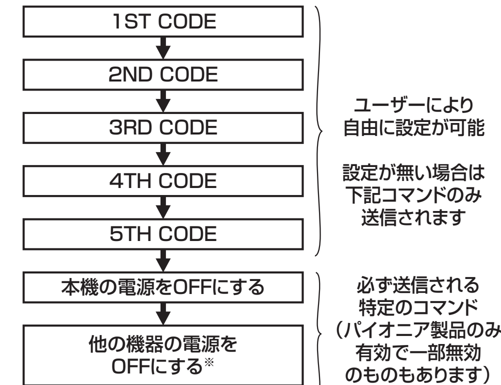
4　⬆/⬇でダイレクトファンクションのON、OFFを選んで決定を押す。

OKが表示されます。

5　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

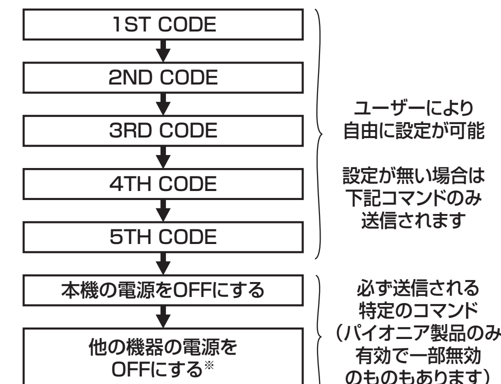
リモコンの他機器連動機能を使いこなす

本機に付属のリモコンでは他機器連動機能として、マルチオペレーション（起動時連動操作）とシステムオフ（終了時連動操作）の2つの機能が使用できます。
マルチオペレーションは視聴を始めるための一連の動作を、2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。あらかじめ決められているコマンドに加え、各他機器操作面に対し、6つまで自由に登録できる操作（コマンド）を設定できます。



※DVDレコーダーなど、一部対応していない機器もあります。
録画中に電源が切れてしまうことのないように、「必ず送信される特定のコマンド」にDVDレコーダーの電源をOFFにするコマンドは入っていません。

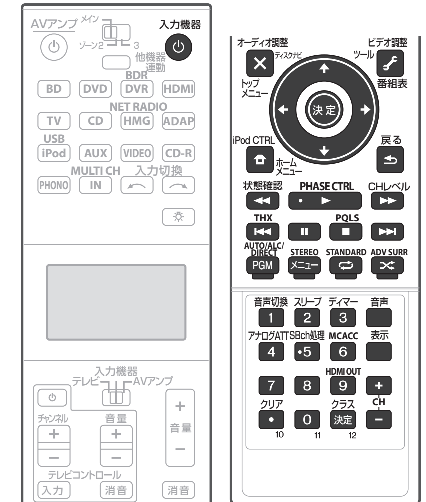
システムオフは視聴が終了したときに、すべての機器の電源を一斉にオフにする動作を2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。
5つまで自由に登録できる操作（コマンド）と、本機を含めたすべてのパイオニアの機器の電源オフのコマンドが送信されます。



※DVDレコーダーなど、一部対応していない機器もあります。
録画中に電源が切れてしまうことのないように、「必ず送信される特定のコマンド」にDVDレコーダーの電源をOFFにするコマンドは入っていません。

- 設定を行う前に、この機能で使用したいリモコンコードは、必ずプリセットコード設定か学習モードを使用して、何かのボタン（キー）に割り当てておく必要があります（ 59ページ の「リモコンで他機器を操作する」参照）。
- 機器によっては電源が入るまで時間がかかる場合があり、その場合はその機器への操作が正しく行われないことがあります。
- 登録した機器の状態によっては、登録した動作と異なる場合があります。

操作の登録ができるボタンは以下のとおりです。



連動操作を設定する

本機の操作を登録したいときは、リモコンの操作モード切り換えスイッチをAVアンプに、他機器の操作を登録したいときは入力機器にしておきます。
ここでは例として、DVDボタンに「DVDを再生（または停止）する」という操作を記憶させます。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でMULTI OPERATEまたはSYSTEM OFFを選んで決定を押す。

MULTI OPERATE（マルチオペレーション）を選んだときは手順3 へ進みます。
SYSTEM OFF（システムオフ）を選んだときは手順4へ進みます。

3 起動動作を記憶させせたい他機器操作ボタンを押してから決定を押す。

ここで選んだ入力ファンクションが、連動操作を実行したとき自動で切り換わる入力です。
例の場合）DVDボタンを押します。

4 ⬆/⬇でEDIT CODEを選んで決定を押す。

CLEAR CODEを選択すると現在登録しているコマンドを消去します。

5 ⬆/⬇で登録したいCODEの順序を選んでから決定を押す。

例の場合）1ST CODEを選んで決定を押します。
PRESS KEYが点滅してコマンドの登録になります。

6 必要に応じて操作したい他機器操作ボタンを押す。

例の場合）DVDボタンを押します。

7 操作したい操作ボタンを押す。

例の場合）再生►（または停止■）ボタンを押します。
OK と表示されて、操作の登録が終了します。

8 さらにコマンドを登録したいときは手順5 〜 7 を繰り返す。

1つの他機器操作ボタンに対してマルチオペレーションでは最大6つ、システムオフでは最大5つまで登録することができます。

9 ⬆/⬇でEDIT EXITを選んで決定を押す。

COMPLETEと表示され登録が完了します。

10 他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

連動操作（マルチオペレーション）を実行する



1 他機器連動を押す。

MULTI OPERATEが点滅します。
リモコンを受光部に向けてください。

2 操作したい機器の他機器操作ボタンを押す。

プリセット動作と、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

- 本リモコンは各入力ファンクションごとにIR/RFモードの選択ができます。IRモードが選択されている入力機器をマルチオペレーションで連動操作させたいときは、リモコンをその機器の受光部に向けて、実行してください。

連動操作（システムオフ）を実行する



1 他機器連動を押す。

MULTI OPERATEが点滅します。
リモコンを受光部に向けてください。

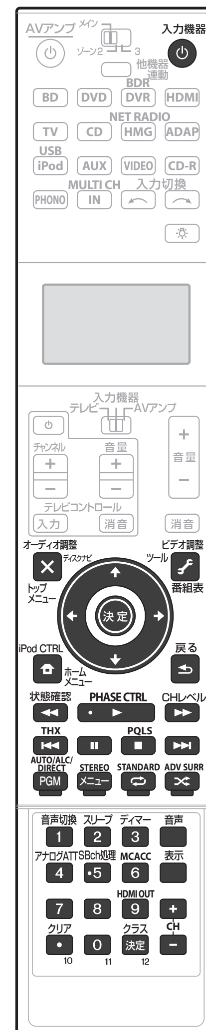
2 ⏻ 入力機器を押す

SYSTEM OFFで登録したコマンドと、パイオニア製品の電源オフコマンドが送信されます。

- 録画中に電源が切れてしまうことのないように、「必ず送信される特定のコマンド」にDVDレコーダーの電源をOFFにするコマンドは入っていません。
- 本リモコンは各入力ファンクションごとにIR/RFモードの選択ができます。IRモードが選択されている入力機器をシステムオフで連動操作させたいときは、リモコンをその機器の受光部に向けて、実行してください。
- 他のメーカーの電源コマンドが登録されている場合、電源のオン / オフが逆転することがあります。他のメーカーの電源コマンドを含んだシステムオフ機能を行う際は、必ず機器の電源が切れたことをお確かめください。

他機器の操作について

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは 59ページ の「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」をご覧ください。
- 他機器を操作するときは、操作切換スイッチを**入力機器**または**テレビ**に合わせます。**入力機器**にしたときは、操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



テレビやオーディオ/ビデオ機器の再生操作

ボタン	テレビ	テレビ（モニター）	ブルーレイディスクプレーヤー/DVDプレーヤー	HDD/DVDレコーダー/ブルーレイディスクレコーダー	ビデオデッキ	衛星チューナー/ケーブルテレビチューナー
⏻ **入力機器**	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	チャンネルの選択	チャンネルの選択	数字の入力
・(10)	10	●	クリア	10	10	●
決定（クラス）	12	チャンネル決定	決定	12	12	決定
✕	元の画面	元の画面	トップメニュー	トップメニュー/ディスクナビ	—	ナビ
🔧	番組表	ユーザーメニュー	ツール（ブルーレイディスクプレーヤー）	番組表	—	番組表
⬆/⬇/⬅/➡	⬆/⬇/⬅/➡	⬆/⬇/⬅/➡	⬆/⬇/⬅/➡	⬆/⬇/⬅/➡	—	⬆/⬇/⬅/➡
決定	決定	決定	決定	決定	—	決定
⌂	ホームメニュー	ホームメニュー	ホームメニュー	ホームメニュー	—	メニュー
↩	戻る	戻る	戻る	戻る	—	戻る
PGM（青）	青ボタン	青ボタン	—	HDD/DVD	—	青ボタン
MENU（赤）	赤ボタン	赤ボタン	メニュー（ブルーレイディスクプレーヤー）	メニュー	—	赤ボタン
🔁（緑）	緑ボタン	緑ボタン	—	ビデオ	—	緑ボタン
🔀（黄）	黄ボタン	黄ボタン	メニュー	—	—	黄ボタン
▶	—	—	▶	▶	▶	▶
⏸	地上デジタル放送	—	⏸	⏸	⏸	⏸
■	BS放送	—	■	■	■	■
◀◀	—	—	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀
▶▶	—	—	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶
⏮	アナログ放送	—	⏮	⏮	⏮	⏮
⏭	CS放送	—	⏭	⏭	⏭	⏭
AUDIO	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換
表示	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換
CH +/–	チャンネル切換	チャンネル切換	解像度切換 +/–	チャンネル切換	チャンネル切換	チャンネル切換
■ + ▶▶	—	—	—	—	—	録画

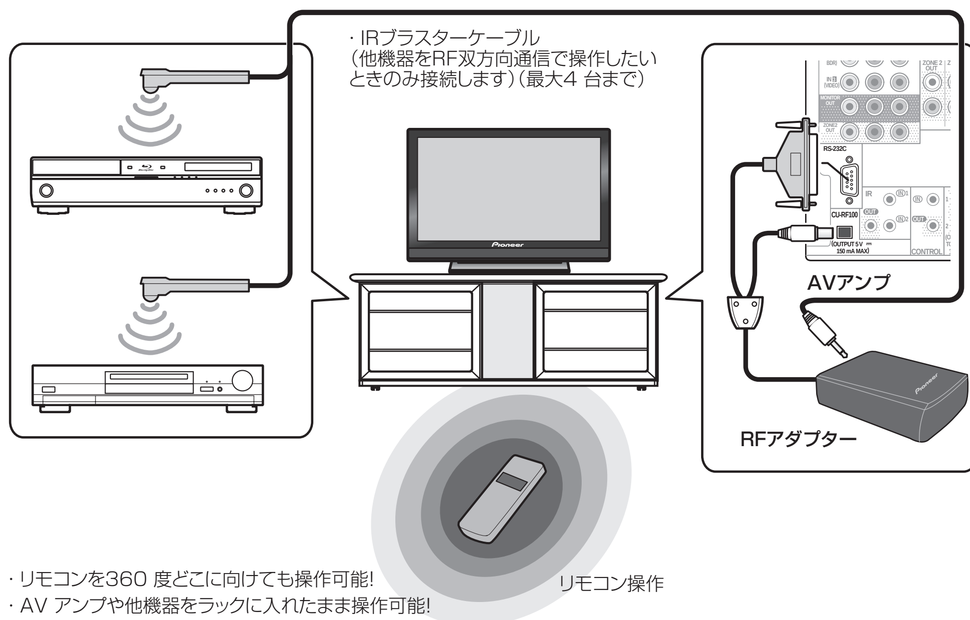
- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- テレビのプリセットコードを登録すると、登録したプリセットコードによって上記表のテレビまたはテレビ（モニター）どちらかに割り当てられます。
- DVDプレーヤーによっては、10以上を選ぶときに＋10方式ではなくENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは**・(10)**ボタンで操作することができます。

オーディオ/ビデオ機器の再生操作

ボタン	LD プレーヤー	CDプレーヤー/SACDプレーヤー/CDレコーダー	MDプレーヤー/DATプレーヤー	カセットデッキ	チューナー
⏻ **入力機器**	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン	数字の入力	数字の入力	数字の入力	—	周波数/ステーションの選択
・(10)	+10	>10/クリア	クリア（MD）	クリア	ダイレクト選局
決定（クラス）	決定	ディスク/決定	開/閉（MD）	決定	CLASS
✕	トップメニュー	—	—	—	—
🔧	—	LEGATO LINK（SACD）	—	—	—
⬆/⬇/⬅/➡	⬆/⬇/⬅/➡	—	—	⏸/■/◀◀/▶▶	—
決定	決定	—	—	I▶	—
⌂	—	SACD SETUP（SACD）	—	—	—
↩	戻る	—	—	—	—
PGM（青）	—	PROGRAM	—	—	—
🔁（緑）	—	REPEAT	—	—	—
🔀（黄）	—	SHUFFLE	—	—	—
▶	▶	▶	▶	▶	—
⏸	⏸	⏸	⏸	⏸	MPX
■	■	■	■	■	—
◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	—
▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	—
⏮	⏮	⏮	⏮	⏮	—
⏭	⏭	⏭	⏭	⏭	—
AUDIO	音声切換	PURE AUDIO（SACD）	—	—	—
表示	表示切換	TIME（SACD）	—	—	—

RF双方向通信機能について

付属のRFアダプターを本機の**RS-232C**と**CU-RF100**に接続することで、本機とリモコンのRF双方向通信を実現します。RFアダプターの接続は下図をご覧ください。RF双方向通信を行うことで、以下の機能が使用できるようになります。



- リモコンを360度どこに向けても本機の操作ができます（RF双方向通信見通し距離：約10 m）。
- 障害物の影響を受けずに操作ができます（製品をラックに入れた状態で操作ができます）。
- 本機のディスプレイに表示されている情報を、リモコンのディスプレイに表示させながら操作できます。
- 本機と接続した他機器の操作も最大4台までRF双方向通信で操作できます（付属のIRブラスターケーブルを使用します。詳しくは 64ページ の「他機器をRF双方向通信で操作する」をご覧ください）。
- リモコンのディスプレイに表示される入力名を、本機の**入力端子の設定**で変更した入力名にシンクロさせ、自動取得します。詳しくは 65ページ の「AVアンプで設定した各入力の名称を自動取得する」をご覧ください。
- AVアンプ側の入力が切り換わると、リモコンの表示と操作モードも自動でAVアンプ側の入力に切り換わります。詳しくは 59ページ の「リモコンで他機器を操作する」をご覧ください。

 **重要**

- 双方向通信見通し範囲は目安であり、周囲環境により通信距離が変わることがあります。
- 通信環境によっては、本体とリモコンの双方向通信による機能が正常に動作しないことがあります。通信環境や使用方法についての注意点など、詳しくは 65ページ の「全指向性RFリモコン使用時の注意」をご覧ください。

 **メモ**

- リモコンの設定（SETUP MENU）は**他機器連動**ボタンを約2秒間押し続けることで終了します。設定中、1つ前の画面に戻したいときは**戻る**ボタンを押します。

RFアダプターとリモコンをペアリングする

ペアリングはRF双方向通信機能を使用するために必ず必要な操作です。本機とRFアダプターを接続してから以下の操作を行ってください。

1　⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れる。

2　本機のその他の設定からRFリモコン設定を選んで、設定をONにする。

詳しくは 85ページ の「CU-RF100リモコン使用時の設定を行う（RFリモコン設定）」をご覧ください。

3　RFアダプターの前面にあるSETTINGボタンを押す。

RFアダプターのLEDランプが赤く点滅し、ペアリングの待機状態になります。待機状態は約30秒間続きますので、その間に手順4 ～ 5を行います。

4　リモコンの他機器連動ボタンを押しながらビデオ調整ボタンを押す。

リモコンディスプレイにPAIRINGと表示されます。

5　リモコンの決定ボタンを押す。

AUTHORIZATIONと点滅し、ペアリングを行います。成功するとSUCCESSと表示されペアリングが終了します。このときRFアダプターのLEDランプは緑の点灯に変わります。

ERRORと表示されたときはペアリングが成功していません。接続やRFアダプターとの距離を確認し、手順1からやり直してください。

本機をRF双方向通信で操作するためには、リモコンのAMP操作モードをRFに設定する必要があります。引き続き「本機をRF双方向通信で操作する」で設定を行ってください。

本機をRF双方向通信で操作する

本機の操作をRF双方向通信で行うためのリモコン設定を行います。メインゾーンとZONE2、ZONE3のそれぞれに設定できます。本機とRFアダプターを接続し、RFアダプターとリモコンのペアリングを行ってから以下の設定を行ってください。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でIR/RF SELECTを選んで決定を押す。

ペアリングされているかどうか確認します。

AV AMP MAINと表示されたときはペアリングが正しく行われていますので、手順3へ進みます。

RF MODE ONLYと表示されたときはペアリングが正しく行われていないので、ペアリングを正しく行ってからやり直してください（詳しくは 64ページ の「RFアダプターとリモコンをペアリングする」をご覧ください）。

3　⬆/⬇でRF双方向通信に設定したいAVアンプのゾーンを選んで決定を押す。

4　⬆/⬇でRF MODEを選んで決定を押す。

IR信号送信での操作に戻したいときは、ここでIR MODEを選びます。

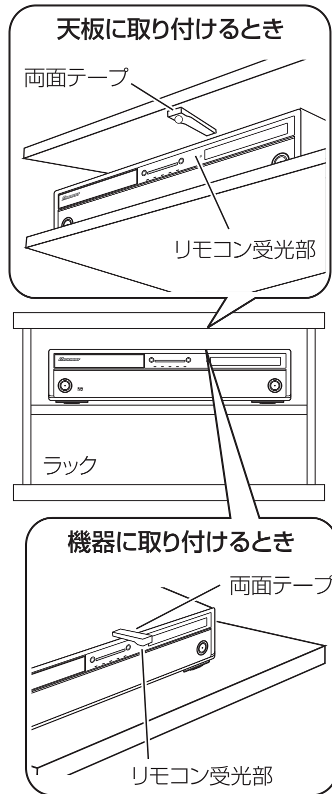
手順3でAV AMPを選んでRF MODEに設定すると、HMG NET RADIO、ADAPおよびiPod USB は自動でRF MODEになります。

5　他のゾーンもRF双方向通信での操作に切り換えるときは、手順3 ～ 4を繰り返す。

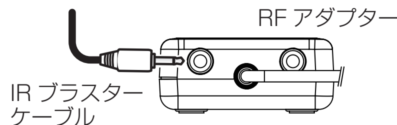
6　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

他機器をRF双方向通信で操作する

本機に接続した他機器の操作も、最大4台までRF双方向通信で操作できます。RF アダプターと他機器をIR ブラスターで通信させ、リモコンの設定をRFに切り換えます。リモコンの設定は各入力ごとに切り換えることができます。



1　RFアダプターのIR OUT端子にIR ブラスターケーブルを接続し、送信部をRF双方向通信で操作したい他機器に取り付ける。



- IRブラスターの取り付け位置が適切でないと操作できません。なるべく、他機器リモコン受光部の上側に取り付けてください。下側に取り付けると外光などの影響を受けて受信しづらくなることがあります。
- IRブラスターは、他機器のリモコン受光部の近くに確実に取り付けてください。他機器のリモコン受光部の位置は各機器の取扱説明書をご確認ください。
- 両面テープを貼り付ける箇所のゴミやほこりを、あらかじめ取り除いておいてください。
- 両面テープは強力なため、棚などに貼り付けたあと無理にはがすと、板の表面を傷めることがあります。ご注意ください。

2　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

3　⬆/⬇でIR/RF SELECTを選んで決定を押す。

ペアリングされているかどうか確認します。
AV AMP MAINと表示されたときはペアリングが正しく行われていますので、手順4へ進みます。
RF MODE ONLYと表示されたときはペアリングが正しく行われていないので、ペアリングを正しく行ってからやり直してください（詳しくは 64ページ の「RFアダプターとリモコンをペアリングする」をご覧ください）。

4　⬆/⬇でRF双方向通信に設定したい入力ファンクションを選んで決定を押す。

手順1でIR ブラスターを取り付けた機器の入力ファンクションを選びます。

5　⬆/⬇でRF MODEを選んで決定を押す。

IR信号送信での操作に戻したいときは、ここでIR MODEを選びます。

6　他の入力ファンクションもRF双方向通信での操作に切り換えるときは、手順4 ～ 5を繰り返す。

7　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

AVアンプで設定した各入力の名称を自動取得する

- 工場出荷時：MANUAL

リモコンの入力名表示を、本機の**入力端子の設定**で変更した入力名にシンクロさせて自動で取得することができます。すべての入力で入力切り換えを行うたびに本体の入力名を自動取得するAUTOモードと、手動で選んだ入力ファンクションのみ本体の入力名を取得するMANUALモードがあります。 61ページ の「リモコンに表示される入力名称を手動で変更する」で、リモコンの入力表示名を変更していても、ここで自動取得を行うとRENAMEで入力した名称は自動取得の入力名に上書きされます。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でSYNC RENAMINGを選んで決定を押す。

MANUALと表示されます。
RF MODE ONLYと表示されたときはペアリングが正しく行われていないか、IR/RF SELECT設定でAV AMPがIR MODEになっている可能性があります。この場合、ペアリングを正しく行ってからIR/RF SELECT設定でAV AMPをRF MODEに切り換えます。詳しくは 64ページ の「RFアダプターとリモコンをペアリングする」および「本機をRF双方向通信で操作する」をご覧ください。

3　⬆/⬇でAUTOまたはMANUALを選んで決定を押す。

AUTOを選んだ場合、設定は完了です。リモコンの入力を切り換えるたびに本体とシンクロして、本体の入力名を自動取得します。手順7へ進みます。
MANUALを選んだときは手順4へ進みます。

4　AVアンプ本体の入力名を取得したい入力ファンクションボタンを押して決定を押す。

本体の入力名を取得します。PLEASE WAITと表示されたあと、本体の入力名が点滅表示されます。本体の**入力端子の設定**で入力名が変更されていないときはNO CHANGEと点滅表示されます。
HDMI入力は入力名の自動取得に対応しておりません。

5　決定を押してリモコンに表示される入力名を決定する。

COMPLETEと表示されて、入力名が登録されます。

6　他の入力ファンクションでも本体の入力名を取得するときは手順4 ～ 5を繰り返す。

7　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

リモコン操作モードの連動機能を切り換える

- 工場出荷時：SYNCHRO ON

リモコン操作モードの連動機能がONのときは、AVアンプ本体の入力切り換えに連動してリモコンの表示と操作モードも自動で本体側の入力に切り換わります。リモコンを本体の入力切り換えに連動させたくないときはSYNCHRO OFFを選びます。

- リモコンの入力を切り換えると本体の入力も切り換わりますが、リモコンのダイレクトファンクション（61ページ）がOFFに設定されている入力では、リモコンの入力を切り換えても本体の入力は連動せず、リモコンの操作面のみ切り換わります。
- リモコン操作モードの連動機能は、リモコン操作モード切り換えスイッチが**入力機器**になっているときのみ有効です。

1　他機器連動ボタンを押しながらホームメニューボタンを押す。

リモコンディスプレイにSETUP MENUが表示されます。

2　⬆/⬇でOPERATION MODEを選んで決定を押す。

SYNCHRO ONと表示されたときはペアリングが正しく行われていますので、手順3へ進みます。
RF MODE ONLYと表示されたときはペアリングが正しく行われていないので、ペアリングを正しく行ってからやり直してください（詳しくは 64ページ の「RFアダプターとリモコンをペアリングする」をご覧ください）。

3　⬆/⬇でSYNCHRO ONまたはSYNCHRO OFFを選んで決定を押す。

OKが表示されます。

4　他機器連動ボタンを2秒間押し続けて、リモコンの設定を終了する。

全指向性RFリモコン使用時の注意

電波についての注意

本機は、2.4 GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記1に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記2に示すような機器もあります。

1　2.4 GHz を使用する主な機器の例

- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線LAN機器（IEEE802.11b/g）
- ワイヤレスAV機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- *Bluetooth* 機能搭載機器

2　存在がわかりにくい2.4 GHz を使用する主な機器の例

- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

これらの機器と本リモコンを同時に使用すると、電波の干渉により、通信がとぎれて操作できなくなることがあります。
通信状況の改善方法としては以下の方法があります。

- 電波を発生している相手機器の電源を切る

- 干渉している機器の距離を離して設置する（リモコンとRFアダプターの両方を干渉している機器から離してください。）

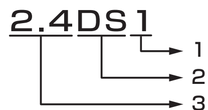
次の場所では本リモコンを使用しないでください。双方向通信ができなくなる場合があります。
- 2.4 GHzを利用する無線LAN（IEEE802.11b/g）、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります）
- ラジオからは離してお使いください。
- テレビにノイズが出た場合、本リモコン（およびRFアダプター）がテレビ、ビデオ、BS チューナー、CS チューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本リモコン（およびRFアダプター）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

機器認定について

本機は、工事設計認証済みの無線モジュールを内蔵していますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 分解/改造すること。
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

周波数について

周波数表示の見方
（本機背面のラベルに記載）



1 「1」想定される与干渉距離（約10 m）を表します

2 「DS」変調方式を表します

3 「2.4」GHz帯を使用する無線設備を表します

使用範囲について

ご家庭内での使用に限ります（通信の環境により通信距離が短くなることがあります）。

次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、双方向通信がとぎれて、操作できなくなったりします。
- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 2.4 GHzを利用する無線LAN（IEEE802.11b/g）、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは、使用していなければ電波干渉は起こりません。
- 全指向性RFリモコンを同じ場所で使用している場合。

電波の反射について

- 本機が通信する電波には、直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、双方向通信がうまくできなくなることがあります。
  このようなときは、リモコンやRFアダプターの場所を少し動かしてみてください。リモコンとRFアダプターの間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で双方向通信がとぎれたりすることがあります。



- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

ご注意いただきたい電子機器の例
- 補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

 **注意**

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止したうえ、ご相談窓口（102ページ）にご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、ご相談窓口（102ページ）へお問い合わせください。

リモコンによる他機器の操作（SC-LX75）

リモコンの設定について

 **重要**

- ここではSC-LX75の「リモコンによる他機器の操作」をまとめて説明します。SC-LX85の「リモコンによる他機器の操作」は 59ページ の「リモコンによる他機器の操作（SC-LX85）」をご覧ください。

リモコン設定ボタンを押しながら数字ボタンを押すことで、リモコン設定モードとなります。リモコン設定モードの各項目は以下のとおりです。それぞれの設定方法は各項目の説明をご覧ください。

設定項目	機能
プリセットコードの呼び出し	各入力ファンクションにプリセットコードを設定することができます。AVアンプ以外の機器を操作できるように、あらかじめいくつかの他機器（他社製品も含む）のリモコンコードが用意されています。 67ページ の「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」参照。
学習モード	プリセットコードを設定してもご希望の操作ができないときは、他機器のリモコンから直接リモコン信号を学習させることができます。 67ページ の「好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）」参照。
マルチオペレーション	視聴を開始する際のリモコン操作の流れを、プログラムして覚えさせることができます。各入力ファンクションに、複数のリモコンコードが設定できます。 68ページ の「リモコンの他機器連動機能を使いこなす」参照。
システムオフ	AVアンプに接続されている機器を自動的に電源オフさせる機能です。任意に複数のリモコンコードが設定できます。68ページ の「リモコンの他機器連動機能を使いこなす」参照。
ダイレクトファンクション	リモコンのマルチコントロールボタンを押す際に、リモコンの操作面だけを変更してAVアンプの入力は切り換わらないようにする設定です。AVアンプには接続していない機器のリモコンとして使用するのに便利です。68ページ の「マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション）」参照。
学習コードの解除	学習させたリモコンコードを消去します。各入力ファンクションで学習された1コードごとに消去可能です。 68ページ の「登録（学習）された1つのボタン操作を解除する」参照。
バックライトの設定	使い勝手や電池寿命を考慮して、リモコンの照明パターンを4つのモードから選択することができます。 68ページ の「リモコンの照明モードを選択する」参照。
ファンクションリセット	各入力ファンクションに設定したプリセットコードを確認できます。 68ページ の「ひとつのマルチコントロールボタンに登録されたすべての設定を消去する」参照。
オールリセット	お客様によるすべてのリモコン設定を初期化し、工場出荷時の状態に戻す機能です。 69ページ の「リモコンの設定をリセットする」参照。
アンプ操作モード	パイオニア製のAVアンプ、AVレシーバーなどを複数お持ちの場合、リモコン操作で同時に動作させたくない時に設定します。67ページ の「リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する」参照。

 **メモ**

- 途中で設定を中止する場合は、**リモコン設定**ボタンを押してください。
- リモコンの設定中、1分間何も操作がないと、リモコンの設定はキャンセルされます。

リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する

複数のパイオニア製アンプをお持ちの場合、ひとつのリモコンで複数のアンプが同時に動作してしまわないように、操作するアンプを3台まで別々に指定することができます（指定できるアンプは、本機と同型機のみです）。

- この機能を使用する前に、操作したいアンプにリモコンモードを設定してください。詳しくは 84ページ の「リモコンモードを設定する」をご覧ください。
- 本機よりも前に発売されたパイオニア製アンプをお使いの場合でも、一部機能は本機のリモコンで操作できることがあります（電源オン／オフ、入力切り換え、音量操作など）。この場合、お使いのアンプをアンプ1として使用し、本機をアンプ2 ～ 4に設定することで、別々に操作することができます。

1　リモコン設定を押しながら、数字ボタンの「4」を3秒間押し続ける。

LEDランプが1回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　操作したいアンプ（アンプ1 ～アンプ4）の番号を数字ボタン（1～4）で入力する。

LEDランプが1秒間点灯すると、設定は完了です。
正しく設定できなかった場合は、LEDランプが3回点滅します。この場合は設定をやり直してください。

リモコンで他機器を操作する

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器（テレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど)を操作できます。
お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。
また、プリセットコード非対応の機器でも、その機器に付属のリモコンから直接登録（学習）することが可能です。詳しくは 67ページ の「好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）」をご覧ください。

他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）

本機付属のリモコンには、複数のAV機器(他社製品を含む)のプリセットコードが登録されています。操作可能な他機器のプリセットコード一覧は 106ページ の「プリセットコード一覧表」をご覧ください。

- 各ボタンの役割は 69ページ の「他機器の操作について」をご覧ください。

1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「1」を3秒間押し続ける。

LEDランプが1回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。



テレビコントロールボタンでお手持ちのテレビを操作したい場合は、ここで テレビ ボタンを押します。
リモコンのLEDランプが1回点灯してから、ふたたび点滅します。

3　数字ボタン（0～9）で、操作したい機器に対応した4桁の番号を入力する。

LEDランプが1秒間点灯すると、設定は完了です。
正しく設定できなかった場合は、LEDランプが3回点滅します。この場合はもう一度4桁の番号を入力してください。
⏻ **入力機器**ボタンを押して、その機器の電源を入／切できれば正しいコード番号が選ばれたことになります。

4　手順2 ～ 3を繰り返して他のマルチコントロールボタンに機器を登録する。

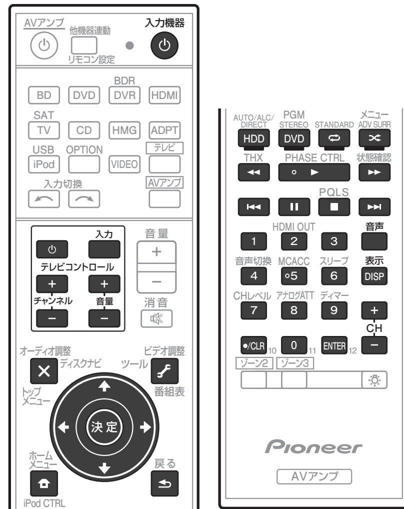
5　リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

 **メモ**

- HMG、ADPT、iPod USBボタンにはプリセットコードを登録することができません。
- 正しく設定できているようでも、一部のボタンのみ違うコード番号も複数あります。実際に操作できるかを確認してください。
- お手持ちの機器を操作できるプリセットコードがない場合は、操作したい機器に付属のリモコンから、操作を学習させることができます（67ページ）。
- TV SATボタンにはTV/SAT入力端子に接続したテレビチューナーを、 テレビ ボタンにはMONITOR OUTまたはHDMI OUT端子に接続したテレビ（モニター）を設定すると便利です。一台のテレビをTV/SAT入力端子とMONITOR OUTまたはHDMI OUT端子の両方に接続している場合、TV SATボタンと テレビ ボタンには同じプリセットコードを設定すると使いやすくなります。

好きなボタンに他機器の操作を記憶させる（学習モード）

他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに直接学習させることができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作などは、以下の手順で追加登録（学習）してください。
登録（学習）できる操作の数はパイオニアフォーマットで、およそ120コードです。
以下のイラストで強調表示されているボタンに登録（学習）が可能です。



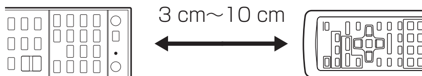
1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「2」を3秒間押し続ける。
LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。



テレビコントロールボタンでお手持ちのテレビを操作したい場合は、ここで テレビ ボタンを押します。
リモコンのLEDランプが1回点灯してから、ふたたび点滅します。

3　本機器と他機器のリモコンを向かい合わせて、記憶させたい本機のボタンを押す。
リモコンのLEDランプが1回点滅してから、点灯し続けます。



4　記憶させたい他機器のリモコンのボタンを、数秒押して放す。
LEDランプが1秒間点灯してから点滅に変われば設定は完了です。
- LEDランプが5秒間点滅した場合は、登録できるコードがいっぱいになっています。不要なコードを削除してから、登録し直してください（ 68ページの「ひとつのマルチコントロールボタンに登録されたすべての設定を消去する」）。
- 手順3 ～ 4は、強い蛍光灯の下やTVの前で行わないでください。異なるコードが登録されてしまうことがあります。他機器のリモコンの種類によっては、学習させる際の距離が近すぎても同様の症状になることがあります。
- 他機器のリモコンコードによっては、本機では正しく登録できないものがあります。

5　同じ他機器リモコンについて登録（学習）を続けるには、手順3 ～ 4を繰り返す。
別の他機器リモコンを登録するには、設定をいったん終了し、手順1からもう一度行ってください。

6　リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

登録（学習）された１つのボタン操作を解除する

学習モードで登録したボタン操作を解除し、工場出荷時の設定に戻します。

1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「7」を3秒間押し続ける。
LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　消去したいボタンが登録されているマルチコントロールボタンを押してから決定を押す。
リモコンのLEDランプが1回点滅します。

3　登録を消去したいボタンを3秒間押し続ける。
LEDランプが1秒間点灯すると、消去は完了です。

4　他にも消去したいボタンがある場合は、手順２～3を繰り返す。
別のマルチコントロールボタンに対して登録された内容を消去する場合は、設定をいったん終了し、手順1からもう一度行ってください。

5　リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

ひとつのマルチコントロールボタンに登録されたすべての設定を消去する

あるマルチコントロールボタンに対して設定された、すべてのボタンの登録内容を消去します。

1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「9」を3秒間押し続ける。
LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　設定を消去したいマルチコントロールボタンを3秒間押し続ける。
LEDランプが1秒間点灯すると、消去は完了です。

マルチコントロールボタンの入力切換を解除する（ダイレクトファンクション）

- 工場出荷時の設定：オン

ダイレクトファンクションはマルチコントロールボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを連動して切り換えるかを設定する機能です。
オフにすると入力ファンクションは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続していない機器を操作するときに便利です。

1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「5」を3秒間押し続ける。
LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す。
リモコンのLEDランプが1回点滅します。

3　数字ボタンでダイレクトファンクションのオン（1）またはオフ（0）を選ぶ。
LEDランプが1秒間点灯すると、設定は完了です。
正しく設定できなかった場合は、LEDランプが3回点滅します。この場合は設定し直してください。

4　リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

リモコンの照明モードを選択する

- 工場出荷時の設定：1（ノーマル）

使い勝手や電池寿命を考慮して、リモコンの照明パターンを４つのモードから選択することができます。

1　リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの6を3秒間押し続ける。
LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2　設定したいリモコン照明モードの数字ボタンを押す。
- 1（ノーマル）：照明ボタンを押してリモコンの照明をON/OFFします。点灯後、何も操作がないと10秒後に自動で消灯します。
- 2（照明モード）：リモコンのどのボタンを押しても照明が点灯します。照明ボタンで消灯します。点灯後、何も操作がないと10秒後に自動で消灯します。
- 3（エコモード）：照明ボタンを押してリモコンの照明をON/OFFします。点灯後、何も操作がないと5秒後に自動で消灯します。
- 4（オフ）：照明ボタンを押してもリモコンの照明は点灯しません。

LEDランプが1秒間点灯すると、設定は完了です。
正しく設定できなかった場合は、LEDランプが3回点滅します。この場合は設定し直してください。

3　リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

リモコンの他機器連動機能を使いこなす

視聴を始めるまでの一連の動作（起動時連動）や、視聴が終了したときにすべての機器の電源をオフにする動作（終了時連動）を、それぞれ5つまで操作（コマンド）を登録できます。
- 設定を行う前に、この機能で使用したいリモコンコードは、必ずプリセットコード設定か学習モードを使用して、何かのボタン（キー）に割り当てておく必要があります（67ページ参照）。
- 機器によっては電源が入るまで時間がかかる場合があり、その場合はその機器への操作が正しく行われないことがあります。
- 登録した機器の状態によっては、登録した動作と異なる場合があります。
- 通常、⏻ ボタンにはパワーのオン/オフコードが入っています。このコードでは、電源は前の状態の逆になるため、確実にオン(またはオフ）させることはできませんので、自由コマンドとして設定することはお勧めしません。

起動時連動（マルチオペレーション）は視聴を始めるための一連の動作を、2つのボタンを押すだけで実現させる機能です。マルチコントロールボタンごとに操作を登録でき、以下のような動作を実現できます。
（例）
他機器連動ボタンを押してから**DVD**ボタンを押す：
1．本機の電源をオンにする
2．本機をDVD入力にする
3. DVDプレーヤーなどの他機器に対して5つまでコマンドを順次送信（ユーザーにより自由に設定可能）
終了時連動（システムオフ）では2つのボタン操作だけで以下の動作を実現できます。終了時連動は1つだけ登録できます。
他機器連動ボタンを押してから⏻ **入力機器**ボタンを押す：
1．他機器に対して5つまでコマンドを順次送信（ユーザーにより自由に設定可能）
2. 本機を含めたすべてのパイオニア製機器の電源をオフにする（HDD/DVDレコーダーやビデオデッキなどの録画機器を除きます）
起動時連動や終了時連動は、他社製品の電源操作や再生/停止などを登録させると便利に使用できます。（何も登録しなくても、パイオニア製機器に対するコマンドは送信されます。）

連動操作を設定する

1 リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「3」を3秒間押し続ける。

LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

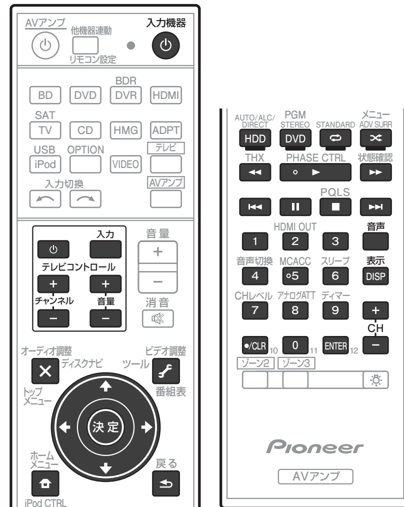
2 起動時連動の設定は、連動させたい機器のマルチコントロールボタンを押し、終了時連動の設定は、⏻ 入力機器ボタンを押す。

リモコンのLEDランプが２回点灯してから、ふたたび点滅します。

3 必要に応じて操作したい他機器操作ボタンを押す。

4 操作したい操作ボタンを押す。

例）再生►（または停止■）ボタンを押します。
操作の登録ができるボタンは以下のとおりです。



リモコンのLEDランプが1回点灯してから、ふたたび点滅します。
パイオニア製機器の場合、電源オフの操作は事前に登録されているため登録する必要はありません。

5 手順3～4を繰り返して、5つまでコマンドを登録する。

5つまでコマンドが登録されると、自動的に設定が終了します。

6 リモコン設定ボタンを押して設定を終了する。

連動操作（マルチオペレーション）を実行する

1 他機器連動ボタンを押す。

LEDランプが点滅し始めます。

2 連動させたい機器のマルチコントロールボタンを5秒間押し続ける。

プリセット動作と、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

連動操作（システムオフ）を実行する

1 他機器連動ボタンを押す。

LEDランプが点滅し始めます。

2 ⏻ 入力機器ボタンを5秒間押し続ける。

このボタンに登録したコマンドと、パイオニア製品の電源オフコマンドが送信されます。

連動設定を消去する

ひとつのマルチコントロールボタンに設定された起動時連動、または終了時連動の設定を消去します。

1 リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「8」を3秒間押し続ける。

LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2 起動時連動を消去する場合は、そのマルチコントロールボタンを３秒間押し続け、終了時連動を消去する場合は、⏻ 入力機器ボタンを3秒間押し続ける。

LEDランプが1秒間点灯すると、消去は完了です。

リモコンの設定をリセットする

リモコンの設定をすべてリセットし、工場出荷時の状態に戻します。

1 リモコン設定ボタンを押しながら、数字ボタンの「0」を3秒間押し続ける。

LEDランプが１回点滅します。ボタンを放すと点滅し続けます。

2 決定ボタンを3秒間押し続ける。

LEDランプが1秒間点灯すると、消去は完了です。

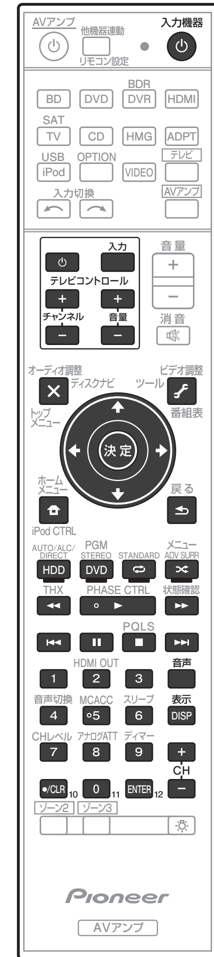
工場出荷時のプリセットコード

工場出荷時にボタンに割り当てられているプリセットコードは以下のとおりです。

ボタン	プリセットコード
DVD	2246
BD	2248
DVR BDR	2238
HDMI	2247
TV SAT	0186
CD	5066
CD-R	5067
VIDEO	1077
テレビ	0192

他機器の操作について

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは 67ページ の「他機器のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（プリセットコード設定）」をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。



テレビやオーディオ/ビデオ機器の再生操作

ボタン	テレビ	テレビ（モニター）	ブルーレイディスクプレーヤー / DVDプレーヤー	HDD/DVDレコーダー / ブルーレイディスクレコーダー	ビデオデッキ	衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー
⏻ **入力機器**	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン	チャンネルの選択	数字の入力	数字の入力	チャンネルの選択	チャンネルの選択	数字の入力
・/CLR (10)	10	・（ドット）	クリア	10	10	・（ドット）
ENTER (12)	12	チャンネル決定	決定	12	12	決定
✕	元の画面	元の画面	トップメニュー	トップメニュー /ディスクナビ	—	ナビ
🔧	番組表	ユーザーメニュー	ツール（ブルーレイディスクプレーヤー）	番組表	—	番組表
↑/↓/←/→	↑/↓/←/→	↑/↓/←/→	↑/↓/←/→	↑/↓/←/→	—	↑/↓/←/→
決定	決定	決定	決定	決定	—	決定
⌂	ホームメニュー	ホームメニュー	ホームメニュー	ホームメニュー	—	メニュー
↩	戻る	戻る	戻る	戻る	—	戻る
HDD（青）	青ボタン	青ボタン	—	HDD	—	青ボタン
DVD（赤）	赤ボタン	赤ボタン	—	DVD	—	赤ボタン
🔁（緑）	緑ボタン	緑ボタン	—	ビデオ	—	緑ボタン
🔀（黄）	黄ボタン	黄ボタン	メニュー	メニュー	—	黄ボタン
▶	—	—	▶	▶	▶	▶
❚❚	—	—	❚❚	❚❚	❚❚	❚❚
■	—	—	■	■	■	■
◀◀	—	—	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀
▶▶	—	—	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶
❙◀◀	—	—	❙◀◀	❙◀◀	—	❙◀◀
▶▶❙	—	—	▶▶❙	▶▶❙	—	▶▶❙
AUDIO	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換	音声切換
表示	表示切換	表示切換	表示切換	表示切換	—	表示切換
CH +/–	チャンネル切換	チャンネル切換	解像度切換 +/–	チャンネル切換	チャンネル切換	チャンネル切換

- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- テレビのプリセットコードを登録すると、登録したプリセットコードによって上記表のテレビまたはテレビ（モニター）どちらかに割り当てられます。
- DVDプレーヤーによっては、10以上を選ぶときに＋10方式ではなくENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは **・/CLR (10)**ボタンで操作することができます。

オーディオ/ビデオ機器の再生操作

ボタン	LDプレーヤー	CDプレーヤー / SACDプレーヤー /CDレコーダー	MDプレーヤー /DATプレーヤー	カセットデッキ	AM/FMチューナー
⏻ **入力機器**	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
数字ボタン	数字の入力	数字の入力	数字の入力	—	周波数/ステーションの選択
・/CLR (10)	+10	>10/クリア	クリア（MD）	クリア	ダイレクト選局
ENTER (12)	決定	ディスク/決定	開/閉（MD）	決定	クラス（A, B, C）の選択
✕	トップメニュー	—	—	MS←	AM/FM切換
🔧	—	LEGATO LINK（SACD）	—	MS→	設定
↑/↓/←/→	↑/↓/←/→	—	—	❚❚/■/◀◀/▶▶	↑/↓：周波数選択 ←/→：ステーション選択
決定	決定	—	—	—	決定
⌂	—	SACD SETUP（SACD）	—	—	—
↩	戻る	—	—	—	戻る
▶	▶	▶	▶	▶	—
❚❚	❚❚	❚❚	❚❚	❚❚	MPX
■	■	■	■	■	—
◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	◀◀	—
▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	▶▶	—
❙◀◀	❙◀◀	❙◀◀	❙◀◀	❙◀◀	—
▶▶❙	▶▶❙	▶▶❙	▶▶❙	▶▶❙	—
AUDIO	音声切換	PURE AUDIO（SACD）	—	—	—
表示	表示切換	TIME（SACD）	—	—	表示切換

- 機種によっては操作できないボタンもあります。

音の詳細設定（アドバンスドMCACC）

本機で設定できること

本機のホームメニュー（HOME MENU）で設定できる全項目です。

1 アドバンスドMCACC（サラウンドの自動設定 / 詳細な手動設定）

- a フルオートMCACC（サラウンドの自動設定）：すべてのMCACC項目の自動測定 →34 ページ
- b オートMCACC（個別項目選択可能なサラウンドの自動設定）
  - 全項目 / スピーカーシステム保持：音場補正の全項目を自動測定 →72 ページ
  - スピーカー設定：スピーカーシステムの自動設定 →72 ページ
  - スピーカー出力レベル、距離：スピーカー出力レベルおよびスピーカーまでの距離の自動設定 →72 ページ
  - EQ Pro & 定在波制御：残響特性を考慮した周波数特性の自動補正および定在波の自動制御 →72 ページ
  - Full Band Phase Ctrl：スピーカー群遅延特性の自動補正 →72 ページ
- c マニュアルMCACC（詳細なサラウンドの自動設定）
  - 1 Fine Channel Level：聴感による各チャンネルの出力レベルの微調整 →73 ページ
  - 2 Fine SP Distance：聴感による各スピーカーまでの距離の微調整 →73 ページ
  - 3 定在波制御：定在波制御の設定 →74 ページ
  - 4 EQの調整：聴感による周波数特性補正カーブの調整 →74 ページ
  - 5 EQプロフェッショナル：部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正 →74 ページ
    - a 残響特性の測定：部屋の残響特性の測定 →74 ページ
    - b 残響特性の確認：残響特性グラフ（補正前 / 後）の表示 →74 ページ
    - c アドバンスドEQセットアップ：残響特性を考慮した音場補正 →74 ページ
  - 6 Precision Distance：（SC-LX85 のみ）スピーカー位置の精密調整 →76 ページ
- d デモ（フルオートMCACCのデモ）：デモなので設定は反映されません →73 ページ

2 MCACCデータチェック（MCACCメモリーの確認）

- a スピーカー設定：スピーカー接続の有り / 無し、低域再生能力などの確認 →76 ページ
- b スピーカー出力レベル：各チャンネルの出力レベルの確認 →76 ページ
- c スピーカーまでの距離：各スピーカーまでの距離の確認 →76 ページ
- d 定在波制御：定在波制御設定値の確認 →76 ページ
- e Acoustic Cal EQ：周波数特性の補正値の確認 →76 ページ
- f 群遅延特性：スピーカー群遅延特性グラフ（補正前 / 後）の表示 →76 ページ

3 データ管理（MCACCメモリーのデータ管理）

- a MCACCメモリーの名称変更：MCACCメモリーの名前を変更 →77 ページ
- b MCACCメモリーのコピー：MCACCメモリーのコピー →77 ページ
- c MCACCメモリーの消去：MCACCメモリーを消去 →77 ページ

4 システム設定（本機のさまざまな設定）

- a マニュアルスピーカー設定（スピーカーの構成やサラウンド環境の手動設定）
  - 1 スピーカーシステム：スピーカーの用途設定 →78 ページ
  - 2 スピーカー設定：スピーカー接続の有り / 無し、低域再生能力などの設定 →79 ページ
  - 3 スピーカー出力レベル：各チャンネルの出力レベルの設定 →80 ページ
  - 4 スピーカーまでの距離：各スピーカーまでの距離の設定（最適なディレイ値に設定）→80 ページ
  - 5 X カーブ：部屋の大きさに合わせた高音域の減衰カーブの設定 →80 ページ
  - 6 THX オーディオ設定：THX オーディオについての各種設定 →80 ページ
- b 入力端子の設定：各入力の音声入力や映像入力の切り換え、入力名の変更などの設定 →35、81 ページ
- c OSD言語設定：OSD 言語の表示言語の設定 →86 ページ
- d ネットワーク設定
  - 1 IP アドレス、プロキシ：IP アドレスやプロキシの設定 →82 ページ
  - 2 ネットワークスタンバイ：ネットワークスタンバイ機能の設定 →82 ページ
  - 3 フレンドリーネーム：フレンドリーネームの設定 →82 ページ
  - 4 ペアレンタルロック：暗証番号の設定 →82 ページ
  - 5 ポート番号の設定：ポート番号の設定 →83 ページ
  - 6 無線LANコンバーター：無線 LAN コンバーターの設定 →83 ページ
- e HDMI設定：HDMI によるコントロール機能に対応した機器と連動操作するための設定 →54 ページ
- f その他の設定
  - 1 自動電源オフ：電源を自動でオフにする設定 →84 ページ
  - 2 音量設定：電源をオンしたときの音量や最大音量制限、消音時の音量の設定 →84 ページ
  - 3 リモコンモード設定：本機側のリモコンモードの設定 →84 ページ
  - 4 Flicker Reduction 設定：GUI 画面の見え方の調整 →84 ページ
  - 5 ソフトウエアの更新：ソフトウエアの更新 →85 ページ
  - 6 RF リモコン 設定：（SC-LX85 のみ）CU-RF100 端子の設定 →85 ページ
  - 6 エクステンション 設定：（SC-LX75 のみ）EXTENSION 端子の設定 →85 ページ
  - 7 マルチチャンネル入力設定：マルチチャンネル入力の設定 →85 ページ
  - 8 Bluetooth 機器のペアリング：Bluetooth 機器を使用するための初期設定 →40 ページ

5 ネットワーク情報（ネットワークに関するさまざまな情報）

- ネットワーク情報：ネットワークに関する情報の表示 →83 ページ

6 操作モード設定（本機の操作モードの設定）

- 操作モード設定：2 つのモードからお好みの操作モードを選択 →35 ページ

本機のリモコン操作について



重要

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は**AVアンプ**ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

リスニング環境の設定について 〜サラウンド再生のための設定〜

本機の**オートMCACC**セットアップ機能では、下記の設定（音場補正）を自動で行うことができます。

スピーカー設定
ソースに含まれる音声成分のすべてを再生するために、スピーカー接続の有り/無しや低域再生能力、クロスオーバー周波数などを設定します。この項目は、すべてのMCACC MEMORYに共通の設定となります。

スピーカー出力レベル
リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせる設定です。

スピーカーまでの距離
距離を設定することで各チャンネル間の遅延（ディレイ）を算出・補正します。

定在波制御
壁などの影響で発生した低域の特定周波数での極端なピーク音を除去します。

残響特性の測定
リスニングルームの残響特性を測定し、MCACCの補正精度を向上します。

視聴環境の周波数特性の補正（Aco Cal EQ Pro）
スピーカーの種類や、部屋の環境差によって生じた各チャンネル周波数特性のばらつきを補正します。EQ補正のカーブも3タイプから選べます。

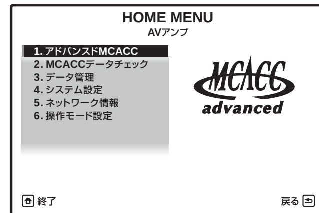
ホームメニュー設定の手順

ホームメニュー画面を開くまでの手順です。ここから各設定の操作に進めます。

1 ⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。

テレビに本機のGUIメニュー画面が表示されるようテレビ側の入力切換を合わせてください。

2 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。



テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

- ホームメニュー画面表示中は、**ホームメニュー**ボタンを押すことでいつでもホームメニュー画面を閉じることができます。



メモ

- ヘッドホン使用中は、ホームメニュー画面は表示できません。
- 約5分間放置するとホームメニュー画面には自動的にスクリーンセーバー機能が働きます。
- 一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、本機を使用するたびに設定し直す必要はありません。ただし、スピーカーシステムの構成や配置を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります。
- ホームメニューの設定中は電源を切らないでください。電源を切るときはホームメニューの設定を終了してください。

オートMCACCで詳細に測定／設定する

オートセットアップ（**フルオートMCACC**）の基本的な使用方法は34ページをご覧ください。
72ページ の「ホームメニュー設定の手順」の手順1 〜 2を行ってから以下の操作を行ってください。



注意

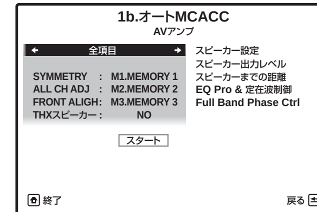
- 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

1 [アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

2 [オートMCACC]を選んで決定する。

オートMCACC画面が表示されます。

3 測定/設定の項目を選択する。



各項目に対する測定/設定内容は、画面右側に表示されます。

- **全項目**：すべての項目を測定/設定します。
- **スピーカーシステム保持**：スピーカーシステムの設定以外の全項目を測定/設定します。

上記以外の場合は、それぞれの項目について個別に測定/設定します。

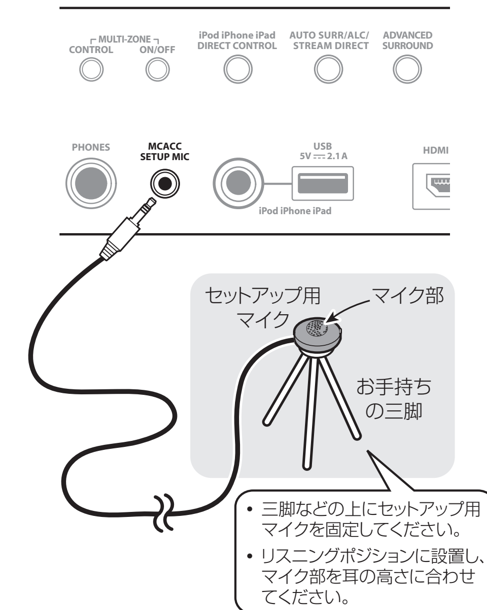
4 保存先を選択する。

測定/設定した結果の保存先を「M1.MEMORY 1」〜「M6.MEMORY 6」から選択します。

- MEMORY内のデータは上書きされます。
- 測定終了後、**MCACC**ボタンを押してMEMORYを切り換えることで、本機を各補正後の状態にすることができます。（44ページ）

5 付属のセットアップ用マイクを接続する。

スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できない場合があります。



セットアップ用マイクは、三脚などを使用してリスニングポジションの耳の高さに設置してください（三脚がない場合は、なるべく三脚に代わるものを用意してください）。

- テーブルやソファーの上などに置くと、正しく測定できない場合があります。

6 [スタート]を選んで決定する。

オートMCACCで選択した項目の自動測定に進みます。
アドバンスドMCACCのメニュー画面が表示されたら自動測定は終了です。測定が終わったら、必ずセットアップ用マイクを本機から抜いてください。
測定した内容を確認することができます。 76ページの「MCACCデータを確認する」をご覧ください。



メモ

- **スピーカー設定**は、**全項目**で測定するたびに測定結果が更新されます。
- **フルオートMCACC**や**全項目**での測定後にリスニングポイントを変えて測定したいときは、**スピーカーシステム保持**で測定してください。
- 使用するスピーカーの構成を変更した場合は、**フルオートMCACC**または**全項目**で測定し直してください。
- 各スピーカーと視聴環境との相互作用によって、まれに**オートMCACC**の測定が正しく行われないことがあります。その場合は手動で設定を調整することをお勧めします。

EQタイプ（視聴環境の周波数特性の補正）について

EQタイプは**全項目**、**スピーカーシステム保持**を選択したときのみ設定可能です。
各EQタイプの保存先をそれぞれ設定すれば、一度の測定で複数タイプのEQ補正が行われ、内容が保存されます。
なお、**SYMMETRY**, **ALL CH ADJ**, **FRONT ALIGN**のうち１つを測定すれば、他の項目は測定を省略できます。

- **SYMMETRY**：L/Rでペアになっているスピーカー1組ごとの周波数特性をフラットに補正します。センターなどペアでないスピーカーは個別に補正します。位相特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。
- **ALL CH ADJ**：全チャンネルの周波数特性を、それぞれ個別にフラットに補正します。周波数特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。
- **FRONT ALIGN**：フロント以外のスピーカーをフロントの特性に合わせこむ補正をします（フロントスピーカーは補正しません）。フロントスピーカーの特性を重視した補正をしたい場合にお勧めします。

その他の設定項目について

THXスピーカー
（オートMCACCで全項目、スピーカー設定を選択したときのみ設定可）

- THX認証のスピーカーを使用しているときは**YES**を選択します（このとき、**スピーカー設定**でフロント以外のスピーカーはすべて**SMALL**（小）の設定になります。サブウーファーが接続されている場合は、フロントスピーカーも必ず**SMALL**（小）の設定になります）。THX認証のスピーカーを使用しない場合は**NO**のままにしておきます。

MCACC
（オートMCACCでスピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、EQ Pro & 定在波制御を選択したときのみ設定可）

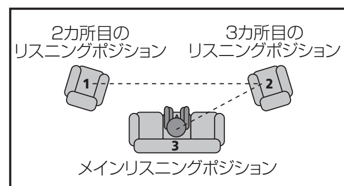
- 測定/設定値の保存先を選びます。各項目についてのデータのみ上書きされます。

EQタイプ
（オートMCACCでEQ Pro & 定在波制御を選択したときのみ設定可）

- EQ補正カーブ（視聴環境の周波数特性の補正）を1つ選択します（各EQ補正カーブの説明は上記をご覧ください）。

定在波制御 多点測定

- **YES**にすることでメインのリスニングポジションとそれ以外のリスニングポジション2カ所（計3カ所）の定在波制御を行うことができます。設定の手順はGUI画面に従って、以下のイラストのようにメインポジションでの測定が最後になるようにセットアップ用マイクを設置していきます。リスニングポジションを1カ所でお楽しみいただくときは**NO**にすることをお勧めします。



フルオートMCACCのデモモードについて

アドバンスドMCACCの**デモ**を選ぶと、**フルオートMCACC**のデモモードになります。デモモードはセットアップ用マイクを使用せずに行うことが可能で、スピーカーを接続していればテストトーンも出力されます。デモモードでの測定内容は本機の設定に反映されず、エラーも発生しません。デモモードは一度開始すると繰り返し行われます（1回目が終わるとスクリーンセーバーが働きます）。終了させるには**戻る**ボタンを押してください。

リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～

マニュアルMCACCでは、設定をより詳しく手動で調整することができます。それぞれの調整を行う前にフルオートMCACCを行っておいてください（34ページ）。

注意

- **マニュアルMCACC**ではテストトーンが出力される設定があります。テストトーンは大きな音で再生されますので、ご注意ください。

重要

- それぞれの調整を行う前に、リモコンをアンプ操作モードにしてから**MCACC**ボタンを押し、調整したいMCACC MEMORYを選んでおいてください。
- 設定にはセットアップ用マイクを使用することがあります。マイクの接続のしかたは、34ページをご覧ください。マイクを接続する際は、**ホームメニュー**ボタンを押してホームメニュー画面が表示されている状態で差し込んでください。ホームメニュー画面が表示されていない状態でマイクを差し込むと、**フルオートMCACC**のスタート画面になります。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

2　[アドバンスドMCACC]を選んで決定する。

3　[マニュアルMCACC]を選んで決定する。

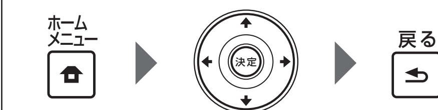
4　調整したい項目を選ぶ。
詳しくはそれぞれの項目の説明をご覧ください。

スピーカー出力レベルの微調整（Fine Channel Level）

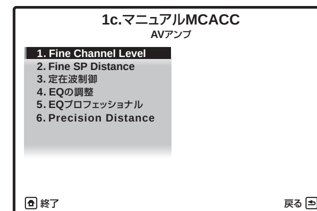
- 工場出荷時：**0.0dB**（全チャンネル）

フロント左スピーカーを基準として、その他のチャンネルレベルを調整します。選択したチャンネルとそのチャンネルに対して基準となるチャンネルからテストトーンが再生されますので、両方のテストトーンが同じ大きさに聞こえるように調整します。

ホームメニューで使用するボタン

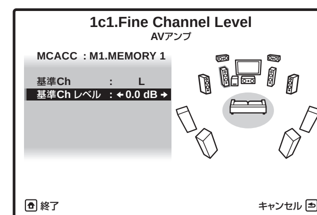


1　[Fine Channel Level]を選んで決定する。



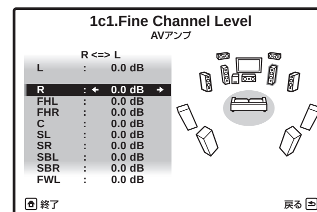
スピーカー出力レベルの微調整を行う画面になります。MASTER VOLUMEが自動的に0.0 dBになり、テストトーンが出力されます。

2　フロント左チャンネルのレベルを調整して決定する。



フロント左チャンネルからテストトーンが出力されます。
音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト／スローモードで75 dB SPLに調整してください。

3　フロント右チャンネルから順番に、各チャンネルのレベルを調整する。



選択したチャンネルとそのチャンネルに対して基準となるチャンネルから、交互にテストトーンが出力されます。両方のテストトーンが同じ大きさになるように調整します。
–12.0 dBから＋12.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

- サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため、実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

4　設定が終了したら、戻るボタンを押す。
スピーカー出力レベルの微調整を終了します。

スピーカーまでの距離の微調整（Fine SP Distance）

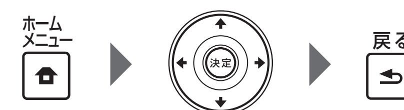
- 工場出荷時：**3.00 m**（すべてのスピーカー）

フロント左スピーカーを基準として、その他のスピーカーの距離を調整します。選択したチャンネルと、そのチャンネルに対して基準となるチャンネルからテストパルスが再生されます。その2つのスピーカーに対してリスニングポジションから下図のように向き、2つのテストパルスの聞こえるポイントが中央に定位するように数値を調整します。

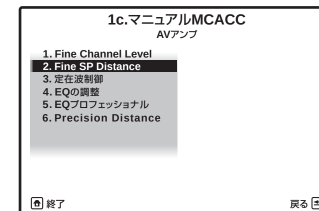


このときさらに細かく中央に定位させたいときは、スピーカーの位置を数mm単位で動かしたり、向きを少し動かすことでポイントを中央に定位させることができます。

ホームメニューで使用するボタン

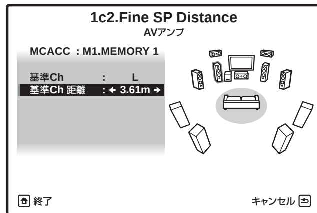


1　[Fine SP Distance]を選んで決定する。

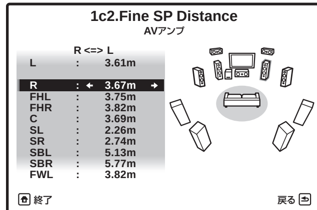


スピーカーまでの距離の微調整を行う画面になります。MASTER VOLUMEは自動的に0.0 dBになり、テストパルスが再生されます。

2　フロント左チャンネルのスピーカーまでの実測距離を入力して決定する。



3　フロント右チャンネルから順番にスピーカーまでの距離を調整する。



選択したチャンネルとそれに対して基準となるスピーカーから、テストパルスが出力されます。
0.01 mから9.00 mの範囲内で、0.01 m（1 cm）間隔で設定できます。

4　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカーまでの距離の微調整を終了します。

 メモ

- サブウーファーのテストパルスは他chと音色が異なります。サブウーファーの音がはっきり聞こえるように調整してください。また、サブウーファーの調整はお持ちのスピーカーの低域再生能力によって、設定値を上下したりスピーカーの位置を変えても聞こえ方の変化がわかりにくい場合があります。
- テストパルスの聞こえるポイントがどうしても中央に定位しないときは、スピーカーと本機の+、−端子が正しく接続されているかを確認してください。+と−が逆に接続されていると中央に定位しません。
- スピーカーまでの距離の調整は、映像の「ピント合わせ」によく似ています。ピントが合っていない映像はどこで見てもぼやけて見えますが、ピントが合った映像は遠くからでも見ることができます。音の焦点も同じで、ある一点（マイクを置いたリスニングポジション）に音源からの到達時間をしっかり合わせることで、リスニングポジション一点だけでなくマルチチャンネル環境における音場全体を正しく形成します。

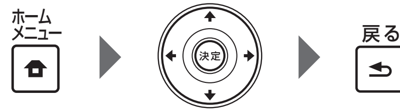
定在波フィルターの調整（定在波制御）

- 工場出荷時：ON/ATT 0.0dB（全フィルター）

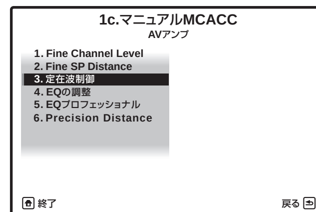
オーディオの世界で問題となる定在波（Standing Wave）は、音波が壁などで反射し、もとの音波と干渉することで発生します。定在波は特定の低域周波数に極端なピークなどが発生したとき音質に悪影響を与えます。定在波の影響はスピーカーの位置やリスニングポジションによっても変化します。ここでは実際に音楽ソースなどの再生音を聴きながら、定在波の影響を制御します。

- 音声入力でHDMIを選んでいるときは、実際に音を聞きながらの補正を行うことはできません。

ホームメニューで使用するボタン

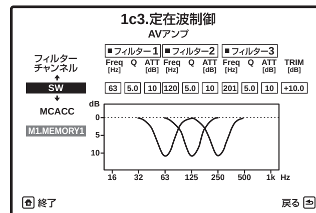


1　[定在波制御]を選んで決定する。



定在波制御のフィルター設定画面になります。

2　フィルターチャンネルを選ぶ。



どのチャンネルの定在波を制御するか選択します。
各チャンネルごとに用意された、3つのフィルターで定在波の影響を制御します。

- MAIN：センタースピーカーとサブウーファー以外のすべてのチャンネル
- Center：センターチャンネルのみ
- SW：サブウーファーのみ

3　フィルター No.1からNo.3について、各項目を調整する。

Freq：各フィルターの中心周波数を、63 Hz ～ 250 Hzの範囲で調整します。
Q：各フィルターの帯域幅を2.0 ～ 9.8の範囲内、0.2間隔で調整します。数値が大きくなるほど帯域幅はより狭くなります。
ATT：各フィルターの減衰量を、0.0 dB ～ 12.0 dBの範囲内、0.5 dB間隔で設定します。
TRIM：サブウーファーのレベルを−12.0 dB ～ ＋12.0 dBの範囲内、0.5 dB間隔で調整します。（フィルターチャンネルでSWを選んだときのみ調整できます）

4　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

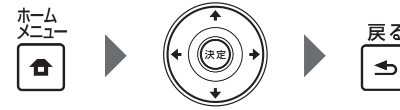
定在波フィルターの調整を終了します。

チャンネルごとの周波数特性の補正（EQの調整）

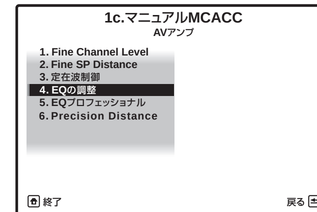
- 工場出荷時：ON/0.0dB

補正カーブを手動で調整します。

ホームメニューで使用するボタン

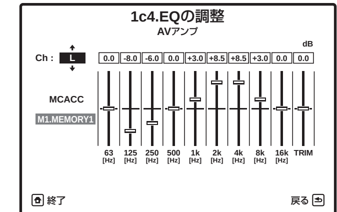


1　[EQの調整]を選んで決定する。

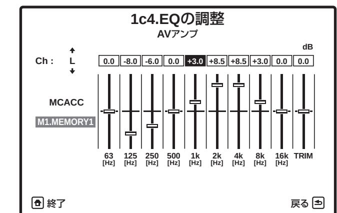


補正カーブの調整画面になります。

2　調整したいチャンネルを選ぶ。



3　調整したい周波数帯域を選んで調整する。



–12.0 dBから＋12.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

- 調整中にOVER!がディスプレイに表示されたときは、その帯域または他の帯域のレベルが高すぎるので、OVER!表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げてください。
- スピーカー設定でSMALL（小）に設定されたチャンネルは「63 Hz」を選ぶことはできません。
- TRIMでは、それぞれの帯域を調整することで、変わってしまった全体的なレベルのバランスを再調整します。

4　手順2 ～ 3を繰り返して、各チャンネルの周波数帯域を調整する。

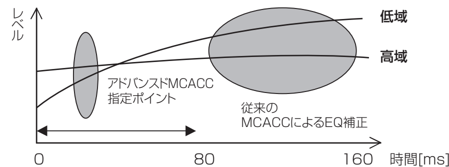
5　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

チャンネルごとの周波数特性の補正を終了します。

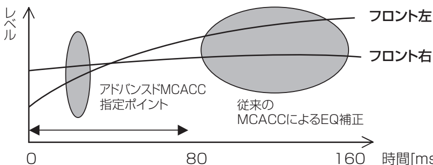
部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正（EQプロフェッショナル）

視聴環境の残響特性（音の響き方）が以下のケース1～3のいずれかに当てはまる場合は、EQプロフェッショナルを行うことで、理想的な音場に補正されます。
GUI画面（テレビ画面）に表示される残響特性を参考にしながら、周波数特性の補正を行うための「時間軸上の位置」をお好みで選択し補正を行ってください。

- **ケース１）周波数ごとに残響特性が異なる場合**
  アドバンスドEQセットアップで**30-50ms**くらいを指定すると、スピーカーからの直接音（初期反射音を含む）がフラットになり、聴きやすい音場になります。



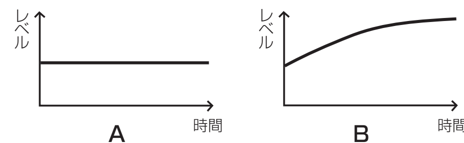
- **ケース2）チャンネルごとに残響特性が異なる場合**
  アドバンスドEQセットアップで**30-50ms**くらいを指定して補正をすると、直接音の特性がそろった理想的な音場でお楽しみいただけるようになります。



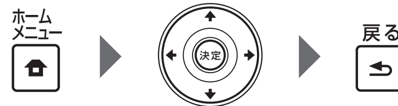
- **ケース3）全体的に残響特性が似ている場合**
  アドバンスドEQセットアップで**60-80ms**くらいを指定して補正することをお勧めします。直接音と残響音をすべて含んだトータルでの補正が行われ、理想的な音場空間を再現することができます。


重要

- **アドバンスドEQセットアップ**を行う前に必ず**フルオートMCACC**（34ページ）を行ってください。フルオートMCACCでは残響特性の測定から最適な時間位置によるEQ補正を含めすべて自動で行われるため、理想的な環境に補正されます。
- **アドバンスドEQセットアップ**は、以前に測定した**フルオートMCACC**（34ページ）または**オートMCACC**（72ページ）の補正カーブを上書きしてしまいますのでご注意ください。過去のデータを残したいときは、別のMCACC MEMORYを選んでから**アドバンスドEQセットアップ**を行ってください。
- **残響特性の確認**では、定在波制御の設定値によって残響特性のグラフに違いが出ることがあります。**フルオートMCACC**では、定在波の影響を排除した残響特性グラフが表示され、**残響特性の測定**では定在波を制御せずに残響測定するため、定在波の影響を含んだ残響特性グラフが表示されます。
- 残響特性グラフの表示について、残響がない場合は下図Aのようになります。残響がある場合は、徐々に音響パワーが累積されて下図Bのようになります。



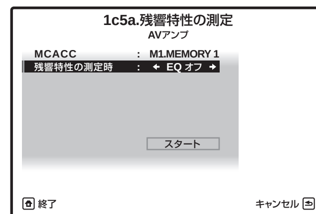
ホームメニューで使用するボタン



1　[EQプロフェッショナル]を選んで決定する。

2　[残響特性の測定]を選んで決定する。

3　[EQオン]または[EQオフ]を選ぶ。



- **EQオフ**：EQ補正前の残響特性を測定します。
- **EQオン**：現在選択しているMCACC MEMORYのEQで、EQ補正後の残響特性を測定します。あらかじめ、補正後の残響特性を測定したいMCACC MEMORYを選択したうえで、このメニューへ進んでください。

4　マイクを接続して残響特性の測定の準備をする。

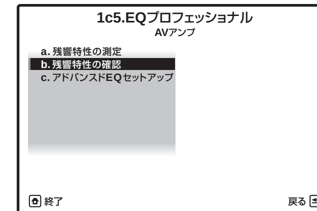
- セットアップ用マイクは、三脚などを使用してリスニングポジションの耳の高さに設置してください（三脚がない場合は、なるべく三脚に代わるものを用意してください）。
- 測定は静かな環境で行ってください。
- スピーカーとリスニングポジション（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できない場合があります。

5　[スタート]を選んで決定する。

残響特性の測定になります。測定にはおよそ1 ～ 3分程度かかります。

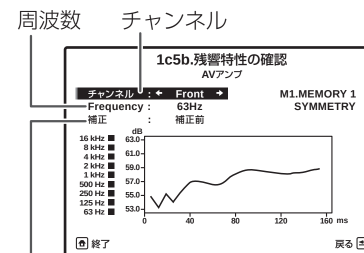
測定終了後、測定結果をGUI画面で確認するときは次の手順へお進みください。測定結果を確認せずに周波数特性の補正を行うときは、手順9へお進みください。

6　[残響特性の確認]を選んで決定する。



残響特性の測定結果（残響特性グラフ）が表示されます。

7　測定結果を確認したいチャンネル、周波数を選ぶ。



補正前後の切り換え

各チャンネルにおける各周波数の残響特性を確認してください。グラフの縦軸はレベル[dB]、横軸は時間[ms]を示しています。

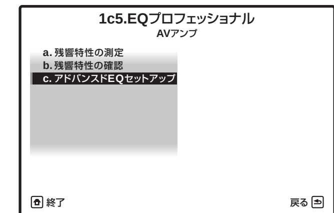
補正前後の表示を切り換えることができます。**補正後**はEQ補正後の残響特性を表示します。**補正前**に比べ、各周波数ごとのグラフがEQの補正分だけ上下に平行移動し、指定した補正時間位置（Time Position)でそろうことが確認できます。

8　戻るボタンを押す。

残響特性の測定結果画面を終了します。

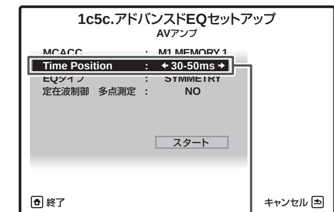
- 部屋の残響特性を改善したいときはここで吸音材の調整などを見直し、視聴環境の整備を行ってください。調整後は再度**残響特性の測定**を行い、その効果を確認することをお勧めします。

9　[アドバンスドEQセットアップ]を選んで決定する。



補正時間位置を指定する画面になります。

10 補正時間位置（Time Position）を指定する。



補正時間位置

0-20ms ～ 60-80msの間を10 ms間隔で選択できます。

11 必要に応じて[EQタイプ]と[定在波制御 多点測定]を設定する。

それぞれの詳しい説明は73ページをご覧ください。

12 [スタート]を選んで決定する。

手順10で選んだ時間帯の音で、周波数特性の補正を自動で行います。測定にはおよそ2 ～ 4分程度かかります。

13 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

部屋の残響特性の測定と残響を考慮した補正(EQプロフェッショナル)を終了します。

76ページ の「MCACCデータを確認する」で測定結果を確認できます。


メモ

- 本機の「残響特性測定およびグラフ表示機能」は、視聴環境整備のツールとして有効にお使いいただけます。スピーカーのL/R（左右）で特性が大きく異なる場合は、片側の設置に問題があったり、左右の壁の反射が大きく影響している、などが考えられます。設置の見直しや、吸音材の使用効果などを何度も確認しながら、より理想的な視聴環境をつくるためにお役立てください。

- フルオートMCACCを行ったあとでも、**残響特性の確認**で補正前の残響特性を表示できます。EQタイプ：SYMMETRYで測定を行った場合は、補正後の残響特性(予測値)も表示できます。SYMMETRY以外のEQタイプで測定を行った場合は、補正前の残響特性は表示されますが、補正後の残響特性は**No Data**となります。実測による補正後を確認したい場合は、手順8で**EQオン**を選んでください。
- EQカーブの特性上、EQタイプ：SYMMETRY（およびFRONT ALIGN）の補正後の残響特性は各L／Rのチャンネルを一組のペア（**Front**など）で表示されます。ALL CH ADJでは各個別のチャンネルごとに表示されます。

スピーカー位置の精密調整（Precision Distance）

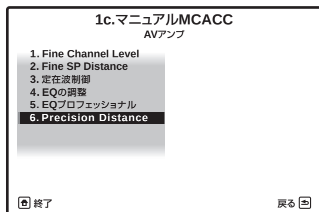
SC-LX85のみ

この機能を使う前に、**フルオートMCACC**（34ページ）を行ってください。**フルオートMCACC**のスピーカー距離補正によってスピーカーまでの距離は1 cm精度で補正されますが、ここでは1 cm以下の精度でスピーカーの距離（位置）を微調整します（サブウーファーは調整の対象外です）。マイクからの入力が画面に表示されるので、ゲージが最大になるように各スピーカーの位置を微調整してください。従来は熟練した専門業者が聴覚により行っていた微細な距離調整を、モニター上に表示されるゲージを見ながら簡単に調整できます。
本機能ではマイクを使用します。マイクの接続のしかたは、34ページをご覧ください。マイクは**フルオートMCACC**を行ったときと同じ位置に配置します。

注意

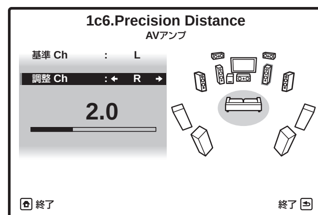
- 測定中は大きな音でテストパルスが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

1 [Precision Distance]を選んで決定する。



スピーカーの位置の微調整を行う画面になります。

2 フロント右チャンネルから順番にスピーカーの位置を微調整する。



選択したチャンネルとそれに対して基準となるスピーカーからテストパルスが出力されます。選択しているスピーカーの位置を動かし、微調整します。画面を見ながらスピーカーの位置をマイクに対して1 cm程度前後に動かし、ゲージと数字が最大になるように微調整してください。また、調整するチャンネルによって基準となるチャンネルが変わっていくので、基準チャンネルのスピーカーは動かさないでください。
ゲージは最大で10.0まで上げることができます（10.0にならない場合は、最大値が出る位置にスピーカーを調整してください）。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカーの位置の精密調整を終了します。

メモ

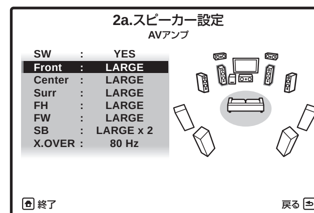
- スピーカーまでの距離の調整は、映像の「ピント合わせ」によく似ています。ピントが合っていない映像はどこで見てもぼやけて見えますが、ピントが合った映像は遠くからでも見ることができます。音の焦点も同じで、ある一点（マイクを置いたリスニングポジション）に音源からの到達時間をしっかり合わせることで、リスニングポジション一点だけでなくマルチチャンネル環境における音場全体を正しく形成します。
- **フルオートMCACC**を行った位置と異なる位置にマイクを設置すると正しく調整できないことがあります。その場合は**Fine SP Distance**（73ページ）を行い、マイク位置をそのままの状態にしてここでの調整を行うことをお勧めします。
- ここでの調整はオートMCACCでは調整できない1 cm以下の誤差を調整する機能なので、オートMCACCによる距離補正後でも「0.0」と表示されることがありますが、その場合でも最適な調整が行うことができます。また、ここでの精密調整完了後に再度オートMCACCを行うと1 cm精度での補正に戻ってしまいますのでご注意ください。
- オートMCACCと同じように、できるだけ静かな環境で調整してください。また調整中に突発的なノイズなどが入力されたときは「0.0」と表示されます。

- R chから順番どおりに調整しないと、すべてのチャンネルの距離はそろいません。
- スピーカーを動かす際は、スピーカーが倒れたりしないように十分にご注意ください。
- ここでの調整を行ったあとに、73ページ の「スピーカーまでの距離の微調整（Fine SP Distance）」のテストパルスを聞くと調整した効果が確認できます（調整前よりも各スピーカー間のテストパルスが中央に定位します）。その際には距離の値を変えないようにご注意ください。

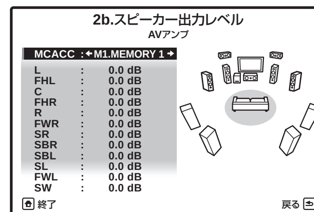
MCACCデータを確認する

34ページ の「スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～」や 72ページ の「オートMCACCで詳細に測定／設定する」、73ページ の「リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～」で設定された、以下の各設定項目の内容や設定値を確認することができます。

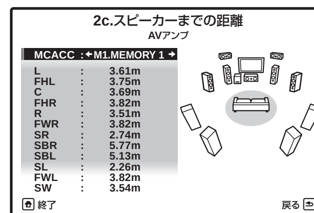
- **スピーカー設定**：スピーカーシステムの設定



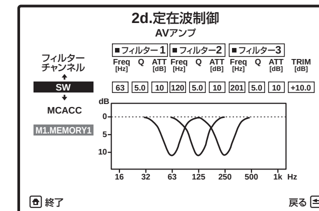
- **スピーカー出力レベル**：スピーカー出力レベルの設定



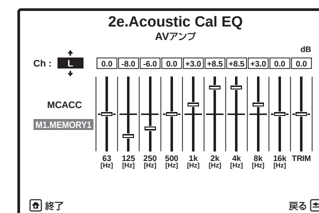
- **スピーカーまでの距離**：スピーカーまでの距離



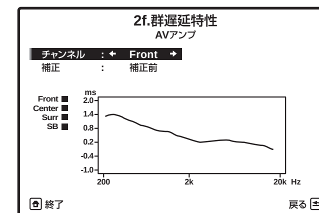
- **定在波制御**：定在波制御フィルター設定



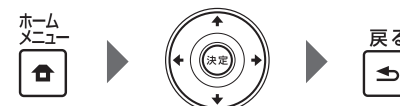
- **Acoustic Cal EQ**：視聴環境の周波数特性の補正値



- **群遅延特性**：スピーカーの群遅延特性（補正前と補正後）



ホームメニューで使用するボタン



1 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

2 [MCACCデータチェック]を選んで決定する。

確認したい設定項目の選択画面になります。

3　確認したい設定項目を選んで決定する。

4　必要に応じて確認したいMCACC MEMORYやChなどを選ぶ。

ソースを再生しながらMCACC MEMORYを変えることで、各MEMORYの設定値を確認しながらそのサウンドの変化を確認することができます。
他の設定項目を確認するときは、**戻る**ボタンを押して前の画面へ戻ります。

5　確認が終了したら、戻るボタンを押す。

MCACCデータの確認を終了します。

MCACC MEMORYのデータを管理する ～データ管理～

34ページ の「スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～」や 72ページ の「オートMCACCで詳細に測定／設定する」、73ページ の「リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～」で設定された各種設定内容や設定値をコピー、消去することができます。またMCACC MEMORYの名前を変更することもできます。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

2　[データ管理]を選んで決定する。

3　調整したい項目を選ぶ。

- **MCACCメモリーの名称変更**：MCACCメモリーの名前を変更します（77ページ）
- **MCACCメモリーのコピー**：MCACCメモリーをコピーします（77ページ）
- **MCACCメモリーの消去**：MCACCメモリーを消去します（77ページ）

設定データの名前を変更する（MCACCメモリーの名称変更）

MCACC MEMORY１ ～ 6の名前を変更することができます。たとえば、映画を楽しむリスニングポジションで音場補正を行ったときは「MOVIE」、ゲームを楽しむリスニングポジションであれば「GAME」のように変更することができます。
変更したい設定データの名前は以下の中から選びます。
[SYMMETRY] [ALL ADJ] [F.ALIGN] [MOVIE] [MUSIC] [GAME] [PARTY] [SOFA] [SEAT]

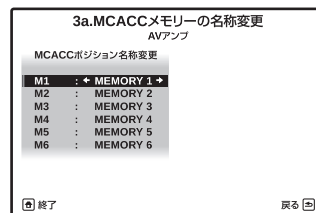
ホームメニューで使用するボタン



1　[MCACCメモリーの名称変更]を選んで決定する。

名前を変更したいMCACC MEMORYの選択画面になります。

2　名前を変更したいMCACC MEMORYを選んで名前を変更する。



⬆/⬇でMCACCメモリーを選んで、⬅/➡で変更したい名前を選びます。

3　戻るボタンを押す。

MCACCメモリーの名称変更を終了します。

設定データをコピーする（MCACCメモリーのコピー）

34ページ の「スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～」や 72ページ の「オートMCACCで詳細に測定／設定する」、73ページ の「リスニング環境をお好みに調整する ～ マニュアルMCACC ～」で設定されたMCACC MEMORYを、他の5つのMEMORYのいずれかにコピーすることができます。MCACC MEMORYは全部で6つまで設定することができます。

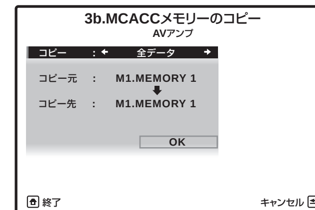
ホームメニューで使用するボタン



1　[MCACCメモリーのコピー]を選んで決定する。

コピーしたいMCACC MEMORY(コピー元)と、コピーされるMCACC MEMORY(コピー先）の選択画面になります。

2　コピーする内容を選ぶ。



- **全データ**：コピーされるMCACC MEMORYのすべての内容をコピーします。
- **レベルと距離のデータ**：コピーされるMCACC MEMORYのスピーカー出力レベルとスピーカーまでの距離の設定のみコピーします。

3　コピーしたいMCACC MEMORY（コピー元）を選んでからコピー先のMCACC MEMORY（コピー先）を選ぶ。

すでに設定されているMCACC MEMORYをコピー先にすると、データは上書きされてしまいますのでご注意ください。

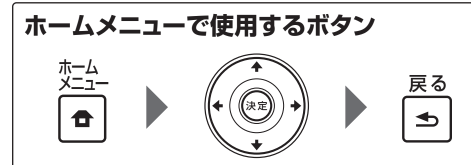
4　[OK]を選んでコピーする内容を決定する。

コピー確認のメッセージが表示されるので、**YES**を選びます。**NO**を選ぶとコピーは行われません。
完了しましたと表示されたらコピーは終了です。

設定データを消去する（MCACCメモリーの消去）

6つあるMCACC MEMORYの中から、必要のないMEMORYの内容を消去します。

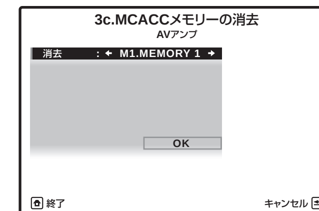
ホームメニューで使用するボタン



1　[MCACCメモリーの消去]を選んで決定する。

消去したいMCACC MEMORYの選択画面になります。

2　消去したいMCACC MEMORYを選ぶ。



3　[OK]を選んで消去を決定する。

消去確認のメッセージが表示されるので、**YES**を選びます。**NO**を選ぶと消去は行われません。
完了しましたと表示されたら消去は終了です。

4　他にも消去したいMCACC MEMORYがあるときは手順1 ～ 3を繰り返す。

システム設定およびその他の設定を行う

本機のリモコン操作について

 **重要**

- SC-LX85とSC-LX75では付属のリモコンをAVアンプ操作モードにする方法が異なります。SC-LX85はリモコン操作モード切り換えスイッチを**AVアンプ**に合わせます。SC-LX75は**AVアンプ**ボタンを押します。本取扱説明書で「リモコンをAVアンプ操作モードにする」という操作手順のときは、それぞれ上記の操作を行ってください。

システム設定で本機のさまざまな設定を行う

システム設定では、スピーカーの構成やサラウンド環境を手動で設定したり、入力端子の設定などを行います。また、OSD言語の設定やネットワークの設定、その他の設定などさまざまな設定を行います。

1 ⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。

テレビに本機のGUIメニュー画面が表示されるようテレビ側の入力切換を合わせてください。

2 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/**⬇**/**⬅**/**➡**と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

3 [システム設定]を選んで決定する。

4 調整したい項目を選ぶ。

- **マニュアルスピーカー設定**：スピーカーの構成やサラウンド環境の手動設定を行います（78ページ）
- **入力端子の設定**：各入力の音声入力や映像入力の切り換えや入力名の変更などを行います（35ページ）
- **OSD言語設定**：OSD表示言語の設定を行います（86ページ）
- **ネットワーク設定**：本機のネットワークに関する設定を行います（82ページ）
- **HDMI設定**：HDMIによるコントロール機能に対応した機器と連動操作するための設定（54ページ）
- **その他の設定**：本機のさまざまな設定を行います（84ページ）

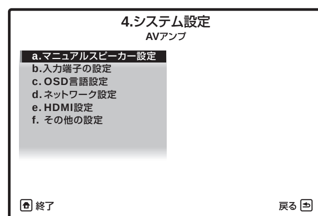
スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～

34ページ の「スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～」でオートセットアップを行った場合は、すでに設定されています。必要に応じてお好みで再設定できます。

 **注意**

- **マニュアルスピーカー設定**ではテストトーンが出力される設定があります。テストトーンは大きな音で再生されますので、ご注意ください。

1 [マニュアルスピーカー設定]を選んで決定する。



ここから読む場合は 78ページ の「システム設定で本機のさまざまな設定を行う」の手順1 ～ 3を行ってください。

2 調整したい項目を選ぶ。

- **スピーカーシステム**：スピーカーの配置/使用パターンに合ったスピーカーシステムを設定します（78ページ）
- **スピーカー設定**：スピーカーの本数やサイズなどを設定します（79ページ）
- **スピーカー出力レベル**：スピーカーの出力レベルを調節します（80ページ）
- **スピーカーまでの距離**：スピーカーまでの距離を設定します（80ページ）
- **Xカーブ**：聴感上の高域補正を行います（80ページ）
- **THXオーディオ設定**：THXオーディオに関する設定を行います（80ページ）

スピーカーの使用用途を選択する（スピーカーシステム）

- 工場出荷時：**9.1ch FH/FW**

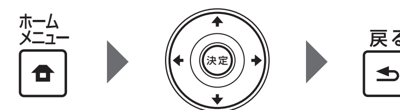
本機では9 ch分のアンプを使用してさまざまなスピーカーシステムを構築することができます。工場出荷時の設定ではフロントハイトまたはフロントワイドを使用した9 chサラウンドシステムとなっておりますが、バイアンプ接続やマルチゾーン接続、スピーカー B端子を使用したスピーカーシステムといったスピーカー配置が選択できます。ここでは 14ページ の「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」で選んだスピーカー配置に合った設定を以下の項目から選択します。

- **9.1ch FH/FW**：フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを接続して最大9.2 chのサラウンド再生を行う、一般的なサラウンドシステム
- **7.1ch + Speaker B**：メインの7.1chシステムの音を、スピーカー B端子でメインとは別に2chダウンミックスしてステレオ再生します
- **7.1ch Front Bi-Amp**：フロントスピーカーのバイアンプ駆動用（7.1chシステム）
- **7.1ch + ZONE 2**：メインの7.1chシステムの音とは別に、フロントワイドスピーカー端子を使ってゾーン2接続します（56ページ）
- **7.1ch FH/FW + ZONE 2**：メインの7.1chシステムの音とは別に、サラウンドバックスピーカー端子を使ってゾーン2接続します（56ページ）
- **5.1ch Bi-Amp + ZONE 2**：メインの5.1chシステム（フロントバイアンプ接続）の音とは別に、サラウンドバックスピーカー端子を使ってゾーン2接続します
- **5.1ch + ZONE 2+3**：メインの5.1chシステムの音とは別に、サラウンドバックスピーカー端子を使ってゾーン2接続、フロントワイドスピーカー端子を使ってゾーン3接続します（ 56ページ の「別の部屋で本機の音や映像を再生する ～マルチゾーン機能～」）

SC-LX85のみ

- **5.1ch + SP-B Bi-Amp**：メインの5.1chシステムの音とは別に、スピーカー Bをバイアンプ接続します（ 17ページ の「バイアンプ接続」）
- **5.1ch F+Surr Bi-Amp**：メインの5.1chシステムの音とは別に、フロントスピーカーおよびサラウンドスピーカーをバイアンプ接続します（ 17ページ の「バイアンプ接続」）
- **5.1ch F+C Bi-Amp**：メインの5.1chシステムの音とは別に、フロントスピーカーおよびセンタースピーカーをバイアンプ接続します（ 17ページ の「バイアンプ接続」）

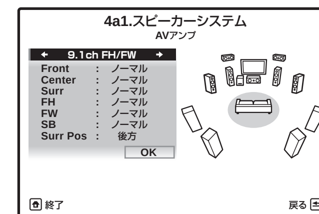
また、サラウンドバックスピーカーを接続している場合は、サラウンドスピーカーの設置位置（**Surr Pos**）を指定します。本来の5.1chサラウンドチャンネルは斜め後方から聞こえるように収録されていますが、7.1chサラウンドの推奨スピーカー配置では、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横（**横**）に配置するため、5.1chのサラウンドチャンネル音声が真横から聞こえてしまいます。このような場合、本機でサラウンドチャンネル音声をサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーでミックスし、リスニングポジションの斜め後方から正しく聞こえるように出力します。
詳細については、14ページ の「スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ」をご覧ください。



1 [スピーカーシステム]を選んで決定する。

ここから読む場合は 78ページ の「スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～」の手順1を行ってください。
スピーカーシステムの選択画面が表示されます。詳しい説明は上記をご覧ください。

2 スピーカー配置/使用パターンに合ったスピーカーシステムを選ぶ。



3 手順2で[9.1ch FH/FW]か[7.1ch + Speaker B], [7.1ch Front Bi-Amp], [7.1ch + ZONE 2]のいずれかを選んだ場合、サラウンドスピーカーの設置位置（Surr Pos）を選ぶ。

視聴位置の真横に設置している場合は**横**を、斜め後方に設置している場合は**後方**を選択します。

4 [OK]を選んで決定する。

設定を変更しますか？と確認画面が表示されます。

5 [Yes]を選んで決定する。

選択画面に戻って設定し直す場合は、**No**を選んでください。

6　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカーシステムの設定を終了します。

メモ

- スピーカーシステムによっては、サラウンドバック、フロントハイト、フロントワイドスピーカーがそれぞれ設定できなくなる場合があります。

スピーカー接続と低音再生能力を設定する（スピーカー設定）

各チャンネルに接続されたスピーカーの有無や低域再生能力の大小を設定することで、再生するソースの全音域を最適なチャンネルへ配分します。お持ちのスピーカーシステムや視聴環境などに合わせて、正しく設定してください。SMALL（小）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカー（サブウーファーを含む）で再生するか、またはLFE信号の何Hz以下の低音域を再生するかをX.OVER（クロスオーバー周波数）の設定で行います。サブウーファーの再生する音域成分については、79ページ の「サブウーファーの再生する音域成分」をご覧ください。

- THX認証のスピーカーシステムをご使用の際は、すべてSMALLに設定してください。

ホームメニューで使用するボタン

ホーム メニュー ▶ 決定 ▶ 戻る

1　[スピーカー設定]を選んで決定する。

ここから読む場合は 78ページ の「スピーカーの音を調整する ～ マニュアルスピーカー設定 ～」の手順1を行ってください。

スピーカーシステムの設定になります。

2　それぞれのスピーカーについて、それらのサイズや再生能力に合わせて設定する。

4a2.スピーカー設定
AVアンプ
SW : YES
Front : ← LARGE →
Center : LARGE
Surr : LARGE
FH : LARGE
FW : LARGE
SB : LARGE x 2
X.OVER : 80Hz
終了　戻る

スピーカーごとに以下を選べます。各項目の意味と設定方法については、79ページ の「スピーカー設定の目安」をご覧ください。

SW（サブウーファー）	[YES] [PLUS] [NO]
Front（フロント）	[LARGE] [SMALL]
Center（センター）	[LARGE] [SMALL] [NO]
Surr（サラウンド）	[LARGE] [SMALL] [NO]
FH（フロントハイト）	[LARGE] [SMALL] [NO]
FW（フロントワイド）	[LARGE] [SMALL] [NO]
SB（サラウンドバック）	[LARGE × 2] [LARGE × 1] [SMALL × 2] [SMALL × 1] [NO]
X.OVER（クロスオーバー周波数）	[50Hz] [80Hz] [100Hz] [150Hz] [200Hz]

3　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカー設定を終了します。

メモ

- 工場出荷時、クロスオーバー周波数は80Hzに設定されています。
- THXスピーカーをご使用の場合、クロスオーバー周波数は80Hzに設定してください。
- それぞれのスピーカーの性能によりますが、小型スピーカーを使用している場合、クロスオーバー周波数は200Hzに設定することをお勧めします。

スピーカー設定の目安

サブウーファーとフロントスピーカーの関係

チャンネル	設定可能な組み合わせ		
SW（サブウーファー）	[**YES**]	[PLUS]	[NO]
Front（フロント）	[LARGE] [**SMALL**]	[LARGE] [SMALL]	[LARGE]

太字:工場出荷時の設定

フロントスピーカーとその他のスピーカーの関係

チャンネル	設定可能な組み合わせ				
Front（フロント）	[**SMALL**]		[LARGE]		
Center（センター）	[**SMALL**] [NO]		[LARGE] [SMALL] [NO]		
Surr（サラウンド）	[**SMALL**]	[NO]	[LARGE]	[SMALL]	[NO]
FH（フロントハイト）	[**SMALL**] [NO]	[NO]	[LARGE] [SMALL] [NO]	[SMALL] [NO]	[NO]
FW（フロントワイド）	[**SMALL**] [NO]	[NO]	[LARGE] [SMALL] [NO]	[SMALL] [NO]	[NO]
SB（サラウンドバック）	[**SMALL ×2**/ ×1] [NO]	[NO]	[LARGE ×2/ ×1] [SMALL ×2/ ×1] [NO]	[SMALL ×2/ ×1] [NO]	[NO]

太字:工場出荷時の設定

- **SMALL**：低域再生能力が十分ではない小型スピーカー（低音域は他の**LARGE**スピーカーやサブウーファーから出力）
- **LARGE**：低域再生能力のあるフルレンジ・スピーカー
- **x2/x1**：サラウンドバックスピーカーの接続本数（2本または1本）
- **YES**：サブウーファーを接続している場合
- **PLUS**：フロント/センターの低域成分をサブウーファーからも同時に出力させる、低域の再生量が最も多いモード。常に(2ch再生時でも)サブウーファーから低域が出力されるため、量感のある重低音をお好みの方にお勧めの設定(詳しくは 79ページ の「サブウーファーの再生する音域成分」をご覧ください)
- **NO**：接続していない場合（該当chの成分は他のスピーカーより出力）

サブウーファーの**PLUS**は、**フルオートMCACC**や**オートMCACC**では設定されません。お好みに応じて設定を変更してください。

サブウーファーの再生する音域成分

フロント、センタースピーカーの設定によってサブウーファーの再生する音域成分は、以下のようになります。

フロント／センタースピーカー	サブウーファー	LFE(超低域効果音)成分	低域成分	中高域成分
SMALL	YES			
LARGE	YES			
LARGE	NO			
LARGE	PLUS			

サブウーファーの再生音域
フロント/センターの再生音域

クロスオーバー周波数(工場出荷時:80Hz)
お手持ちのスピーカーに合わせて設定してください

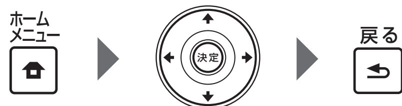
メモ

- サブウーファーをPLUSに設定した場合、サブウーファーの低域成分とフロントの低域成分の打ち消し合いが発生し、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、オートMCACCでスピーカーの距離の設定を行い（72ページ）、フェイズコントロールモードを「ON」にしてください（44ページ）。

テストトーンを聞いて出力レベルを調整する（スピーカー出力レベル）

リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルが一定にそろうように調整します。実際に出力されるテストトーンを耳で確かめながら、手動で各スピーカーの出力レベルを調整します。

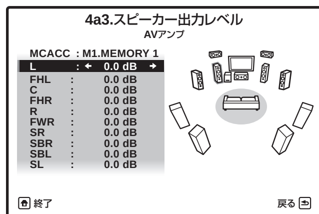
ホームメニューで使用するボタン



1 [スピーカー出力レベル]を選んで決定する。

スピーカー出力レベルの設定になります。

2 ⬆/⬇ボタンで調整したいチャンネルを選んで⬅/➡ボタンでレベルを調整する。



–12.0 dBから＋12.0 dBの範囲内で、0.5 dB間隔で調整することができます。

- サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため、実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。
- 音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト／スローモードで75 dB SPLに調整してください。

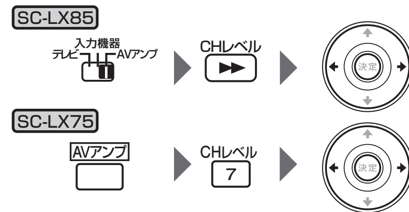
3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカー出力レベルの設定を終了します。



メモ

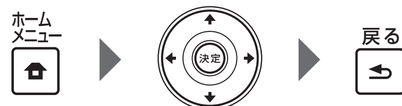
- 以下の操作でも各チャンネルレベルの調整を行うことができます。**CHレベル**ボタンを押すたびにチャンネルが切り換わり、⬅/➡ボタンでレベルの調整を行います（この場合GUI表示はされません）。



スピーカーまでの距離を調整する（スピーカーまでの距離）

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定することにより、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。手動で設定する場合は、それぞれのスピーカーからリスニングポジションまでの距離を測り、ここで指定してください。

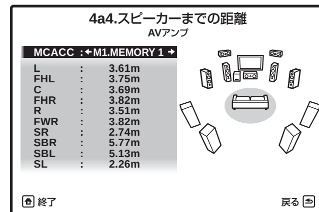
ホームメニューで使用するボタン



1 [スピーカーまでの距離]を選んで決定する。

スピーカーまでの距離の設定になります。

2 ⬆/⬇ボタンで調整したいスピーカーを選んで⬅/➡ボタンで距離を調整する。



0.01 mから9.00 mの範囲内で、0.01 m（1 cm）間隔で設定できます。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

スピーカーまでの距離の設定を終了します。



メモ

- より正確な距離の調整は、73ページ の「スピーカーまでの距離の微調整（Fine SP Distance）」をご覧ください。音像や定位感がさらに向上します。

広い部屋での高音域を抑制する（Xカーブ）

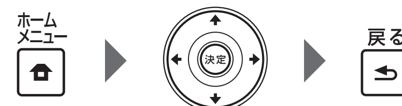
広い視聴環境では、聴感上高域がきつく聞こえてしまう傾向があります。Xカーブは高域（2 kHz以上）の周波数を減衰させるカーブで、減衰の傾きは-0.5dB/oct～-3.0dB/oct（0.5 dBステップ）の6種類から選択可能です。以下の表を目安に、部屋の広さや聴感によって、自由に調節してください。

部屋の広さによる減衰カーブの目安：

部屋の広さ	～36 m²	～48 m²	～60 m²
減衰カーブ	–0.5dB/oct	–1.0dB/oct	–1.5dB/oct
部屋の広さ	～72 m²	～300 m²	～1000 m²
減衰カーブ	–2.0dB/oct	–2.5dB/oct	–3.0dB/oct

- ここでの補正は 74ページ の「チャンネルごとの周波数特性の補正（EQの調整）」の補正値には影響しません。

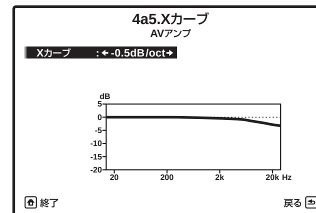
ホームメニューで使用するボタン



1 [Xカーブ]を選んで決定する。

聴感上の高域補正になります。

2 ⬅/➡ボタンで高域減衰カーブを調整する。



–0.5dB/octから-3.0dB/octまで、0.5 dBステップの6段階で調整することができます。

- OFFを選択するとXカーブはフラットになり聴感上の高域は補正されません。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

聴感上の高域補正を終了します。

THXオーディオ設定を行う

ここでは以下のTHXオーディオに関する設定を行います。

Loudness Plus：

ONにすることで、音量を下げた状態でもサラウンド感を損なうことなく再生します。詳しくは 97ページ の「THX」をご覧ください。

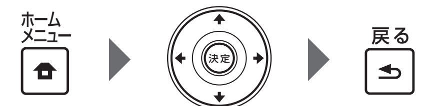
SBch処理：

サラウンドバックスピーカーを接続しているときのTHXリスニングモードの選択方法を選びます。**オート**に設定すると、Dolby Digital EX信号を含んだ音声信号を入力したときに適切なTHXリスニングモードを自動で選択します。**マニュアル**に設定すると、お好みでTHXリスニングモードが選択できます。

BGC（Boundary Gain Compensation）：

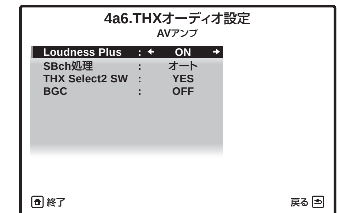
THX Ultra2/Select2準拠のサブウーファーなど、超低域再生能力のあるサブウーファーを家庭で使用すると建物の共鳴や定在波の発生などにより、極端に低音が響く音質となってしまいます。このようなサブウーファーをお使いの方は、BGCをONにすると、低域成分が補正されます。詳しくは 97ページ の「THX」をご覧ください。スピーカー設定（79ページ）でサブウーファーを無しに設定したときは、この項目は選択できません。

ホームメニューで使用するボタン



1 [THXオーディオ設定]を選んで決定する。

2 [Loudness Plus]の[ON]または[OFF]を選択する。



3 [SBch処理]の[オート]または[マニュアル]を選択する。

4 THX Ultra2/Select2 SWで[YES]を選ぶ。

NOを選んだ場合、BGCを選択することはできません。

5 [BGC]を[ON]か[OFF]のどちらかに選択する。

6 設定が終了したら、戻るボタンを押す。
THXオーディオ設定を終了します。

THX Ultra2/Select2 準拠のサブウーファーとは

従来のTHX準拠サブウーファーの低域特性は、35 Hz以下を12 dB/octaveで減衰させています。これは小さい部屋では壁面の影響で空間利得が生じ、35 Hz以下の周波数が自然と持ち上がってしまうためです。双方の特性（サブウーファー特性と空間利得）により、20 Hzまでフラットな周波数特性となります。
2001年に認可を開始したTHX Ultra2/Select2準拠のサブウーファーは20 Hzまで低域特性を伸ばしています。よって、リスナーとサブウーファーの位置によっては、低域周波数帯の聴感レベルが極端に大きくなる可能性があります。その場合はBoundary Gain CompensationをONにすることにより、壁面の影響によって生じた低域の空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにします。

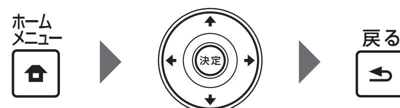
本機の入力の設定を変更する

本機の入力の名称表示を変更したり、入力選択時のスキップ設定を行うことで、入力を選択しやすくできます。

ディスプレイに表示される入力名を変更する

ディスプレイに表示される入力名を変更することができます。BD入力を選択すると、工場出荷時の設定ではBDと表示されますが、この表示を自由に変更することができます。たとえば、接続した機器の名称（BDP-LX71）などに変更すれば、どの入力ファンクションにどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

ホームメニューで使用するボタン



1 [入力端子の設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 78ページ の「システム設定で本機のさまざまな設定を行う」の手順1 ～ 3を行ってください。

2 名前を変更したいファンクションを選ぶ。

4b.入力端子の設定
AVアンプ

入力	:	← DVD →
入力名	:	名称変更
入力スキップ	:	OFF
Digital In	:	COAX-1
HDMI Input	:	Input-5
Component In	:	In-1
12V Trigger1	:	OFF
12V Trigger2	:	OFF

終了　戻る

3 [入力名]で[名称変更]を選んで決定する。
工場出荷時に戻したいときは**初期値**を選んで決定します。

4 ⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。
入力できるのは最大10文字までです。

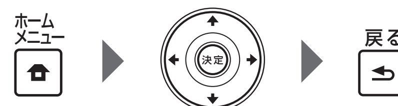
5 決定ボタンを押して入力ファンクション名を決定する。

6 設定が終了したら、戻るボタンを押す。
入力端子の設定を終了します。

入力スキップを設定する

本体のINPUT SELECTORダイヤルやリモコンの**入力切換**ボタンを操作したときに、接続に使用していない入力をスキップすることができます。
- スキップ設定を行っても、リモコンのマルチコントロールボタンを押した場合は、その入力に切り換わります。

ホームメニューで使用するボタン



1 [入力端子の設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 78ページ の「システム設定で本機のさまざまな設定を行う」の手順1 ～ 3を行ってください。

2 入力をスキップしたいファンクションを選ぶ。

4b.入力端子の設定
AVアンプ

入力	:	← DVD →
入力名	:	名称変更
入力スキップ	:	OFF
Digital In	:	COAX-1
HDMI Input	:	Input-5
Component In	:	In-1
12V Trigger1	:	OFF
12V Trigger2	:	OFF

終了　戻る

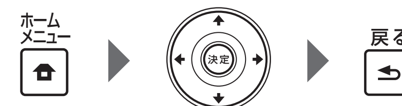
3 [入力スキップ]で[ON]を選ぶ。
スキップさせない場合は、OFFを選びます。

4 設定が終了したら、戻るボタンを押す。
入力端子の設定を終了します。

12 Vトリガー端子の連動設定

設定した入力ファンクションが選ばれたときに、電源などの操作を連動させるための制御信号が12 Vトリガー端子から出力されます。本機には2つの12 Vトリガー端子があり、それぞれについて設定できます。

ホームメニューで使用するボタン



1 [入力端子の設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 78ページ の「システム設定で本機のさまざまな設定を行う」の手順1 ～ 3を行ってください。

2 連動設定したい入力ファンクションを選ぶ。

4b.入力端子の設定
AVアンプ

入力	:	← DVD →
入力名	:	名称変更
入力スキップ	:	OFF
Digital In	:	COAX-1
HDMI Input	:	Input-5
Component In	:	In-1
12V Trigger1	:	OFF
12V Trigger2	:	OFF

終了　戻る

3 12V Trigger1または2を選ぶ。

4 [MAIN]、[ZONE 2]、[ZONE 3]、[OFF]から選ぶ。
- **MAIN**：メインゾーンで、手順2の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。
- **ZONE 2**：ZONE 2で、手順2の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。
- **ZONE 3**：ZONE 3で、手順2の入力ファンクションが選ばれたときに連動します。
- **OFF**：連動しません。

5 設定が終了したら、戻るボタンを押す。
入力端子の設定を終了します。

ネットワークの設定を行う

本機をネットワークに接続して、HOME MEDIA GALLERY入力でインターネットラジオを聴いたり、パソコンなどに保存されている音楽ファイルを再生したりするための設定を行います。通常は、DHCP機能をON（工場出荷時の設定）にしておけば、ネットワークの設定を行う必要はありません。DHCPサーバー機能がないネットワークに接続しているときのみ以下のネットワークの設定を行います。設定の際はプロバイダー、またはネットワーク管理者からの設定値を確認してから設定してください。ネットワーク上の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1　リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

2　[システム設定]を選んで決定する。

3　[ネットワーク設定]を選んで決定する。

4　調整したい項目を選ぶ。

- **IPアドレス、プロキシ**：本機のIPアドレス、プロキシを設定します（82ページ）
- **ネットワークスタンバイ**：本機がスタンバイ状態でも「AVナビゲーター」や「iControlAV2」を使えるようします（82ページ）
- **フレンドリーネーム**：パソコンなどのネットワークに接続された機器で表示される本機の名前を変更できます（82ページ）
- **ペアレンタルロック**：ネットワーク機能の使用を制限します（82ページ）
- **ポート番号の設定**：IPコントロールからの信号を受けるポート番号の設定を行います（83ページ）
- **無線LANコンバーター**：無線LANコンバーターのアクセスポイントの設定や、IPアドレスの設定を行います（83ページ）
  無線LANコンバーターは別売りのAS-WL300をお使いください。

IPアドレス、プロキシの設定

IPアドレス

入力するIPアドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIPアドレスではインターネットラジオを再生することができません。
CLASS A: 10.0.0.1 ～ 10.255.255.254
CLASS B: 172.16.0.1 ～ 172.31.255.254
CLASS C: 192.168.0.1 ～ 192.168.255.254

サブネットマスク

xDSLモデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダーから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は255.255.255.0 が入ります。

デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ（ルーター）に接続している場合は、そのIPアドレスを入力します。

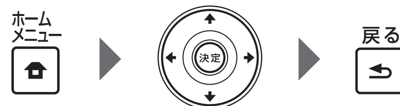
プライマリー DNSサーバー / セカンダリー DNSサーバー

プロバイダーから書面などで通知されたDNSアドレスが1つの場合は、**プライマリー DNSサーバー**に入力してください。2つ以上の場合は、もう1つを**セカンダリー DNSサーバー**に入力してください。

プロキシサーバー名/プロキシポート番号

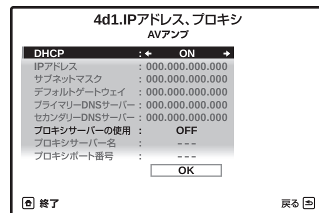
インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する際に設定します。**プロキシサーバー名**にはプロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力してください。**プロキシポート番号**にはプロキシサーバーのポート番号を入力してください。

ホームメニューで使用するボタン



1　[IPアドレス、プロキシ]を選んで決定する。

2　DHCP機能のON/OFFを選んで決定する。



ONを選んだ場合は、ネットワークを自動で設定しますので手順3の設定は必要ありません。手順4へお進みください。
DHCPをONに設定したときにIPアドレスをDHCPサーバーから取得できなかった場合は、本機の自動IP機能を使用してIPアドレスを取得します。

- 本機の自動IP機能により設定されるIPアドレスは169.254.X.Xです。自動IP機能により設定されたIPアドレスでは、インターネットラジオを聴くことはできません。

3　IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、プライマリー DNSサーバーおよびセカンダリー DNSサーバーを入力する。

⬆/⬇ボタンで入力する数字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。

4　プロキシサーバーの使用のON/OFFを選んで決定する。

ONを選んだ場合は、手順5へお進みください。
OFFを選んだ場合は、手順6へお進みください。

5　プロキシサーバー名とプロキシポート番号を入力する。

⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。

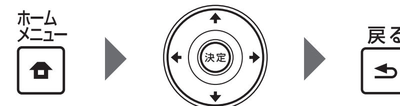
6　[OK]を選んで決定する。

IPアドレス、プロキシの設定を終了します。

ネットワークスタンバイ機能を使用する

本機と同一のLANに接続したPCで本機を操作できるAVナビゲーター機能やiControlAV2機能を、本機がスタンバイの状態でも使用できるように設定します。

ホームメニューで使用するボタン



1　[ネットワーク設定]の設定項目から[ネットワークスタンバイ]を選んで決定する。

2　ネットワークスタンバイの設定を選択する。

- ON：本機がスタンバイの状態でもAVナビゲーターやiControlAV2機能が使用できます。
- OFF：本機がスタンバイの状態ではAVナビゲーターやiControlAV2機能が使用できません。（スタンバイ時の消費電力を抑えることができます）

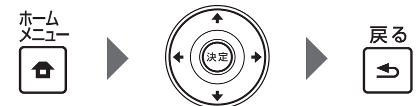
3　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

ネットワークスタンバイの設定を終了します。

ネットワーク機器から見た本機の名前を変更する

本機と同一のLANに接続したPCなどから見た本機の名前を変更します。

ホームメニューで使用するボタン



1　[ネットワーク設定]の設定項目から[フレンドリーネーム]を選んで決定する。

2　[名前の編集]を選んでから[名称変更]を選んで決定する。

名前を変更したあと、工場出荷時の状態に戻したいときはここで**初期値**を選びます。

3　お好みの名前を入力する。

⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。

4　設定が終了したら、決定ボタンを押す。

フレンドリーネームの設定を終了します。

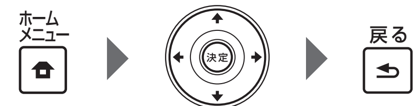
ネットワーク機能の使用制限を行う

インターネットサービスの使用制限の設定をします。使用制限に伴い暗証番号の設定も行います。

重要

HOME MEDIA GALLERY入力が選択されているときにはここでの設定を反映させることができません。HOME MEDIA GALLERY以外の入力にしてから設定を行ってください。

ホームメニューで使用するボタン



1　[ネットワーク設定]の設定項目から[ペアレンタルロック]を選んで決定する。

2　暗証番号を入力する。

⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。

工場出荷時の暗証番号は「0000」に設定されています。

3 ペアレンタルロックのON/OFFを選んで決定する。

- OFF：インターネットサービスの使用制限をしません。
- ON：インターネットサービスの使用を制限します。

4 暗証番号を変更したいときは、暗証番号変更を選んで決定します。

この場合は手順2へ戻ります。

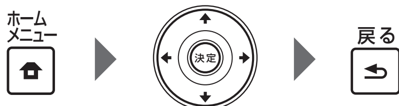
5 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

ペアレンタルロックの設定を終了します。

ポート番号の設定

本機では信号を受けつけるポート番号を、同時に最大で5つまで持つことができます。そのうち1つはiControlAV2との通信で使用する8102で、変更はできませんが、残りの4つは任意の番号を指定できます。

ホームメニューで使用するボタン



1 [ネットワーク設定]の設定項目から[ポート番号の設定]を選んで決定する。

2 変更したいポート番号を選ぶ。

3 ポート番号を入力する。

- ⬆/⬇ボタンで入力する文字を選んで、⬅/➡ボタンでカーソルを動かします。
- 同じポート番号を複数設定することはできません。

4 他にも変更したいポート番号があるときは手順2～3を繰り返す。

 **メモ**

- 無線LANコンバーター（AS-WL300）を接続すると、Port 3にポート番号を設定できなくなります。
- ポート番号は、23または49152～65535の範囲で設定することをお勧めします。
- ポート番号を変更すると、本機とAVナビゲーターとのネットワーク通信ができなくなります。この場合、AVナビゲーターのメニューから**設定**をクリックし、IPアドレスのタブを選び、本体側で設定したいずれかのポート番号を入力することで、AVナビゲーターと通信できるようになります。

無線LANコンバーターの設定

本機に無線LANコンバーターを接続して、ワイヤレスでネットワーク機能をご使用になる場合に必要な設定です。
無線LANコンバーターは別売りのAS-WL300をお使いください。

アクセスポイント設定

本機に接続した無線LANコンバーターとのアクセスポイントの接続設定を行います。無線LANコンバーターを本機に接続し、[**IPアドレス、プロキシ**]設定メニューのDHCP設定をONにしてから行います（82ページ）。
アクセスポイントに接続するための設定方法は以下の4つの方法があります。

- **WPS(プッシュボタン)**：アクセスポイントと無線LANコンバーターのWPSボタンを本機の画面の指示に従って押すだけで自動で接続設定を行います。アクセスポイントと無線LANコンバーターにWPSボタンがあるときに設定可能な方法で、最も簡単な接続設定方法です。
接続設定にはWPSボタンを押してから約2分程度かかります。設定が終わるまでしばらくお待ちください。
- **WPS(PINコード)**：接続可能なアクセスポイントのSSIDをリスト表示し、その中から接続したいアクセスポイントを選びます。本機の画面に表示される8桁のPINコードを接続したいアクセスポイントに入力することで接続設定を行います。
- **アクセスポイント検索**：接続可能なアクセスポイントのSSIDをリスト表示し、その中から接続したいアクセスポイントを選びます。アクセスポイントの「暗号化方式」、「セキュリティーキー」と「WEPデフォルトキー」（アクセスポイントの「暗号化方式」がWEPのときのみ）を設定することで、アクセスポイントとの接続設定を行います。
- **手動設定**：接続したいアクセスポイントの「SSID」、「暗号化方式」、「セキュリティーキー」、「WEPデフォルトキー」をそれぞれ手動で入力して接続設定を行います。

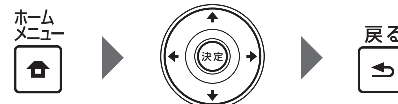
 **メモ**

- 無線LANコンバーターを初めて設定するときは、**ネットワークスタンバイ**を**OFF**に設定してから一度本機の電源を切り、再度電源を入れてから無線LANコンバーターの設定を行ってください。無線LANコンバーターでのネットワーク接続を確認後、必要に応じて**ネットワークスタンバイ**を**ON**に設定してください。
- WPS(プッシュボタン)あるいはWPS(PINコード)の接続設定でアクセスポイントに接続できない場合は、アクセスポイント検索または手動設定により接続設定することをお勧めします。
- アクセスポイントの「SSID」や「セキュリティーキー」に；（セミコロン）がある場合、無線LANコンバーターの設定が完了しても、無線LANでの接続ができなくなります。アクセスポイントの「SSID」や「セキュリティーキー」は；（セミコロン）がない文字列に設定変更してください。

無線LAN IPアドレス設定

本機と接続する無線LANコンバーター以外のLAN接続機器のIPアドレスが「192.168.XXX.249」で設定されているときは無線LANコンバーターでのIPアドレスが重複してしまうためアクセスポイントとの接続ができなくなります。この場合、無線LANコンバーター専用のIPアドレスを以下の手順に従って設定します。

ホームメニューで使用するボタン



1 [ネットワーク設定]の設定項目から[無線LANコンバーター]を選んで決定する。

2 無線LANコンバーターの設定を必要に応じて行います。

無線LANコンバーターとアクセスポイントの接続設定を行うときは**アクセスポイント設定**を選び、それぞれ画面の指示に従って接続設定を行います。
無線LANコンバーターのIPアドレスを設定したいときは**無線LAN IPアドレス設定**を選んでIPアドレスの入力を行います。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

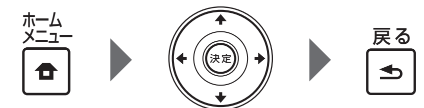
無線LANコンバーターの設定を終了します。

ネットワークの情報を確認する

ネットワークに関する項目の設定状態を表示します。

- **IPアドレス**：本機のIPアドレスを確認します。
- **MACアドレス**：本機のMACアドレスを確認します。
- **フレンドリーネーム**：本機のフレンドリーネームを確認します（82ページ）。
- **SSID**：無線LANコンバーターで接続しているアクセスポイントのSSIDを確認します（無線LANコンバーターを接続しているときのみ）。

ホームメニューで使用するボタン



1 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

2 [ネットワーク情報]を選んで決定する。

ネットワークに関する情報が表示されます。

3 確認が終了したら、戻るボタンを押す。

ネットワークの情報確認を終了します。

その他の設定をする 〜その他の設定〜

その他の設定では、本機の操作や設定に関するさまざまな項目を設定できます。

1 リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。

⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

2 [システム設定]を選んで決定する。

3 [その他の設定]を選んで決定する。

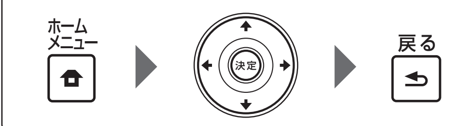
4 調整したい項目を選ぶ。

- **自動電源オフ**：本機が使用されていないときに自動で電源を切る設定（ 84ページ）
- **音量設定**：本機の音量についての設定（84ページ）
- **リモコンモード設定**：本機側のリモコンモードの設定（84ページ）
- **Flicker Reduction設定**：GUI画面の見え方の調整（84ページ）
- **ソフトウエアの更新**：本機のソフトウェアの更新やバージョンの確認（85ページ）
- **RFリモコン設定**（SC-LX85のみ）：CU-RF100端子の設定（85ページ）
- **エクステンション設定**（SC-LX75のみ）：CU-RF100リモコン使用時の設定（85ページ）
- **マルチチャンネル入力設定**（SC-LX85のみ）：マルチチャンネル入力の設定（85ページ）
- **Bluetooth機器のペアリング**：*Bluetooth* 機器を使用するための初期設定（40ページ）

自動電源オフの設定を行う

本機に音声または映像信号が入力されていない状態で、何も操作がない状態が続いたとき、自動で電源が切れるように設定できます。ZONE 2またはZONE 3を使用しているときは、ZONE 2またはZONE 3の電源も切れるように設定できます。ZONE 2またはZONE 3の場合は信号を入力していたり、操作がされていてもここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。メインゾーンとZONE 2、ZONE3でそれぞれ別々の時間を設定することができます。

ホームメニューで使用するボタン



1 [自動電源オフ]を選んで決定する。

ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする 〜その他の設定〜」をご覧ください。

自動電源オフの設定になります。

2 設定したいゾーンを選んでから何分後（何時間後）に電源を切るかの設定を行う。

- MAIN：**15分**, **30分**, **60分**および**OFF**から選べます。選んだ時間、無信号かつ無操作状態が続くと電源が切れます。
- ZONE 2：**30分**, **1時間**, **3時間**, **6時間**, **9時間**および**OFF**から選べます。選んだ時間が経過すると電源が切れます。
- ZONE 3：**30分**, **1時間**, **3時間**, **6時間**, **9時間**および**OFF**から選べます。選んだ時間が経過すると電源が切れます。

3 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

自動電源オフの設定を終了します。

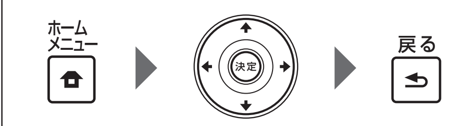

メモ

- 接続された機器によっては、ノイズが大きい等の理由により自動電源オフが動作しない場合があります。

音量の設定を行う

音量操作についてのさまざまな設定を行います。

ホームメニューで使用するボタン



1 [音量設定]を選んで決定する。

ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする 〜その他の設定〜」をご覧ください。

音量の設定になります。

2 [電源オン時音量]を選択する。



- **前回音量**：電源オンすると、電源オフする前と同じ音量になります。
- **---**：電源オンすると、電源オン時の音量は最小音量になります。
- **−80.0dB〜+12.0dB**：電源オンすると、電源オン時の音量はここで設定した音量になります。0.5 dBステップで設定できます。

電源オン時音量は、**音量制限**設定より大きい音量に設定することはできません。

3 [音量制限]の設定を選択する。

本機から出力される音量の最大値を制限することができます。

- **OFF**：音量制限しません。
- **−20.0dB/ −10.0dB/0.0dB**：ここで設定した音量に最大音量が制限されます。

4 [ミュートレベル]の設定を選択する。

消音ボタンを押したときの音量を設定します。

- **フル**：音が出なくなります。
- **−40.0dB/ −20.0dB**：ここで設定したレベルまで音量が下がりますが、音は消えません。

5 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

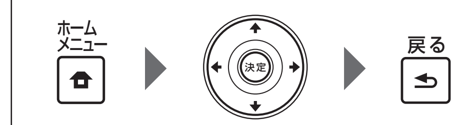
音量設定を終了します。

リモコンモードを設定する

- 工場出荷時：**1**

本機と同じアンプを複数使用する際にリモコンの誤動作を防ぐために、本機側のリモコンモードを設定します。

ホームメニューで使用するボタン

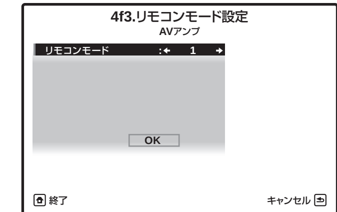


1 [リモコンモード設定]を選んで決定する。

ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする 〜その他の設定〜」をご覧ください。

リモコンモードの設定になります。

2 リモコンモードの設定を選択する。



通常は**1**を選択しますが、他に本機と同型機のアンプを使用する場合は、設定を変更してください。

3 [OK]を選んで決定する。

4 リモコン側のリモコンモードを設定する。

詳しくは、67ページ の「リモコンで複数のパイオニア製アンプを操作する」をご覧ください。

5 設定が終了したら、戻るボタンを押す。

リモコンモードの設定を終了します。

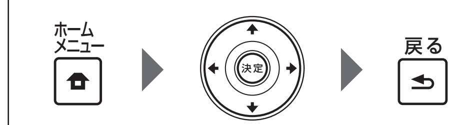
GUI画面の見え方を調整する（Flicker Reduction設定）

- 工場出荷時：**OFF**

GUI画面のちらつき具合を調整することができます。GUI画面が見えにくいと感じたときは設定を変更してみてください。

ここでの設定はGUI画面にのみ影響するもので、映像出力には効果がありません。

ホームメニューで使用するボタン

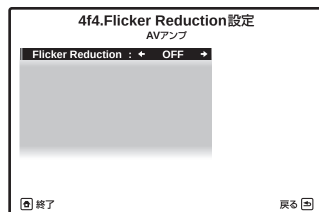


1 [Flicker Reduction設定]を選んで決定する。

ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする 〜その他の設定〜」をご覧ください。

GUI画面の見え方の調整になります。

2　Flicker Reductionを調整する。



OFF ～ 4までの間で調整します。OFFは多少ちらつきがあってもくっきり表示する設定で、4が最もちらつきを抑えます。

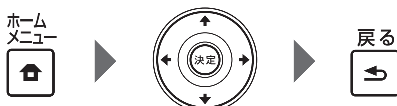
3　設定が終了したら、戻るボタンを押す。
GUI画面の見え方の調整を終了します。

ソフトウェアの更新を行う

本機のソフトウェアの更新とバージョンの確認を行います。更新はインターネット経由と、USBメモリー経由の2通りの方法があります。
インターネット経由の場合、本機からインターネット上のファイルサーバーへアクセスし、更新ファイルをダウンロードして更新します。この方法の場合は本機がインターネットに接続していることが前提となります。
USBメモリー経由の場合、PCで更新ファイルをダウンロードし、更新ファイルをUSBメモリーに書き込み、USBメモリーを本機のフロントパネルのUSB端子に挿入して更新します。この方法の場合は事前に更新ファイルが書き込まれたUSBメモリーを本機のフロントパネルUSB端子に挿入しておきます。
- パイオニアのホームページからPCにアップデートファイルをダウンロードする際、ZIP形式となりますが、ZIPを解凍してからUSBメモリーに書き込んでください。また、USBメモリーに古い更新ファイルや他機種の更新ファイルがあるときはそれらを削除してください。


重要
- 更新中は絶対に電源プラグを抜かないでください。
- インターネット経由で更新しているときは、LANケーブルを抜かないでください。また、USBメモリー経由で更新しているときは、USBメモリーを抜かないでください。

ホームメニューで使用するボタン



1　[ソフトウエアの更新]を選んで決定する。
ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする ～その他の設定～」をご覧ください。
ソフトウェアの更新画面になります。

2　更新の方法を選ぶ。
- **インターネットから更新**：インターネット経由で更新可能なソフトウェアがあるかどうか確認します。
- **USBメモリーから更新**：本機のフロントパネルUSB端子に接続されたUSBメモリーに更新可能なソフトウェアがあるかどうか確認します。

「**アクセス中です**」と表示され更新ファイルを確認しています。しばらくお待ちください。

3　更新ファイルが見つかったかを画面で確認する。
「**新しいファイルが見つかりました。**」と表示されたときは更新ファイルが確認されたことを意味します。ソフトウェアのバージョンと更新時間が表示されます。
「**最新のバージョンです。更新の必要はありません。**」と表示されたときは更新ファイルが確認されなかったことを意味します。

4　更新するときは[OK]を選びます。
更新画面となり、更新が実行されます。
- 更新が完了すると自動で電源が切れます。

ソフトウエア更新時のメッセージについて

本機のフロントパネルディスプレイに以下のメッセージが表示される場合があります。

メッセージ	内容
NO UPDATE FILE	USBメモリー内に更新ファイルが見つかりません。更新ファイルはUSBメモリーのルートディレクトリに保存してください。
FILE ERROR	USBメモリーを挿し直してみたり、更新ファイルを保存し直してみてください。それでもエラーになるときは別のUSBメモリーをご使用ください。
UPDATE ERROR 1 ～ UPDATE ERROR 7	本機の電源を切ってから電源を入れ直し、再度ソフトウエアの更新を行ってみてください。
Update via USB	この表示が点滅したときは更新に失敗したことを意味します。USB経由での更新を行ってください。USBメモリーに更新ファイルを書き込んでUSB端子に挿入します。更新ファイルが見つかると自動でソフトウエア更新を開始します。
UE11	更新に失敗しました。もう一度同じ手順でソフトウエアの更新を実行してください。
UE22	
UE33	

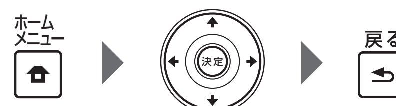
CU-RF100リモコン使用時の設定を行う（RFリモコン設定）

SC-LX85のみ

- 工場出荷時：OFF

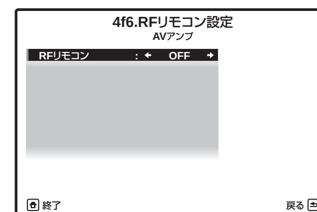
付属のCU-RF100リモコンを使って、本機をRF双方向通信で操作するときの設定です。ここでの**RFリモコン**設定で**ON**を選ぶことで、**CU-RF100**端子に電源が供給され、本機がスタンバイの状態でもCU-RF100リモコンのRF双方向通信で電源を入れられるようになります。

ホームメニューで使用するボタン



1　[RFリモコン設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする ～その他の設定～」をご覧ください。
CU-RF100端子の設定になります。

2　RFリモコン設定を選択する。



ONまたはOFFを選びます。

3　設定が終了したら、戻るボタンを押す。
CU-RF100端子の設定を終了します。

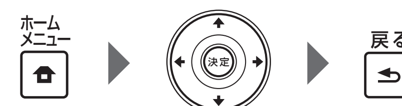
CU-RF100リモコン使用時の設定を行う（エクステンション設定）

SC-LX75のみ

- 工場出荷時：OFF

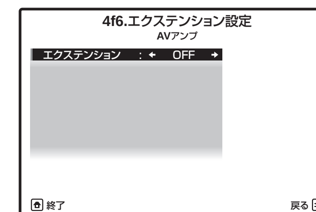
別売りのCU-RF100リモコンを使って、本機をRF双方向通信で操作するときの設定です。ここでの**エクステンション**設定で**ON**を選ぶことで、**EXTENSION**端子に電源が供給され、本機がスタンバイの状態でもCU-RF100リモコンのRF双方向通信で電源を入れられるようになります。

ホームメニューで使用するボタン



1　[エクステンション設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする ～その他の設定～」をご覧ください。
EXTENSION端子の設定になります。

2　エクステンション設定を選択する。



ONまたはOFFを選びます。

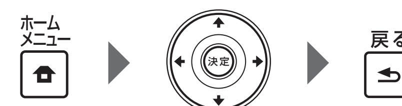
3　設定が終了したら、戻るボタンを押す。
EXTENSION端子の設定を終了します。

マルチチャンネル入力を設定する

SC-LX85のみ

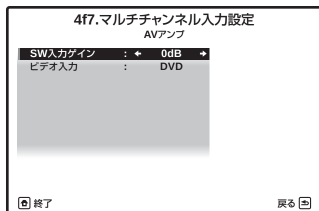
マルチチャンネル入力でのサブウーファーレベルを上げることができます。また、マルチチャンネル入力を選択しているときに、他の入力の映像を見ることができます。ここではどの映像入力をマルチチャンネル入力に割り当てるかを設定します。

ホームメニューで使用するボタン



1　[マルチチャンネル入力設定]を選んで決定する。
ここから読む場合は 84ページ の「その他の設定をする ～その他の設定～」をご覧ください。
マルチチャンネル入力の設定になります。

2　[SW入力ゲイン]を選択する。



- 0dB：収録されているままのレベルで出力します。
- +10dB：サブウーファーの出力レベルが10 dB上がります。

3　[ビデオ入力]の映像入力を選択する。

マルチチャンネル入力のときに、ここで割り当てられた映像入力を見ることができます。ここで割り当てられる映像入力は、DVD、TV/SAT、DVR/BDR、VIDEO 1のいずれかです。

4　設定が終了したら、戻るボタンを押す。

マルチチャンネル入力の設定を終了します。

GUI 画面の表示言語を変更する ～ OSD言語設定～

GUI画面の表示言語を変更することができます。
工場出荷時は日本語に設定されています。変更できる言語は英語と日本語のいずれかです。

1　⏻ AVアンプボタンを押して本機の電源を入れてからテレビの電源も入れる。

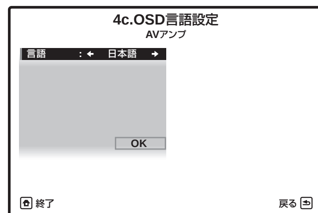
2　リモコンをAVアンプ操作モードにしてからホームメニューボタンを押す。

テレビ画面にホームメニュー画面が表示されます。
⬆/⬇/⬅/➡と**決定**ボタンを使ってカーソル移動と設定値の変更および選択項目の決定を行います。**戻る**ボタンで1つ前の画面に戻ります。

3　[システム設定]を選んで決定する。

4　[OSD言語設定]を選んで決定する。

5　変更したい言語を選ぶ。



6　[OK]を選んで決定する。

GUI画面の表示言語が変更されて、**システム設定**画面に戻ります。
ホームメニューを終了するときは、**ホームメニュー**ボタンを押します。

その他の情報

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われがちです。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器も、あわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理をご依頼ください。

電源について

症状	原因	対応	参照
電源が入らない	電源プラグがコンセントに正しく接続されていない。	電源プラグを一度コンセントから外し、正しく接続し直す。	33
SC-LX85のみ： 電源が入らない	リモコンの操作をRF双方向通信に設定しているときは、本機の**RFリモコン設定**を**ON**に設定しないと本機の電源を入れることができません。	**RFリモコン設定**を**ON**にする。	85
	リモコンの操作をRF双方向通信に設定しているが、RFアダプターの接続が正しく行われていない。	RFアダプターと本機を正しく接続する。	14
電源が切れない（ZONE ON表示される）	マルチゾーンがオンになっている。	フロントパネルのMULTI-ZONE ON/OFFボタンを押して電源を切る。	56
操作ボタンを押しても動作しない	空気が乾燥して静電気などの影響を受けている。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。	—
大きな音量で再生していたら電源が突然切れた	スピーカーの実動作上の最低インピーダンスが非常に低いため、保護回路が働いた。または、低周波の過大な入力が持続した。	ボリュームを下げて再生する。	—
		チャンネルごとの周波数特性の補正で低域(63 Hzまたは125 Hz)のレベルを下げる。	74
		DIGITAL SAFETY機能を1または2にすると、さらに数dB音量が上げられる場合があります。スタンバイモード時に、本体の**ENTER**ボタンを押しながら⏻ **STANDBY/ON**ボタンを押し、⬆/⬇で「D.SAFETY ◄ OFF ►」を選び、⬅/➡で1、2、OFFを切り換えます。（1または2を選ぶと一部の機能が使用できなくなることがあります）	—
電源が突然切れて **iPod iPhone iPad**インジケーターが点滅する	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、＋/－が接触し、保護回路が働いている。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、アンプまたはスピーカー側のスピーカー端子からはみ出ないように接続する。	17
	本機内部の温度が許容値を超えた。	通風がよくなるように設置場所を変えてみる。	7
		1分待ってから電源を入れてみる。	—
	上記以外の場合、本機のアンプ回路の故障です。	すみやかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	102

症状	原因	対応	参照
AMP ERRと表示されて電源が切れる。**ADVANCED MCACC**インジケーターが点滅して、電源が入らない	本機のアンプ回路の故障です。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いて修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	102
AMP OVERHEATと表示されて電源が切れ、**FL OFF**インジケーターが点滅する	本機内部の温度が許容値を超えた。	通風がよくなるように設置場所を変えてみる。	7
		1分待ってから電源を入れてみる。	—
	スピーカーを接続しているコードがショートしている。	コードがショートしているときは、新しいスピーカーコードで接続し直してください。	—
電源が突然切れ、 **ADVANCED MCACC**インジケーターが点滅する	本機の電源部が故障している可能性があります。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いて修理を依頼してください。	102
FAN STOPと表示され、 **iPod iPhone iPad**インジケーターが点滅する	冷却用の内蔵ファンの故障です。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いて修理を依頼してください。この症状のあとに電源のON/OFFを繰り返すのはおやめください。	102
12V TRG ERRと点滅表示される	12 Vトリガー端子に不具合が生じている。	電源を切って接続を確認してから、もう一度電源を入れてみてください。	—

音について

症状	原因	対応	参照
入力切換を合わせても、音が出ない	入力端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	13
	デジタル入力の設定が正しくない。	設定を修正する。	35
	音声入力信号の選択が正しくない。	**音声切換**ボタンで正しい入力信号を選択する。	37
	消音（ミュート）状態(音量インジケーターが点滅)になっている。	リモコンで消音（ミュート）を解除する。	37
	ヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを抜く。	37
	スピーカー出力がOFFになっている。	**SPEAKERS**ボタンを押して、OFF以外にする。	56
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。	37
	オーディオ調整のHDMI音声出力の設定でTHROUGHを選択している。	HDMI音声出力の設定でAMPを選択する。	50
	オーディオ調整の**Fixed PCM**が**ON**になっている。	PCM以外の音声入力を再生できなくなります。PCM音声以外を入力しているときは**OFF**を選ぶ。	50
フロントスピーカー以外の音が出ない	スピーカー設定がフロントch以外すべて**NO**になっている。	スピーカーの設定を修正する。	79
	リスニングモードがSTEREOまたはフロントサラウンド・アドバンスモード、SOUND RETRIEVER AIRになっている。	サラウンド再生用のリスニングモードを選択する。	42

症状	原因	対応	参照
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	スピーカー設定でサラウンドまたはサラウンドバックchの設定が**NO**(無し)になっている。	サラウンドバックchの設定を修正する。	79
	接続が正しくない（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続していてR ch側に接続している）。	接続を再確認する（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続しているときはL ch側に接続する）。	18
フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーから音が出ない	スピーカー設定でフロントハイトまたはフロントワイドchの設定が**NO**(無し)になっている。	フロントハイトまたはフロントワイドchの設定を修正する。	79
	スピーカー設定でサラウンドchの設定が**NO**(無し)になっている。	サラウンドchの設定を修正する。	79
	スピーカー端子の設定でフロントハイトまたはフロントワイドから音が出ない設定になっている。	**SPEAKERS**ボタンで正しい設定を選んでください。	56
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーシステムの設定が正しくない。	スピーカーシステムを正しく設定してからフルオートMCACCを行う。	34
	スピーカー設定が**NO**(無し)になっている。	スピーカーの設定を修正する。	79
	スピーカーの接続が外れている。	スピーカーの接続を確認する。	18
	再生ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されている。	リスニングモードによっては効果音のみ出力される場合があります。	—
	スピーカーの出力レベル設定が小さい。	スピーカーの出力レベル設定を上げる。	44
デジタル機器の音が出ない	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	13
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	35
	音声入力信号の選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、**音声切換**ボタンで**DIGITAL**を選択する。	37
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどのデジタル出力レベル設定が低すぎる。	プレーヤーのデジタル出力設定を適切に修正する。（DTS CDの場合は0.0 dBに設定してください。）	—
	再生ソフトのデジタルフォーマットに対応していないプレーヤーである（または出力しない設定になっている）。	対応フォーマットの音声トラックを選択する（または出力させる設定にする）。	—
SC-LX85のみ： **MULTI CH IN**入力を選択しても音声が出ない。	**スピーカーシステム**の設定で、**5.1ch F+Surr Bi-Amp**または**5.1ch F+C Bi-Amp**を選んでいる（フロントスピーカーとセンタースピーカーまたはサラウンドスピーカーをバイアンプ接続している）。	センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーをバイアンプ接続しているときは**MULTI CH IN**入力から音が出ません。**MULTI CH IN**入力から音を出したいときはスピーカーシステムを変更してください。	—
表示部にマルチチャンネル信号のプログラムフォーマットインジケーターが点灯しているが、音が出ていないスピーカーがある	再生しているソースのプログラムフォーマットにはそのチャンネルの情報が記録されているが、そのチャンネルに音声が収録されていない。	故障ではありません。収録内容をご確認ください。	—
PCM以外の信号の音が出ない	オーディオ調整の**Fixed PCM**が**ON**になっている。	PCM以外の音声入力を再生できなくなります。PCM音声以外を入力しているときは**OFF**を選ぶ。	50

症状	原因	対応	参照
録音ができない	アナログ信号をデジタルで、デジタル信号をアナログで録音しようとしている。	アナログ信号はアナログ録音、デジタル信号はデジタル録音のみ可能です。	57
	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号である。	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号は録音することができません。	—
	OUT端子の接続が正しくない。	正しく接続し直す。	13
無入力でもノイズが聞こえる	電源そのものにノイズが残っている。	パソコンなどのデジタル機器とタコ足配線になっていないか確認する。	—
スピーカーの設定をフロントのみ**LARGE**としていてマルチchのDVDオーディオを再生したが、マルチch音声がダウンミックスされない	ダウンミックス禁止のソフトを再生している。	故障ではありません。	—
DTS CDのサーチ中にノイズが出る	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えてください。	—
DTSのLDを再生するとノイズが出る	音声入力信号の切り換えで**ANALOG**が選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、**音声切換**ボタンで**DIGITAL**を選択する。	37
最大音量が+12 dBまで上がらない	音量制限が設定されている。	音量制限の設定をオフにする。	84
DTS-HDやDolby TrueHDの音声を再生できない	アナログやデジタル（光・同軸）の音声ケーブルによる接続ではプレーヤーから信号が伝送されません。	プレーヤーとHDMIによる接続を行ってください。	25
	音声入力信号の選択が正しくない。	音声入力信号の切り換えで**HDMI**を選択する。	37
	プレーヤーの音声出力設定が、PCMに変換する設定になっている。	プレーヤーの音声出力設定を変更する。	—
視聴中に本体からカチカチと音がする	リスニングモードによっては入力音声の変化に応じてフロントハイト（またはフロントワイド）とサラウンドバックのスピーカーを自動的に切り換えることがあります。このときスピーカーの切換動作音が発生します。	気になるときはフロントパネルの**SPEAKERS**ボタンを押して再生するスピーカー端子の設定を変更してください。	56
リスニングモードやHOME MENUの項目などで選択できないものがある	本機の**操作モード**が**基本**になっている。	すべての機能を制限無くお使いになりたいときは**エキスパート**を選びます。	35

サブウーファーの接続／再生について

症状	原因	対応	参照
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーあり／なしの設定がNO(無し)に設定されている。	スピーカー設定を確認して、サブウーファーの設定を YES（あり）またはPLUSにする。	79
	再生しているソース(シーン)や音楽に超低域成分（LFEチャンネル）が含まれていない。	故障ではありません。収録内容をご確認ください。	—
	接続が外れている(または、間違っている)。	サブウーファーの接続を確認して、外れているまたは間違っているときは接続し直す。	18
	サブウーファー側の電源がOFFになっている。	サブウーファーの電源を確認する。	—
	サブウーファー側の自動スタンバイ機能が働いている。	サブウーファーの機能を確認する（詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。）	—
サブウーファーからの音が小さい	低域成分がない、または少ないソースやディスク（CDなど）を再生している。	再生しているソースの低域成分が少なく、サブウーファーの音量が不足している場合は、スピーカー設定でサブウーファーの設定をPLUSにする。	79
	サブウーファー出力レベルの設定値が小さい。	スピーカー出力レベルの設定を確認して、適切なレベルに調整する。	44
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	X.OVERの設定を確認して、適切なレベルに調整する。	79
	サブウーファー側のボリューム設定が小さい。	サブウーファーのボリュームレベルを上げる。	—

映像について

症状	原因	対応	参照
入力切換を合わせても､映像が出ない。または違う入力の映像が出る	TVモニター側の入力切り換え設定が正しくない。	TVモニターの取扱説明書をお読みになり、正しい入力に切り換えてください。	—
	ソース機器とHDMI端子で接続しているが､TVモニターをHDMI端子で接続していない。	ソース機器とTVモニターはHDMI端子を使って本機と接続する。	25
	ソース機器とTVモニターを接続しているコードの種類が違っていて、ビデオ調整機能のビデオコンバーターの設定がOFFになっている。	ビデオコンバーターの設定をONにする。	52
	映像によっては著作権の関係で映像が出力されない場合があります。	解像度の設定を変更するか、ビデオコンバーターの設定をOFFにしてください。	52
	TVモニター側で非対応の映像信号を出力している。	解像度の設定を変更するか、ビデオコンバーターの設定をOFFにしてください。	52
コンポーネント端子に接続したソース機器の映像が出ない	**入力端子の設定**のComponent Inの設定が正しくない。	**入力端子の設定**を正しく行う。	35
録画ができない	録画機器とソース機器の接続端子が合っていない。	録画機器の接続端子とソース機器の接続端子をコンポジットで合わせる。	24
		コピープロテクト信号の入った映像信号は録画することができません。	—
コンバート後の出力映像が出ない、または乱れる	コピープロテクト信号が極端に大きい、または画質劣化の激しいビデオテープを再生している。	コンバート回路またはTVモニターの仕様です。コンポジット端子の出力映像でお楽しみください。	—
コンポーネント端子から映像が出力されない	480iのみに対応したテレビ（モニター）をコンポーネントで接続し、同時にHDMIで別のテレビ(モニター)を接続した場合、コンポーネントで接続したモニターから映像が出ない場合があります。	HDMI接続したテレビ（モニター）の電源を切る。	—
		ビデオ調整機能の解像度の設定をPUREにする。	52

操作について

症状	原因	対応	参照
音声切換ボタンを押しても入力がDIGITALにならない	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	機器の接続を再確認し、デジタル入力の設定を正しく修正する。	37
5.1chソースを再生しているのに、5.1ch再生されない	DVDプレーヤーのデジタル出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。	—
	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーのドルビーデジタルまたはDTS出力設定をONにする。	—
リモコン操作ができない	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する。	7
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7 m以内、左右30°以内で操作する。	8
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。	8
	蛍光灯などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	8
	リモコンと本機のリモコンモードの設定が異なっている。	リモコンと本機のリモコンコードの設定を一致させてください。	SC-LX85：59, 84 SC-LX75：67, 84
他機器をリモコンで操作できない	プリセットコードの設定が間違っている。	もう一度プリセットコードを呼び出してください。同じメーカーで別のプリセットコードがあるときはそれぞれのプリセットコードを呼び出してみてください。	SC-LX85：59 SC-LX75：67
	電池切れの期間にメモリーが消去された。	もう一度設定を行う。	SC-LX85：59 SC-LX75：67
他機器を正しく操作できないリモコンのボタンがある	プリセットコードは、すべての他機器の動作を保証するものではありません。	学習機能で必要なコマンドを登録してご使用ください。	SC-LX85：60 SC-LX75：67
	他機器のリモコンのコマンドを正しく学習できていない。	学習機能で登録したコマンドが正しく動作しないときは、学習させる際のリモコン間の距離を変えるなど再度試してみてください。それでも動作しないときは、本機のリモコンでは登録できない特殊なフォーマットである可能性があります。	SC-LX85：60 SC-LX75：67

症状	原因	対応	参照
SC-LX85のみ： RF双方向通信で本機や他機器のリモコン操作ができない。	他機器と電波干渉しているかもしれません。	電子レンジや無線LANなどを使用した機器、ワイヤレス機器などとの距離を離してみてください。	65
		RFアダプターと無線LANコンバーター（AS-WL300）を離してください。それでも改善されないときはリモコンを**IR MODE**に変更してください。	64
	電池の向きが正しくない。または電池が消耗している。	電池の向きを確認してください。向きが正しくても操作できないときは、電池を交換してください。	7
	RFアダプターと本機の接続が正しく行われていない可能性があります（RFアダプターのLEDは消灯状態となります）。	RFアダプターと本機を正しく接続する。	14
	ペアリングが外れてしまっているかもしれません。	再度ペアリングしてください。	64
	リモコンまたは本機を初期化してしまうと、RF双方向通信機能もリセットされます。	再度設定してください。	64
SC-LX85のみ： リモコン表示部がちらつく。	電池の残量が少なくなると、ちらつきが発生します。	新しい電池に交換してください。	7
IR接続をしているのに相手機器がリモコンで動作しない	接続でコントロール端子のIN/OUTを間違えている。	正しく接続し直す。	32
	コントロールコード以外の接続をしていない。	アナログのオーディオコードまたはHDMIケーブルなどを接続する。	32
	他社製品の同用途端子と接続している。	他社製品の動作はサポートしていません。	—
設定が消えてしまった	設定中または設定後すべてのゾーンをOFFにしないまま電源コードを抜いた。	設定中は電源コードを抜かないでください。（設定はメインゾーンとサブゾーンがすべてOFFになるときに記憶されます。電源コードを抜く前にすべてのゾーンをOFFにしてください。）	—
本体の**INPUT SELECTOR**ダイヤルやリモコンの**入力切換**ボタンで、切り換えられない入力がある	入力スキップの設定がオンになっている。	入力スキップの設定をオフにする。	81
	HDMI IN 1から**IN 6**端子が他の入力に割り当てられている。	**HDMI**の入力端子の割り当てをやめる。	37
音量を決まった値（–20 dB/–10 dB/0 dB）より上げることができない	音量制限が設定されている。	音量制限の設定をオフにする。	84
リスニングモードやHOME MENUの項目などで選択できないものがある	本機の**操作モード**が**基本**になっている。	全ての機能を制限無くお使いになりたいときは**エキスパート**を選びます。	35

インジケーター／表示について

症状	原因	対応	参照
圧縮デジタルのソフトを再生しても、対応するインジケーターが点灯しない	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	13
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	35
	音声入力信号の選択が正しくない。	**音声切換**ボタンで正しい入力信号を選択する。	37
	プレーヤーが停止か一時停止になっている。	再生を開始する。	—
	プレーヤーの音声出力設定が間違っている。	プレーヤーの音声出力設定を各フォーマットに対応するよう修正する。	—
	再生しているトラックがPCMなどになっている。	プレーヤーの音声切り換え機能で圧縮デジタルの音声を選択する。	—
圧縮デジタルのソフトを再生してもすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない	収録フォーマットが5.1ch(または「6.1ch再生検出信号」対応）ではない。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	—
圧縮デジタルのソフトを再生しても、DD DIGITALまたはDTSなどの表示にならない	デジタル信号が入力されていない。	**音声切換**ボタンで**AUTO**または**DIGITAL**を選ぶ。	37
	ドルビーサラウンドエンコードされたソフトである。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	—
Surround EX（またはDTS-ES）ソフトを再生中、**SL**、**SR**のインジケーターは点灯するが、EX（またはES）デコードしない	**スピーカー設定**で、サラウンドバックチャンネルが**NO**(無し)に設定されている。	サラウンドバックchの設定を、接続したスピーカーに合わせて変更する。	79
	リスニングモードが正しくない。	リスニングモードをサラウンドにして再生する。	42
DVD オーディオを再生しているのにディスプレイにはPCMと表示される	HDMI接続をしている入力で、DVDオーディオを再生するとPCMと表示されます。	故障ではありません。	—

HDMI接続／再生について

症状	原因	対応	参照
映像と音声の両方が出ない	本機はHDCPに対応しています。ご使用の機器がHDCP対応かどうかをご確認ください。	HDCP非対応のときはコンポーネントビデオまたはコンポジットビデオコードで接続してください。	25
	ソース機器の仕様によっては、AVアンプを通してのHDMI接続ができない場合があります。	ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはソース機器と本機をコンポーネントビデオまたはコンポジットビデオコードで接続してください。	25
映像が出ない	ソース機器によっては、設定した解像度で映像が出力されない場合があります。	解像度の設定を変更してみてください。	52
	映像信号はDeep Colorだがテレビ(モニター)がDeep Colorに対応していない。	Deep Colorに対応したテレビ(モニター)で再生する。	25
	映像信号はDeep ColorだがHDMIケーブルがDeep Colorに対応していない。	ハイスピードHDMIケーブルを使ってください。	25

症状	原因	対応	参照
音声が出ない、またはとぎれる	オーディオ調整機能のHDMI音声出力の設定が**THROUGH**になっている。	**AMP**に設定してください。	50
	DVI機器と接続しているときは、音声が出ません。	別途音声の接続を行ってください。	25
	アナログ映像をHDMI出力しているときは音声接続が必要です。	別途音声の接続を行ってください。	25
	ソース機器の設定が正しくない。	ソース機器を正しく設定してください。	—
	オーディオ調整機能のHDMI音声出力の設定が**THROUGH**で、マルチチャンネル音声を入力している場合、すべてのチャンネルの音声はHDMI出力されません。	アナログまたはデジタル音声接続を行ってください。	—
映像が乱れる	ビデオデッキなど映像信号に乱れがあるとき（早送りなど）は映像の品位によって映像が歪んだり乱れたり映らなくなることがあります。また、モニター側の性能によっては同様の症状が出ることもあります。	ビデオ調整機能のビデオコンバーターの設定をOFFにして入力と同じビデオフォーマット（コンポーネントビデオまたはコンポジットビデオコード）で接続、再生してください。	52
HDCP ERRORと表示される	HDCPに対応していない機器が接続されている。	コンポーネントビデオまたはビデオコードで接続してください。HDCPに対応した機器でも表示されることがありますが、映像がとぎれなく出力されているときは不具合ではありません。	—
入力端子の設定でHDMI Inputの入力切り換え設定ができない	HDMI設定のコントロール機能がONになっている。	HDMI設定のコントロール機能をOFFにしてください。	54
HDMIによるコントロール機能でシアターモードが動作しない	HDMI設定のコントロール機能がOFFになっている。	HDMIによるコントロール機能をONにしてください。	54
	コントロール設定が**PQLS**になっている。	コントロール設定で**ALL**を選択する。	54
	本機の電源をテレビよりも先にONした。	テレビの電源をONしてから本機の電源をONにする。	54
	テレビ側のHDMIによるコントロール機能がOFFになっている。	テレビ側のHDMIによるコントロール機能をONにする。	—
	テレビが**HDMI OUT 1**端子に接続されていない。	テレビを**HDMI OUT 1**端子に接続して、HDMI出力設定を**HDMI OUT 1**にする。その後、テレビの電源を入れてから本機の電源を入れてください。	25

AVナビゲーターについて

症状	原因	対応	参照
AVナビゲーターが本体とうまく連動しない。	本体の電源が入っていない。	本体の電源を入れてください。（ネットワーク機能の起動のため、電源を入れたあと1分ほどお待ちください。） その後、AVナビゲーターの**本体の検出**を押して、本体を検出し直してください。	—
	本体またはパソコンがLANに接続されていない。	本体またはパソコンをLANケーブルでネットワークに接続してください。 その後、AVナビゲーターの**本体の検出**を押して、本体を検出し直してください。	31
	ルーターの電源が入っていない。	ルーターの電源を入れてください。 ルーターが完全に立ち上がってから、AVナビゲーターの**本体の検出**を押して、本体を検出し直してください。	—
	AVナビゲーターのネットワーク設定が正しくない。	お使いのルーターがDHCPに対応していない場合、本機のIPアドレスをAVナビゲーターに設定する必要があります。本体でまずIPアドレスを設定し、同じアドレスをAVナビゲーターでも設定してください。 その後、AVナビゲーターの**本体の検出**を押して、本体を検出し直してください。	82
	パソコンのネットワークの設定やセキュリティの設定により、ネットワーク接続が制限されている可能性があります。	パソコンのネットワークの設定やセキュリティの設定を確認してください。 その後、AVナビゲーターの**本体の検出**を押して、本体を検出し直してください。	—
	取説連動の動作モードを変更すると、ブラウザに設定が伝わらずにうまく連動しなくなることがあります。	ブラウザの更新ボタンでページを表示更新するか、リンクから他のページを表示させることで設定が伝わります。	—
AVナビゲーターをインストールできない	システムリソースが足りないなどの理由で、エラーメッセージが表示されることがあります。	パソコンを再起動し、他のアプリケーションを起動していない状態でインストールファイル（AVNV_XXX_xxx.exe）を開始させてください。	—
	他のソフトウェアとの相性により、アップデートがうまくいかないことがあります。	以下の順番で対応を実行してみてください。 1) パソコンで他のアプリケーションを起動している場合は、他のアプリケーションを終了してから、インストールファイル（AVNV_XXX_xxx.exe）を起動してください。 2) それでもうまくいかない場合は、パソコンを再起動して、他のアプリケーションを起動していない状態で、インストールファイル（AVNV_XXX_xxx.exe）を起動してください。	—
ソフトウェアの更新（アップデート）がうまく動作しない。	インターネットサービスプロバイダーのネットワークに問題がある場合があります。	お客様がご契約しているプロバイダーにお問い合わせください。	—

症状	原因	対応	参照
接続ナビ, **取説連動**, **用語集**および**ソフト更新**を起動すると、セキュリティー保護についての警告がブラウザにて表示される	ブラウザのセキュリティ機能のためです。	問題ありませんので、ブロックされているコンテンツを許可する操作を行ってください。	—

USB端子について

症状	原因	対応	参照
USBメモリーのフォルダーや音楽ファイル、写真ファイルが表示されない	フォルダーや音楽ファイル、写真ファイルがFAT領域以外に保存されている。	フォルダーや音楽ファイル、写真ファイルをFAT領域に保存してください。	38
	フォルダー内の階層が8階層を超えている。	フォルダー内の階層を8階層以内にしてください。	38
	USBメモリーに30 000を超えるフォルダー / ファイルが保存されている。	USBメモリーには30 000以内のフォルダー /ファイルになるよう保存してください。	38
	USBメモリーに記録された音楽ファイルに著作権保護（DRM）がかけられている。	著作権保護（DRM）がかけられている音楽ファイルは再生できません。	38
USBメモリーを認識できない	USBメモリーがUSBマスストレージクラスに対応していない。	USBマスストレージクラスに対応したUSBメモリーをお使いください（USBマスストレージクラスに対応したUSBメモリーであっても、本機で再生できないものもあります）。	38
	USBメモリーのフォーマットが、NTFSまたはHFSである。	USBメモリーのフォーマットがFAT12、FAT16またはFAT32であるかどうか確認してください。NTFS、HFSは本機で再生することができません。	38
	USBメモリーがしっかりと接続されていない。	USBメモリーの接続を確認してから、本機の電源をオンしてください。	31
	USBハブを使用している。	本機はUSBハブには対応しておりません。	38
	本機がUSBメモリーを不正と認識している。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	38
USBメモリーを接続していて画面には表示されるが再生できない	本機で正常に再生できるファイルフォーマットでない。	再生できるファイルフォーマットを確認してください。	40
USBキーボードを認識できない	USBハブを使用している。	本機はUSBハブには対応しておりません。	38
	PS2キーボードをPS2/USB変換コネクターを使用して接続している。	PS2/USB変換コネクターを経由してPS2キーボードを接続しても使用できません。	31
	USBキーボードがUSB HIDクラスの機器ではない。	USB HIDクラスのUSBキーボードを使用してください。	31
USBキーボードで正しく文字入力ができない	US InternationalレイアウトではないUSBキーボードを使用している。	US InternationalレイアウトのUSBキーボードを使用してください。（他のレイアウトのキーボードでも文字入力は可能ですが、一部の文字が正しく入力できないことがあります。）	31

ADAPTER PORTについて

症状	原因	対応	参照
Bluetooth 機能搭載機器と接続できない、操作できない、音が出ない、音がとぎれる	2.4 GHz帯の電磁波を発する機器（電子レンジ、無線LAN機器、他の*Bluetooth* 機能搭載機器など）が近くにある。	これらの機器から本機を離して設置するか、電磁波を発する他の機器の使用をおやめください。	—
	Bluetooth 機能搭載機器と本機が離れすぎていたり、間に障害物がある。	*Bluetooth* 機能搭載機器と本機は同じ部屋で障害物のない、見通し距離10 m以内に設置してください。	—
	BLUETOOTHアダプターが本機の**ADAPTER PORT**端子に正しく接続されていない。	BLUETOOTHアダプターを正しく接続してください。	31
	Bluetooth 機能搭載機器が*Bluetooth* 無線通信できる状態になっていない。	*Bluetooth* 機能搭載機器の設定を確認してください。	—
	ペアリングが正しく行われていなかったり、本機か*Bluetooth* 機能搭載機器側のどちらかでペアリングの設定を消去した。	再度ペアリングの操作を行ってください。	40
	接続したい機器がプロファイルに対応していない。	A2DPおよびAVRCPに対応した*Bluetooth* 機能搭載機器を使用してください。	40

ホームメディアギャラリー入力について

症状	原因	対応	参照
ネットワークに接続できない	LANケーブルが抜けている。	LANケーブルを正しく接続してください。	31
	ルーターの電源が入っていない。	ルーターの電源を入れてください。	—
	接続している機器にインターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている。	インターネットセキュリティーソフトウェアなどがインストールされている機器には接続できないことがあります。	—
	本機の電源がONの状態で、電源がOFFだったネットワーク上の機器の電源をONにした。	本機の電源をONにする前にネットワーク上の機器の電源をONにしておいてください。	—
Connecting...と表示されたまま再生が始まらない	接続している機器の電源や接続が切れている。	接続している機器の電源や接続を確認する。	—
パソコンおよびインターネットラジオが正しく動作しない	IPアドレスが正しく設定されていない。	ルーターのDHCPサーバー機能をオンにするか、ネットワーク環境に合わせて、本機の**IPアドレス、プロキシ**を手動で設定してください。	82
	IPアドレスの自動設定中です。	自動設定には時間がかかります。しばらくお待ちください。	—

症状	原因	対応	参照
パソコンなどのネットワーク上の機器の音楽ファイルが再生できない	パソコンにWindows Media Player 11または12がインストールされていない。	パソコンにWindows Media Player 11または12をインストールしてください。	—
	音楽ファイルが、MP3 、WAV（LPCM のみ）、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA 以外のフォーマットで記録されている。	MP3 、WAV（LPCM のみ）、MPEG-4 AAC、FLAC、WMA で記録された音楽ファイルを再生してください（それらファイルであっても本機で再生できないこともあります）。	48
	Windows Media Player 11または12でMPEG-4 AACやFLACファイルを再生しようとしている。	Windows Media Player 11または12ではMPEG-4 AACやFLACファイルを再生することはできません。他のサーバーを使用してください。	—
	ネットワークに接続している機器が動作していない。	待機状態やスリープモードになっていないか確認してください。	—
		必要に応じて再起動してみてください。	
	ネットワークに接続している機器がファイルの共有を許可していない。	接続している機器の設定を変更してください。	—
	ネットワークに接続している機器のフォルダーが削除または破損している。	接続している機器に保存されているフォルダーを確認してください。	—
接続しているネットワーク上の機器にアクセスできない	接続している機器の設定が正しくない。	クライアントを自動で承認（許可）したときは、改めて入力する必要があります。接続の設定が「許可しない」になっていないか確認してください。	—
	接続している機器に再生できるファイルがない。	接続している機器に保存されているファイルを確認してください。	—
音声が自動で停止したり乱れたりする	本機で正常に再生できるファイルではない。	本機で再生できるファイルフォーマットか確認してください。	—
		フォルダーが壊れていないか確認してください。	—
		本機で再生できる拡張子がついたファイルでも再生できないことや表示されないことがあります。	—
	LANケーブルが抜けている。	LANケーブルを正しく接続してください。	31
	同一ネットワーク上でインターネット通信が行われているなど、ネットワークの通信が混雑している。	ネットワーク上の機器と接続するときは100BASE-TXをご使用ください。	31
	同一ネットワーク上に無線LANを経由する接続がある。	無線LANで使用する2.4 GHz帯の帯域が不足している可能性があります。無線LANを経由しない有線LANで接続してください。	—
		2.4 GHz帯の電磁波を発する機器（電子レンジ、ゲーム機など）を離して設置してください。それでも改善されないときは電磁波を発する他の機器の使用をおやめください。	—
Windows Media Player 11または12に接続できない	OS にWindows XPまたはWindows 7を使用しているパソコンで、ドメインにログオンしている。	ドメインではなく、ローカルマシンにログオンしてください。	—
インターネットラジオが再生できない	ネットワーク機器のファイアウォールが働いている。	ネットワーク機器のファイアウォールの設定を確認してください。	—
	インターネットの接続が切断されている。	ネットワーク機器の設定が正しいことを確認し、必要に応じてネットワーク接続業者にお問い合わせください。	—
	ラジオ局の放送が中止、中断されている。	放送局リストで選択できる放送局でも再生できないことがあります。	—
リモコンのボタンを押してもホームメディアギャラリーの再生操作ができない	リモコンがホームメディアギャラリーの操作モードになっていない。	**HMG**ボタンを押して、リモコンをホームメディアギャラリー操作モードにしてください。	—

MCACC（音場補正）について

症状	原因	対応	参照
音場補正のオート設定を何度行ってもエラーになる	マイクとスピーカーとの間に障害物がある。	障害物を移動させる。	34
	スピーカーコードの接続が正しくない。	スピーカーコードの接続を正しく行う。	18
		サラウンドバックスピーカーを1本だけ接続するときは、**SURROUND BACK L (Single)**端子に接続してください。5.1chのスピーカーセットを接続するときは、FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/RおよびPRE OUTのSUBWOOFERに接続してください。	18
逆相と表示される。	スピーカー接続の極性（+/–）が間違っている可能性がある。	正しく接続されているか確認する。（正しく接続されていても、スピーカーの種類や設置方法によっては**逆相**が表示されることがあります。その場合は、**次へ進む**を選んで**決定**ボタンを押してください。）	17
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い	サブウーファー内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で、再生音にディレイがかかっている。	MCACCでは、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して、正確なディレイ時間を設定するようにしています。	—
スピーカーの**LARGE**（大）、**SMALL**（小）設定が誤った設定になる	耳に聞こえにくい周波数の騒音がある。	エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみる。	—
		スピーカー設定で正しい設定にする。	79
音場補正したが、音がおかしい	スピーカー端子の位相が反転している（+/–が逆に接続されている）。	正しく接続し直す。	17
Acoustic Cal EQで自動測定された補正カーブを手動で調整中に**OVER!**がディスプレイに表示される	調整値の組み合わせによっては補正レベルが許容量を超える。	**OVER!**の表示が消えるまで、さまざまな帯域のレベルを下げる。	74

症状	原因	対応	参照
SC-LX85のみ： Precision Distanceの調整でゲージ（数値）が上がらない	スピーカー端子の位相が反転している（+/−が逆に接続されている）。	正しく接続し直す。	17
	スピーカーまでの距離が正しく設定されていない。	あらかじめ**フルオートMCACC**を行ってください。	34
		フルオートMCACCを行った時と同じ位置にマイクを正確に配置してください。マイク位置が分からなくなった場合や何度やってもうまく行かない場合は、再度**オートMCACC**の距離補正をやり直し、そのままのマイク位置で初めからやり直してください。	72
	基準のスピーカーを動かしている。	基準になっているスピーカーは動かさないでください。またフロントRから順番に調整してください。	76
	スピーカーの動かし方が大きい。	スピーカーの位置を調整する時は大きく移動させず、マイクに対して1 cm程度前後に動かしてください。	—

EQ補正後の残響特性表示に関する疑問

症状	原因	対応	参照
パソコンまたはGUI画面上でのEQ補正後残響周波数特性表示のグラフがフラットにそろわない	グラフの傾斜は残響特性を示しています。部屋の残響特性そのものは、EQ補正だけでは直すことができないため、グラフの傾斜角度は補正前後でも同じになります。	補正により、各周波数ごとのグラフがEQの補正分だけ水平移動します。補正の効果は、指定した時間軸上にあるポイントでそろうことが確認できます。	—
		残響特性（グラフの形状）そのものは、視聴環境を改善しないと変化しません。	—
	さまざまな原因によって、**ALL CH ADJ**で補正を行っても周波数特性のグラフはフラットにならないことがあります。	MCACCでは、無理な補正をせず、音質的に最良となるよう自動的に補正を行います。	—
マニュアルMCACCの**EQの調整**で調整した補正量が補正後表示のグラフに反映されない	残響周波数特性の表示では、各帯域を分析フィルタで分析したものを表示します。一方、EQ補正は専用のフィルタを使用して信号の補正を行っており、分析フィルタとEQ補正専用フィルタの形状の違いがグラフに反映されない原因です。	問題ありません（オートMCACCの場合は、このフィルタ形状による違いも考慮したうえで補正を行っています）。	—
スピーカーシステムの設定で**SMALL**と設定されたスピーカーの低域が補正されていない	**SMALL**に設定されたスピーカーは、EQによる低域の補正は行いませんが、残響特性の表示はスピーカーから出る音の純粋な特性を示すため、低域補正をしていない状態での特性がそのまま表示されます。	MCACCはスピーカーの再生能力に応じて適切な補正を行っているため、**SMALL**に設定されたスピーカーの低域補正には問題ありません。	—

MCACC（音場補正）時に表示されるメッセージについて

メッセージ	原因	対応	参照
マイクを接続してください。	付属のセットアップ用マイクが接続されていません。	フロントパネルの**MCACC SETUP MIC**端子に、付属のセットアップ用マイクを接続してください。	34
暗騒音が大きすぎます。	周辺の騒音が大きすぎ、測定に誤差が生じる可能性があります。	エアコンなどモーターを使用した機器や、超音波ねずみ駆除装置などの電源を一時的にOFFにするか遠ざけるなどの処置を行ってみてください。	—
		周囲が比較的静かな時間帯に、もう一度やり直してください。	—
マイクをチェックしてください。	マイクからテスト信号が検出できなくなりました。	セットアップ用マイクの接続をチェックしてください。	34
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	17
		測定中はできるだけボリュームを変化させないでください。	—
		接続コードの断線をチェックしてください。	—
エラー	スピーカー Yes/No判定で、以下のような間違った接続を検出しました。	フロント/フロントハイト/フロントワイドに表示されたとき：スピーカーがL/Rそろっていない。	—
		サラウンドに表示されたとき：スピーカーがL/Rそろっていない。またはサラウンドバック、フロントハイト、フロントワイドが検出されているのに、サラウンドが検出されない。	—
		サラウンドバックに表示されたとき：L ch側から検出されず、R ch側から検出しました（1本のみ接続するときは、L ch側を使用してください）。	18
逆相	スピーカーの極性（+/−）が逆になっている可能性があります。	正しく接続されているか確認してください。接続が間違っていた場合は、本機の電源を切ってから電源コードを抜き、接続をし直してください。その後、フルオートMCACCなどをやり直してください。 以下の場合は、スピーカーが正しく接続されていても**逆相**が表示される場合があります。そのときは**次へ進む**を選んで、次の測定に進んでください。 ・スピーカーがマイク（リスニングポジション）方向に向いていない場合、またはスピーカーとマイクとの間に障害物がある場合 ・壁による音の反射が大きい場合 ・ダイポールスピーカーまたは反射型スピーカーなど、位相に影響を与えるスピーカーを使用している場合	17
サブウーファーのレベルが大きすぎます。ボリュームを下げてください。	**YES**と設定したサブウーファーの出力信号が大きすぎます。	サブウーファー本体のボリュームを適正値に下げてください。	—
サブウーファーのレベルが小さすぎます。ボリュームを上げてください。	**YES**と設定したサブウーファーの出力信号が検出できません。	サブウーファー本体の電源を確認し、ボリュームを適正値に上げてください。	—

 **メモ**

上記の対応を試しても解決しないときや、画面表示が動かなくなったり、リモコンやフロントパネルのボタンがまったく操作できない場合は、以下の操作を行ってみてください。

- フロントパネルの⏻ **STANDBY/ON**ボタンを押して電源を切って、もう一度電源を入れる。
- もしも電源が切れない場合は、⏻ **STANDBY/ON**ボタンを10秒以上押し続けてください。電源が切れます。(この場合、本機の各種設定が消えることがあります。)

無線LANコンバーターご使用時に故障かな？と思ったら

無線LAN経由でネットワークにアクセスできない。

無線LANコンバーターの電源が入っていない。（無線LANコンバーターの「Power」、「WPS」および「Wireless」ランプすべてが点灯していない。）

- 無線LANコンバーターと本機の**DC OUTPUT for WIRELESS LAN**端子を接続しているUSBケーブルが正しく接続されているか確認してください。

本機の表示窓に「**WLAN POW ERR**」が表示される。

- 無線LANコンバーター用の電源に問題があります。本機の電源をオフにしてから、USBケーブルを抜き、再度USBケーブルを差し、本機の電源をオンにしてください。
- 上記操作を数回繰り返しても、「**WLAN POW ERR**」が表示される場合は、本機かUSBケーブルに問題があります。電源コードを抜いて修理を依頼してください。

LANケーブルを接続していない。

- 無線LANコンバーターと本機のLAN (10/100)端子をLANケーブルで正しく接続してください。（32ページ）

無線LANコンバーターと無線LANルーターなどの親機との間に距離があったり、障害物がある。

- 無線LANコンバーターと親機との距離を近づけるなど無線LAN環境を改善してください。

電子レンジなど電磁波が発生する近くに無線LAN環境がある。

- 電子レンジなど電磁波が発生する場所から離して使用してください。
- 無線LANで使用するときは、電磁波が発生する機器をなるべく使用しないようにしてください。

複数の無線LANコンバーターを無線LANルーターに接続している。

- 複数の無線LANコンバーターを接続する場合は、無線LANコンバーターのIPアドレスを変更する必要があります。たとえば、無線LANルーターのIPアドレスが「192.168.1.1.」のときは、1つめの無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.249」、2つめの無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.248」にし、「249」「248」と、無線LANコンバーター同士や他の機器と重複しない2 ～ 249の値を設定してください。

無線LANコンバーターと無線LANルーターなどの親機との無線LAN接続ができていない。

- 無線LANコンバーターを本機に接続した状態で、本機の電源を切ってから電源コードをコンセントから抜き差しし、その後本機の電源を入れてください。
- **ネットワークスタンバイ**を**OFF**に設定してから本機の電源を切り、再度本機の電源を入れたあとに無線LANコンバーターの設定ができるか確認してください。
- 無線LAN接続には、無線LANコンバーターの設定が必要です。83ページ の「無線LANコンバーターの設定」をご確認ください。

無線LANコンバーターを本機に正しく接続し、無線LANコンバーターのランプも点灯しているが、本機から無線LANコンバーターの設定ができない。（設定画面を表示できない。）

- 本機のIPアドレス設定で、DHCPをOFFにし、IPアドレスを手動で設定している場合、無線LANコンバーター内で設定しているIPアドレスと合っていない可能性があります。
  一度、本機のIPアドレス設定で、DHCPをONにして設定してください。設定終了後、本機の電源をOFFしてください。
  再度本機の電源をONにし、本機で無線LANコンバーターの設定を表示できるか確認してください。表示できた場合、必要に応じて、本機のIPアドレス設定、無線LANコンバーターのIPアドレス設定を変更してください。

本機と無線LANコンバーターのIPアドレス設定が無線LANルーターなどの設定と合っていない。

- 本機と無線LANコンバーターのIPアドレス設定(DHCPの設定を含む)を確認してください。
  本機のDHCP設定をONにしているときは、本機の電源をOFFにし、再度電源をONにしてください。
  本機や無線LANコンバーターのIPアドレスが無線LANルーターなどの設定と合っているかを確認してください。
  本機のDHCP設定をOFFにしているときは、無線LANルーターなどの親機のネットワークに合ったIPアドレスを設定してください。
  たとえば、無線LANルーターのIPアドレスが「192.168.1.1.」のときは、本機のIPアドレスを「192.168.1.XXX」(*1)、サブネットマスクを「255.255.255.0」、ゲートウェイやDNSは「192.168.1.1.」に設定してください。
  次に、無線LANコンバーターのIPアドレスを「192.168.1.249」(*2)に設定してください。
  (*1)「192.168.1.XXX」の「XXX」には、他の機器と重複しない2 ～ 248の値を設定してください。
  (*2)「192.168.1.249」の「249」には、他の機器と重複しない2 ～ 249の値を設定してください。

無線LANコンバーターの詳細設定をしてみる。

- 無線LANコンバーターをPCに接続して、無線LANの詳細設定ができます。詳細は、無線LANコンバーター用に付属しているCD-ROMを確認してください。無線LANルーターなどの設定を確認のうえ、無線LANコンバーターの設定を変更してください。
  ただし、無線LANの詳細設定で無線LAN環境が改善できるとは限りません。設定変更にはご注意ください。

アクセスポイントがSSIDを隠す設定をしている。

- この場合、アクセスポイントのリスト画面に表示されないことがあります。表示されない場合は、本機側の無線LANコンバーターのマニュアル設定でSSID等を設定してください。

アクセスポイントのセキュリティ設定が、WEPの152 bit長の暗号KEYまたはSHARED KEY認証を使用している。

- 本機は、WEPの152 bit長の暗号KEYならびにSHARED KEY認証には対応しておりません。

上記の対処をしてもネットワーク接続できない。

- 無線LANコンバーターを初期化してください。
  その後、無線LANコンバーターの設定をやり直してください。
  初期化について
  1. 無線LANコンバーターの電源が入っていることを確認してください。
  2. 無線LANコンバーターのリセットボタンを3秒以上押してください。
  3. リセットボタンを放す。
  無線LANコンバーターが再起動したら、初期化の完了です。

ホームメディアギャラリーのメッセージについて

ホームメディアギャラリーで以下のメッセージが表示されたときは、内容欄をご確認ください。

メッセージ	内容
STARTING H.M.G.	パソコンなどのネットワーク上の機器にアクセス中です。しばらくお待ちください。
Connection Down	選んだカテゴリーや放送局にアクセスできません。
File Format Error	何らかの原因で再生できません。
Track Not Found	選んだ曲がネットワーク上で見つかりません。
Server Error	選んだサーバーにアクセスできません。
Server Disconnected	サーバーとの接続が切断されました。
empty	選んだフォルダーに何もファイルが入っていません。
Preset Not Stored	インターネットラジオ局のステーション登録がされていません。
Out of Range	ネットワークの設定で、設定できる値ではありません。
License Error	再生しようとしたコンテンツのライセンスが無効です。
Item Already Exists	Favoritesフォルダーに同じファイルを登録しています。
Favorite List Full	Favoritesフォルダーにこれ以上ファイルを登録できません。

デジタル音声フォーマットについて

DVDやブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）

3

1. 英　語（5.1ch サラウンド）
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）

DOLBY DIGITAL

dts Digital Surround

収録音声数　録音方式　音声記録方式

ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル（5.1ch）」であることを示します。

ドルビー

高音質

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	＊Dolby TrueHD ＊Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDolby TrueHDは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch （サラウンドバックchフラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバックchを使用して、Dolby Digitalよりも臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx/IIz)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊ これらの音声は8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよびHD DVDのそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。

http://www.dolby.co.jp/



プロロジックIIx製品は、プロロジックIIxの持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックIIx搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS

高音質	入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
	HDコンテンツ	DTS-HD Master Audio DTS-HD High Resolution	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDTS-HD Master Audioは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
	5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバックchを使用して、臨場感を高めた方式
	5.1chディスクリート	DTS (Surround) DTS 96/24	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
	一般的な2ch DTSサラウンド	Neo:X Neural Surround	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報はDTSのホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/







THX

THXは「映画館でもホームシアターでも映画のサウンドトラックは映画監督の意図どおり、忠実に再生して欲しい」というジョージ･ルーカス監督の熱意によって誕生し、音場最適化に関する数々の特許技術を開発しています。詳細な情報はTHXのホームページをご覧ください。
http://www.thx.com/
SC-LX85の場合：



SC-LX75の場合：



認証について

THX Ultra2/Select2
- THXの認証を受けたホームシアター機器は、所定の特許技術、プリアンプ･パワーアンプの性能、デジタル･アナログの両分野にわたる何百もの性能要求、操作性に関する一連の厳しい試験に合格しています。

再生モードについて

THX Cinema
- 過去の2チャンネル収録されたソフトに適しています。ご家庭と映画館との空間的な違いによる音色の差を補正し、映画館の音場を正確に再現します。

THX Surround EX
- 「THX Surround EX - Dolby Digital Surround EX」はドルビーラボラトリーズとTHX社との共同開発によるものです。リスナー後方のサラウンドバックchを最初に実現させた技術です。

—本機は「6.1ch再生検出信号」（DTS-ES と Dolby Digital Surround EX）を自動検出しますが、それらの技術を用いて上映された映画でも、DVD化の際にこの検出信号を収録していないものがあります。この場合は手動で最適なモードに変更してください。Surround EX技術により製作された映画のリストは各ウェブサイトでご覧になれます。

その他の特許技術について

THX Loudness Plus
- この技術はTHX Ultra2 Plus™ とTHX Select2 Plus™ の認証を受けた製品の特徴となる新しい音量調節技術で、どの音量レベルでも豊かで繊細なホームシアターサラウンド音場を創造します。
  小音量再生では音質や空間表現が劣化することがありますが、各チャンネルの音量や周波数特性を最適化（補正）します。
  THXのリスニングモードを選択しているときは、それぞれのコンテンツタイプに応じて自動でこの技術が適用されます。

Re-Equalization
- 大型の映画館での上映用に製作された音声を小型のホームシアターでも正確な音色で再生させる技術です。

Timbre Matching
- 映画館とホームシアターのスピーカー配置の違いから起こる音色の差を補正し、音のつながりをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation
- 映画館ではサラウンドスピーカーが多数なのに対し、ホームシアターは通常2本のため、この2本のスピーカーでもリスニングエリアを拡大して、映画館と同様の効果が得られるようにする技術です。

Boundary Gain Compensation™
- ホームシアターでは、壁面の影響で空間利得が生じ、低減の周波数帯が自然と持ち上がってしまう場合がありますが、この技術により、超低域再生能力のあるサブウーファーなどを使用していても、空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにすることが可能です。

MPEG-2 AAC

MPEG-2オーディオの標準方式の1つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。



米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

iPod/iPhone/iPadについて

Made for iPod iPhone iPad



「Made for iPod」、「Made for iPhone」および「Made for iPad」とは、それぞれiPod、iPhoneあるいはiPad専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。このアクセサリをiPod、iPhoneあるいはiPadと使用することにより、無線の性能に影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。

HDMIについて

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。



FLACライセンスについて

FLAC Decoder
Copyright © 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007
Josh Coalson
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

リスニングモードの詳細と出力チャンネル数の一覧

この表は、リスニングモードにAUTO SURROUND、ALC、DIRECT、PURE DIRECTを選んだ場合に、出力する最大の出力チャンネル数を示したもので、厳密なデコードch数とは異なります。詳しくは 96ページ の「デジタル音声フォーマットについて」をご覧ください。

- 入力信号によっては、サラウンドバック信号を生成できないものがあります。

ステレオ（2ch)信号入力時

サラウンドバックスピーカー	入力信号 信号名称	入力信号 インジケーター例	AUTO SURROUND / ALC / DIRECT	PURE DIRECT
あり	DOLBYサラウンド	L C R SL SR XL XC XR LFE	PLIIx Movie	PLIIx Movie
	DTSサラウンド		Neo:X Cinema	Neo:X Cinema
	そのほかのステレオソース	L C R SL SR XL XC XR LFE	ステレオ再生	ステレオ再生
	アナログ入力			ANALOG DIRECT(ステレオ)
	PCM入力			PCM DIRECT
	DVD-Audio入力			PCM DIRECT
	SACD入力			ステレオ再生
なし	DOLBYサラウンド	L C R SL SR XL XC XR LFE	PLII Movie	PLII Movie
	DTSサラウンド		Neo:X Cinema	Neo:X Cinema
	そのほかのステレオソース	L C R SL SR XL XC XR LFE	ステレオ再生	ステレオ再生
	アナログ入力			ANALOG DIRECT(ステレオ)
	PCM入力			PCM DIRECT
	DVD-Audio入力			PCM DIRECT
	SACD入力			ステレオ再生

マルチチャンネル信号入力時

サラウンドバックスピーカー	入力信号 信号名称	入力信号 インジケーター例	AUTO SURROUND /ALC / DIRECT / PURE DIRECT
あり	DOLBY DIGITAL EX (6.1ch再生検出信号付) DOLBY TrueHD EX (6.1ch再生検出信号付)	L C R SL SR XL XC XR LFE	DIGITAL EX PLIIx Movie <a>
	DTS-HD Master Audio ES (6.1ch再生検出信号付)		DTS-ES Matrix
	DTS-ES (6.1chソース/6.1ch再生検出信号付)		DTS-ES Matrix DTS-ES Discrete
	DTS (5.1ch信号等)	L C R SL SR XL XC XR LFE	ストレートデコード再生
	DTS-HD	L C R SL SR XL XC XR LFE <b>	
	上記以外の6.1/7.1chソース		
	上記以外の5.1chソース	L C R SL SR XL XC XR LFE	
なし	DVD-Audio マルチチャンネルPCM	L C R SL SR XL XC XR LFE <b>	
	SACD (5.1ch信号)	L C R SL SR XL XC XR LFE	
	上記以外の5.1/6.1/7.1chソース	L C R SL SR XL XC XR LFE <b>	

a サラウンドバックスピーカーを1本しか接続していないときは選択できません。
b 5.1ch信号のときは「XL」「XR」が消灯します。6.1ch信号のときは「XL」「XR」が消灯して「XC」が点灯します。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名･購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご相談・ご依頼ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に取扱説明書の 87ページ の「故障かな ? と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで、お買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、102ページ の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧になり、修理受付窓口にご相談ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：AVマルチチャンネルアンプ
- 型番：SC-LX85/SC-LX75
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ･ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両･船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

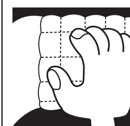
S026_A1_Ja

メンテナンスなどのお知らせ



長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。



お手入れについて

通常は柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5〜6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞ったあと、汚れを拭き取り、そのあと乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。



音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

サービスステーションリスト

サービス拠点のご案内　※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆北海道サービスセンター	FAX	011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX	0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX	0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX	0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆東北サービスセンター	FAX	022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX	023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX	024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX	019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX	017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX	0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX	018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

世田谷サービスステーション	FAX	03-5357-0770	〒156-0055	世田谷区船橋5-28-6　吉崎ビル1F
北東京サービスステーション	FAX	03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX	042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1 F

●関東･甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆千葉サービスステーション	FAX	047-773-9354	〒275-0016	習志野市津田沼3-20-22
☆北関東サービスセンター	FAX	048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
水戸サービス認定店	FAX	029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
宇都宮サービス認定店	FAX	028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX	0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX	025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX	0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX	045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX	045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX	046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX	04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX	0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX	026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX	055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中部サービスセンター	FAX	052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX	0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX	059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX	058-274-5256	〒500-8384	岐阜市薮田南4-2-10
静岡サービス認定店	FAX	054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX	055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX	053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX	076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX	076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX	0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-644-7975	〒601-8444	京都市南区西九条森本町4　イッツアイランド1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-50-0889	〒630-8141	奈良市南京終町1-174-2
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国･四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中四国サービスセンター	FAX	082-534-5859	〒733-0003	広島市西区三篠町2-4-22 NKビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-250-2724	〒700-0975	岡山市北区今3-10-10　備前ビル1F
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービス認定店	FAX	087-813-6112	〒760-0080	高松市木太町862-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階107号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1 F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-1-9　ヤマエ博多駅南ビル1F
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒861-2118	熊本市花立4-9-31
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービス認定店	TEL	098-987-1120	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5
	FAX	098-987-1121		

平成23年4月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーコールは、携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内　※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品	0120−944−222	一般電話　044−572−8102
■ファックス	044−572−8103	
■インターネットホームページ	http://pioneer.jp/support/ ※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など	

修理窓口のご案内　※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話	0120−5−81028（ゴーハイオニア）	一般電話　044−572−8100
■ファックス	0120−5−81029	
■インターネットホームページ	http://pioneer.jp/support/repair/ ※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております	

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話	098−987−1120
■ファックス	098−987−1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話	0120−5−81095	一般電話　044−572−8107
■ファックス	0120−5−81096	

平成23年4月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.044

用語の解説

音声フォーマット/デコード

ドルビー
詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。
http://www.dolby.co.jp/

Dolby Digital
ドルビーデジタルは、ドルビーのマルチチャンネル音声システムのディスクリート·デジタルサラウンド方式の名称です。映画業界の主流であり、DVDビデオの標準音声方式としても採用されるなど、デジタル時代の標準フォーマットとなっています。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHDは、次世代高精細光ディスク向けに開発されたロスレス符号化技術です。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plusは、高精細映像放送番組やパッケージメディア向けに開発された次世代音声技術です。

Dolby Digital Surround EX
Dolby Digital Surround EXは、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1 ch再生可能な新しい音響フォーマットです。

Dolby Pro Logic IIx
Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic、Dolby Pro Logic II、Dolby Digital Surround EX をさらに改良し、ステレオ音声や5.1 ch音声を、すべて最大 7.1 chまで拡張できるマトリックスデコード技術です。

Dolby Pro Logic IIz
Dolby Pro Logic IIやDolby Pro Logic IIxの延長線上にあるマトリックスデコード技術。Pro Logic IIは、2チャンネル音声を5.1チャンネルに拡張し、Pro Logic IIxは5.1チャンネルソースを7.1チャンネルに拡張しますが、Pro Logic IIzは前方の左右上方に配置するフロントハイトスピーカーへ、7.1チャンネルもしくは9.1チャンネルへの拡張を行います。

DTS
詳細な情報はDTSのホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/

DTS Digital Surround
DTS Digital Surroundは、DTS社が開発した5.1 chサラウンドフォーマットで、低圧縮率と高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。DVDビデオやDVDオーディオ、5.1ch収録の音楽CDなどさまざまな対応ソースでお楽しみ頂けます。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio（DTS-HDマスターオーディオ）は、プロフェッショナルスタジオで作られるマスター音源を、その品質のままに伝送することが可能なフォーマットです。

DTS-HD High Resolution Audio
HDMIケーブルで伝送可能な高精細音声技術です。

DTS-ES
「DTS-ESディスクリート6.1」と「DTS-ESマトリックス6.1」の2種類があるサラウンドフォーマットで、「DTS Extended Surround」の略称です。従来の5.1 chにサラウンドバックチャンネル（SB ch）を加えたものです。

DTS Neo:X
2 chソース（テレビやビデオなどの音声）から5.1 chソースまであらゆる入力信号を最大11.1 ch化するマトリックスデコード技術です。CINEMAモード、MUSICモードおよびGAMEモードがあります。

DTS Neural Surround
ステレオ素材からマルチチャンネルサラウンドを創り出します。楽器、音声、背景音などの詳細部分をきめ細かく再生し、豊かでディスクリート感に優れたサラウンドサウンドを創り出します。

THX
詳細な情報はTHXのホームページをご覧ください。
http://www.thx.com

THX Cinema
映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された、劇場用映画などのサウンドトラックを、ホームシアター環境で再生するためのモードです。

THX Music
主に映画よりも高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されたモードです。

THX Games
ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合映画と同じミキシングがされますが、劇場のような大きな環境ではなく小規模な環境のためのモードです。

THX Surround EX
ドルビーラボラトリーズとTHX社の共同開発による技術で視聴者の後方に音場を作り出します。

THX Loudness Plus
音量レベルに応じて各チャンネルの音量や周波数特性を最適補正し、豊かで繊細なサラウンド音場を創造します。

デコード
デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。ま

た、2ch の音源をマルチch 化させたり、5.1ch 信号を6.1ch や7.1ch に伸長させる技術もデコード（マトリックス・デコード）と呼ぶことがあります。

音場補正/音質改善

フェイズコントロール
LFE（超低域）信号や各チャンネルに含まれる低音成分の位相ズレを補正する機能です。

フルバンドフェイズコントロール
スピーカーの周波数位相特性を測定し、補正する機能です。

フェイズコントロールプラス
フェイズコントロール規格で作られたディスク以外は、低域（LFE）が遅れて記録されているものがあります。そういったディスクの位相ずれを補正します。

フルバンドフェイズコントロール FRONT ALIGN機能
フルバンドフェイズコントロールではスピーカー全域（フルバンド）における周波数位相乱れ（群遅延）を補正しますが、本機ではフロントスピーカーの周波数位相に他のスピーカーの周波数位相を合わせるように補正することができます（**FRONT ALIGN**）。

バーチャルサラウンドバック
サラウンドバックスピーカーを接続していないときでも、仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すための設定です。

バーチャルハイト
フロントハイトスピーカーを接続していないときでも、仮想のハイトチャンネル音声を創り出すための設定です。

バーチャルデプス
ディスプレイの後ろに仮想の音場を広げ、3D映像と同じ深さでサラウンド再生します。

オートサウンドレトリバー機能
DSP処理によって削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。
一部の音声入力では、入力されたコンテンツのビットレート情報を元に、オートサウンドレトリバー機能の効果を自動で最適化し、高音質化します。

SOUND RETRIEVER AIR
Bluetooth 機能搭載機器からの音楽を本機で再生する際、音声の最適化を行い、高音質化します。

PQLS
HDMI接続による全ての音声のジッターレス伝送「PQLSビットストリーム」を実現します（PQLSビットストリーム対応機器接続時）。

ALC (オートレベルコントロール)
音量差を自動的に均一にして再生します。
また、小音量時に聞き取りにくくなる低音、高音、セリフやサラウンド効果などをボリュームレベルに応じて最適に調節します。特に夜間の視聴に最適です。

フロントサラウンド・アドバンス（F.S.SURR FOCUS/WIDE）
左右のフロントスピーカーとサブウーファーのみで臨場感のある自然なサラウンド再生を行います。

MCACC
MCACCでは実際の製作現場で行われる高精度な調整を家庭でも実現できるように自動化し、チャンネル間の空間情報の歪みを補正。正確なマルチチャンネルの音場を再現します。

HDMI

HDMIによるコントロール機能
HDMIによるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することで、以下のような連動動作が可能になります。
- テレビから本機の音量調節や消音(ミュート)操作
- テレビの入力切り換えやプレーヤーなどの再生開始による本機の自動入力切り換え
- テレビとの電源連動

ARC (オーディオリターンチャンネル)
HDMIのオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを本機の**HDMI OUT 1**端子とHDMIで接続すると、テレビの音声をHDMI経由で入力することができます。
本機の**HDMI OUT**端子からテレビの音声を入力できるので、テレビとの接続がHDMIケーブル1本で完了します。

ネットワーク機能

AirPlay
本機は、iPod touch (第2、第3、第4世代)/iPhone 4/iPhone 3GS/iPadのiOS 4.2以降、iTunes 10.1以降(MacまたはパソコンからのAirPlayの音声ストリーミングに対応しています。
詳細な情報はAppleのホームページをご覧ください。
http://www.apple.com

AAC
AACとは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

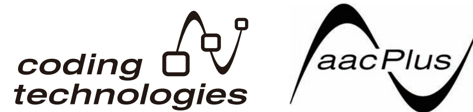
DLNA
Digital Living Network Alliance (デジタル・リビング・ネットワーク・アライアンス)の略です。ローカルエリアネットワーク(LAN)上で接続したメーカーの異なるパソコンやデジタル家電の動画、音楽、または画像データなどを相互で視聴できるようにするためのデータの圧縮方式や転送方式の標準化を進めている団体の名称です。
本機はDLNA Home Networked Device Interoperability Guidelines v1.5に準じています。



DLNA CERTIFIED® Audio Player
DLNA®、DLNAロゴおよびDLNA CERTIFIED® はDigital Living Network Allianceの商標、サービスマークまたは認証マークです。

vTuner
インターネットラジオのオンラインコンテンツサービスです。vTunerについて、詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。
http://www.radio-pioneer.com
本製品は、NEMS および BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、NEMS および BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

aacPlus
AACデコーダーは、Coding Technologiesによって開発されたaacPlusを使用しています。
（www.codingtechnologies.com）



FLAC
Free Lossless Audio Codecの略です。可逆圧縮方式であるため、MP3やAACなどの圧縮音声とは違いFLACは音質を劣化させることなく圧縮します。
FLACについてのより詳しい情報は以下のウェブサイトをご覧ください。
FLAC Webサイト：http://flac.sourceforge.net/

Windows Media
Windows Mediaは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。WMAファイルは、米国Microsoft Corporationの認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

Windows Media Player 11/ Windows Media Player 12
Windows Media Player 11とWindows Media Player 12 は、パソコンに保存されている動画、音楽、または画像ファイルなどをネットワーク上で共有するソフトウェアです。このソフトウェアはマイクロソフトウェブサイトからダウンロードできます。Windows Vista またはXPをご使用の場合は、Windows Media Player 11を、Windows 7をご使用の場合は、Windows Media Player 12をダウンロードしてください。詳しくは、マイクロソフトウェブサイトをご覧ください。

Windows Media DRM
Windows Mediaデジタル著作権管理(DRM)は、パソコン、デジタルオーディオプレーヤー、またはネットワーク機器などで再生するファイルを保護して、安全に配信できる技術です。WMDRMで保護されているファイルはWMDRM に対応している機器でのみ再生できます。

ルーター
ネットワーク上を流れるデータを他のネットワークに中継する機器のことです。家庭内ではDHCPサーバーを兼ねることが多く、無線LANアクセスポイントを内蔵する製品を、無線LANルーターを呼ぶことが多い。

DHCP
Dynamic Host Configuration Protocolの略。ネットワーク接続において、IPアドレスなどの設定情報を自動的に割り振る仕組み。この機能が有効である場合には、ネットワーク接続するだけで利用が可能となる便利さがある。

無線LAN/Wi-Fi
Wi-Fi (Wireless Fidelity) とは無線LAN標準規格の認知度を深めるため、業界団体のWECAが名づけたブランド名。近年PC対接続機器の増大に伴い、LANケーブルで接続していく煩雑さをワイヤレスで対応した点がメリット。対応製品の互換性テストを行い、これにパスした製品は「Wi-Fi Certified」という互換性が保証された製品としてロゴマークを表示し、ユーザーの安心感をアピールしている。

WPS
業界団体Wi-Fi Allianceが定めた標準規格で、WPS対応機器同士なら、無線LAN機器間の接続や暗号化に関する設定を、簡単な操作で行うことができる機能。プッシュボタン方式やPINコード方式など、いくつか方法がある。AVアンプでは、プッシュボタン方式とPINコード方式をサポートしている。

SSID
無線LANアクセスポイントの識別子。最大32文字の英数字を任意に設定できる。

Bluetooth 機能

Bluetooth ワイヤレス伝送技術
デジタル機器用のワイヤレス近距離通信規格の１つ。数mから数十m程度の距離の機器間で、電波を使い情報のやりとりを行う。免許申請や使用登録の不要な2.4 GHz帯の電波を使用してPC等のマウス、キーボードをはじめ、携帯電話、スマートフォン、PDAでの文字情報や音声情報といった比較的低速度のデジタル情報の無線通信を行う用途に採用されている。

ペアリング
ペアリングは*Bluetooth* 無線技術を利用した通信が可能になるようにするために必要なステップです。
- ペアリングは、BLUETOOTHアダプターおよび*Bluetooth*機能搭載機器を使用する際に、はじめに1回だけ行います。
- ペアリングは本機と*Bluetooth*機能搭載機器の両方で行う必要があります。

AVアンプ（本機）の機能

操作モード
本機にはさまざまな機能や設定が豊富に備わっていますが、すべての機能や設定を使いこなすのは難しいというお客様のために、操作モードの切り換え設定を用意しています。

機能別索引

操作モード
35ページ の「本機の操作モードを切り換える」

AVナビゲーターについて
8ページ の「AVナビゲーター（付属のCD-ROM）の使い方について」

フルオートMCACC
34ページ の「スピーカーの自動設定を行う ～フルオートMCACC ～」

オートMCACC
72ページ の「オートMCACCで詳細に測定／設定する」

マニュアルMCACC
73ページ の「リスニング環境をお好みに調整する ～マニュアルMCACC ～」

PQLS
55ページ の「PQLS機能を使う」

フェイズコントロール
44ページ の「低域の位相乱れを補正する（フェイズコントロール）」

フルバンドフェイズコントロール
45ページ の「全帯域にわたる位相乱れを補正する（フルバンドフェイズコントロール）」

定在波フィルターの調整（定在波制御）
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

フェイズコントロールプラス
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

オートサウンドレトリバー機能
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

ALC (オートレベルコントロール)
43ページ の「オートサラウンドで再生する」

フロントサラウンド・アドバンス（F.S.SURR FOCUS/WIDE)
42ページ の「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」

SOUND RETRIEVER AIR
42ページ の「リスニングモードでいろいろな音を楽しむ」

ダイアログエンハンスメント
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

インターネットラジオ
47ページ の「インターネットラジオを聴く」

vTuner
47ページ の「インターネットラジオを聴く」

DLNA
46ページ の「DLNAに準拠した機器の再生について」

AirPlay
46ページ の「iPod touch、iPhone、iPad、iTunesでAirPlayを使うには」

無線LAN
32ページ の「無線LANコンバーターを接続する」

高精細音楽ファイルの再生
48ページ の「対応ファイルフォーマットについて」

スライドショー
39ページ の「写真ファイルを再生する」

BLUETOOTHアダプター
40ページ の「BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ」

ARC (オーディオリターンチャンネル)
54ページ の「HDMIによるコントロール機能を設定する」

SACDゲインの設定
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

オートディレイの設定
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

ハイトゲイン (Dolby Pro Logic IIz Height オプション)
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

バーチャルハイト
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

バーチャルサラウンドバック
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

バーチャルデプス
50ページ の「オーディオ調整機能を使用する」

ビデオコンバーター
52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」

PURE CINEMAモード
52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」

プログレッシブモーション
52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」

アドバンスドビデオアジャスト
52ページ の「ビデオ調整機能を使用する」

自動電源オフ
84ページ の「その他の設定をする ～その他の設定～」

仕様

オーディオ部
定格出力（マルチチャンネル動作時）
（1 kHz、1 %、8 Ω）
全9 ch
............810 W (SC-LX85)/720 W (SC-LX75)
実用最大出力
(JEITA, 1 kHz, 10 %, 6 Ω, 1 ch駆動時)
フロント .... 220 W/CH
センター .... 220 W
サラウンド .... 220 W/CH
サラウンドバック .... 220 W/CH
フロントハイト/フロントワイド .... 220 W/CH
定格出力 (1 kHz, 0.08 %, 8 Ω, 2 ch駆動時)
フロント .... 140 W + 140 W
センター .... 140 W
サラウンド .... 140 W + 140 W
サラウンドバック .... 140 W + 140 W
フロントハイト/フロントワイド
.... 140 W + 140 W
全高調波歪.. 0.04 %
(1 kHz, 130 W + 130 W, 8 Ω)
保証インピーダンス .... 6 Ω ～ 16 Ω
SN 比（IHF, ショートサーキット, A ネットワーク）
LINE系... 103 dB
入力端子（感度/インピーダンス）
LINE系... 400 mV/47 kΩ
PHONO MM.................................... 5 mV/47 kΩ
出力端子（レベル/インピーダンス）
REC OUT系 .... 380 mV/2.2 kΩ

ビデオ部
信号レベル
コンポジット................................... 1 Vp-p (75 Ω)
コンポーネント.................... Y：1.0 Vp-p (75 Ω)
PB, PR：0.7 Vp-p (75 Ω)
対応最大解像度
コンポーネント.......................... 1080p (1125p)
(ビデオコンバーター OFF)

デジタル入出力部
HDMI 端子... 19 ピン
HDMI 出力仕様 .... 5 V, 55 mA
USB 端子................. USB2.0 Full Speed (A タイプ)
iPod 端子 .... USB＋コンポジットビデオ
ADAPTER PORT端子.......................... 5 V, 100 mA
WIRELESS LAN ADAPTER端子 .... 5 V, 600 mA

集中コントロール部
コントロール(IR)端子...................... ø3.5 ミニジャック
（モノラル）
IR 信号 ....High Active (High Level：2.0 V)
12 Vトリガー端子 .... ø3.5 ミニジャック
（モノラル）
12 Vトリガー出力..................... 12 V、合計150 mA
RS-232C.............9ピン、クロスタイプ、メスーメス
CU-RF100端子(SC-LX85のみ)
....5 V、150 mA
EXTENSION端子(SC-LX75のみ)
....5 V、150 mA

ネットワーク部
LAN端子........................ 10 BASE-T/100 BASE-TX

リモコン部（SC-LX85のみ）
電源 .... DC 3 V
見通し通信距離※ .... 約10 m
使用周波数帯域 .... 2.4 GHz 帯
変調方式 ....直接スペクトラム拡散方式（DSSS）
外形寸法(幅 x 高さ x 奥行)
......................................51 mm x 255 mm x 34 mm
質量（本体のみ）... 190 g
※ 見通し通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

RFアダプター部（SC-LX85のみ）
電源 .... DC 5 V
見通し通信距離※ .... 約10 m
使用周波数帯域 .... 2.4 GHz 帯
変調方式 ....直接スペクトラム拡散方式（DSSS）
外形寸法(幅 x 高さ x 奥行)
.....................................49 mm x 21 mm x 64.5 mm
質量（本体のみ）... 90 g
※ 見通し通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

電源部・その他
電源 ....AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力 .... 370 W
待機時消費電力（スタンバイ状態）
.............................0.1 W (コントロール機能 OFF)
.... 0.3 W (コントロール機能 ON)
外形寸法（幅×高さ×奥行）
.......................435 mm × 185.6 mm× 440.3 mm
質量
SC-LX85 .... 17.8 kg
SC-LX75 .... 17.5 kg

付属品
SC-LX85の場合：
セットアップ用マイク(5 m).. 1
リモコン（CU-RF100)... 1
RFアダプター 1
IRブラスターケーブル.. 2
単3形アルカリ乾電池.. 4
iPodケーブル.. 1
保証書 1
CD-ROM（AVナビゲーター）
電源コード
取扱説明書

SC-LX75の場合：
セットアップ用マイク(5 m).. 1
リモコン 1
単4形乾電池... 2
iPodケーブル.. 1
保証書 1
CD-ROM（AVナビゲーター）
電源コード
取扱説明書


メモ
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- 本機では、画面表示にNECのフォント「FontAvenue」を使用しています。FontAvenueはNECの登録商標です。

プリセットコード一覧表

SC-LX75のみ

以下のメーカーコードを本機のリモコンにプリセットすることで、他機器を本機のリモコンで操作することができるようになります。ただし、メーカーや機器によっては操作できなかったり、異なる働きをすることがありますので、その際は学習機能でリモコンコードを直接登録してください（67ページ）。

凡例：**メーカー** /コード

テレビ

Pioneer 0192, 0193, 0198

AIWA 0131
Byd:sign 0132
Fujitsu 0145, 0146, 0147
Funai 0133, 0134
Hitachi 0124, 0135, 0148, 0169, 0172
LG 0151
Mitsubishi 0127, 0128, 0153, 0154
NEC 0129, 0130
Panasonic 0119, 0120
PHILIPS 0136
Samsung 0139, 0140, 0141, 0142, 0143, 0144
SANYO 0126, 0156, 0157
SHARP 0122, 0168, 0173
SONY 0121, 0155, 0170, 0174
TOSHIBA 0123, 0165, 0166, 0167
Victor (JVC) 0149, 0150, 5064, 0125, 0158, 0159

その他 0152, 0161, 0162, 0163, 0164

DVDプレーヤー

以下のコードで操作できない場合、**ブルーレイディスクプレーヤー**または**HDD/DVD レコーダー、ブルーレイディスクレコーダー**のコードで操作できる場合があります。

Pioneer 2246, 2215

AIWA 2105
Denon 2106, 2107, 2108
Hitachi 2116, 2117
Kenwood 2112
LG 2149
Marantz 2142, 2157
Onkyo 2118, 2119, 2120
Panasonic 2144, 2145, 2104, 2143
Samsung 2129, 2136
SANYO 2133, 2131, 2130, 2132
SHARP 2113, 2114, 2154, 2115, 2153
SONY 2150, 2151, 2152, 2134, 2135, 2146, 2147, 2148
TOSHIBA 2137, 2121, 2122, 2138, 2140, 2141
Victor (JVC) 2110, 2109, 2155, 2111, 2156
Yamaha 2139

ブルーレイディスクプレーヤー

以下のコードで操作できない場合、**DVDプレーヤー**または**HDD/DVD レコーダー、ブルーレイディスクレコーダー**のコードで操作できる場合があります。

Pioneer 2247, 2248

Denon 2212, 2213, 2214
Hitachi 2209, 2210, 2211
Kenwood 2109
LG 2188, 2189
Marantz 2204, 2205
Mitsubishi 2202, 2203
Onkyo 2191
Panasonic 2179, 2180, 2181
PHILIPS 2182
Samsung 2184
SHARP 2206, 2207, 2208
SONY 2185, 2186, 2187, 2194
TOSHIBA 2190, 2164
Victor (JVC) 2192, 2193, 2195, 2196, 2197, 2198
Yamaha 2199, 2200, 2201

HDD/DVDレコーダー、ブルーレイディスクレコーダー

以下のコードで操作できない場合、**DVDプレーヤー**または**ブルーレイディスクプレーヤー**のコードで操作できる場合があります。

Pioneer 2238, 2239, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245

Panasonic 2165, 2171
SHARP 2169, 2177
SONY 2170, 2173, 2174, 2175, 2178
TOSHIBA 2176

ビデオデッキ

Pioneer 1077

AIWA 1057, 1058, 1059, 1060
Fujitsu 1069
FUNAI 1064
HITACHI 1040, 1041, 1064
Mitsubishi 1042, 1043, 1044, 1045
NEC 1065, 1066, 1067, 1068
Panasonic 1029, 1030, 1031, 1032, 1033
PHILIPS 1071
SANYO 1053, 1055, 1056
SHARP 1061, 1062, 1063, 1074
SONY 1022, 1023, 1024, 1025, 1026, 1027, 1028
TOSHIBA 1034, 1035, 1036, 1037, 1038
Victor (JVC) 1046, 1047, 1048, 1049, 1050, 1051, 1052

その他 1072, 1073

CATV/衛星チューナー

Pioneer 6026, 0197, 0178, 0196, 5088

AICHI 6000, 6001
AIWA 6002, 6005, 6006
DX Antenna 6007, 6026, 6041
Fujitsu 6008
Hitachi 6009, 6010, 6011
Humax 6012
IO DATA 6046, 6047, 6048, 6049
MASPRO 6004, 6014, 6015, 6041
NEC 6016, 6017
Panasonic 6003, 6018, 6019, 6020, 6021, 6022, 6023, 6024, 6025
pixela 6044, 6045
Scientific Altanta 6015
SHARP 6027, 6028, 6029, 6030
SONY 6031, 6032, 6033, 6034, 6035, 6036
Sumitomo 6026, 6037, 6038
TOSHIBA 6039, 6040, 6041
Uniden 6042
Victor (JVC) 6013
Wintersat 6043
Yagi Antenna 6041

CDプレーヤー 、SACDプレーヤー

Pioneer 5065, 5066

Asuka 5045
Denon 5019
Fisher 5048
Goldstar 5040
Hitachi 5042
Kenwood 5020, 5021, 5031
Luxman 5049
Marantz 5033
Onkyo 5017, 5018, 5030, 5050
Panasonic 5036
Philips 5022, 5032, 5044
RCA 5013, 5029
Roadstar 5052
SHARP 5051
SONY 5012, 5023, 5026, 5027, 5028, 5039
TEAC 5015, 5016, 5034, 5035, 5037
Technics 5041
Victor (JVC) 5014
Yamaha 5024, 5025, 5038, 5046, 5047

CDレコーダー

Pioneer 5067

PHILIPS 5054
Yamaha 5055

MDプレーヤー

Pioneer 5068

DATプレーヤー

Pioneer 5069

カセットデッキ

Pioneer 5070

LDプレーヤー

Pioneer 5062, 5063

FM/AMチューナー

Pioneer 5088

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。
左記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、左記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

パイオニア株式会社
〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

JIS C 61000-3-2 適合品

<ARA7285-B>